病　院　年　報

第8巻

（令和5年度）

独立行政法人 地域医療機能推進機構

大 阪 病 院

独立行政法人　地域医療機能推進機構　大阪病院年報第8巻

巻　頭　言

令和五年度は5月連休明けに新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、感染対策は個人・事業者の判断で行うことになりました。世の中では、例えば、電車の中では、初期にはマスクの人が殆どでしたが、徐々にマスクをしない人が増え、コロナ前の日常が少しずつ戻ってきました。一方、大阪病院など免疫力低下が危惧される患者さんが治療を受けている医療機関では、今日に至るまで患者・家族も職員もマスクをするよう心がけています。こうした感染症法上の大きな変更があった令和五年度の当院の活動状況を、大阪病院年報第８巻にて報告させて頂きます。

昨年度の大阪病院年報でもご報告申し上げましたが、新しい魅力ある病院を共創しようと皆様にもご協力を頂き、令和四年度一年かけて大阪病院の理念を刷新しました。令和五年度初頭からは新たな気持ちで「より最適な医療と温かいこころで “あなた” と “地域” を支える（PURPOSE：病院の存在意義・社会への約束）」病院になるため、自分達の使命や目的（MISSION）を自覚し、大阪病院VISION 2030を目指し、職員のエンゲージメントを高めつつ誠意努力しています。

その一貫で2023年10月7日に大阪病院オープンキャンパスを福島区民祭りと並行して開催しました。「健康啓発・病院を知ってもらう」をテーマに、ミニ講演会、妊婦体験、赤ちゃん抱っこ体験、パーソナルカラー体験（アピアランス）、救命処置の実演、病気のあれこれ相談コーナーなど数々の催しに約750人の地域と患者・家族の皆様にご参加頂きました。この場をかりてご参加・ご協力頂いた皆様方に心よりお礼申し上げます。2024年も10月5日に実施し、今後も10月初頭に予定します。健康に興味のある方、医療に関心のある方は是非ご参加下さい。

病院自体は築10年ですが、8階東病棟（産科病棟）の一部病室をリニューアルしました。リニューアルのコンセプトは「温かさ」と「癒やし」です。妊産婦さんに落ち着いてゆっくり周産期を過ごして貰い、その間に「新しい家族とのかたちを作って貰う」ことを目指しました。また7月からは無痛分娩も開始しました。当院で出産をされた人の満足度は95％以上です。

新型コロナウイルス感染症による規制がなくなり、令和五年度にはインバウンドが急速に増えました。更に2025年にはEXPO2025が夢洲で開かれ、外国人の医療ニーズが高まると予想されます。大阪病院を多言語で外国人対応ができる病院に造り替え大阪府に登録しました。

令和五年度に大阪病院は地域医療支援病院に加え紹介受診重点医療機関となりました。PURPOSEに沿い地域住民や地域の医療機関の皆様方に貢献する利便性の高い病院になるよう心がけています。従来の紹介状があれば電話一本で患者さんからでも予約が取れるシステムや救急・循環器・脳卒中のホットラインに加え、令和五年度末の電子カルテ更新後には、WEB予約や電子カルテ情報の共有も試験的に開始しました。更に、救急では救命救急士（現在3名）を採用し、できるだけ地域の救急要望に応えるようにしています（この原稿を書いている時点で救急応需率＞80％）。

こうした運営改善とともに働き方改革やワークライフバランスの推進にも病院を挙げて取り組んでいます。臨床検査室はISO15189の認定を取得しましたし、病院を挙げてムダ・ムリ・ムラを廃止するQC活動に取り組んでいます。2024年1月にはda Vinci Xiシステムを導入し、消化器外科、泌尿器科、婦人科でロボット支援手術を開始しました。更に、令和六年度受審予定の病院機能評価（3rdG:Ver.3.0）に向けて質が高く安全な医療を提供できるストラクチャーとプロセスを構築しながら、同時に働きやすい環境の育成に努めています。職員の笑顔とエンゲージメントの向上は、患者さんのアウトカムと満足度に繋がると信じています。

皆様方のご理解と忌憚の無いご意見を今後も引き続きよろしくお願い申し上げます。

地域医療機能推進機構 大阪病院 病院長 西 田 俊 朗

INDEX

■理　　念 …… 1

■病院概要 …… 4

■施設基準 …… 4

■学会認定 …… 10

■沿　　革 …… 11

■職　員　数 …… 12

■附属施設 …… 12

■組　織　図 …… 13

■Topics …… 15

■医事統計 …… 23

■病歴統計 …… 37

■部門概要 …… 67

■各種委員会 …… 154

■業　　績 …… 155

JCHO の理念

我ら全国ネットのJCHO は
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

地域医療支援病院としての基本方針

1．小児救急を含む24時間救急医療をおこなっています。
2．母子医療センターとして妊娠・分娩と新生児・未熟児の医療に24時間体制で迅速かつ確実に対応します。
3．各部位の癌に対して、内科的・外科的に積極的な集学的治療をおこなっています。
4．内視鏡、内視鏡下手術などを用いた低侵襲かつ高度な治療とともに外来化学療法や緩和医療チームにも力を入れています。
5．慢性疾患に対してもリハビリを含む集学的な治療体制を整え、患者教育にも熱心です。
6．脊椎・四肢・視覚・皮膚などの疾患に対して、専門性の高い手術的治療を麻酔科、ICU、放射線科等とチームを組んでおこなっています。
7．心筋梗塞・脳卒中などに対して、各診療科が協力して治療にあたります。
8．生活習慣病の予防や癌の早期発見についても各診療科が協力して診療にあたります。
9．各診療科での診療は地域や関連する診療所や病院との連携を大切におこなっています。
10．地域の医療従事者と合同で医療の質の向上を目的とした研修会等をおこなっています。
11．職員の子育て支援にも積極的に取り組んでいます。

社会環境・構造が複雑化かつ急激に変化する時代において、当院が置かれている状況を様々な観点から再確認し、「私たちはどこに向かうのか」「私たちはなにを大切にしていくのか」…、今後の方針となるour PURPOSE を策定しました。

また、わたしたちは、何をやるかではなく、なぜやるのかを問いながら、当院が存在する意義として【our PURPOSE】を表現するため、【our MISSION】【our VISION】の実現に向けて、【our CREDO】「あしたのしせい＋」を示しました。これは、あらゆる日常の臨床場面において、私たちが大切にする価値観や行動規範です。いつも５つの信条を念頭に置いて、わたしの小さな一歩を職員皆で培い、より最適と最善を目指していきながら、JCHO 大阪病院は成長して参ります。

JCHO OSAKA our

PURPOSE

わたしたちが存在する理由・社会への約束

より最適な医療と
温かいこころで、
「あなた」と「地域」を
支えます

大切な命が生まれるとき
自分や大切な人が病に苦しむとき
ただただ回復を願うとき
命の終わりが近づきつつあるとき

そして、
世の中が危機に瀕したとき

なにかあったときに
頼れる存在がある

ここ大阪の地で
暮らしと健康を支える

その存在であるために
わたしたちだからできることを探り、
磨きつづけていく

その人らしさを大切にする心
多様なニーズに
対応できる医療技術
困ったときに助け合える関係
未来に向けて育つ環境

わたしたちは、
より最適な医療と
温かいこころで、
「あなた」と「地域」を
支えます

「あなた」と「地域」を
支えるために…

JCHO OSAKA our

MISSION

パーパスを実現するために
目指し続けるもの

- 一人ひとりに寄り添って、より最適な医療を目指します
- 専門的かつ高度な医療技術を提供できる体制を確保し続けます
- 未来の医療を支えるプロフェッショナルを育成し続けます
- 社会の要請・医療ニーズの変化に、真摯にかつ迅速に応えます
- わたしたち職員は互いを支え、高め合い、そして大阪病院は職員を大切にします

JCHO OSAKA our

VISION FOR 2030

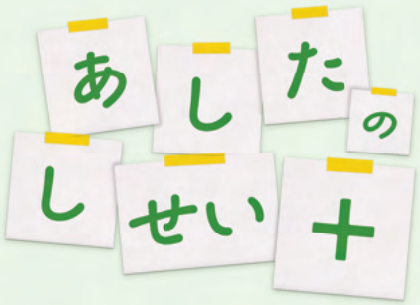
わたしたちが2030年までに
創り出したい状態

1. わたしたちは、「ありがとう」「選んでよかった」と思える病院をめざします
2. わたしたちは、当院の「公的役割」をふまえ、社会の要請・医療ニーズの変化に真摯かつ迅速に応えます
3. わたしたちは、健やかな地域づくりのために、個人も病院も共に健やかであるよう努めます
4. わたしたちは、「成長実感」と「誇り」を持てる病院を創ります

JCHO OSAKA our

CREDO

わたしたちが大切にする価値観・行動基準



あ 温かさ

- 患者さんや地域に「温もり」や「その人らしさ」を感じながら寄り添えているか？
- 忙しい時こそ、自分自身や目の前のひとを大切にできているか？

し 真摯

- 目の前の一人ひとりから「信頼」を得られるように、誠実に接しているか？
- ニーズを理解し、「迅速・丁寧・公正」に応えることができているか？

た 対話

- 互いに対話しやすいよう相手を尊重し、「心理的安全性」が高い関わりや環境づくりができているか？
- 対話を重ね、「より最適」なことが何かを探り、進化し続けているか？

し 支える

- 困難なときでも、働く仲間と支え合い、互いを高め合えているか？
- 地域になくてはならない存在の一員として「公的役割」も自覚できているか？

せい 成長

- プロフェッショナルとして「心・技・体」を磨き続けているか？
- 自らの成長とともに後進の成長に喜びを持つことができているか？

＋ 小さな一歩

- より良い明日に向けて、わたし（たち）ができる「小さな一歩」を創り出せているか？
- わたしの一歩

【病院概要】

開　設　者：　独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）

病　院　名：　独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院

病　院　長：　西田 俊朗

所　在　地：　大阪府大阪市福島区福島４丁目２番78号

開設年月日：　平成26年４月１日

許可病床数：　565床（一般病床）

特殊病床：　特定集中治療室（ICU）　12床

脳卒中ケアユニット（SCU）　９床

新生児特定集中治療室（NICU）11床　開放型病床15床を含む

標 榜 科：　整形外科　リウマチ科　形成外科　リハビリテーション科　外科　消化器外科（内視鏡）　呼吸器外科（内視鏡）　肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・内分泌外科　脳神経外科　内科　消化器内科（内視鏡）呼吸器内科（内視鏡）腎臓内科（人工透析）　糖尿病内分泌内科　循環器内科　感染症内科　免疫内科　心臓血管外科　皮膚科　泌尿器科　産婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　頭頸部外科　小児科　新生児内科　神経精神科　脳神経内科　放射線診断・ＩＶＲ科　放射線治療科　歯科　歯科口腔外科　臨床検査科　病理診断科　麻酔科　緩和ケア・ﾍﾟｲﾝｸﾘﾆｯｸ科　救急科

【施設基準】

令和６年３月31日現在

入院基本料	一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
入院基本料等加算	急性期充実体制加算1
	超急性期脳卒中加算
	救急医療管理加算
	診療録管理体制加算１
	医師事務作業補助体制加算2（15対1）
	急性期看護補助体制加算（25対1）
	看護職員夜間配置加算（12対1 配置加算１）
	療養環境加算
	重症者等療養環境特別加算
	緩和ケア診療加算
	栄養サポートチーム加算

入院基本料等加算	医療安全対策加算１
	感染対策向上加算1
	患者サポート体制充実加算
	重症患者初期支援充実加算
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	ハイリスク妊娠管理加算
	ハイリスク分娩管理加算
	呼吸ケアチーム加算
	術後疼痛管理チーム加算
	後発医薬品使用体制加算1
	病棟薬剤業務実施加算１
	病棟薬剤業務実施加算２
	データ提出加算２
	入退院支援加算１（地域連携診療計画加算）
	認知症ケア加算１
	せん妄ハイリスク患者ケア加算
	精神疾患診療体制加算
	排尿自立支援加算
	地域医療体制確保加算
	看護職員処遇改善評価料60
特定入院料	特定集中治療室管理料１
	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
	新生児特定集中治療室管理料２
	小児入院医療管理料２
指導管理	外来栄養食事指導料の注2に規定する基準
	心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算
	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料
	がん患者指導管理料イ
	がん患者指導管理料ロ
	がん患者指導管理料ハ
	がん患者指導管理料ニ
	外来緩和ケア管理料
	糖尿病透析予防指導管理料
	小児運動器疾患指導管理料
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料
	婦人科特定疾患治療管理料
	腎代替療法指導管理料
	一般不妊治療管理料
	二次性骨折予防継続管理料1
	二次性骨折予防継続管理料3
	下肢創傷処置管理料
	地域連携小児夜間・休日診療料１

指導管理	地域連携夜間・休日診療料
	院内トリアージ実施料
	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算
	外来放射線照射診療料
	外来腫瘍化学療法診療料1
	連携充実加算
	ニコチン依存症管理料
	療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
	開放型病院共同指導料
	がん治療連携計画策定料
	外来排尿自立指導料
	肝炎インターフェロン治療計画料
	ハイリスク妊産婦連携指導料1
	こころの連携指導料2
	薬剤管理指導料
	医療機器安全管理料１
	医療機器安全管理料２
在宅医療	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
	在宅療養後方支援病院
	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
検　　査	持続血糖測定器加算1
	持続血糖測定器加算2
	遺伝学的検査
	BRCA1／2遺伝子検査
	ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
	検体検査管理加算（Ⅰ）
	検体検査管理加算（Ⅳ）
	国際標準検査管理加算
	先天性代謝異常症検査
	遺伝カウンセリング加算
	胎児心エコー法
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
	ヘッドアップティルト試験
	脳波検査判断料1
	神経学的検査
	小児食物アレルギー負荷検査
	内服・点滴誘発試験
画像診断	画像診断管理加算２
	ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影
	冠動脈ＣＴ撮影加算
	心臓ＭＲＩ撮影加算
	乳房ＭＲＩ撮影加算

画像診断	小児鎮静下ＭＲＩ撮影加算
	頭部ＭＲＩ撮影加算
	全身ＭＲＩ撮影加算
投　　薬	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
注　　射	外来化学療法加算１
	無菌製剤処理料
リハビリ	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
	がん患者リハビリテーション料
	リンパ浮腫複合的治療料
	摂食嚥下機能回復体制加算２
精神科専門療法	療養生活継続支援加算
処　　置	医科点数表第２章第９部処置の通則の５に掲げる処置の休日加算１
	医科点数表第２章第９部処置の通則の５に掲げる処置の時間外加算１
	医科点数表第２章第９部処置の通則の５に掲げる処置の深夜加算１
	静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
	人工腎臓
	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
	難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するＬＤＬアフェレシス療法
	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
手 術 他	医科点数表第２章第９部処置の通則の５に掲げる手術の休日加算１
	医科点数表第２章第９部処置の通則の５に掲げる手術の時間外加算１
	医科点数表第２章第９部処置の通則の５に掲げる手術の深夜加算１
	周術期栄養管理実施加算
	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
	組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
	後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）
	椎間板内酵素注入療法
	緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
	緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
	緑内障手術（濾過胞再建術（needle法）
	角結膜悪性腫瘍切除手術
	網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いる）
	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）

手 術 他	胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
	経皮的冠動脈形成術（特殊ｶﾃｰﾃﾙによるもの）
	経カテーテル大動脈弁置換術
	胸腔鏡下弁形成術
	胸腔鏡下弁置換術
	不整脈手術左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
	経皮的中隔心筋焼灼術
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
	"両室ﾍﾟｰｼﾝｸﾞ機能付き植込型除細動器移植術 及び両室ﾍﾟｰｼﾝｸﾞ機能付き植込型除細動器交換術"
	大動脈ﾊﾞﾙｰﾝﾊﾟﾝﾋﾟﾝｸﾞ法（IABP法）
	腹腔鏡下ﾘﾝﾊﾟ節群郭清術（傍大動脈）
	腹腔鏡下ﾘﾝﾊﾟ節群郭清術（側方）
	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
	腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
	腹腔鏡下肝切除術
	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
	内視鏡的小腸ポリープ切除術
	腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。） （内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
	生体腎移植術
	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
	精巣内精子採取術
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
	遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術
	遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術
	医科点数表第２章第10部手術の通則の16に掲げる手術
	輸血管理料Ⅰ
	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
	麻酔管理料（Ⅰ）
	麻酔管理料（Ⅱ）
	放射線治療専任加算
	外来放射線治療加算
	高エネルギー放射線治療

手 術 他	１回線量増加加算
	強度変調放射線治療（IMRT）
	画像誘導放射線治療加算（ＩＧＲＴ）
	体外照射呼吸性移動対策加算
	定位放射線治療
	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
	保険医療機関間の連携による病理診断
	病理診断管理加算２
	悪性腫瘍病理組織標本加算
食事療養	入院時食事療養（Ｉ）
歯　　科	地域歯科診療支援病院歯科初診料
	歯科外来診療環境体制加算２
	クラウン・ブリッジ維持管理料
	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
	歯科口腔リハビリテーション料２
	ＣＡＤ／ＣＡＭ冠

【医学会認定研修等施設一覧】

厚生労働省臨床研修指定病院
日本内科学会認定医教育病院
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本形成外科学会認定医研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本医学放射線学会専門医修練機関
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本病理学会病理専門医研修認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会専門医認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設（小児科）
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設（内科・小児科）
日本神経学会専門医教育施設
日本リウマチ学会教育施設
日本呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医暫定認定施設
日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医暫定認定施設
日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設
日本放射線腫瘍学会認定施設
日本手外科学会認定基幹研修施設
脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本透析医学会専門医認定施設
日本超音波医学会超音波専門医研修基幹施設
日本核医学会専門医教育病院
日本臨床細胞学会認定施設
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本脳神経外科学会専門医連携研修施設
日本脳卒中学会専門医研修教育病院
日本脳卒中学会一次脳卒中センターPSCコア施設
日本IVR学会専門医修練施設認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼動施設
日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼動施設
日本食道学会全国登録認定施設
食道外科専門医準認定施設
日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本総合病院精神医学会一般病院連携研修施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本膵臓学会認定指導施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設
肺がんＣＴ検診認定施設
日本胃癌学会認定研修施設（Ａ）
日本ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
鼻科手術認可研修施設
心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設
日本呼吸器学会専門医研修連携施設

【沿　革】

昭和27年 10月	大阪厚生年金病院 開設（整形外科・内科54床）
29年　3月	外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・小児科・歯科 新設334床
30年　4月	改築増床 計375床に
32年　7月	総合病院名称使用の承認
33年　4月	増改築増床 計560床に 福島小学校分校 併設（H22.12まで）厚 生年金病院大阪高等看護学院 開院
34年　4月 10月	下福島中学校分校 併設（H22.12まで） 神経精神科・放射線科 新設
36年　4月	麻酔科 新設
38年　4月	リウマチ科・災害外科 新設
43年　7月	臨床研修指定機関となる
45年　9月	脳神経外科・リハビリテーション科・病理検査科 新設
48年 12月	病院新築工事着工（旧病院）
56年　3月	すべての新改築工事完了（旧病院）
57年　3月	10床増床 計570床に
平成 7年 2月	阪神・淡路大震災 医療支援活動
8年 2月	救急告示病院として認定
9年 3月	ICU・救急処置室 開設
12年　4月 10月	開放型病床の承認（15床） 院外処方全面発行開始
13年　7月	地域医療連絡室設置
16年　3月 4月	オーダーリングシステム導入 産科オープンシステム開始
18年　4月 10月	DPC対象病院に指定 SCU（脳卒中ケアユニット）新設 許可病床数変更570床→565床
19年　4月 12月	院内保育園設置 地域医療支援病院の承認
20年　5月	電子カルテシステム導入
22年　4月	大阪府がん診療拠点病院の指定
23年　4月	東日本大震災 医療支援活動
25年　2月	耐震建替工事着工
26年　4月	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院　改組
27年　4月 5月	新病院竣工式 新病院診療開始
28年　4月	新病院グランドオープン
令和 1年 9月	一次脳卒中センター認定
2年 4月	40床休床　　NICU 9床→6床 13階東45床/ 西45床→13階東60床　9階西46床→45床 COVID-19 受入病床15床（13東） COVID-19 救急外来 発熱外来用コンテナ設置 COVID-19　3階図書コーナー閉鎖
4年 7月	大阪府小児地域医療センター　指定
5年 8月	紹介受診重点医療機関
6年 3月	大阪府と感染症法に基づく医療措置協定締結

【職 員 数】

令和６年３月１日現在

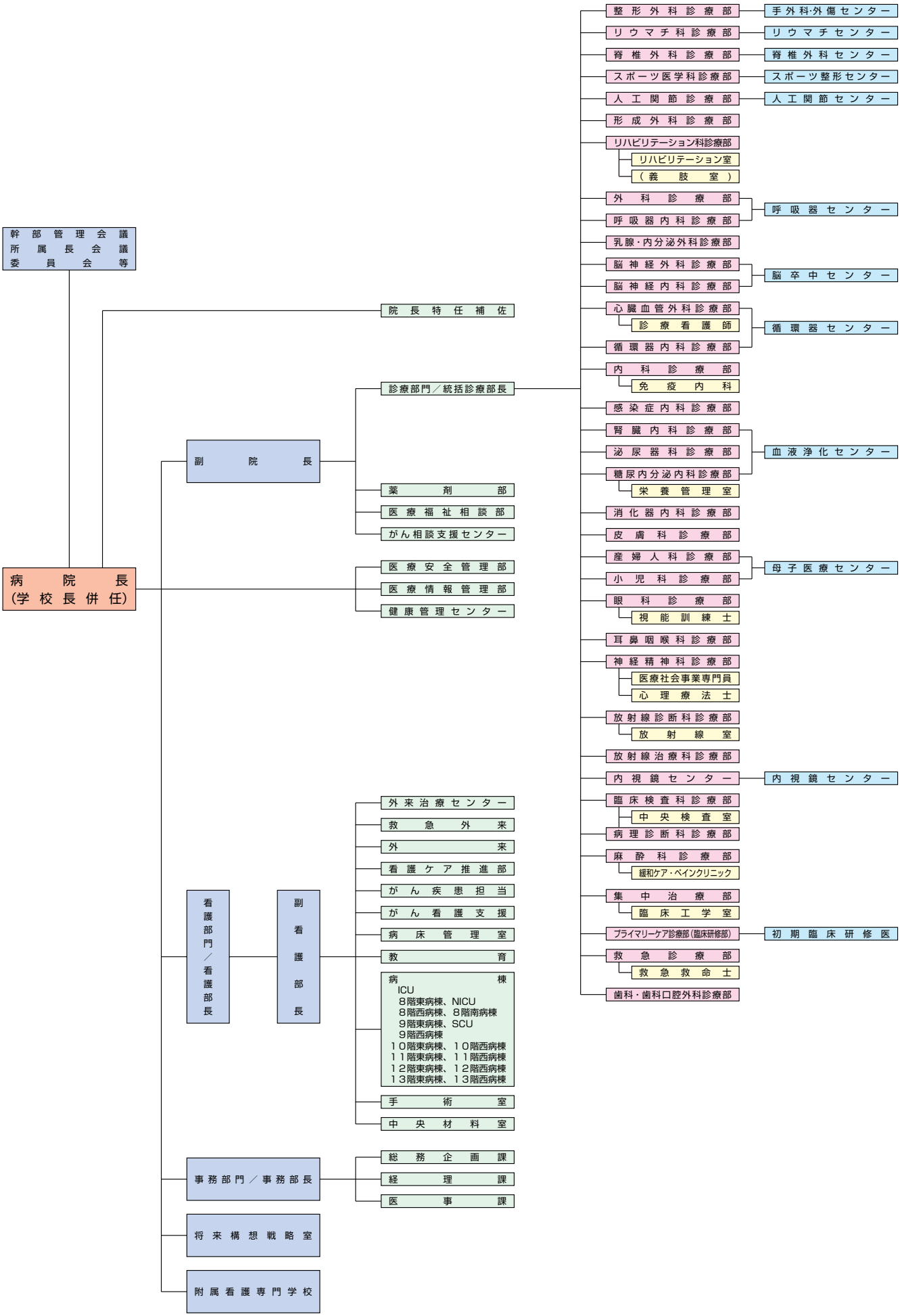
	区　分	医療職	医技職	看護職	事務職	診療情報管理職	技能職	福祉職	療　養介助職	医師事務作業補助職	合　計
病院	常　勤	198.0	171.0	527.0	33.0	5.0	3.0	7.0	29.0	7.0	980
	非常勤	2.7	4.6	10.8	21.8	0.0	0.0	0.7	8.0	6.1	54.7
	小　計	200.7	175.6	537.8	54.8	5.0	3.0	7.7	37.0	13.1	1,034.7
	区　分	教育職	事務職								合　計
学校	常　勤	8.0	2.0								10.0
	非常勤	0.0	0.0								0.0
	小　計	8.0	2.0								10.0
合　計（人）		208.7	177.6	537.8	54.8	5.0	3.0	7.7	37.0	13.1	1,044.7

【附属施設】

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校

【組織図】

令和６年３月１日現在



Topics

Topics

母子医療センター

母子医療センターのお部屋が新しくなりました！

「すべてのお母さんにあたたかいお産を」というコンセプトのもと、昨年度よりリニューアルプロジェクトに取り組んでいます。産科病棟･NICU の助産師･看護師が中心となり、他部署･職種と共にお母さんと赤ちゃんにとって居心地のよいお部屋や喜んでいただけるプレゼント・貸出用パジャマについて検討を重ねてきました。お部屋については 2023 年３月に工事が完了し、個室、２床室、４床室と複数のタイプをご用意しました。４月より稼働し、すでにたくさんの患者さんから満足のお声をいただいております。患者さんに喜んでいただける母子医療センターを目指し、今後も取り組みを続けていきます！

オープンキャンパス

2023 年 10 月 7 日に JCHO 大阪病院オープンキャンパスを福島区民まつりと合わせて開催し、750 名の方にお越し頂きました。１階から３階までをイベント会場とし、診療部や看護部を中心に、専門性に応じて工夫を凝らしたブース展開を行いました。

１階	体操
	講演
	健康相談
	認知症について知ろう
	脳卒中発生時の対応、予防について知ろう！
	日常生活にプラス！　口から長く食べる習慣
２階	すべてのお母さんにあたたかいお産を
	手洗い
	子宮頸がんワクチンについて
	お腹の中はどうなっているの
	糖尿病について知ろう
３階	パーソナルカラーを知って自分らしく生きる
	受けよう！　がん検診！
	腎臓病
	床ずれ予防とフットケア
	一次救命処置の実施ともしもの時の救急車の利用方法

１階

１階では認知症や脳卒中発生時の対応、予防などの健康相談や医師による講演などを行いました。また立つ人、座る人のどちらかでも出来る健康体操を音楽に合わせて行いました。

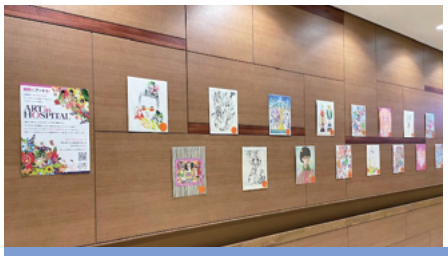
２階

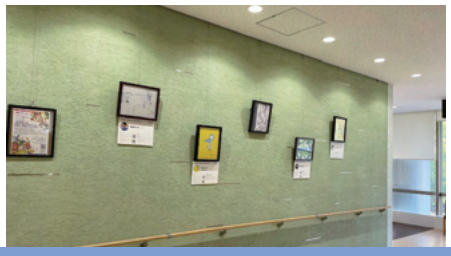
２階は、「すべてのお母さんにあたたかいお産を」をメインテーマに、“赤ちゃんの抱っこ体験”や“沐浴体験”、赤ちゃんを迎える為のグッズ紹介などのブース展開を行いました。

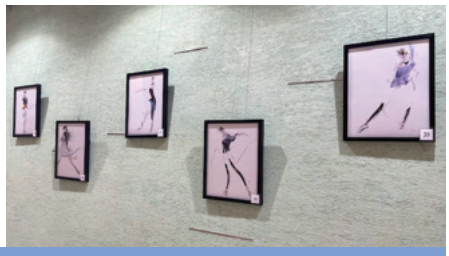
３階

３階では“一次救命処置ともしもの時の救急車利用法”、“受けようがん検診”“腎臓病相談”“床ずれ防止、フットケア”などと、展示と実演のブースで盛り上がりました。

アートギャラリー







病院にアートを！～ ART in HOSPITAL ～

FM802.FMCOCOLO のアートプロジェクト活動（dig me out）と連携し、病院に多くの作品を展示し、患者さんや医療従事者を元気づけ、癒し、励ますことができることを目的としています。2022 年度から活動をはじめ、多くの皆さまから喜びや活動に対する応援メッセージをいただきました。これまでに約 100 種類の ART 作品を外来や病棟に展示して、気に入った作品をプレゼントする企画も行っており、2023 年 10 月に開催したオープンキャンパスでは、院内スタンプラリーを達成された方に作品をプレゼントさせていただきました。

大阪心不全地域医療連携の会

～心不全パンデミックに備えよう～

2018 年７月に「大阪心不全地域医療連携の会」に加わり、心不全教室の開催や啓蒙活動に取り組んでいます。住み慣れた場所で自分らしい暮らしが送れるよう、病院だけで完結することなく、地域の医療・介護従事者と共に支えることが必要です。そのため、地域の医療･介護従事者向けに心不全については学ぶ「教室」を開催しています。

ダヴィンチ

手術支援ロボット「ダヴィンチ」始動

2023 年 12 月に手術支援ロボット「ダヴィンチ Xi」を導入しました！ 2024 年１月からロボット手術を開始し、１週間に１件のペースで行っており、４月以降はより多くの患者さんに低侵襲な手術を実施していきます。

電子カルテ

電子カルテ更新

2024 年 3 月に NEC から富士通の電子カルテへ更新しました。
ワーキンググループの立ち上げから始まり、更新後スムーズに業務が出来るように模擬訓練を行うなど、職員一丸となって尽力しました。

腎臓病 オープンキャンパス

慢性腎臓病（ＣＫＤ）予防と早期発見を！

2024 年 3 月 14 日 (木)・15 日 (金) に「世界腎臓デー」にあやかり「腎臓病オープンキャンパス」を開催しました。２階のラウンジでは、病気の予防や、最新の治療法など、医師や看護師がミニレクチャーを行っています。待ち時間などに足を止めて頂く患者さんも多く、ご好評をいただいています。今後も皆さんのご希望の講演会を開催してまいりますので、ご希望などお聞かせください。

医 事 統 計

■科別外来患者数【2023 年度】

外来診療日：243 日

診　療　科	新患	再来	合計	1 日平均患者数		
				新患	再来	合計
整形外科	3,199	30,629	33,828	13.2	126.0	139.2
形成外科	497	2,821	3,318	2.0	11.6	13.7
リハビリテーション科	0	7,787	7,787	0.0	32.0	32.0
外科	356	10,119	10,475	1.5	41.6	43.1
乳腺内分泌外科	377	9,542	9,919	1.6	39.3	40.8
心臓血管外科	78	2,030	2,108	0.3	8.4	8.7
脳神経外科	675	3,715	4,390	2.8	15.3	18.1
内科	1,937	35,329	37,266	8.0	145.4	153.4
消化器内科	1,521	26,209	27,730	6.3	107.9	114.1
循環器科	810	19,268	20,078	3.3	79.3	82.6
皮膚科	645	8,566	9,211	2.7	35.3	37.9
泌尿器科	254	9,016	9,270	1.0	37.1	38.1
産婦人科	795	18,599	19,394	3.3	76.5	79.8
眼科	857	18,266	19,123	3.5	75.2	78.7
耳鼻いんこう科	651	5,353	6,004	2.7	22.0	24.7
小児科	1,797	7,249	9,046	7.4	29.8	37.2
神経精神科	104	7,198	7,302	0.4	29.6	30.0
脳神経内科	483	4,618	5,101	2.0	19.0	21.0
放射線診断科	858	489	1,347	3.5	2.0	5.5
放射線治療科	0	2,692	2,692	0.0	11.1	11.1
麻酔科	3		161			
歯科・歯科口腔外科	2,016	4,812	6,828	8.3	19.8	28.1
合計	17,913	237,718	252,378	73.7	978.3	1,038.6

■病棟別患者数

365 日

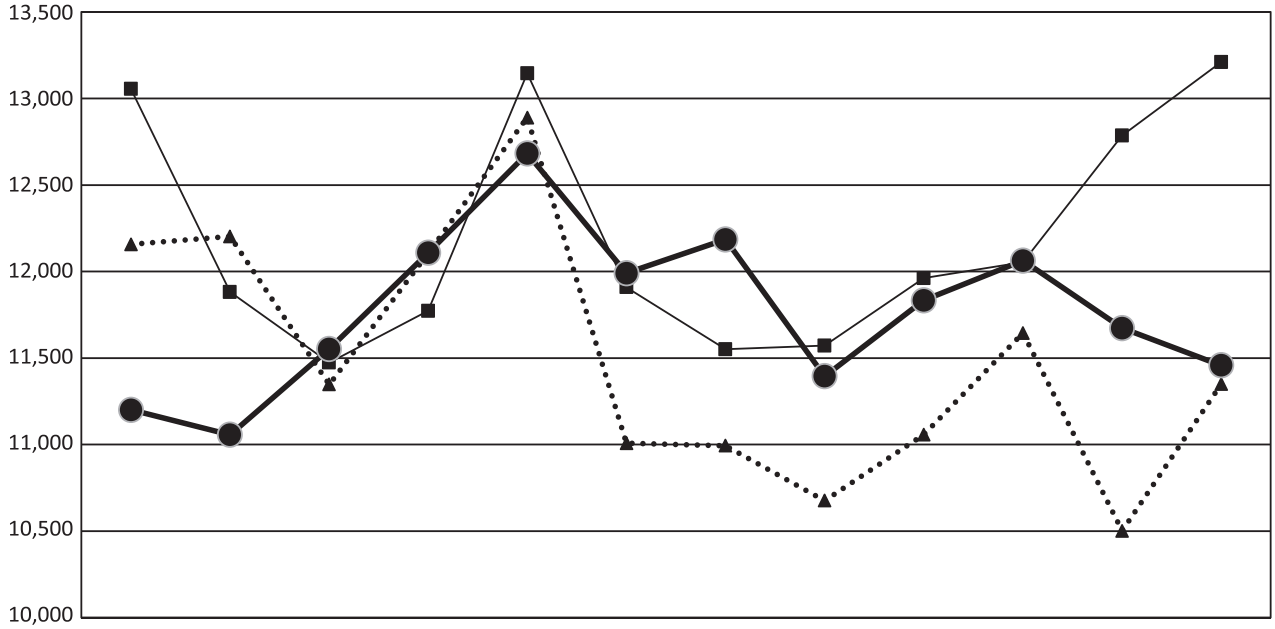
病棟名	取扱患者数	1 日平均患者数
8 階東	5,013	13.7
8 階西	4,799	13.1
8 階南	10,009	27.4
9 階東	10,444	28.6
9 階西	13,131	36.0
10 階東	13,680	37.5
10 階西	12,632	34.6
11 階東	13,809	37.8
11 階西	14,121	38.7
12 階東	13,893	38.1
12 階西	13,942	38.2
13 階東	111	0.3
13 階西	9,106	24.9
ICU	2,759	7.6
SCU	3,025	8.3
NICU	724	2.0
合計	141,198	386.8

■診療科別入院患者数【2023 年度】

入院日数：365 日

診　療　科	繰越延患者数	新入院患者数	退院患者数		在院延患者数	取扱患者数	1 日平均患者数	平均在院日数
			死亡	退院				
整　形	74	2,233	2	2,229	31,631	33,862	92.8	14.2
形　成	2	136	0	141	1,000	1,141	3.1	11.0
外　科	38	1,013	25	1,023	10,366	11,414	31.3	10.9
乳　腺	4	282	10	275	1,899	2,184	6.0	7.2
心　臓	1	127	4	128	2,068	2,200	6.0	17.6
脳　外	19	374	22	366	6,008	6,396	17.5	19.7
内　科	46	1,587	80	1,489	22,000	23,569	64.6	13.5
消　内	39	2,372	46	2,323	14,994	17,363	47.6	6.2
循　環	31	1,155	37	1,091	10,976	12,104	33.2	9.7
皮　膚	7	185	0	185	2,003	2,188	6.0	10.9
泌　尿	6	378	7	374	3,383	3,764	10.3	7.4
産　婦	16	1,101	2	1,105	6,130	7,237	19.8	5.9
眼　科	3	876	0	878	2,373	3,251	8.9	3.2
耳　鼻	4	467	1	466	1,941	2,408	6.6	4.8
小　児	12	1,063	0	1,061	4,802	5,863	16.1	5.2
神　内	9	359	5	350	5,466	5,821	15.9	15.6
歯　科	0	88	0	87	346	433	1.2	3.4
合計	311	13,796	241	13,571	127,386	141,198	386.8	9.5

■入院延患者数の推移

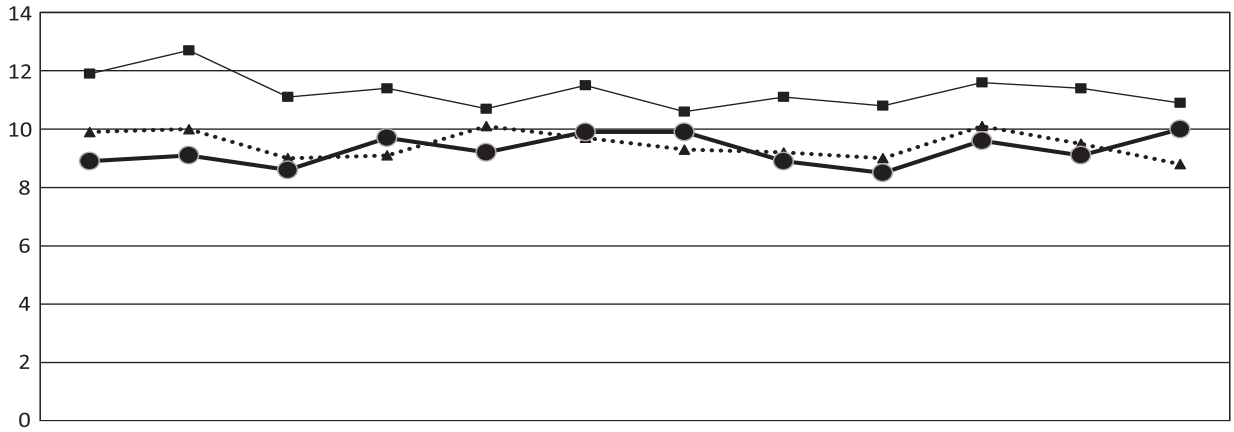


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	13,056	11,881	11,473	11,773	13,145	11,909	11,550	11,571	11,962	12,054	12,786	13,210
2022年度	12,157	12,203	11,347	12,106	12,890	11,007	10,993	10,676	11,057	11,645	10,501	11,349
2023年度	11,201	11,056	11,553	12,108	12,682	11,990	12,185	11,395	11,833	12,063	11,673	11,458

【2023年度】

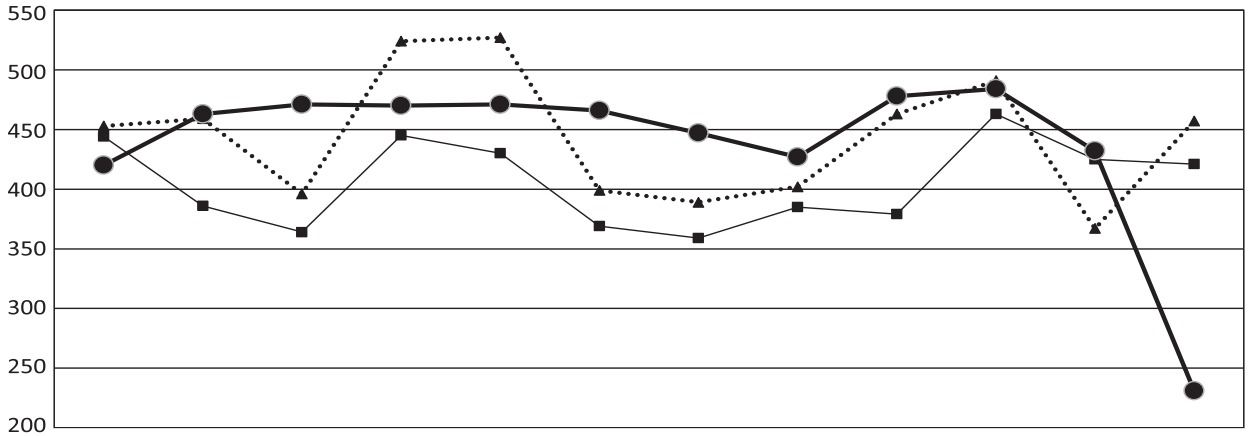
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	2,596	2,441	2,664	2,914	3,098	2,820	3,041	2,876	3,022	2,471	3,091	2,828	33,862
形成	89	39	117	50	112	111	77	73	121	170	152	30	1,141
外科	1,093	942	980	1,085	927	946	839	997	982	1,040	707	876	11,414
乳腺	171	170	172	159	223	171	174	247	188	150	202	157	2,184
心臓	135	211	170	201	189	186	211	164	132	171	184	248	2,202
脳外	613	468	634	554	483	465	517	527	505	625	451	553	6,395
内科	1,490	1,729	1,934	1,864	2,314	2,029	1,960	1,724	2,101	2,409	2,110	1,903	23,567
消内	1,428	1,430	1,415	1,549	1,636	1,514	1,419	1,266	1,251	1,551	1,541	1,363	17,363
循環	1,116	947	843	912	938	1,077	1,086	1,107	1,032	1,117	967	962	12,104
皮膚	243	162	175	252	198	123	243	133	121	106	206	226	2,188
泌尿	295	361	345	340	324	313	388	327	264	262	252	293	3,764
産婦	600	629	575	641	693	661	632	557	595	491	546	617	7,237
眼科	375	203	298	281	229	263	355	249	289	214	270	225	3,251
耳鼻	193	171	174	215	223	198	230	213	193	215	201	182	2,408
小児	430	691	694	525	402	501	522	449	489	372	316	472	5,863
神内	331	452	357	560	614	537	447	455	499	648	436	485	5,821
歯科	3	10	6	6	79	75	44	31	49	51	41	38	433
合計	11,201	11,056	11,553	12,108	12,682	11,990	12,185	11,395	11,833	12,063	11,673	11,458	141,197

1．平均在院日数



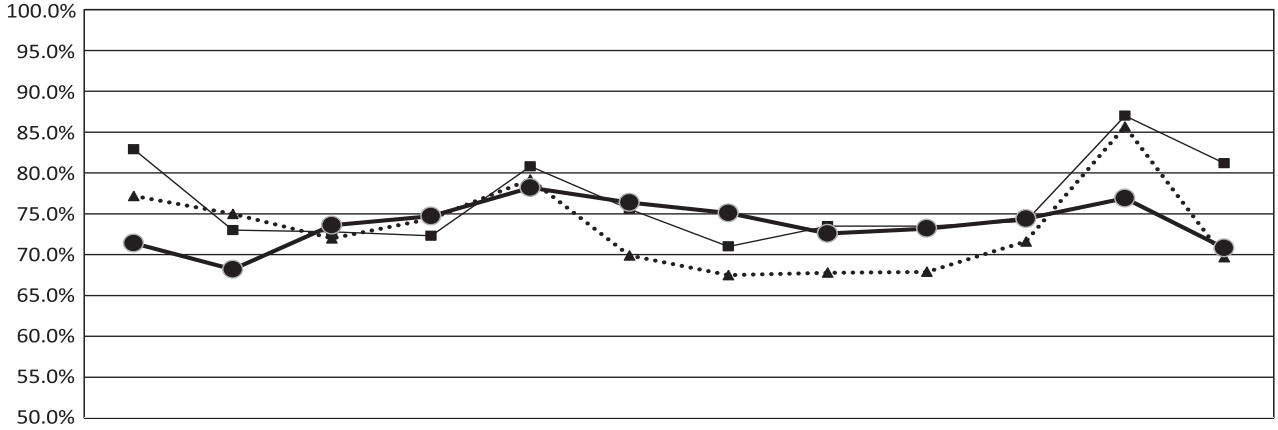
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	11.9	12.7	11.1	11.4	10.7	11.5	10.6	11.1	10.8	11.6	11.4	10.9
2022年度	9.9	10	9	9.1	10.1	9.7	9.3	9.2	9	10.1	9.5	8.8
2023年度	8.9	9.1	8.6	9.7	9.2	9.9	9.9	8.9	8.5	9.6	9.1	10

2．直入患者数の推移



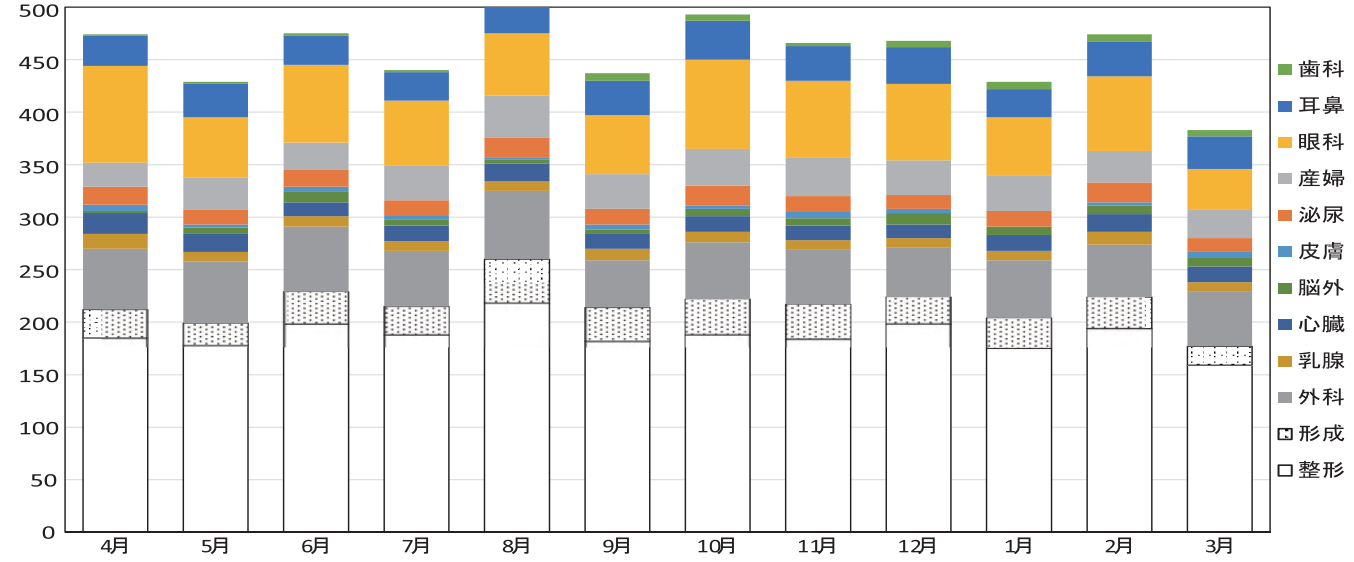
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	444	386	364	445	430	369	359	385	379	463	425	421
2022年度	453	459	396	524	527	399	389	402	463	491	367	457
2023年度	420	463	471	470	471	466	447	427	478	484	432	231

3．病床稼働率



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	82.9%	73.0%	72.8%	72.3%	80.8%	75.6%	71.0%	73.5%	73.5%	74.1%	87.0%	81.2%
2022年度	77.2%	75.0%	72.0%	74.4%	79.2%	69.9%	67.5%	67.8%	67.9%	71.6%	85.7%	69.7%
2023年度	71.4%	68.2%	73.6%	74.7%	78.2%	76.4%	75.1%	72.6%	73.2%	74.4%	76.9%	70.8%

■診療科別手術件数（手術室実施分）【2023 年度】



【2023 年度】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
整形	185	178	198	188	218	182	188	184	198	175	194	159	2,247
形成	27	21	31	27	42	32	34	33	26	29	30	18	350
外科	58	59	62	53	65	45	54	52	47	55	50	52	652
乳腺	14	9	10	9	9	11	10	9	9	9	12	9	120
心臓	20	17	13	15	17	14	15	14	13	15	17	15	185
脳外	2	6	10	6	4	4	7	7	11	8	8	9	82
皮膚	6	3	5	4	2	5	3	6	4	0	3	5	46
泌尿	17	14	16	14	19	15	19	15	13	15	19	13	189
産婦	23	31	26	33	40	33	35	37	33	34	30	27	382
眼科	92	57	74	62	59	56	85	73	73	55	71	39	796
耳鼻	29	32	28	27	38	33	37	33	35	27	33	31	383
歯科	1	2	2	2	5	7	6	3	6	7	7	6	54
合計	474	429	475	440	518	437	493	466	468	429	474	383	5,486

【2022 年度】

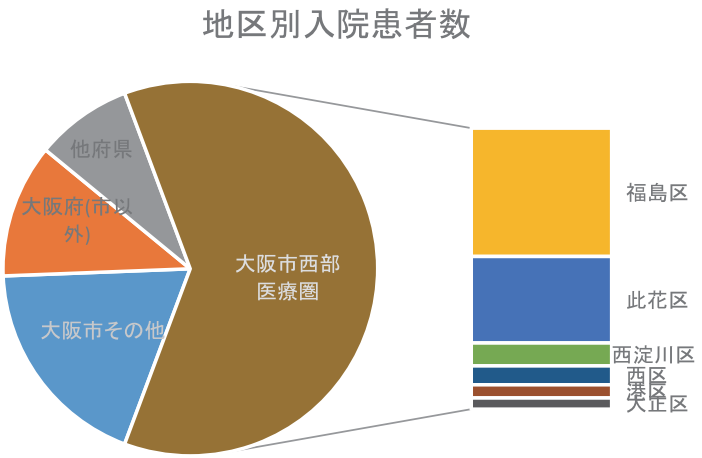
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
整形	162	170	183	186	192	168	163	180	158	167	153	211	2,093
形成	37	25	38	35	28	35	25	22	25	25	27	35	357
外科	54	59	62	60	56	56	57	44	70	49	40	56	663
乳腺	11	7	12	12	12	12	14	9	8	9	8	13	127
心臓	23	19	14	9	8	12	14	13	14	21	10	13	170
脳外	9	7	10	4	9	10	8	5	4	8	6	10	90
皮膚	4	3	3	1	3	3	3	5	5	3	6	5	44
泌尿	15	19	17	21	13	24	10	17	15	16	15	14	196
産婦	27	29	26	20	38	31	30	22	30	20	26	36	335
眼科	79	87	98	69	59	60	92	88	63	60	74	77	906
耳鼻	9	8	17	19	22	16	19	21	21	29	25	24	230
歯科	2	3	4	4	4	3	2	1	1	2	0	3	29
合計	432	436	484	440	444	430	437	427	414	409	390	497	5,240

【2021 年度】

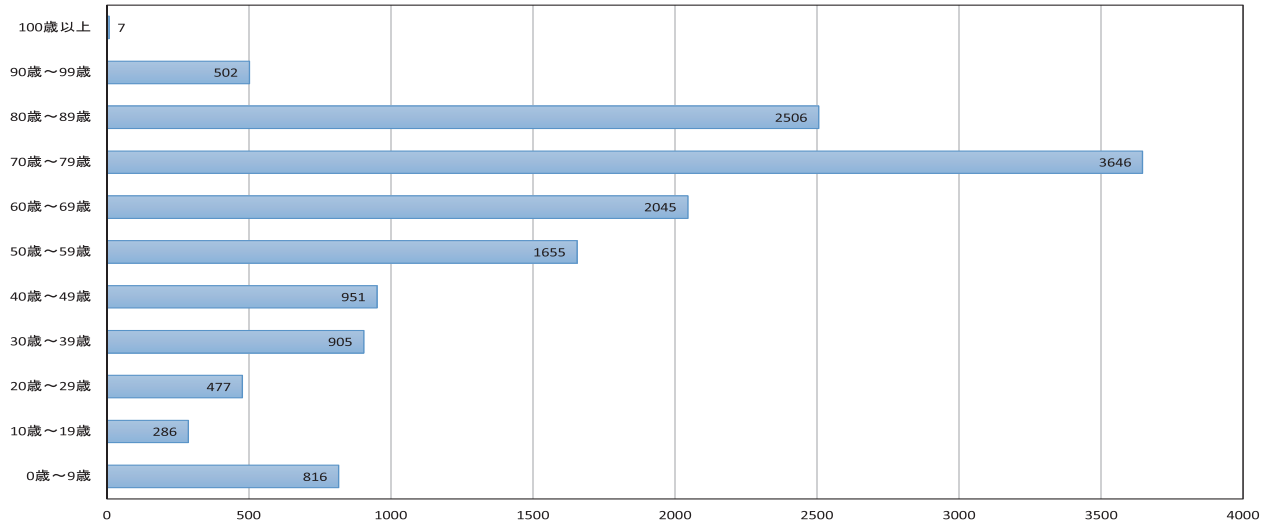
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
整形	160	137	141	165	185	144	150	151	162	155	166	193	1,909
形成	32	22	19	23	33	29	39	37	37	30	28	34	363
外科	59	49	61	61	52	60	64	50	50	73	53	49	681
乳腺	15	8	16	6	9	8	12	12	8	13	7	6	120
心臓	15	14	14	14	23	17	14	22	14	20	13	15	195
脳外	11	3	8	7	7	6	3	9	13	5	8	8	88
皮膚	5	4	4	2	2	2	5	5	5	3	6	2	45
泌尿	20	13	15	20	18	16	22	18	23	17	11	17	210
産婦	31	31	27	29	35	20	24	30	26	25	21	24	323
眼科	67	61	59	64	94	77	80	94	63	92	64	83	898
耳鼻	11	9	12	12	14	12	12	10	15	11	8	20	146
歯科	3	2	2	3	3	1	3	1	1	2	1	3	25
合計	429	353	378	406	475	392	428	439	417	446	386	454	5,003

■診療科別住所地別入院患者数【2023 年度】

診　療　科	大阪市							その他大阪府	他府県	合計
	福島区	此花区	西淀川区	西区	港区	大正区	その他			
整　形	257	145	110	103	63	83	580	546	346	2,233
形　成	39	32	9	5	0	1	22	15	13	136
外　科	297	230	80	35	29	20	146	102	74	1,013
乳　腺	42	35	20	13	6	21	74	45	26	282
心　臓	21	23	11	3	17	8	29	12	3	127
脳　外	84	88	28	16	18	9	76	27	28	374
内　科	416	317	93	50	66	65	345	126	109	1,587
消　内	652	522	133	75	44	72	403	228	243	2,372
循　環	318	215	84	69	71	34	227	78	59	1,155
皮　膚	62	28	13	3	6	2	48	15	8	185
泌　尿	100	69	24	14	9	20	57	33	52	378
産　婦	427	78	21	75	50	14	285	79	72	1,101
眼　科	165	191	36	12	6	10	147	153	156	876
耳　鼻	130	48	26	25	12	7	107	54	58	467
小　児	394	73	40	148	52	24	251	37	44	1,063
神　内	104	75	40	14	14	9	61	24	18	359
歯　科	31	22	2	8	2	2	10	6	5	88
合計	3,539	2,191	770	668	465	401	2,868	1,580	1,314	13,796



■年齢階層別新入院患者数【2023 年度】



【2023 年度】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳～ 9 歳	60	55	70	122	99	66	50	61	58	63	54	58	816
10 歳～ 19 歳	20	18	20	25	35	23	17	17	32	22	28	29	286
20 歳～ 29 歳	33	50	35	38	45	44	38	36	41	37	41	39	477
30 歳～ 39 歳	74	62	54	80	81	84	81	96	83	76	67	67	905
40 歳～ 49 歳	81	85	81	91	78	69	88	61	75	68	92	82	951
50 歳～ 59 歳	148	129	154	117	131	124	144	127	149	156	160	116	1,655
60 歳～ 69 歳	180	168	184	152	196	149	192	169	176	184	165	130	2,045
70 歳～ 79 歳	287	265	344	293	304	286	347	297	286	337	301	299	3,646
80 歳～ 89 歳	204	215	227	190	209	208	191	241	234	210	202	175	2,506
90 歳～ 99 歳	44	55	37	46	50	33	36	29	49	67	28	28	502
100 歳以上	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	2	1	7
合計	1,131	1,104	1,206	1,154	1,228	1,087	1,184	1,134	1,184	1,220	1,140	1,024	13,796

【2022 年度】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳～ 9 歳	58	56	66	125	95	61	45	57	52	57	47	65	784
10 歳～ 19 歳	19	19	19	26	34	21	15	16	29	20	24	33	275
20 歳～ 29 歳	32	51	33	39	43	40	34	34	37	34	36	44	457
30 歳～ 39 歳	71	64	51	82	78	77	73	90	74	69	58	75	862
40 歳～ 49 歳	78	87	76	94	75	63	79	57	67	62	80	92	910
50 歳～ 59 歳	143	132	145	120	126	114	129	119	133	142	139	130	1,572
60 歳～ 69 歳	173	173	173	156	188	137	172	158	157	168	143	146	1,944
70 歳～ 79 歳	277	274	324	302	290	264	311	279	256	305	264	337	3,483
80 歳～ 89 歳	197	221	214	195	201	191	171	226	209	191	175	197	2,388
90 歳～ 99 歳	42	56	35	47	48	30	32	27	44	61	24	31	477
100 歳以上	0	1	0	0	1	0	0	0	1	3	0	1	7
合計	1,090	1,134	1,136	1,186	1,179	998	1,061	1,063	1,059	1,112	990	1,151	13,159

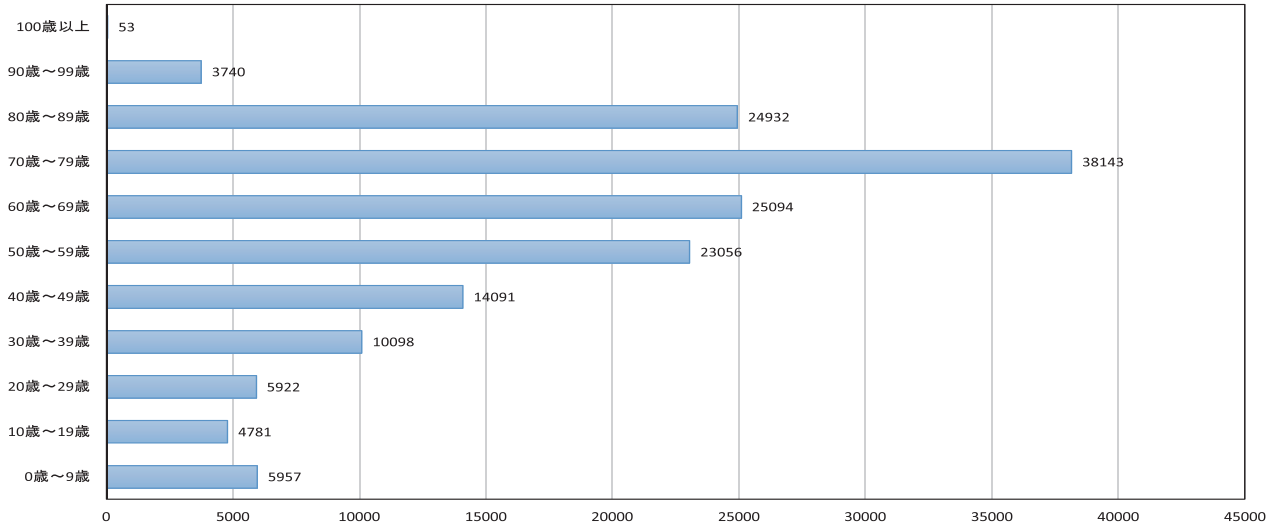
【2021 年度】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳～ 9 歳	80	79	81	85	59	38	66	57	58	54	42	37	736
10 歳～ 19 歳	14	10	17	34	23	17	24	19	28	30	17	32	265
20 歳～ 29 歳	42	32	32	35	57	26	36	37	35	36	39	40	447
30 歳～ 39 歳	78	66	68	73	86	68	75	69	61	77	67	68	856
40 歳～ 49 歳	87	78	68	93	97	87	63	64	65	79	70	75	926
50 歳～ 59 歳	121	112	119	131	134	105	120	115	103	122	109	137	1,428
60 歳～ 69 歳	170	149	162	143	174	169	166	182	152	187	165	172	1,991
70 歳～ 79 歳	304	260	254	263	317	255	251	294	223	306	262	294	3,283
80 歳～ 89 歳	178	157	163	179	160	152	185	182	183	200	184	190	2,113
90 歳～ 99 歳	27	29	23	21	30	30	24	30	39	51	41	41	386
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	1,101	972	987	1,057	1,137	947	1,010	1,049	947	1,142	996	1,087	12,432

【2020 年度】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳～ 9 歳	45	38	40	38	52	53	49	46	34	34	41	69	539
10 歳～ 19 歳	18	9	14	16	27	13	20	22	21	19	16	35	230
20 歳～ 29 歳	28	31	34	31	40	49	48	37	41	37	49	38	463
30 歳～ 39 歳	77	81	61	79	82	71	63	57	45	57	72	81	826
40 歳～ 49 歳	71	69	67	71	83	62	67	54	56	55	59	63	777
50 歳～ 59 歳	111	105	96	91	100	96	111	107	95	114	110	125	1,261
60 歳～ 69 歳	177	173	184	179	162	157	177	191	160	178	177	161	2,076
70 歳～ 79 歳	179	122	235	321	338	296	341	360	366	338	239	365	3,500
80 歳～ 89 歳	143	136	173	175	186	174	185	187	174	200	174	206	2,113
90 歳～ 99 歳	23	21	27	33	38	37	29	36	36	36	34	26	376
100 歳以上	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	4
合計	872	785	932	1,034	1,108	1,008	1,090	1,097	1,029	1,069	971	1,170	12,165

■年齢階層別外来実患者数【2023 年度】



【2023 年度】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳～ 9 歳	419	484	469	591	542	531	509	487	497	449	467	512	5,957
10 歳～ 19 歳	369	361	380	429	532	365	358	346	435	391	341	474	4,781
20 歳～ 29 歳	485	483	458	606	585	455	441	425	451	477	531	525	5,922
30 歳～ 39 歳	803	860	830	896	868	844	802	852	849	852	834	808	10,098
40 歳～ 49 歳	1,094	1,108	1,243	1,181	1,174	1,141	1,172	1,218	1,169	1,144	1,228	1,219	14,091
50 歳～ 59 歳	1,817	1,865	2,088	1,880	1,847	1,890	2,015	1,874	1,989	1,928	1,968	1,895	23,056
60 歳～ 69 歳	1,988	2,030	2,219	1,976	2,057	2,118	2,241	2,076	2,137	2,088	2,122	2,042	25,094
70 歳～ 79 歳	3,156	3,132	3,296	3,049	3,103	3,270	3,362	3,224	3,189	3,165	3,179	3,018	38,143
80 歳～ 89 歳	2,103	2,156	2,256	2,022	2,016	2,165	2,285	2,184	2,212	1,830	1,850	1,853	24,932
90 歳～ 99 歳	325	324	341	327	316	322	362	335	330	260	252	246	3,740
100 歳以上	4	3	4	3	4	5	6	4	6	6	6	2	53
合計	12,563	12,806	13,584	12,960	13,044	13,106	13,553	13,025	13,264	12,590	12,778	12,594	155,867

【2022 年度】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳～ 9 歳	432	483	469	613	552	538	488	478	487	434	437	555	5,966
10 歳～ 19 歳	380	360	380	445	542	370	343	339	427	378	319	514	4,797
20 歳～ 29 歳	499	482	458	629	596	461	423	417	442	461	497	569	5,934
30 歳～ 39 歳	826	858	830	929	884	856	769	836	833	823	781	876	10,101
40 歳～ 49 歳	1,126	1,105	1,243	1,225	1,196	1,157	1,124	1,195	1,147	1,105	1,149	1,322	14,094
50 歳～ 59 歳	1,870	1,860	2,088	1,950	1,882	1,917	1,933	1,838	1,951	1,862	1,842	2,055	23,048
60 歳～ 69 歳	2,046	2,024	2,219	2,050	2,096	2,148	2,149	2,036	2,096	2,017	1,986	2,214	25,081
70 歳～ 79 歳	3,248	3,123	3,296	3,163	3,162	3,316	3,225	3,162	3,128	3,057	2,975	3,273	38,128
80 歳～ 89 歳	2,164	2,150	2,256	2,098	2,054	2,196	2,192	2,142	2,169	1,767	1,731	2,010	24,929
90 歳～ 99 歳	334	323	341	339	322	327	347	329	324	251	236	267	3,740
100 歳以上	4	3	4	3	4	5	6	4	6	6	6	2	53
合計	12,929	12,771	13,584	13,444	13,290	13,291	12,999	12,776	13,010	12,161	11,959	13,657	155,871

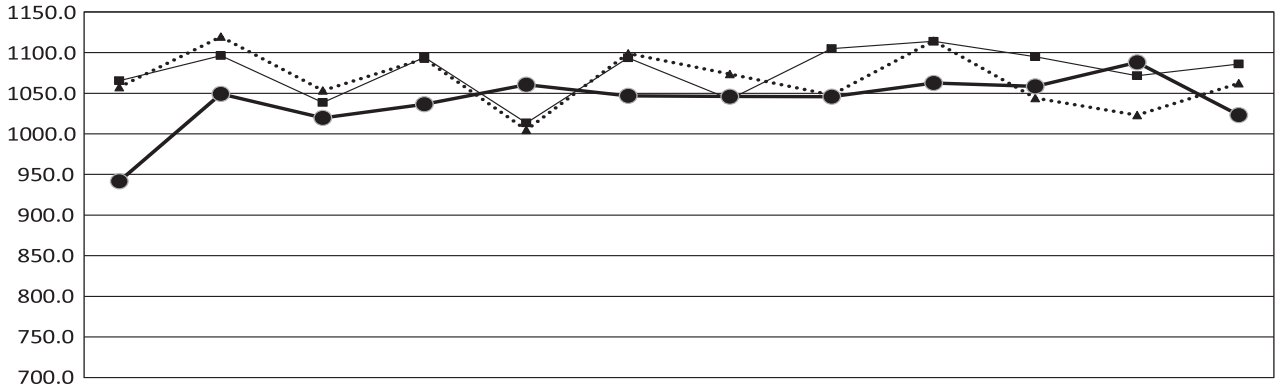
【2021 年度】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳～ 9 歳	498	474	571	512	509	440	462	481	499	412	390	498	5,746
10 歳～ 19 歳	413	262	318	403	555	341	359	352	434	376	309	525	4,647
20 歳～ 29 歳	483	410	463	504	522	479	447	439	465	494	499	583	5,788
30 歳～ 39 歳	821	777	859	824	849	888	859	821	838	850	799	885	10,070
40 歳～ 49 歳	1,307	1,206	1,323	1,302	1,254	1,284	1,284	1,259	1,248	1,215	1,178	1,295	15,155
50 歳～ 59 歳	1,891	1,742	1,982	1,876	1,860	1,955	1,935	1,887	1,999	1,896	1,798	2,031	22,852
60 歳～ 69 歳	2,174	2,002	2,218	2,155	2,094	2,208	2,236	2,263	2,184	2,124	2,028	2,280	25,966
70 歳～ 79 歳	3,330	3,141	3,425	3,337	3,219	3,332	3,423	3,400	3,379	3,153	3,036	3,481	39,656
80 歳～ 89 歳	1,901	1,728	1,900	1,894	1,737	1,913	1,978	1,972	1,967	1,829	1,784	2,085	22,688
90 歳～ 99 歳	238	203	271	248	231	259	247	226	252	348	249	285	3,057
100 歳以上	4	0	0	2	0	1	1	0	3	2	2	3	18
合計	13,060	11,945	13,330	13,057	12,830	13,100	13,231	13,100	13,268	12,699	12,072	13,951	155,643

【2020 年度】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳～ 9 歳	675	169	626	689	632	614	632	618	631	594	471	524	6,875
10 歳～ 19 歳	378	357	355	457	567	323	366	345	445	376	325	431	4,725
20 歳～ 29 歳	517	488	477	558	507	467	468	488	457	411	458	500	5,796
30 歳～ 39 歳	925	899	885	893	864	866	923	808	851	820	780	815	10,329
40 歳～ 49 歳	1,368	1,295	1,358	1,356	1,304	1,247	1,304	1,224	1,262	1,203	1,155	1,218	15,294
50 歳～ 59 歳	1,786	1,729	1,772	1,797	1,734	1,663	1,839	1,730	1,785	1,668	1,612	1,744	20,859
60 歳～ 69 歳	2,485	2,308	2,330	2,361	2,160	2,203	2,335	2,186	2,211	2,159	2,102	2,112	26,952
70 歳～ 79 歳	3,544	3,337	3,445	3,487	3,178	3,312	3,424	3,252	3,314	3,173	3,136	3,162	39,764
80 歳～ 89 歳	1,865	1,741	1,730	1,805	1,622	1,700	1,729	1,707	1,679	1,746	1,587	1,592	20,503
90 歳～ 99 歳	182	182	164	181	156	177	184	184	166	192	169	184	2,121
100 歳以上	9	4	5	3	4	2	6	4	0	2	0	3	42
合計	13,734	12,509	13,147	13,587	12,728	12,574	13,210	12,546	12,801	12,344	11,795	12,285	153,260

■１日平均外来患者数の推移

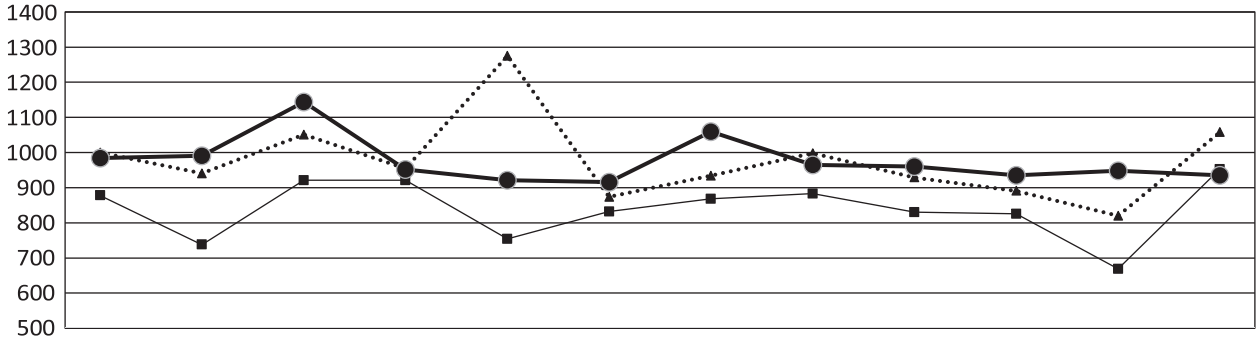


	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
2021 年度	1065.3	1096.1	1038.4	1094.2	1013.4	1093.5	1042.5	1104.9	1113.9	1094.8	1071.6	1085.8
2022 年度	1057.5	1119.5	1053.4	1092.5	1004.8	1099.0	1073.5	1047.6	1114.3	1044.0	1022.9	1062.3
2023 年度	941.5	1049.1	1019.7	1036.4	1060.7	1046.9	1045.9	1045.6	1062.6	1058.5	1087.9	1023.1

【2023 年度】

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
外来日数	22.0	20.0	22.0	20.0	20.0	20.0	21.0	20.0	20.0	19.0	19.0	20.0	244.0
整形	129.0	140.9	135.9	146.1	141.8	143.7	144.2	142.2	136.1	144.1	133.6	134.2	139.3
形成	10.2	13.4	12.0	14.9	14.1	16.2	14.3	13.2	15.8	12.7	15.3	12.5	13.7
リハ	23.9	32.7	32.5	31.7	31.5	29.3	29.8	33.6	33.4	35.3	37.9	34.4	32.2
外科	41.8	43.6	44.8	44.7	44.3	42.5	44.1	43.7	42.6	42.5	44.8	38.1	43.1
乳腺	38.0	44.0	40.9	38.2	39.5	41.2	44.2	38.6	42.6	40.3	43.7	38.9	40.8
心臓	7.9	8.4	7.7	7.3	8.8	10.4	9.6	8.9	9.2	8.2	8.4	9.5	8.7
脳外	17.0	21.1	17.9	18.1	16.6	18.0	19.0	17.9	19.0	16.5	16.5	19.3	18.1
内科	135.1	147.0	146.0	152.0	162.6	157.2	150.2	150.5	161.4	161.6	166.5	154.1	153.7
消内	105.5	116.2	118.9	115.7	113.1	117.3	115.4	115.3	118.0	108.5	120.7	105.3	114.1
循環	80.8	84.5	83.4	82.2	78.8	84.3	82.1	84.8	85.2	84.1	90.5	71.7	82.7
皮膚	38.0	41.6	37.7	38.4	39.6	37.2	37.9	38.6	35.7	37.8	37.6	34.9	37.9
泌尿	32.7	38.1	37.9	38.5	39.9	37.9	37.0	38.2	40.3	40.6	43.4	34.5	38.2
産婦	69.9	78.5	77.6	77.3	82.4	81.3	81.9	81.5	80.9	78.4	80.4	88.9	79.9
眼科	78.5	79.9	74.5	77.3	77.4	78.2	78.2	79.2	79.6	81.2	82.9	78.4	78.8
耳鼻	21.6	25.1	23.2	22.7	26.3	24.2	25.5	25.0	25.7	25.0	26.6	26.3	24.8
小児	29.9	36.5	36.9	40.3	42.5	33.3	36.3	38.1	40.8	37.3	36.2	39.7	37.3
神経	25.4	30.1	26.8	29.3	33.0	31.0	31.0	30.7	31.7	30.5	32.7	29.5	30.1
脳内	17.6	22.3	20.1	20.5	22.1	21.6	20.9	19.9	21.8	23.1	21.3	21.4	21.0
放診	4.8	6.1	6.0	5.1	4.7	5.9	6.4	5.4	5.0	5.8	5.6	5.9	5.5
放治	9.2	10.0	12.9	13.0	11.8	9.5	10.5	10.8	9.8	12.2	13.1	10.6	11.1
麻酔												8.1	8.1
歯科	24.8	29.7	26.3	23.6	30.3	27.2	27.3	30.1	28.4	33.0	30.2	27.4	28.2
合計	941.5	1049.1	1019.7	1036.4	1060.7	1046.9	1045.9	1045.6	1062.6	1058.5	1087.9	1023.1	1039.8

■紹介患者数の推移

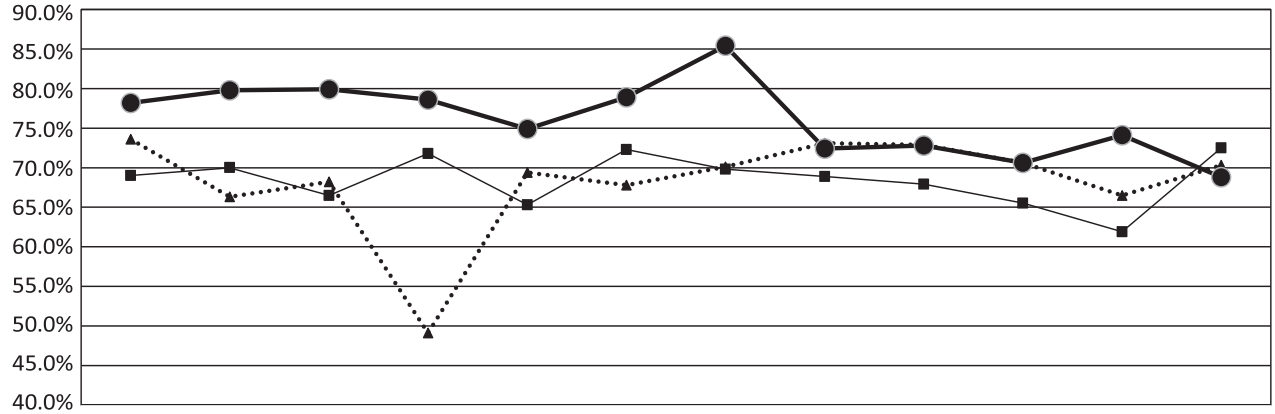


	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
2021 年度	878	738	921	921	754	832	868	883	830	826	669	953
2022 年度	1000	941	1051	955	1275	874	934	998	929	891	820	1058
2023 年度	984	991	1144	952	921	916	1059	965	960	935	948	935

■地域医療支援病院　紹介率と逆紹介率の推移

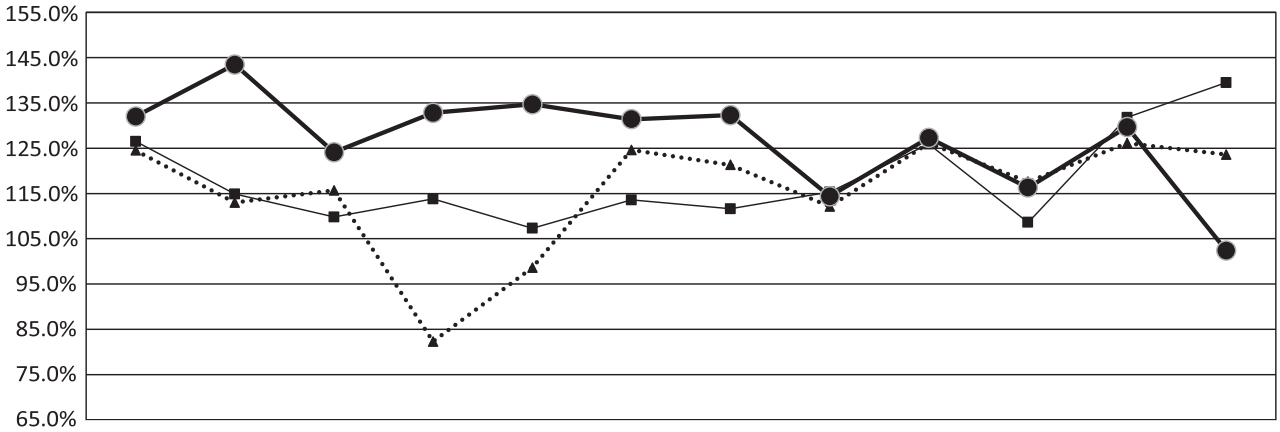
	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021年度	紹介率	69.0%	70.0%	66.5%	71.8%	65.3%	72.3%	69.8%	68.9%	67.9%	65.5%	61.9%	72.5%	68.5%
	逆紹介率	126.5%	114.9%	109.8%	113.8%	107.3%	113.6%	111.6%	115.3%	125.9%	108.6%	131.8%	139.5%	118.2%
2022年度	紹介率	73.6%	66.3%	68.2%	49.1%	69.4%	67.8%	70.1%	73.1%	72.9%	70.6%	66.5%	70.3%	68.2%
	逆紹介率	124.5%	113.0%	115.7%	82.3%	98.6%	124.6%	121.3%	112.1%	126.1%	117.6%	126.1%	123.6%	115.5%
2023年度	紹介率	78.2%	79.8%	79.9%	78.6%	74.9%	78.9%	85.4%	72.4%	72.8%	70.6%	74.1%	68.8%	76.1%
	逆紹介率	132.0%	143.5%	124.1%	132.8%	134.7%	131.4%	132.3%	114.4%	127.3%	116.3%	129.7%	102.4%	126.4%

地域医療支援病院　紹介率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	69.0%	70.0%	66.5%	71.8%	65.3%	72.3%	69.8%	68.9%	67.9%	65.5%	61.9%	72.5%
2022年度	73.6%	66.3%	68.2%	49.1%	69.4%	67.8%	70.1%	73.1%	72.9%	70.6%	66.5%	70.3%
2023年度	78.2%	79.8%	79.9%	78.6%	74.9%	78.9%	85.4%	72.4%	72.8%	70.6%	74.1%	68.8%

地域医療支援病院　逆紹介率の推移

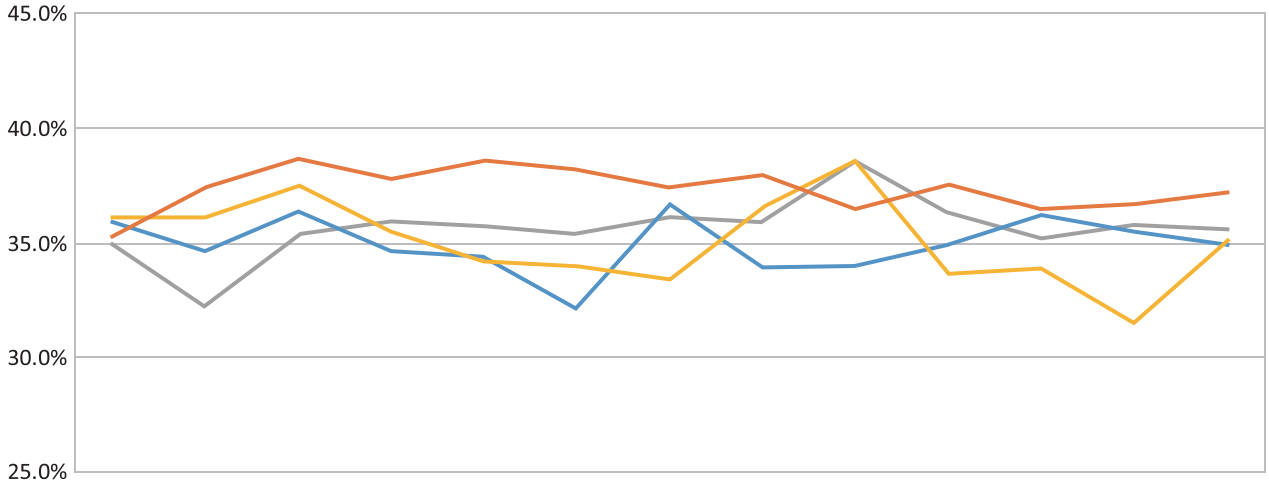


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	126.5%	114.9%	109.8%	113.8%	107.3%	113.6%	111.6%	115.3%	125.9%	108.6%	131.8%	139.5%
2022年度	124.5%	113.0%	115.7%	82.3%	98.6%	124.6%	121.3%	112.1%	126.1%	117.6%	126.1%	123.6%
2023年度	132.0%	143.5%	124.1%	132.8%	134.7%	131.4%	132.3%	114.4%	127.3%	116.3%	129.7%	102.4%

紹介率（地域医療支援病院）（65% 以上）＝ 紹介患者数 ／ 初診患者 －（救急搬送患者（初診）＋ 休日夜間救急外来患者（初診））

逆紹介率（40% 以上）＝ 逆紹介患者数 ／ 初診患者 －（救急搬送患者（初診）＋ 休日夜間救急外来患者（初診））

■重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者割合の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2020年度	35.9%	34.6%	36.4%	34.6%	34.4%	32.1%	36.7%	33.9%	34.0%	34.8%	36.2%	35.5%	34.9%
2021年度	35.3%	37.4%	38.7%	37.8%	38.6%	38.2%	37.4%	38.0%	36.5%	37.6%	36.5%	36.7%	37.2%
2022年度	34.9%	32.2%	35.3%	35.9%	35.7%	35.3%	36.1%	35.9%	38.6%	36.3%	35.2%	35.8%	35.6%
2023年度	36.1%	36.1%	37.5%	35.5%	34.2%	34.0%	33.4%	36.6%	38.6%	33.7%	33.9%	31.5%	35.1%

2020年4月より、評価項目の変更あり、重症度、医療・看護必要度Ⅱ(29%以上必要)で表記

【2023年度】

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8 南	41.5%	39.2%	45.5%	41.0%	39.5%	40.3%	40.6%	44.7%	44.3%	40.6%	30.9%	32.8%	39.8%
9 東	19.2%	20.6%	21.1%	19.4%	15.2%	16.7%	24.0%	24.8%	16.4%	18.7%	27.5%	20.3%	20.2%
9 西	35.1%	33.0%	41.4%	36.7%	33.2%	29.5%	31.6%	31.6%	38.2%	33.0%	33.9%	28.5%	33.6%
10 東	38.1%	39.9%	41.7%	40.8%	34.9%	34.5%	31.7%	39.9%	45.6%	32.1%	38.7%	34.0%	37.6%
10 西	42.2%	37.8%	38.9%	35.4%	34.9%	30.9%	37.4%	33.1%	37.4%	35.4%	35.7%	34.8%	36.2%
11 東	26.3%	22.2%	25.2%	21.6%	16.6%	18.9%	17.1%	27.8%	23.1%	21.9%	19.8%	15.2%	21.2%
11 西	30.3%	33.1%	31.6%	26.5%	36.0%	31.6%	31.5%	33.0%	33.2%	32.6%	30.8%	22.6%	31.3%
12 東	46.1%	47.0%	50.3%	47.0%	48.7%	53.1%	44.0%	50.0%	55.2%	47.3%	43.8%	45.7%	48.2%
12 西	51.9%	50.0%	49.1%	53.1%	52.5%	53.7%	48.0%	49.1%	51.6%	45.9%	49.4%	53.7%	50.7%
13 西	24.9%	34.3%	27.1%	26.6%	26.2%	28.6%	20.9%	27.2%	34.8%	32.4%	22.8%	21.0%	27.1%
計	36.1%	36.1%	37.5%	35.5%	34.2%	34.0%	33.4%	36.6%	38.6%	33.7%	33.9%	31.5%	35.1%

【2022 年度】

病棟	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
8 南	32.1%	37.8%	42.1%	45.6%	30.6%	40.9%	44.7%	33.5%	45.4%	38.0%	45.1%	47.5%	40.4%
9 東	17.2%	14.5%	16.0%	15.4%	18.8%	19.2%	15.8%	18.9%	30.0%	19.8%	20.5%	18.0%	18.4%
9 西	34.9%	34.0%	33.7%	31.5%	35.0%	37.2%	37.2%	35.4%	40.1%	39.3%	35.4%	34.0%	35.7%
10 東	36.4%	29.5%	35.8%	39.6%	36.8%	36.8%	41.6%	37.3%	39.4%	37.6%	39.0%	32.7%	36.9%
10 西	39.1%	43.6%	39.7%	36.9%	33.6%	34.3%	33.3%	34.9%	39.4%	37.3%	31.6%	36.6%	36.7%
11 東	17.3%	18.6%	15.4%	17.6%	19.5%	21.0%	17.7%	30.3%	22.2%	24.8%	21.5%	21.4%	20.5%
11 西	37.1%	23.2%	26.9%	35.3%	33.9%	29.3%	27.6%	36.2%	32.5%	32.0%	31.7%	31.7%	31.5%
12 東	52.8%	52.7%	55.4%	50.7%	47.6%	54.3%	54.1%	48.7%	53.2%	48.3%	45.0%	50.2%	51.0%
12 西	54.6%	48.0%	55.3%	50.6%	48.1%	49.7%	54.7%	49.8%	52.6%	45.0%	48.4%	50.3%	50.5%
13 東	48.4%	41.0%	36.7%	47.4%	53.4%	33.0%	63.3%	45.5%	38.7%	50.7%	61.8%	69.6%	47.5%
13 西	25.3%	16.6%	21.3%	19.8%	13.6%	34.7%	26.0%	21.6%	27.8%	2.5%	26.4%	29.6%	26.9%
計	34.9%	32.2%	35.3%	35.9%	35.7%	35.3%	36.1%	35.9%	38.6%	36.3%	35.2%	35.8%	35.6%

【2021 年度】

病棟	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
8 南	33.0%	39.9%	42.9%	38.9%	41.4%	44.6%	41.0%	44.3%	40.4%	41.4%	33.8%	31.4%	38.3%
9 東	21.8%	20.0%	30.3%	21.8%	21.0%	20.8%	27.1%	25.8%	26.9%	28.1%	22.7%	16.5%	23.3%
9 西	46.8%	42.8%	41.9%	48.0%	43.5%	47.4%	40.4%	41.9%	42.0%	37.4%	39.4%	47.2%	44.9%
10 東	35.1%	43.0%	35.9%	37.5%	38.1%	33.3%	33.0%	31.3%	36.1%	33.6%	32.6%	30.7%	37.8%
10 西	38.8%	34.9%	38.0%	37.2%	38.6%	37.2%	39.9%	34.3%	37.4%	35.9%	37.1%	38.9%	37.2%
11 東	27.0%	32.2%	37.3%	34.0%	36.7%	29.5%	28.2%	34.5%	25.4%	44.4%	33.9%	28.9%	32.3%
11 西	41.8%	40.8%	38.6%	41.7%	42.1%	43.4%	39.8%	41.9%	45.3%	44.2%	37.6%	46.4%	40.8%
12 東	31.4%	37.6%	42.7%	42.0%	40.6%	39.3%	41.8%	48.7%	40.0%	41.5%	41.3%	38.8%	38.2%
12 西	40.7%	35.0%	41.1%	40.8%	42.0%	44.4%	43.0%	43.0%	43.4%	37.4%	42.2%	46.5%	39.5%
13 東	69.5%	87.6%	73.1%	65.9%	76.5%	80.7%	80.0%	42.7%	100.0%	53.9%	70.6%	67.1%	75.3%
13 西	25.2%	27.7%	31.4%	23.6%	26.8%	31.8%	36.2%	33.5%	27.3%	30.2%	23.2%	27.9%	26.9%
計	35.3%	37.4%	38.7%	37.8%	38.6%	38.2%	37.4%	38.0%	36.5%	37.6%	36.5%	36.7%	37.2%

【2020 年度】

病棟	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
8 南	38.4%	36.2%	34.8%	29.3%	33.3%	28.0%	34.8%	35.1%	33.0%	31.2%	31.0%	30.5%	32.9%
9 東	28.4%	25.8%	22.4%	19.6%	18.8%	24.9%	25.2%	25.9%	20.7%	21.1%	25.0%	18.0%	22.8%
9 西	43.0%	38.7%	44.2%	50.2%	44.0%	43.5%	47.6%	41.8%	39.3%	36.3%	41.2%	41.0%	42.4%
10 東	28.9%	26.0%	37.1%	32.7%	32.0%	24.1%	35.7%	27.3%	33.4%	31.7%	35.0%	32.4%	31.4%
10 西	40.1%	39.6%	44.8%	44.2%	42.5%	34.5%	36.2%	32.3%	30.6%	36.3%	40.5%	39.5%	38.4%
11 東	26.5%	28.1%	29.0%	23.0%	20.9%	23.9%	29.6%	20.9%	19.9%	21.8%	29.4%	29.9%	25.3%
11 西	34.6%	34.7%	40.7%	40.9%	38.3%	36.3%	38.8%	36.0%	39.2%	42.7%	38.6%	37.4%	38.2%
12 東	46.2%	37.2%	37.8%	38.4%	39.2%	33.8%	47.0%	37.2%	39.5%	45.2%	42.7%	44.8%	40.8%
12 西	40.6%	40.0%	36.2%	34.9%	40.0%	39.9%	40.0%	44.9%	46.1%	41.7%	39.3%	38.3%	40.1%
13 東	17.7%	29.1%	33.6%	32.3%	48.2%	50.8%	51.0%	59.4%	59.9%	65.5%	78.6%	68.8%	44.6%
13 西	31.7%	77.3%		33.7%	27.2%	25.6%	25.7%	29.1%	27.6%	27.0%	26.8%	35.5%	28.9%
計	35.9%	34.6%	36.4%	34.6%	34.4%	32.1%	36.7%	33.9%	34.0%	34.8%	36.2%	35.5%	34.9%

病 歴 統 計

■退院患者数及び平均在院日数

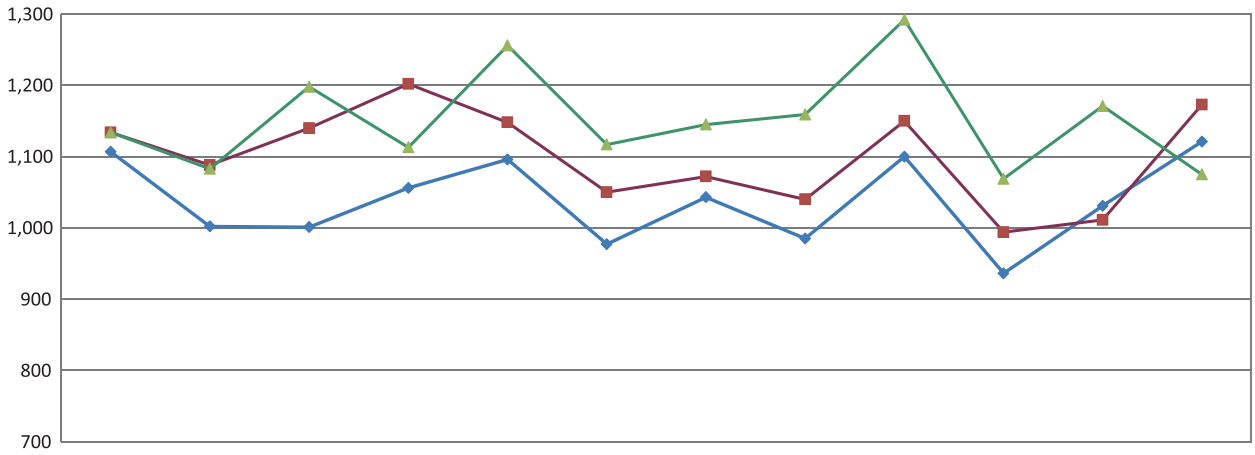
【2023 年度】

大 分 類 表		退院患者数（人）			延在院日数（日）			退院患者平均在院日数（日）		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 感染症及び寄生虫症	A00-B99	171	191	362	1,535	1,647	3,182	8.98	8.62	8.79
2 新生物	C00-D48	1,113	1,318	2,431	12,889	12,118	25,007	11.58	9.19	10.29
3 血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-89	27	59	86	290	476	766	10.74	8.07	8.91
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-90	232	214	446	2,491	2,074	4,565	10.74	9.69	10.24
5 精神および行動の障害	F00-90	8	12	20	31	40	71	3.88	3.33	3.55
6 神経系の疾患	G00-99	163	147	310	1,600	1,229	2,829	9.82	8.36	9.13
7 眼および付属器の疾患	H00-59	377	442	819	1,370	1,427	2,797	3.63	3.23	3.42
8 耳および乳様突起の疾患	H60-95	29	48	77	111	216	327	3.83	4.50	4.25
9 循環器系の疾患	I00-99	881	649	1,530	10,902	8,681	19,583	12.37	13.38	12.80
10 呼吸器系の疾患	J00-99	679	478	1,157	7,944	5,541	13,485	11.70	11.59	11.66
11 消化器系の疾患	K00-93	1,085	910	1,995	6,713	5,900	12,613	6.19	6.48	6.32
12 皮膚および皮下組織の疾患	L00-99	80	57	137	1,044	793	1,837	13.05	13.91	13.41
13 筋骨格系および結合組織の疾患	M00-99	701	895	1,596	9,628	14,601	24,229	13.73	16.31	15.18
14 尿路性器系の疾患	N00-99	247	345	592	3,066	2,908	5,974	12.41	8.43	10.09
15 妊娠 , 分娩および産じょく＜褥＞	O00-99		628	628		4,407	4,407	0.00	7.02	7.02
16 周産期に発生した病態	P00-96	140	105	245	1,105	796	1,901	7.89	7.58	7.76
17 先天奇形 , 変形および染色体異常	Q00-99	22	26	48	150	219	369	6.82	8.42	7.69
18 症状 , 徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-99	77	51	128	669	381	1,050	8.69	7.47	8.20
19 損傷 , 中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	536	490	1,026	6,524	6,818	13,342	12.17	13.91	13.00
20 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	Z00-99	3	3	6	21	22	43	7.00	7.33	7.17
21 特殊目的コード	U00-U89	84	89	173	1,061	829	1,890	12.63	9.31	10.92
合 計		6,655	7,157	13,812	69,144	71,123	140,267	10.39	9.94	10.16

【2023 年度】

診 療 科	退院患者数（人）			延在院日数（日）			退院患者平均在院日数（日）		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
整形外科	994	1,237	2,231	13,770	19,813	33,583	13.85	16.02	15.05
形成外科	82	59	141	758	416	1,174	9.24	7.05	8.33
外科	627	421	1,048	7,231	4,587	11,818	11.53	10.90	11.28
乳腺内分泌外科	3	282	285	19	2,183	2,202	6.33	7.74	7.73
心臓血管外科	87	45	132	1,482	597	2,079	17.03	13.27	15.75
脳神経外科	191	197	388	3,364	2,925	6,289	17.61	14.85	16.21
内科	858	711	1,569	13,332	10,043	23,375	15.54	14.13	14.90
消化器内科	1,297	1,072	2,369	9,564	7,733	17,297	7.37	7.21	7.30
循環器内科	644	484	1,128	6,252	5,540	11,792	9.71	11.45	10.45
皮膚科	97	88	185	1,138	916	2,054	11.73	10.41	11.10
泌尿器科	283	98	381	2,772	1,011	3,783	9.80	10.32	9.93
産婦人科		1,107	1,107		7,207	7,207		6.51	6.51
眼科	394	484	878	1,501	1,740	3,241	3.81	3.60	3.69
耳鼻いんこう科	271	196	467	1,402	991	2,393	5.17	5.06	5.12
小児科	583	478	1,061	3,157	2,706	5,863	5.42	5.66	5.53
脳神経内科	204	151	355	3,206	2,490	5,696	15.72	16.49	16.05
歯科・歯科口腔外科	40	47	87	196	225	421	4.90	4.79	4.84
合 計	6,655	7,157	13,812	69,144	71,123	140,267	10.39	9.94	10.16

■退院患者数の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◆ 2021年度	1,107	1,002	1,001	1,056	1,096	977	1,043	985	1,100	936	1,031	1,121
■ 2022年度	1,134	1,088	1,140	1,202	1,148	1,050	1,072	1,040	1,150	994	1,011	1,173
▲ 2023年度	1,134	1,083	1,198	1,113	1,256	1,117	1,145	1,159	1,292	1,069	1,171	1,075

■診療科別　退院患者数・手術件数・合併症数【2023年度】

診療科	退院患者数	手術件数（＊）	ESD件数	カテ治療件数	合併症		合併症内訳					
					合併症総数	発生率	感染	出血	縫合不全	穿刺・裂傷	機械的合併症	その他
整形外科	2,231	2,178			43	2.0%	12	5	10	8	6	2
形成外科	141	153			3	2.0%	2		1			
外科	1,048	649		3	16	2.5%	7		5	2		2
乳腺内分泌外科	285	124			3	2.4%		1	1	1		
心臓血管外科	132	151		6	5	3.2%		2	1	2		
脳神経外科	388	74		40	1	0.9%	1					
内科	1,569	1（1※2）		1	0	0.0%						
消化器内科	2,369	21（21※1）	217	1	7	2.9%		5		2		
循環器内科	1,128	30（1※2）		396	3	0.7%	1			1		1
皮膚科	185	14			0	0.0%						
泌尿器科	381	193		1	6	3.1%	1	2		2		1
産婦人科	1,107	385		2	6	1.6%	2		1	3		
眼科	878	782			0	0.0%						
耳鼻いんこう科	467	382			9	2.4%		7	1			1
小児科	1,061											
脳神経内科	355			14	0	0.0%						
歯科・口腔外科	87	51			0	0.0%						
合計	13,812	5188（23）	217	464	102	1.7%	26	22	20	21	6	7

＊手術件数は手術室で行った手術の件数　　手術室で行ったESD（※1）、カテ治療（※2）は（　）をもって再掲とする

■悪性新生物部位別　術後合併症件数【2023年度】

	感染	出血	縫合不全	穿刺・裂傷	その他	計
食道				1		1
胃・十二指腸	2		3	1	1	7
大腸（含直腸）			1			1
肺					1	1
乳房		1	1	1		3
尿管・膀胱・副腎	1	1		1		3

＊ESDは含まない

Ⅰ．死亡原因別死亡数【2023 年度】

	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・口腔外科	合計
診療科別死亡数	2		26	10	4	21	80	46	37		7	2		1		6		242
麻酔による死亡数（再掲）																		0
術後１ヶ月以内の死亡数（再掲）	1		4		2	8	3		7		1					1		27
産婦出生による死亡数（再掲）																		0
生後２８日以内の新生児死亡数（再掲）																		0
入院４８時間以内死亡数（再掲）	1		2	3	1	4	11	8	7		1	1		1		3		43

Ⅱ．手術件数・麻酔件数【2023 年度】

	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・口腔外科	合計
手術件数	2,178	153	649	124	151	74	1	21	30	14	193	385	782	382			51	5,188
麻酔件数	2,178	142	646	124	149	74	1	18	30	14	186	384	782	381			51	5,160
全身麻酔件数（再掲）	2,031	59	629	120	113	45		18	30		174	168	15	361			46	3,809

Ⅲ．分娩件数・新生児数【2023 年度】

分娩件数	454	(93)
新生児数	456	(1)

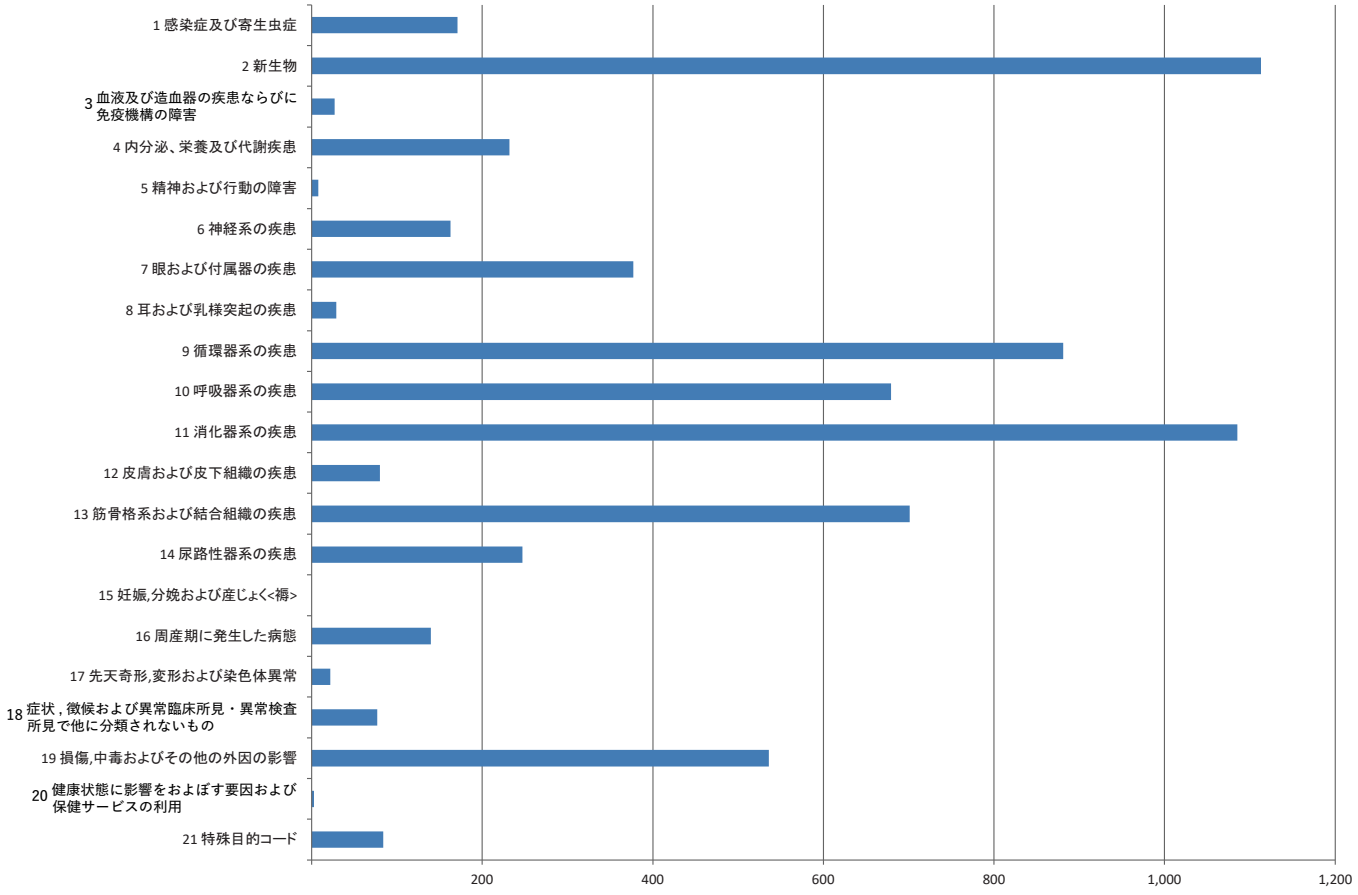
注）分娩件数で帝王切開の数、および新生児数欄で院外出生の数は（　　）をもって再掲とする。

Ⅳ．退院患者診療科別転帰統計【2023 年度】

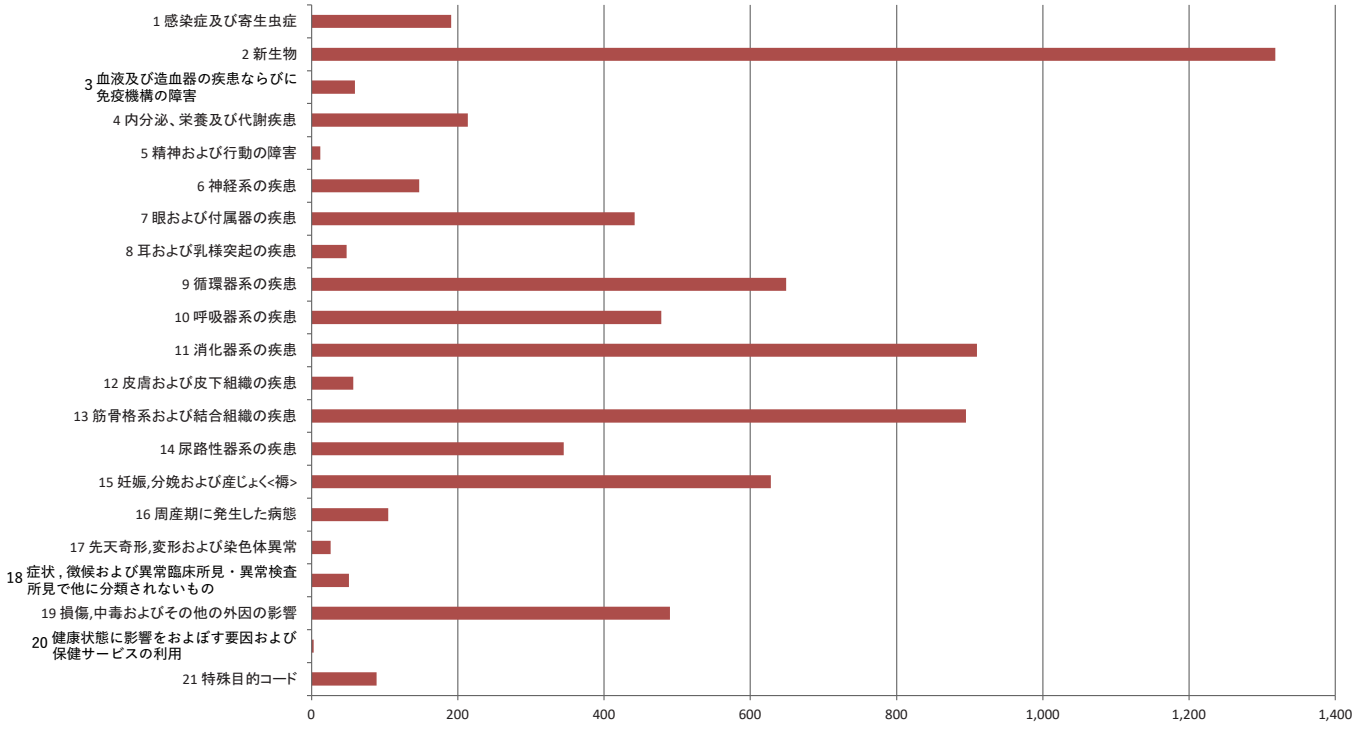
	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・口腔外科	合計
治　癒	3						1										2	6
軽　快	1,962	136	970	232	106	195	1,202	2,002	907	167	310	599	875	462	880	250	84	11,339
不　変	7		29	35	3	2	27	16	10	1	5	14	2	1	9	1		162
増　悪							1	1										2
死　亡	2		26	10	4	21	80	46	37		7	2		1		6		242
（剖検）	(1)		(1)				(3)	(2)	(2)		(1)							(10)
転　院	255	5	13	3	8	139	112	61	73	8	10	14	1	2	9	89	1	803
検　了	2		9	5	11	31	145	243	99	9	49	22		1	163	8		797
自己退院			1				1		2			2				1		7
分　娩												454						454
合　計	2,231	141	1,048	285	132	388	1,569	2,369	1,128	185	381	1,107	878	467	1,061	355	87	13,812

注）死亡欄で剖検数は（　　）をもって再掲とする。

■疾病（大分類）別・性別・退院患者数（男）【2023 年度】



■疾病（大分類）別・性別・退院患者数（女）【2023 年度】



■疾病別・年齢階層別・退院患者数（男）【2023 年度】

2023 年度　退院患者数（男）		0歳	1歳～9歳	10歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳～	合計	在院日数
Ⅰ	感染症及び寄生虫症											171	1,535
A00-A09	腸管感染症	2	16	3	6		1	2	2	4	9	45	285
A15-A19	結核									3	1	4	54
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患	1	5	5	1			2	5	8	10	37	521
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症					1				1	1	3	33
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症			1					3			4	38
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	1	5	1		2	1	2	1	12	6	31	215
B15-B19	ウイルス性肝炎				2	2	1	3	2	1	1	12	61
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病												
B25-B34	その他のウイルス疾患	13	10	2	1			1				27	169
B35-B49	真菌症							1			5	6	150
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜん＜蠕＞虫症					1		1				2	9
B85-B89	シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌，ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
Ⅱ-1	新生物（腫瘍）悪性											1,055	12,557
C00-C14	口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞						1			1	1	3	19
C15	食道の悪性新生物					1		10	21	39	10	81	1,332
C16	胃の悪性新生物					2	1	18	17	56	32	126	1,337
C17	小腸の悪性新生物					2		3	1	3	3	12	181
C18	結腸の悪性新生物						7	15	33	50	28	133	1,313
C19-C20	直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					2	10	16	33	30	11	102	979
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物												
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物					1	2	16	20	39	15	93	1,093
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								2	14	6	22	392
C25	膵の悪性新生物						2	11	21	17	3	54	680
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞						2	11	50	91	29	183	2,507
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞												
C43-C44	皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞								2	2	1	5	36
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞										1	1	15
C50	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞								1	1		2	13
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞												
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞					4	1	7	17	34	18	81	719
C64-C68	腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞						1	8	16	29	17	71	656
C69-C72	眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞							2		1		3	59
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞												
C76-C80	部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞					1	3	5	9	34	11	63	1,047
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞		1				1		1	11	3	17	154
C97	独立した (原発性) 多部位の悪性新生物＜腫瘍＞												
D00-D09	上皮内新生物＜腫瘍＞										3	3	25
Ⅱ-2	新生物（腫瘍）良性											58	332
D10-D36	良性新生物＜腫瘍＞			2		1	5	6	14	7	3	38	250
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞		3		1	1	3	7	2	2	1	20	82
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											27	290
D50-D53	栄養性貧血								1	2	1	4	35
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血							2	3	2	1	8	82
D65-D69	凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態	1	4			1			1	1		8	98
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患							1			1	2	36
D80-D89	免疫機構の障害							3		2		5	39
Ⅳ	内分泌、栄養及び代謝疾患											232	2,491
E00-E07	甲状腺障害	1										1	8
E10-E14	糖尿病					1	11	16	26	39	16	109	1,444
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害	1		1				2	2	4		10	88
E20-E35	その他の内分泌腺障害		23	13	1	1	1	1		2	1	43	310
E40-E46	栄養失調 (症)	1										1	11
E50-E64	その他の栄養欠乏症								1			1	22
E65-E68	肥満 (症) 及びその他の過栄養＜過剰摂食＞							1				1	9
E70-E90	代謝障害	1	23	1	1	1	1	7	2	10	19	66	599

2023 年度　退院患者数（男）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
V	**精神及び行動の障害**											**8**	**31**
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害												
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害					3		1		1		5	23
F20-F29	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分［感情］障害							1				1	2
F40-F48	神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害				1			1				2	6
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害＜精神遅滞＞												
F80-F89	心理的発達の障害												
F90-F98	小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI	**神経系の疾患**											**163**	**1,600**
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患				1	4		2		3		10	228
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症					2	1	1	3	2		9	98
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動							1	2	5	6	14	286
G30-G32	神経系のその他の変性疾患												
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患					1						1	11
G40-G47	挿間性及び発作性障害	1	9	3	4	7	5	14	6	10	8	67	426
G50-G59	神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害				1		1	8	10	13	2	35	108
G60-G64	多発 (性) ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害				3			2	1		1	7	188
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患							1	3	1		5	64
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群				1							1	10
G90-G99	神経系のその他の障害	1				1		2		8	2	14	181
VII	**眼及び付属器の疾患**											**377**	**1,370**
H00-H06	眼瞼，涙器及び眼窩の障害							1	12	2	3	18	85
H10-H13	結膜の障害									2		2	4
H15-H22	強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害						1					1	4
H25-H28	水晶体の障害				1	2	5	25	41	97	62	233	431
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害						7	14	7	10		38	359
H40-H42	緑内障			1	1	1	3	19	7	18	14	64	377
H43-H45	硝子体及び眼球の障害						2	6	5	2	1	16	99
H46-H48	視神経及び視 (覚) 路の障害					2						2	8
H49-H52	眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害												
H53-H54	視機能障害及び盲＜失明＞												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害	3										3	3
VIII	**耳及び乳様突起の疾患**											**29**	**111**
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患	1	3							1	1	6	27
H80-H83	内耳疾患						1	3	1	2	7	14	49
H90-H95	耳のその他の障害	4	2						1	1	1	9	35
IX	**循環器系の疾患**											**881**	**10,902**
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患								1	1		2	66
I10-I15	高血圧性疾患							1			3	4	17
I20-I25	虚血性心疾患					3	10	33	47	70	35	198	1,698
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患				1				2	3		6	48
I30-I52	その他の型の心疾患				4	6	14	46	54	94	112	330	3,930
I60-I69	脳血管疾患				1	2	11	29	54	62	65	224	3,861
I70-I79	動脈，細動脈及び毛細血管の疾患					1	3	9	18	39	23	93	1,008
I80-I89	静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの					1	3	4	8	6	1	23	207
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害								1			1	67
X	**呼吸器系の疾患**											**679**	**7,944**
J00-J06	急性上気道感染症	3	12	1	9	4	5	4		1		39	226
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	5	42	3	1	2	4	6	18	59	71	211	2,715
J20-J22	その他の急性下気道感染症	14	25		1					2	1	43	267
J30-J39	上気道のその他の疾患		8	8	24	26	40	34	20	12	5	177	779
J40-J47	慢性下気道疾患	7	20	2		1		7	3	8	8	56	508
J60-J70	外的因子による肺疾患			1	3	1	1		3	8	37	54	1,604
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患			1				1	2	12	15	31	818
J85-J86	下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態		1					1	1	2	2	7	162
J90-J94	胸膜のその他の疾患			3	8	6	1	3	4	13	9	47	642
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患	1	1	1				1	3	4	3	14	223
XI	**消化器系の疾患**											**1,085**	**6,713**
K00-K14	口腔，唾液腺及び顎の疾患		3	3	2	5	2	4	2	5	8	34	132
K20-K31	食道，胃及び十二指腸の疾患			3		1	1	5	4	7	11	32	377
K35-K38	虫垂の疾患		1	4	2	5	5	9	5	2	5	38	311
K40-K46	ヘルニア				1	1		8	17	36	17	80	442
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			4	3	1	1	4	4	3		20	189
K55	腸の血行障害									5	7	12	79

2023 年度　退院患者数（男）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
K56	腸閉塞		6	1		2	5	2	6	6	16	44	460
K57	腸の憩室性疾患				1	3	5	9	17	19	12	66	496
K58-K59	その他の腸の機能障害	1	1				1					3	10
K60-K62	肛門及び直腸の疾患						2		3	2	3	10	44
K63	結腸のその他の疾患					4	29	63	122	167	88	473	1,159
K64	痔核					1		2	2	1	1	7	40
K65-K67	腹膜の疾患							2	2	2	2	8	139
K70-K77	肝疾患						3	8	3	6	6	26	413
K80-K87	胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害				1	4	19	23	41	50	51	189	2,010
K90-K93	消化器系のその他の疾患		1	1				6	9	14	12	43	412
XII	**皮膚及び皮下組織の疾患**											**80**	**1,044**
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		6		2	3	1	9	11	17	5	54	647
L10-L14	水疱症								1	1	1	3	60
L20-L30	皮膚炎及び湿疹		1		1	2					1	5	41
L40-L45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害								1			1	76
L50-L54	じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑						1					1	9
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線 (非電離及び電離) に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害			2			2	2		1		7	34
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害							1	1	2	5	9	177
XIII	**筋骨格系及び結合組織の疾患**											**701**	**9,628**
M00-M03	感染性関節障害						2				2	4	100
M05-M14	炎症性多発性関節障害						1	3			2	6	53
M15-M19	関節症					3	8	25	39	40	15	130	2,735
M20-M25	その他の関節障害		2	19	9	7	13	21	6	5		82	596
M30-M36	全身性結合組織障害	6	21		5	11	4		1	1	1	50	481
M40-M43	変形性脊柱障害							3	6	8	3	20	324
M45-M49	脊椎障害			1		2	5	14	49	80	34	185	3,266
M50-M54	その他の脊柱障害			4	6	10	17	13	15	9	2	76	640
M60-M63	筋障害								1	3		4	49
M65-M68	滑膜及び腱の障害			9	4	6	7	11	18	7		62	246
M70-M79	その他の軟部組織障害						3	10	4	9	5	31	442
M80-M85	骨の密度及び構造の障害			3	2		1		1	3		10	121
M86-M90	その他の骨障害					1	3	5	2	3	3	17	314
M91-M94	軟骨障害			14		1						15	90
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害				2		2	2	1		2	9	171
XIV	**腎尿路生殖器系の疾患**											**247**	**3,066**
N00-N08	糸球体疾患		3	1	2	4	4	1	2	5	4	26	269
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	1		1		2	2	5	16	17	15	59	707
N17-N19	腎不全					2	3	15	13	17	17	67	1,060
N20-N23	尿路結石症					1	1	4	5	5	4	20	110
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害								1			1	5
N30-N39	尿路系のその他の障害	9	2		1		1	1	2	15	22	53	747
N40-N51	男性生殖器の疾患			2	1	1	1	1	4	5	5	20	162
N60-N64	乳房の障害												
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害										1	1	6
XV	**妊娠、分娩及び産じょく〈褥〉**												
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態，他に分類されないもの												
XVI	**周産期に発生した病態**											**140**	**1,105**
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	21										21	166
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	25										25	329
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	44										44	364
P35-P39	周産期に特異的な感染症	2										2	16
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	34										34	147
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	9										9	58
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	5										5	25
P90-P96	周産期に発生したその他の障害												

2023 年度　退院患者数（男）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
XVII	**先天奇形、変形及び染色体異常**											**22**	**150**
Q00-Q07	神経系の先天奇形	1										1	1
Q10-Q18	眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形			1				1				2	8
Q20-Q28	循環器系の先天奇形			1		5	1	5	1	1		14	128
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形												
Q50-Q56	生殖器の先天奇形												
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形						1					1	3
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形	1	1		1							3	8
Q80-Q89	その他の先天奇形		1									1	2
Q90-Q99	染色体異常，他に分類されないもの												
XVIII	**症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの**											**77**	**669**
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候							1		6	5	12	228
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候						3	2	1			6	47
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候		3						1	1		5	38
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候										1	1	8
R40-R46	認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候				1			1		3	3	8	44
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候	3	24	2	1		2	1	1	5	3	42	292
R70-R79	血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの									1		1	8
R80-R82	尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの		2									2	4
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX	**損傷、中毒及びその他の外因の影響**											**536**	**6,524**
S00-S09	頭部損傷		1	4	1	3	2	5	3	10	19	48	641
S10-S19	頚部損傷						1		1	2	3	7	120
S20-S29	胸部＜郭＞損傷						1	1	3	2	5	12	239
S30-S39	腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷					1	1	2	2	10	13	29	572
S40-S49	肩及び上腕の損傷		5	5	2	3	3	22	7	17	2	66	761
S50-S59	肘及び前腕の損傷		4	11	4	4	3	4	4	2	1	37	152
S60-S69	手首及び手の損傷			3	2		3	5	1			14	46
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷			1				1		3	10	15	492
S80-S89	膝及び下腿の損傷		1	38	23	20	14	12	12	4	2	126	1,888
S90-S99	足首及び足の損傷			5	1			1		1		8	58
T00-T07	多部位の損傷						1	1		1		3	28
T08-T14	部位不明の体幹もしくは (四) 肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用		2			1				1	1	5	10
T20-T32	熱傷及び腐食								1	1		2	15
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒												
T51-T65	薬用を主としない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	4	29	5	1	3	1	1	1		5	50	188
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの		1	2	1	2	7	19	16	38	26	112	1,301
T90-T98	損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症							2				2	13
XXI	**健康状態に影響を及ぼす要因及び保健**											**3**	**21**
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者												
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者						2		1			3	21
XXII	**特殊目的コード**											**84**	**1,061**
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	2	1	1		2	1	4	14	24	35	84	1,061
合計		**230**	**335**	**204**	**161**	**228**	**375**	**843**	**1,154**	**1,837**	**1,288**	**6,655**	**69,144**

■疾病別・年齢階層別・退院患者数（女）【2023 年度】

2023 年度　退院患者数（女）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
Ⅰ	感染症及び寄生虫症											191	1,647
A00-A09	腸管感染症	4	16	2	2	7	3	2	2	6	12	56	282
A15-A19	結核									1	2	3	73
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患	2	2		1			1	3	8	18	35	529
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症				2	4						6	16
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症									1		1	13
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症		1	1	1	1	4	5	6	8	12	39	317
B15-B19	ウイルス性肝炎					1		1		2	2	6	52
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病												
B25-B34	その他のウイルス疾患	18	18							2	1	39	268
B35-B49	真菌症		1					1		2	1	5	91
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜん＜蠕＞虫症					1						1	6
B85-B89	シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌，ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
Ⅱ-1	新生物（腫瘍）悪性											1,107	10,667
C00-C14	口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞												
C15	食道の悪性新生物						1		14	15	2	32	542
C16	胃の悪性新生物					2	2	7	11	37	17	76	848
C17	小腸の悪性新生物						2	4	4	1		11	105
C18	結腸の悪性新生物					1	6	23	29	49	28	136	1,085
C19-C20	直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物						6	13	15	12	10	56	582
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物												
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物						1	1	4	13	23	42	543
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								4	4	5	13	182
C25	膵の悪性新生物						1	13	13	41	14	82	1,019
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞					1		3	24	54	17	99	1,303
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞												
C43-C44	皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞								2	1	7	10	60
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞					1	1		4	8	1	15	133
C50	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞					11	53	71	58	38	17	248	1,899
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞					5	22	46	15	36	5	129	970
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞												
C64-C68	腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞							2	4	15	7	28	328
C69-C72	眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞						2					2	76
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞								1	3		4	67
C76-C80	部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞					1	2	7	6	16	7	39	493
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞				1			9	10	21	14	55	340
C97	独立した (原発性) 多部位の悪性新生物＜腫瘍＞												
D00-D09	上皮内新生物＜腫瘍＞				3	13	9	2	2		1	30	92
Ⅱ-2	新生物（腫瘍）良性											211	1,451
D10-D36	良性新生物＜腫瘍＞			2	13	25	47	30	8	14	5	144	981
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞			2	9	13	10	9	5	15	4	67	470
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											59	476
D50-D53	栄養性貧血			1			5			3	10	19	127
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血								1	3	6	10	59
D65-D69	凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態		8						2	1	1	12	103
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患						1	1	1	2	1	6	63
D80-D89	免疫機構の障害						2		4	6		12	124
Ⅳ	内分泌、栄養及び代謝疾患											214	2,074
E00-E07	甲状腺障害				1	2			1	1		5	28
E10-E14	糖尿病					1	5	15	12	20	21	74	863
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害		1		1		1				6	9	102
E20-E35	その他の内分泌腺障害		29	7		4	2	7	2	2		53	181
E40-E46	栄養失調 (症)								1		1	2	17
E50-E64	その他の栄養欠乏症												
E65-E68	肥満 (症) 及びその他の過栄養＜過剰摂食＞					2		4				6	68
E70-E90	代謝障害	1	6	3	1	4	1		3	7	39	65	815

2023 年度　退院患者数（女）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
V	**精神及び行動の障害**											**12**	**40**
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害							1		1	1	3	23
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害												
F20-F29	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分［感情］障害					1						1	2
F40-F48	神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害			2	1				1	2		6	12
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害＜精神遅滞＞												
F80-F89	心理的発達の障害		2									2	3
F90-F98	小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI	**神経系の疾患**											**147**	**1,229**
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患			1	1	1	1		1	4	1	10	207
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症									2	1	3	40
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動						1		4	4	2	11	195
G30-G32	神経系のその他の変性疾患								2			2	40
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患				1	1		3				5	36
G40-G47	挿間性及び発作性障害	4	5	1	4	1	5	4	4	5	15	48	313
G50-G59	神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害				2		4	7	9	7	15	44	152
G60-G64	多発 (性) ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害				1					1		2	13
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患					1	2			3	3	9	102
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群												
G90-G99	神経系のその他の障害	1	1			1	1	2	2	3	2	13	131
VII	**眼及び付属器の疾患**											**442**	**1,427**
H00-H06	眼瞼，涙器及び眼窩の障害			1					1	12	4	18	78
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害								1			1	14
H25-H28	水晶体の障害				2	1	8	20	66	113	94	304	587
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害				1	1	7	10	7	9	1	36	299
H40-H42	緑内障			1	3	1	4	4	9	16	17	55	301
H43-H45	硝子体及び眼球の障害					1		2	3	13	4	23	128
H46-H48	視神経及び視 (覚) 路の障害					2		1	1			4	15
H49-H52	眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害				1							1	5
H53-H54	視機能障害及び盲＜失明＞												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII	**耳及び乳様突起の疾患**											**48**	**216**
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		2	1						1	1	5	20
H80-H83	内耳疾患				2	1	2	7	4	7	11	34	115
H90-H95	耳のその他の障害	2			2		1	3			1	9	81
IX	**循環器系の疾患**											**649**	**8,681**
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患										1	1	15
I10-I15	高血圧性疾患									3	1	4	43
I20-I25	虚血性心疾患					2	4	7	16	15	19	63	448
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患				1			1		2	4	8	119
I30-I52	その他の型の心疾患			1		1	4	6	22	60	210	304	3,808
I60-I69	脳血管疾患					3	13	22	17	43	90	188	3,397
I70-I79	動脈，細動脈及び毛細血管の疾患					1	6	5	8	14	27	61	671
I80-I89	静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの			1		2		2	7	6	2	20	180
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害												
X	**呼吸器系の疾患**											**478**	**5,541**
J00-J06	急性上気道感染症	8	14	2	12	3	3	3				45	245
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	6	32	3	4	3		10	8	27	78	171	2,320
J20-J22	その他の急性下気道感染症	18	17	1						1	1	38	262
J30-J39	上気道のその他の疾患		2	3	11	21	23	27	10	5		102	478
J40-J47	慢性下気道疾患	3	13	2			2	2	2	4	4	32	211
J60-J70	外的因子による肺疾患							7	7	7	36	57	1,376
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患						1	2	2	4	5	14	236
J85-J86	下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態								1	1	1	3	65
J90-J94	胸膜のその他の疾患						5	1		1	3	10	137
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患	1			1					3	1	6	211
XI	**消化器系の疾患**											**910**	**5,900**
K00-K14	口腔，唾液腺及び顎の疾患		1	1	3	5	4	8	3	8	12	45	198
K20-K31	食道，胃及び十二指腸の疾患			5		1	2	3	3	11	23	48	418
K35-K38	虫垂の疾患			1	7	8	5	3	2	5		31	173
K40-K46	ヘルニア						1	1	2	6	7	17	146
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎		2	1		2	6	4	4	1	1	21	146
K55	腸の血行障害					1	3	6	3	3	11	27	246

2023 年度　退院患者数（女）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
K56	腸閉塞		1			1	3	2	8	7	18	40	506
K57	腸の憩室性疾患				1	5	5	6	11	17	17	62	435
K58-K59	その他の腸の機能障害		1							1	2	4	20
K60-K62	肛門及び直腸の疾患						1		1	1	6	9	61
K63	結腸のその他の疾患					3	29	64	93	126	62	377	1,041
K64	痔核					1			1			2	6
K65-K67	腹膜の疾患							3	3	2	4	12	343
K70-K77	肝疾患				1		2	4	4	10	14	35	367
K80-K87	胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害				1	6	11	23	15	39	45	140	1,366
K90-K93	消化器系のその他の疾患		1			2		6	2	4	25	40	428
XII	**皮膚及び皮下組織の疾患**											**57**	**793**
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		6			1	1	2	3	6	12	31	352
L10-L14	水疱症							1	2		1	4	169
L20-L30	皮膚炎及び湿疹				1		2					3	23
L40-L45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害												
L50-L54	じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑							2				2	14
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線 (非電離及び電離) に関連する障害									1	1	2	5
L60-L75	皮膚付属器の障害						2			1		3	8
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害						1		1	7	3	12	222
XIII	**筋骨格系及び結合組織の疾患**											**895**	**14,601**
M00-M03	感染性関節障害		1					1	1			3	104
M05-M14	炎症性多発性関節障害				1			5	3	18	11	38	540
M15-M19	関節症			1		1	9	66	120	135	80	412	7,807
M20-M25	その他の関節障害			6	10	7	4	14	14	5	2	62	883
M30-M36	全身性結合組織障害	2	15		4		6	10		2	5	44	589
M40-M43	変形性脊柱障害		1					10	7	18	13	49	913
M45-M49	脊椎障害						3	11	13	44	26	97	1,774
M50-M54	その他の脊柱障害			2	4	7	8	6	2	3	3	35	276
M60-M63	筋障害					1			1			2	11
M65-M68	滑膜及び腱の障害		1	6	4	7	10	13	20	14	3	78	273
M70-M79	その他の軟部組織障害				1		6	8	5	7	2	29	426
M80-M85	骨の密度及び構造の障害			1			1	2	2	3	1	10	143
M86-M90	その他の骨障害			2		1			3	5	4	15	248
M91-M94	軟骨障害			1								1	12
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害								1	5	14	20	602
XIV	**腎尿路生殖器系の疾患**											**345**	**2,908**
N00-N08	糸球体疾患		1			4	2	3	2	2	2	16	116
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	1		1	4	4	3	4	14	7	22	60	660
N17-N19	腎不全					1	2	3		8	26	40	591
N20-N23	尿路結石症						2	1	2	6	5	16	78
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害							2		1	1	4	51
N30-N39	尿路系のその他の障害	2	3	1			2	2	3	14	24	51	641
N40-N51	男性生殖器の疾患												
N60-N64	乳房の障害						1					1	4
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患			2	2	4	2	3		2	1	16	134
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害			3	10	39	47	25	8	4	5	141	633
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害												
XV	**妊娠、分娩及び産じょく〈褥〉**											**628**	**4,407**
O00-O08	流産に終わった妊娠				24	42	6					72	169
O10-O16	妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害				3	6	3					12	71
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害				15	19	4					38	371
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題				25	76	13					114	768
O60-O75	分娩の合併症				11	33	9					53	492
O80-O84	分娩			2	83	220	26					331	2,483
O85-O92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症				1	4						5	45
O94-O99	その他の産科的病態，他に分類されないもの					2	1					3	8
XVI	**周産期に発生した病態**											**105**	**796**
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	15										15	111
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	20										20	229
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	39										39	308
P35-P39	周産期に特異的な感染症	1										1	6
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	21										21	89
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	5										5	32
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	3										3	13
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	1										1	8

2023 年度　退院患者数（女）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
XVII	**先天奇形、変形及び染色体異常**											**26**	**219**
Q00-Q07	神経系の先天奇形	1										1	2
Q10-Q18	眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形			1								1	1
Q20-Q28	循環器系の先天奇形		1			1						2	16
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形	1	3							1		5	44
Q50-Q56	生殖器の先天奇形				3	2						5	20
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形					1		1				2	36
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形	5		1		1	1	1				9	95
Q80-Q89	その他の先天奇形				1							1	5
Q90-Q99	染色体異常，他に分類されないもの												
XVIII	**症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの**											**51**	**381**
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候								1	2	5	8	103
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		2							2	3	7	55
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候												
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候												
R40-R46	認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候			1				1		1	2	5	31
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候	1	15				1	1		4	5	27	174
R70-R79	血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの	1										1	3
R80-R82	尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの		1							1	1	3	15
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX	**損傷、中毒及びその他の外因の影響**											**490**	**6,818**
S00-S09	頭部損傷		2		1	3		1	3	12	17	39	316
S10-S19	頚部損傷							1				1	19
S20-S29	胸部＜郭＞損傷							1	1	3	10	15	271
S30-S39	腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷				1				1	7	17	26	647
S40-S49	肩及び上腕の損傷		2	2	1	1	4	5	6	12	4	37	417
S50-S59	肘及び前腕の損傷		3	3	1	1		10	15	17	8	58	320
S60-S69	手首及び手の損傷		1	4		1	1	4	2	1	1	15	49
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷							3	3	16	32	54	1,338
S80-S89	膝及び下腿の損傷			23	9	9	16	19	10	10	6	102	1,926
S90-S99	足首及び足の損傷			1	1		1	2		1		6	88
T00-T07	多部位の損傷									1	4	5	119
T08-T14	部位不明の体幹もしくは (四) 肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用						1	1				2	4
T20-T32	熱傷及び腐食										1	1	16
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒		1								1	2	44
T51-T65	薬用を主としない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	6	19	2	2		3	1	1	2	3	39	140
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの		2	1	1		5	12	12	21	34	88	1,104
T90-T98	損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症												
XXI	**健康状態に影響を及ぼす要因及び保健**											**3**	**22**
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者												
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者					1		1			1	3	22
XXII	**特殊目的コード**											**89**	**829**
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	9		5	1	2	3	4	7	16	42	89	829
合計		**202**	**256**	**118**	**323**	**686**	**570**	**832**	**930**	**1,556**	**1,684**	**7,157**	**71,123**

■疾病別・年齢階層別・退院患者数（男・在院日数）【2023 年度】

2023 年度　在院日数（男）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計
Ⅰ	感染症及び寄生虫症											1,535
A00-A09	腸管感染症	10	57	17	28		7	18	11	42	95	285
A15-A19	結核									30	24	54
A20-A28	人畜共通細菌性疾患											
A30-A49	その他の細菌性疾患	15	17	25	5			35	75	134	215	521
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症					15				15	3	33
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患											
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患											
A75-A79	リケッチア症											
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症			16					22			38
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱											
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	5	18	6		12	18	16	8	86	46	215
B15-B19	ウイルス性肝炎				10	17	4	6	13	4	7	61
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病											
B25-B34	その他のウイルス疾患	73	52	8	16			20				169
B35-B49	真菌症							6			144	150
B50-B64	原虫疾患											
B65-B83	ぜん＜蠕＞虫症					4		5				9
B85-B89	シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症											
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症											
B95-B98	細菌，ウイルス及びその他の病原体											
B99	その他の感染症											
Ⅱ-1	新生物（腫瘍）悪性											12,557
C00-C14	口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞						8			3	8	19
C15	食道の悪性新生物					7		223	242	665	195	1,332
C16	胃の悪性新生物					11	7	149	148	660	362	1,337
C17	小腸の悪性新生物					22		74	6	24	55	181
C18	結腸の悪性新生物						58	122	241	522	370	1,313
C19-C20	直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					16	94	122	231	365	151	979
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物											
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物					2	17	150	233	435	256	1,093
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								22	290	80	392
C25	膵の悪性新生物						17	59	296	225	83	680
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞											
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞						14	177	650	1,247	419	2,507
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞											
C43-C44	皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞								27	5	4	36
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞										15	15
C50	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞								6	7		13
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞											
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞					81	2	35	182	232	187	719
C64-C68	腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞						5	62	158	302	129	656
C69-C72	眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞							43		16		59
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞											
C76-C80	部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞					29	59	80	99	562	218	1,047
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞		2				2		14	85	51	154
C97	独立した (原発性) 多部位の悪性新生物＜腫瘍＞											
D00-D09	上皮内新生物＜腫瘍＞										25	25
Ⅱ-2	新生物（腫瘍）良性											332
D10-D36	良性新生物＜腫瘍＞			7		3	24	48	101	31	36	250
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞		4		6	5	13	27	10	12	5	82
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											290
D50-D53	栄養性貧血								5	18	12	35
D55-D59	溶血性貧血											
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血							27	7	16	32	82
D65-D69	凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態	5	58			1			8	26		98
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患							13			23	36
D80-D89	免疫機構の障害							6		33		39
Ⅳ	内分泌、栄養及び代謝疾患											2,491
E00-E07	甲状腺障害	8										8
E10-E14	糖尿病					16	233	198	315	451	231	1,444
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害	11		4				17	26	30		88
E20-E35	その他の内分泌腺障害		68	40	15	6	37	10		132	2	310
E40-E46	栄養失調 (症)	11										11
E50-E64	その他の栄養欠乏症								22			22
E65-E68	肥満 (症) 及びその他の過栄養＜過剰摂食＞							9				9
E70-E90	代謝障害	3	35	4	6	6	7	91	61	126	260	599

2023 年度　在院日数（男）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計
V	精神及び行動の障害											31
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害											
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害					18		2		3		23
F20-F29	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害											
F30-F39	気分［感情］障害							2				2
F40-F48	神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害				1			5				6
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群											
F60-F69	成人の人格及び行動の障害											
F70-F79	知的障害＜精神遅滞＞											
F80-F89	心理的発達の障害											
F90-F98	小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害											
F99	詳細不明の精神障害											
VI	神経系の疾患											1,600
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患				18	75		47		88		228
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症					4	5	6	47	36		98
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動							22	15	108	141	286
G30-G32	神経系のその他の変性疾患											
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患					11						11
G40-G47	挿間性及び発作性障害	1	16	10	16	20	20	121	35	60	127	426
G50-G59	神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害				7		2	21	21	47	10	108
G60-G64	多発 (性) ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害				25			24	55		84	188
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患							19	26	19		64
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群				10							10
G90-G99	神経系のその他の障害	2				11		16		131	21	181
VII	眼及び付属器の疾患											1,370
H00-H06	眼瞼，涙器及び眼窩の障害							3	67	6	9	85
H10-H13	結膜の障害									4		4
H15-H22	強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害						4					4
H25-H28	水晶体の障害				1	4	11	43	70	180	122	431
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害						71	109	78	101		359
H40-H42	緑内障			9	5	6	41	97	42	101	76	377
H43-H45	硝子体及び眼球の障害						9	41	25	22	2	99
H46-H48	視神経及び視 (覚) 路の障害					8						8
H49-H52	眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害											
H53-H54	視機能障害及び盲＜失明＞											
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害	3										3
VIII	耳及び乳様突起の疾患											111
H60-H62	外耳疾患											
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患	4	14							4	5	27
H80-H83	内耳疾患						2	7	4	11	25	49
H90-H95	耳のその他の障害	8	3						7	8	9	35
IX	循環器系の疾患											10,902
I00-I02	急性リウマチ熱											
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患								20	46		66
I10-I15	高血圧性疾患							5			12	17
I20-I25	虚血性心疾患					33	78	216	430	489	452	1,698
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患				8				13	27		48
I30-I52	その他の型の心疾患				33	80	162	472	595	891	1,697	3,930
I60-I69	脳血管疾患				18	21	195	481	840	1,087	1,219	3,861
I70-I79	動脈，細動脈及び毛細血管の疾患					15	35	113	139	544	162	1,008
I80-I89	静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの					3	18	43	82	58	3	207
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害								67			67
X	呼吸器系の疾患											7,944
J00-J06	急性上気道感染症	10	52	7	53	30	37	29		8		226
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	41	215	19	11	16	32	39	267	826	1,249	2,715
J20-J22	その他の急性下気道感染症	68	152		12					28	7	267
J30-J39	上気道のその他の疾患		43	38	103	113	165	151	84	52	30	779
J40-J47	慢性下気道疾患	51	111	17		12		67	25	143	82	508
J60-J70	外的因子による肺疾患			12	21	10	29		72	259	1,201	1,604
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患			54				2	74	357	331	818
J85-J86	下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態		13					16	41	67	25	162
J90-J94	胸膜のその他の疾患			22	66	68	13	81	57	187	148	642
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患	12	10	7				15	88	36	55	223
XI	消化器系の疾患											6,713
K00-K14	口腔，唾液腺及び顎の疾患		9	9	6	21	6	18	5	31	27	132
K20-K31	食道，胃及び十二指腸の疾患			6		8	11	62	33	66	191	377
K35-K38	虫垂の疾患		2	43	12	33	32	63	44	13	69	311
K40-K46	ヘルニア				4	4		34	72	251	77	442
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			39	38	2	2	49	31	28		189
K55	腸の血行障害									35	44	79

2023 年度　在院日数（男）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計
K56	腸閉塞		18	11		22	89	18	69	85	148	460
K57	腸の憩室性疾患				3	26	37	45	156	99	130	496
K58-K59	その他の腸の機能障害	4	2				4					10
K60-K62	肛門及び直腸の疾患						5		8	10	21	44
K63	結腸のその他の疾患					9	61	133	283	421	252	1,159
K64	痔核					9		11	15	2	3	40
K65-K67	腹膜の疾患							30	27	31	51	139
K70-K77	肝疾患						20	137	34	120	102	413
K80-K87	胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害				18	36	110	255	436	573	582	2,010
K90-K93	消化器系のその他の疾患		2	2				39	120	102	147	412
XII	**皮膚及び皮下組織の疾患**											**1,044**
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		34		11	17	8	87	163	262	65	647
L10-L14	水疱症								12	30	18	60
L20-L30	皮膚炎及び湿疹		6		14	17					4	41
L40-L45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害								76			76
L50-L54	じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑						9					9
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線 (非電離及び電離) に関連する障害											
L60-L75	皮膚付属器の障害			15			7	10		2		34
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害							8	10	43	116	177
XIII	**筋骨格系及び結合組織の疾患**											**9,628**
M00-M03	感染性関節障害						43				57	100
M05-M14	炎症性多発性関節障害						4	30			19	53
M15-M19	関節症					81	148	605	774	789	338	2,735
M20-M25	その他の関節障害		5	131	57	50	168	130	25	30		596
M30-M36	全身性結合組織障害	46	171		75	23	51		48	51	16	481
M40-M43	変形性脊柱障害							38	111	113	62	324
M45-M49	脊椎障害			40		30	72	165	833	1,439	687	3,266
M50-M54	その他の脊柱障害			26	31	80	102	101	140	136	24	640
M60-M63	筋障害								10	39		49
M65-M68	滑膜及び腱の障害			31	12	19	36	49	58	41		246
M70-M79	その他の軟部組織障害						14	121	64	166	77	442
M80-M85	骨の密度及び構造の障害			15	6		7		17	76		121
M86-M90	その他の骨障害					17	42	76	52	58	69	314
M91-M94	軟骨障害			81		9						90
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害				15		20	14	76		46	171
XIV	**腎尿路生殖器系の疾患**											**3,066**
N00-N08	糸球体疾患		24	9	6	81	16	4	7	95	27	269
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	10		3		7	7	57	182	145	296	707
N17-N19	腎不全					36	15	164	230	237	378	1,060
N20-N23	尿路結石症					5	7	17	28	27	26	110
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害								5			5
N30-N39	尿路系のその他の障害	69	9		5		20	17	13	185	429	747
N40-N51	男性生殖器の疾患			7	17	3	3	7	24	55	46	162
N60-N64	乳房の障害											
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患											
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害											
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害										6	6
XV	**妊娠、分娩及び産じょく〈褥〉**											
O00-O08	流産に終わった妊娠											
O10-O16	妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害											
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害											
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題											
O60-O75	分娩の合併症											
O80-O84	分娩											
O85-O92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症											
O94-O99	その他の産科的病態，他に分類されないもの											
XVI	**周産期に発生した病態**											**1,105**
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	166										166
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	329										329
P10-P15	出産外傷											
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	364										364
P35-P39	周産期に特異的な感染症	16										16
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	147										147
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	58										58
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害											
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	25										25
P90-P96	周産期に発生したその他の障害											

2023 年度　在院日数（男）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計
XVII	**先天奇形、変形及び染色体異常**											**150**
Q00-Q07	神経系の先天奇形	1										1
Q10-Q18	眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形			3				5				8
Q20-Q28	循環器系の先天奇形			11		36	5	65	5	6		128
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形											
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂											
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形											
Q50-Q56	生殖器の先天奇形											
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形						3					3
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形	2	2		4							8
Q80-Q89	その他の先天奇形		2									2
Q90-Q99	染色体異常，他に分類されないもの											
XVIII	**症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの**											**669**
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候							24		107	97	228
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候						20	16	11			47
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候											
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候		7						2	29		38
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候										8	8
R40-R46	認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候				3			3		23	15	44
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候											
R50-R69	全身症状及び徴候	10	69	7	4		11	3	3	60	125	292
R70-R79	血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの									8		8
R80-R82	尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの											
R83-R89	その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの											
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの		4									4
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡											
XIX	**損傷、中毒及びその他の外因の影響**											**6,524**
S00-S09	頭部損傷		2	11	6	15	9	50	36	96	416	641
S10-S19	頚部損傷						5		29	49	37	120
S20-S29	胸部＜郭＞損傷						22	14	34	46	123	239
S30-S39	腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷					16	9	47	20	213	267	572
S40-S49	肩及び上腕の損傷		16	19	17	10	33	278	110	231	47	761
S50-S59	肘及び前腕の損傷		9	41	18	17	12	13	12	20	10	152
S60-S69	手首及び手の損傷			9	4		8	23	2			46
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷			5				34		191	262	492
S80-S89	膝及び下腿の損傷		4	564	342	285	245	167	145	64	72	1,888
S90-S99	足首及び足の損傷			30	3			3		22		58
T00-T07	多部位の損傷						5	21		2		28
T08-T14	部位不明の体幹もしくは (四) 肢の損傷又は部位不明の損傷											
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用		2			4				2	2	10
T20-T32	熱傷及び腐食								6	9		15
T33-T35	凍傷											
T36-T50	薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒											
T51-T65	薬用を主としない物質の毒作用											
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	4	46	9	2	28	2	4	5		88	188
T79	外傷の早期合併症											
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの		2	12	8	31	52	197	280	539	180	1,301
T90-T98	損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症							13				13
XXI	**健康状態に影響を及ぼす要因及び保健**											**21**
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者											
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者											
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者											
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者											
Z80-Z99	家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者						20		1			21
XXII	**特殊目的コード**											**1,061**
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	8	4	4		22	11	61	220	328	403	1,061
合計		1,600	1,391	1,515	1,235	1,920	3,203	7,798	11,837	20,796	17,849	**69,144**

■疾病別・年齢階層別・退院患者数（女・在院日数）【2023 年度】

2023 年度　在院日数（女）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計
Ⅰ	感染症及び寄生虫症											1,647
A00-A09	腸管感染症	19	49	6	5	28	17	5	26	41	86	282
A15-A19	結核									2	71	73
A20-A28	人畜共通細菌性疾患											
A30-A49	その他の細菌性疾患	12	6		10			4	25	135	337	529
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症				6	10						16
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患											
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患											
A75-A79	リケッチア症											
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症									13		13
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱											
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症		4	8	5	8	40	39	41	76	96	317
B15-B19	ウイルス性肝炎					16		3		11	22	52
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病											
B25-B34	その他のウイルス疾患	110	115							37	6	268
B35-B49	真菌症		28					5		24	34	91
B50-B64	原虫疾患											
B65-B83	ぜん＜蠕＞虫症					6						6
B85-B89	シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症											
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症											
B95-B98	細菌，ウイルス及びその他の病原体											
B99	その他の感染症											
Ⅱ-1	新生物（腫瘍）悪性											10,667
C00-C14	口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞											
C15	食道の悪性新生物						7		149	316	70	542
C16	胃の悪性新生物					17	16	47	163	378	227	848
C17	小腸の悪性新生物						18	33	36	18		105
C18	結腸の悪性新生物					2	50	142	199	411	281	1,085
C19-C20	直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物						41	70	107	110	254	582
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物											
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物						2	2	70	187	282	543
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								92	51	39	182
C25	膵の悪性新生物						5	45	187	504	278	1,019
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞											
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞					9		16	331	618	329	1,303
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞											
C43-C44	皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞								6	2	52	60
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞					8	10		11	43	61	133
C50	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞					46	340	475	526	339	173	1,899
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞					23	194	280	94	271	108	970
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞											
C64-C68	腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞							13	25	227	63	328
C69-C72	眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞						76					76
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞								7	60		67
C76-C80	部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞					8	11	70	115	123	166	493
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞				5			63	28	164	80	340
C97	独立した (原発性) 多部位の悪性新生物＜腫瘍＞											
D00-D09	上皮内新生物＜腫瘍＞				8	39	27	10	6		2	92
Ⅱ-2	新生物（腫瘍）良性											1,451
D10-D36	良性新生物＜腫瘍＞			4	86	143	297	224	77	121	29	981
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞			16	40	66	56	44	45	127	76	470
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											476
D50-D53	栄養性貧血			1			27			28	71	127
D55-D59	溶血性貧血											
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血								2	19	38	59
D65-D69	凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態		67						4	14	18	103
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患						10	7	10	14	22	63
D80-D89	免疫機構の障害						4		90	30		124
Ⅳ	内分泌、栄養及び代謝疾患											2,074
E00-E07	甲状腺障害				10	6			7	5		28
E10-E14	糖尿病					14	50	149	140	223	287	863
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害		28		8		20				46	102
E20-E35	その他の内分泌腺障害		70	21		23	10	29	15	13		181
E40-E46	栄養失調 (症)								11		6	17
E50-E64	その他の栄養欠乏症											
E65-E68	肥満 (症) 及びその他の過栄養＜過剰摂食＞					19		49				68
E70-E90	代謝障害	3	24	7	3	13	10		31	93	631	815

2023 年度　在院日数（女）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計
V	**精神及び行動の障害**											**40**
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害							8		7	8	23
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害											
F20-F29	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害											
F30-F39	気分［感情］障害					2						2
F40-F48	神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害			4	2				2	4		12
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群											
F60-F69	成人の人格及び行動の障害											
F70-F79	知的障害＜精神遅滞＞											
F80-F89	心理的発達の障害		3									3
F90-F98	小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害											
F99	詳細不明の精神障害											
VI	**神経系の疾患**											**1,229**
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患			3	8	7	3		7	172	7	207
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症									16	24	40
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動						6		76	88	25	195
G30-G32	神経系のその他の変性疾患								40			40
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患				8	5		23				36
G40-G47	挿間性及び発作性障害	5	7	2	11	4	14	18	25	16	211	313
G50-G59	神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害				16		8	22	30	36	40	152
G60-G64	多発 (性) ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害				2					11		13
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患					2	11			26	63	102
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群											
G90-G99	神経系のその他の障害	1	2			3	5	34	8	29	49	131
VII	**眼及び付属器の疾患**											**1,427**
H00-H06	眼瞼，涙器及び眼窩の障害			11					2	49	16	78
H10-H13	結膜の障害											
H15-H22	強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害								14			14
H25-H28	水晶体の障害				3	3	14	35	116	233	183	587
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害				12	22	51	84	66	57	7	299
H40-H42	緑内障			16	21	5	18	20	35	77	109	301
H43-H45	硝子体及び眼球の障害					4		16	11	61	36	128
H46-H48	視神経及び視 (覚) 路の障害					8		4	3			15
H49-H52	眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害				5							5
H53-H54	視機能障害及び盲＜失明＞											
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害											
VIII	**耳及び乳様突起の疾患**											**216**
H60-H62	外耳疾患											
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		9	6						4	1	20
H80-H83	内耳疾患				9	5	5	12	16	22	46	115
H90-H95	耳のその他の障害	4			30		6	36			5	81
IX	**循環器系の疾患**											**8,681**
I00-I02	急性リウマチ熱											
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患										15	15
I10-I15	高血圧性疾患									30	13	43
I20-I25	虚血性心疾患					6	32	31	104	104	171	448
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患				6			8		39	66	119
I30-I52	その他の型の心疾患			4		7	67	48	216	555	2,911	3,808
I60-I69	脳血管疾患					44	198	290	223	941	1,701	3,397
I70-I79	動脈，細動脈及び毛細血管の疾患					2	70	106	32	121	340	671
I80-I89	静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの			7		7		20	69	61	16	180
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害											
X	**呼吸器系の疾患**											**5,541**
J00-J06	急性上気道感染症	55	53	10	72	18	20	17				245
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	38	173	12	56	14		118	75	423	1,411	2,320
J20-J22	その他の急性下気道感染症	112	113	5						26	6	262
J30-J39	上気道のその他の疾患		11	16	47	94	102	120	65	23		478
J40-J47	慢性下気道疾患	17	79	11			11	19	8	30	36	211
J60-J70	外的因子による肺疾患							114	264	149	849	1,376
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患						2	33	18	81	102	236
J85-J86	下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態								35	26	4	65
J90-J94	胸膜のその他の疾患						70	6		8	53	137
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患	8			5					189	9	211
XI	**消化器系の疾患**											**5,900**
K00-K14	口腔，唾液腺及び顎の疾患		3	3	9	19	15	29	9	51	60	198
K20-K31	食道，胃及び十二指腸の疾患			27		4	9	16	17	119	226	418
K35-K38	虫垂の疾患			5	46	32	29	14	9	38		173
K40-K46	ヘルニア						3	5	12	45	81	146
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎		6	3		5	31	38	35	10	18	146
K55	腸の血行障害					5	13	38	13	57	120	246

2023 年度　在院日数（女）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計
K56	腸閉塞		4			6	15	15	81	74	311	506
K57	腸の憩室性疾患				6	45	36	35	96	72	145	435
K58-K59	その他の腸の機能障害		5							10	5	20
K60-K62	肛門及び直腸の疾患						5		5	6	45	61
K63	結腸のその他の疾患					54	85	153	230	347	172	1,041
K64	痔核					2			4			6
K65-K67	腹膜の疾患							21	78	49	195	343
K70-K77	肝疾患				2		23	36	13	113	180	367
K80-K87	胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害				5	30	79	159	114	343	636	1,366
K90-K93	消化器系のその他の疾患		2			16		34	19	41	316	428
XII	**皮膚及び皮下組織の疾患**											**793**
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		55			8	8	19	33	46	183	352
L10-L14	水疱症							7	146		16	169
L20-L30	皮膚炎及び湿疹				7		16					23
L40-L45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害											
L50-L54	じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑							14				14
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線 (非電離及び電離) に関連する障害									2	3	5
L60-L75	皮膚付属器の障害						6			2		8
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害						37		12	115	58	222
XIII	**筋骨格系及び結合組織の疾患**											**14,601**
M00-M03	感染性関節障害		37					9	58			104
M05-M14	炎症性多発性関節障害				8			78	32	274	148	540
M15-M19	関節症			9		19	224	1,301	2,216	2,494	1,544	7,807
M20-M25	その他の関節障害			70	173	133	96	149	138	72	52	883
M30-M36	全身性結合組織障害	29	140		53		36	146		81	104	589
M40-M43	変形性脊柱障害		2					133	111	398	269	913
M45-M49	脊椎障害						36	161	228	849	500	1,774
M50-M54	その他の脊柱障害			13	16	41	54	66	7	50	29	276
M60-M63	筋障害					6			5			11
M65-M68	滑膜及び腱の障害		4	20	12	20	32	40	79	56	10	273
M70-M79	その他の軟部組織障害				4		33	96	94	127	72	426
M80-M85	骨の密度及び構造の障害			5			10	20	63	39	6	143
M86-M90	その他の骨障害			30		17			43	82	76	248
M91-M94	軟骨障害			12								12
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害								11	209	382	602
XIV	**腎尿路生殖器系の疾患**											**2,908**
N00-N08	糸球体疾患		30			23	7	14	26	8	8	116
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	10		7	23	21	16	33	127	81	342	660
N17-N19	腎不全					30	46	23		76	416	591
N20-N23	尿路結石症						6	5	7	29	31	78
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害							22		11	18	51
N30-N39	尿路系のその他の障害	16	15	6			19	22	28	164	371	641
N40-N51	男性生殖器の疾患											
N60-N64	乳房の障害						4					4
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患			14	22	33	6	33		17	9	134
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害			9	53	172	208	100	38	20	33	633
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害											
XV	**妊娠、分娩及び産じょく〈褥〉**											**4,407**
O00-O08	流産に終わった妊娠				59	93	17					169
O10-O16	妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害				21	35	15					71
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害				121	214	36					371
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題				185	521	62					768
O60-O75	分娩の合併症				77	281	134					492
O80-O84	分娩			16	618	1,667	182					2,483
O85-O92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症				7	38						45
O94-O99	その他の産科的病態，他に分類されないもの					7	1					8
XVI	**周産期に発生した病態**											**796**
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	111										111
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	229										229
P10-P15	出産外傷											
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	308										308
P35-P39	周産期に特異的な感染症	6										6
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	89										89
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	32										32
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害											
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	13										13
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	8										8

2023 年度　在院日数（女）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計
XVII	**先天奇形、変形及び染色体異常**											**219**
Q00-Q07	神経系の先天奇形	2										2
Q10-Q18	眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形			1								1
Q20-Q28	循環器系の先天奇形		10			6						16
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形											
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂											
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形	6	15							23		44
Q50-Q56	生殖器の先天奇形				7	13						20
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形					4		32				36
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形	48		11		3	3	30				95
Q80-Q89	その他の先天奇形				5							5
Q90-Q99	染色体異常，他に分類されないもの											
XVIII	**症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの**											**381**
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候								8	28	67	103
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		4							14	37	55
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候											
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候											
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候											
R40-R46	認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候			4				5		18	4	31
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候											
R50-R69	全身症状及び徴候	6	77				2	8		58	23	174
R70-R79	血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの	3										3
R80-R82	尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの											
R83-R89	その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの											
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの		2							11	2	15
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡											
XIX	**損傷、中毒及びその他の外因の影響**											**6,818**
S00-S09	頭部損傷		4		2	19		15	14	104	158	316
S10-S19	頚部損傷							19				19
S20-S29	胸部＜郭＞損傷							6	10	69	186	271
S30-S39	腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷				10				45	104	488	647
S40-S49	肩及び上腕の損傷		4	6	4	3	28	65	53	187	67	417
S50-S59	肘及び前腕の損傷		14	15	9	5		57	46	121	53	320
S60-S69	手首及び手の損傷		2	15		2	2	9	4	9	6	49
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷							63	70	488	717	1,338
S80-S89	膝及び下腿の損傷			448	163	191	300	319	194	223	88	1,926
S90-S99	足首及び足の損傷			3	32		23	13		17		88
T00-T07	多部位の損傷									40	79	119
T08-T14	部位不明の体幹もしくは (四) 肢の損傷又は部位不明の損傷											
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用						1	3				4
T20-T32	熱傷及び腐食										16	16
T33-T35	凍傷											
T36-T50	薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒		2								42	44
T51-T65	薬用を主としない物質の毒作用											
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	13	28	5	4		6	2	4	9	69	140
T79	外傷の早期合併症											
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの		5	3	4		60	148	109	302	473	1,104
T90-T98	損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症											
XXI	**健康状態に影響を及ぼす要因及び保健**											**22**
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者											
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者											
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者											
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者											
Z80-Z99	家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者					3		12			7	22
XXII	**特殊目的コード**											**829**
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	34		20	2	11	22	26	77	238	399	829
合計		1,347	1,311	950	2,268	4,623	4,188	6,982	9,107	17,302	23,045	**71,123**

■疾病別・年齢階層別・退院患者数（死亡）【2023 年度】

2023 年度（死亡）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
Ⅰ	感染症及び寄生虫症											12	156
A00-A09	腸管感染症												
A15-A19	結核												
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患								1	1	8	10	145
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症												
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症												
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症												
B15-B19	ウイルス性肝炎							1			1	2	11
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病												
B25-B34	その他のウイルス疾患												
B35-B49	真菌症												
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜん＜蠕＞虫症												
B85-B89	シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌，ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
Ⅱ-1	新生物（腫瘍）悪性											84	1,661
C00-C14	口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞									1		1	3
C15	食道の悪性新生物							1	1	3		5	105
C16	胃の悪性新生物									3		3	35
C17	小腸の悪性新生物												
C18	結腸の悪性新生物						1	1	1	1	1	5	138
C19-C20	直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物							1			1	2	33
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物												
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物						1	1	3	2	1	8	95
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物									4		4	76
C25	膵の悪性新生物								5	4	2	11	125
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞								6	7	8	21	524
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞												
C43-C44	皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞												
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞										1	1	61
C50	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞						1		5	1	1	8	113
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞						1				1	2	11
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞								1			1	7
C64-C68	腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞									1	1	2	45
C69-C72	眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞						1					1	41
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞									1		1	27
C76-C80	部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞							1		3	3	7	186
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞										1	1	36
C97	独立した (原発性) 多部位の悪性新生物＜腫瘍＞												
D00-D09	上皮内新生物＜腫瘍＞												
Ⅱ-2	新生物（腫瘍）良性												
D10-D36	良性新生物＜腫瘍＞												
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞												
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害												
D50-D53	栄養性貧血												
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血												
D65-D69	凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態												
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患												
D80-D89	免疫機構の障害												
Ⅳ	内分泌、栄養及び代謝疾患											1	9
E00-E07	甲状腺障害												
E10-E14	糖尿病												
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害									1		1	9
E20-E35	その他の内分泌腺障害												
E40-E46	栄養失調 (症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症												
E65-E68	肥満 (症) 及びその他の過栄養＜過剰摂食＞												
E70-E90	代謝障害												

2023 年度（死亡）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
V	**精神及び行動の障害**												
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害												
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害												
F20-F29	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分［感情］障害												
F40-F48	神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害												
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害＜精神遅滞＞												
F80-F89	心理的発達の障害												
F90-F98	小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI	**神経系の疾患**											**2**	**32**
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患						1					1	3
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症								1			1	29
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動												
G30-G32	神経系のその他の変性疾患												
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患												
G40-G47	挿間性及び発作性障害												
G50-G59	神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害												
G60-G64	多発 (性) ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害												
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患												
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群												
G90-G99	神経系のその他の障害												
VII	**眼及び付属器の疾患**												
H00-H06	眼瞼，涙器及び眼窩の障害												
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害												
H25-H28	水晶体の障害												
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害												
H40-H42	緑内障												
H43-H45	硝子体及び眼球の障害												
H46-H48	視神経及び視 (覚) 路の障害												
H49-H52	眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害												
H53-H54	視機能障害及び盲＜失明＞												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII	**耳及び乳様突起の疾患**												
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患												
H80-H83	内耳疾患												
H90-H95	耳のその他の障害												
IX	**循環器系の疾患**											**51**	**853**
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患												
I10-I15	高血圧性疾患												
I20-I25	虚血性心疾患								3	2	3	8	82
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患								1			1	2
I30-I52	その他の型の心疾患						1			2	17	20	378
I60-I69	脳血管疾患						2	2	1	1	10	16	259
I70-I79	動脈，細動脈及び毛細血管の疾患					1				1	3	5	128
I80-I89	静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの										1	1	4
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害												
X	**呼吸器系の疾患**											**50**	**1,107**
J00-J06	急性上気道感染症												
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎							1	2	7	13	23	391
J20-J22	その他の急性下気道感染症												
J30-J39	上気道のその他の疾患												
J40-J47	慢性下気道疾患												
J60-J70	外的因子による肺疾患								2	2	5	9	322
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患							1	1	4	7	13	252
J85-J86	下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態										1	1	2
J90-J94	胸膜のその他の疾患								1		1	2	36
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患								1	1		2	104
XI	**消化器系の疾患**											**21**	**414**
K00-K14	口腔，唾液腺及び顎の疾患												
K20-K31	食道，胃及び十二指腸の疾患							1			1	2	80
K35-K38	虫垂の疾患												
K40-K46	ヘルニア									1		1	40
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎												
K55	腸の血行障害									1	2	3	67

2023 年度（死亡）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
K56	腸閉塞								1		1	2	94
K57	腸の憩室性疾患												
K58-K59	その他の腸の機能障害												
K60-K62	肛門及び直腸の疾患												
K63	結腸のその他の疾患										1	1	1
K64	痔核												
K65-K67	腹膜の疾患							1		1		2	27
K70-K77	肝疾患										3	3	40
K80-K87	胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害									1	3	4	22
K90-K93	消化器系のその他の疾患								1	1	1	3	43
XII	**皮膚及び皮下組織の疾患**												
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症												
L10-L14	水疱症												
L20-L30	皮膚炎及び湿疹												
L40-L45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害												
L50-L54	じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑												
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線 (非電離及び電離) に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害												
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害												
XIII	**筋骨格系及び結合組織の疾患**											**1**	**21**
M00-M03	感染性関節障害												
M05-M14	炎症性多発性関節障害												
M15-M19	関節症												
M20-M25	その他の関節障害												
M30-M36	全身性結合組織障害												
M40-M43	変形性脊柱障害												
M45-M49	脊椎障害									1		1	21
M50-M54	その他の脊柱障害												
M60-M63	筋障害												
M65-M68	滑膜及び腱の障害												
M70-M79	その他の軟部組織障害												
M80-M85	骨の密度及び構造の障害												
M86-M90	その他の骨障害												
M91-M94	軟骨障害												
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害												
XIV	**腎尿路生殖器系の疾患**											**5**	**137**
N00-N08	糸球体疾患												
N10-N16	腎尿細管間質性疾患												
N17-N19	腎不全									1	3	4	108
N20-N23	尿路結石症												
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害												
N30-N39	尿路系のその他の障害										1	1	29
N40-N51	男性生殖器の疾患												
N60-N64	乳房の障害												
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害												
XV	**妊娠、分娩及び産じょく〈褥〉**												
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態，他に分類されないもの												
XVI	**周産期に発生した病態**												
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児												
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害												
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害												
P35-P39	周産期に特異的な感染症												
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害												
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害												
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態												
P90-P96	周産期に発生したその他の障害												

2023 年度（死亡）		0 歳	1 歳～9 歳	10 歳～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	80 歳～	合計	在院日数
XVII	**先天奇形、変形及び染色体異常**												
Q00-Q07	神経系の先天奇形												
Q10-Q18	眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形												
Q20-Q28	循環器系の先天奇形												
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形												
Q50-Q56	生殖器の先天奇形												
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形												
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形												
Q80-Q89	その他の先天奇形												
Q90-Q99	染色体異常，他に分類されないもの												
XVIII	**症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの**											**3**	**118**
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候									1	1	2	87
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候												
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候												
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候												
R40-R46	認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候												
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候									1		1	31
R70-R79	血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの												
R80-R82	尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの												
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX	**損傷、中毒及びその他の外因の影響**											**8**	**136**
S00-S09	頭部損傷									2	2	4	92
S10-S19	頚部損傷												
S20-S29	胸部＜郭＞損傷												
S30-S39	腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷								1			1	2
S40-S49	肩及び上腕の損傷												
S50-S59	肘及び前腕の損傷												
S60-S69	手首及び手の損傷												
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷												
S80-S89	膝及び下腿の損傷										1	1	36
S90-S99	足首及び足の損傷												
T00-T07	多部位の損傷												
T08-T14	部位不明の体幹もしくは (四) 肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用												
T20-T32	熱傷及び腐食												
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒												
T51-T65	薬用を主としない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用												
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの							1			1	2	6
T90-T98	損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症												
XXI	**健康状態に影響を及ぼす要因及び保健**												
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者												
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
XXII	**特殊目的コード**											**4**	**88**
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類								2	1	1	4	88
合計						**1**	**9**	**13**	**41**	**65**	**113**	**242**	**4,732**

■がん登録【2022 年】

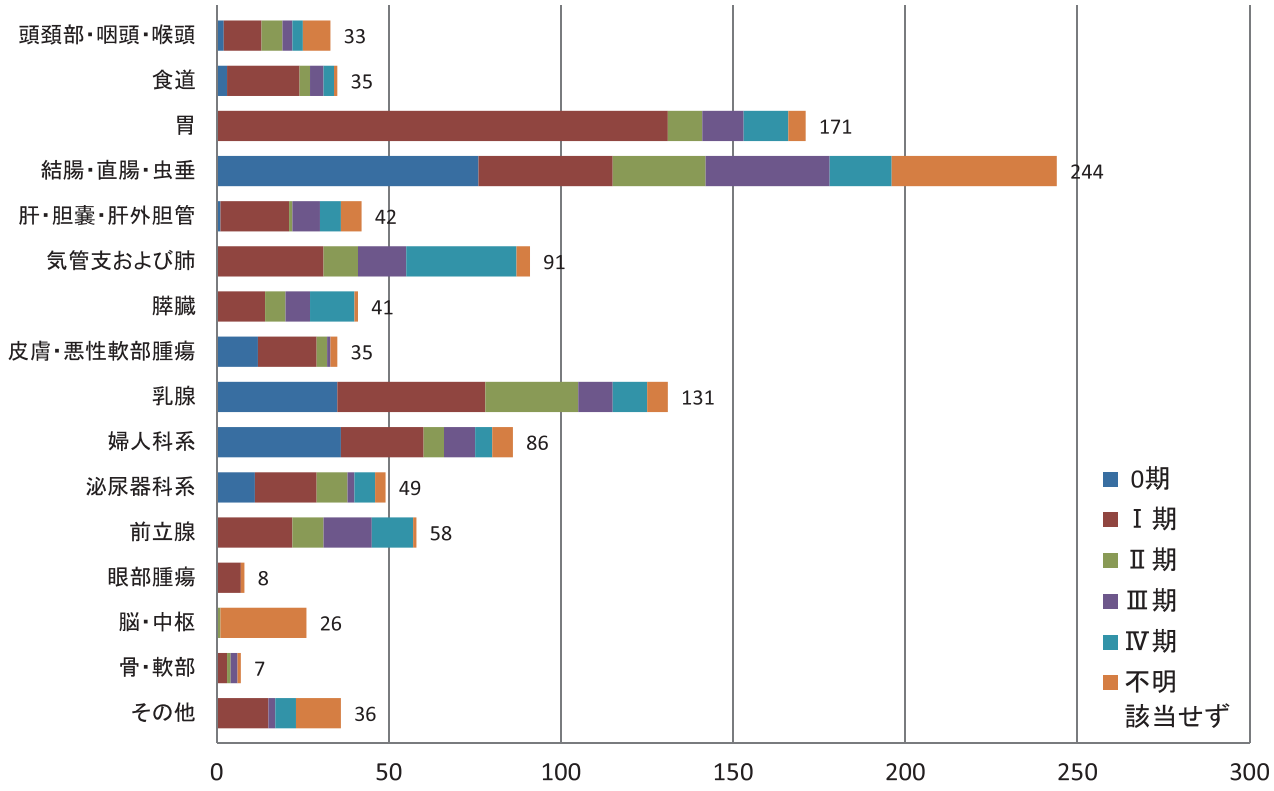
2022 年 1 月 1 日～ 2022 年 12 月 31 日診断　がん登録件数　（ 部位別及びステージ別 ）

部位	0 期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	不明該当せず	合計
頭頚部・咽頭・喉頭	2	11	6	3	3	8	33
食道	3	21	3	4	3	1	35
胃		131	10	12	13	5	171
結腸・直腸・虫垂	76	39	27	36	18	48	244
肝・胆嚢・肝外胆管	1	20	1	8	6	6	42
気管支および肺		31	10	14	32	4	91
膵臓		14	6	7	13	1	41
皮膚・悪性軟部腫瘍	12	17	3	1		2	35
乳腺	35	43	27	10	10	6	131
婦人科系	36	24	6	9	5	6	86
泌尿器科系	11	18	9	2	6	3	49
前立腺		22	9	14	12	1	58
眼部腫瘍		7				1	8
脳・中枢			1			25	26
骨・軟部		3	1	2		1	7
その他		15		2	6	13	36
合計	176	416	119	124	127	131	1093

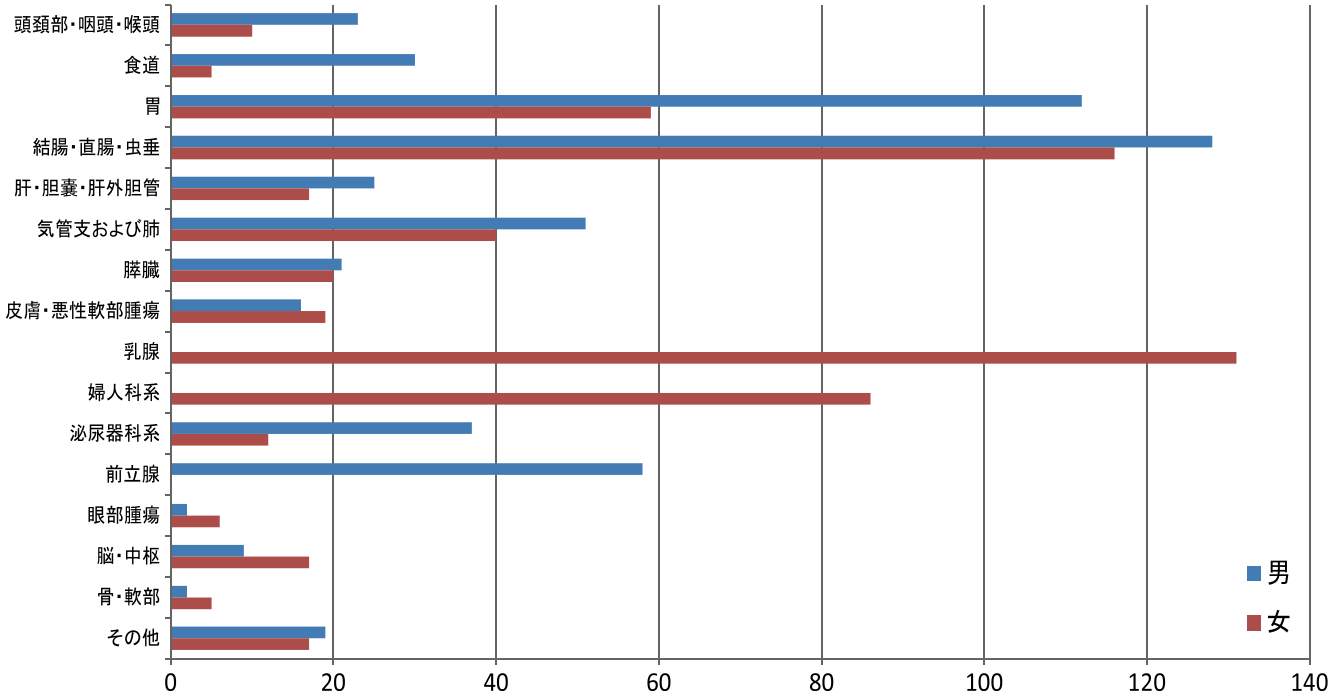
診断年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
提出件数	954	923	1043	1044	1153	1093

2022 年診断	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
合計	大腸	胃	乳腺	肺	婦人科系
男性	大腸	胃	前立腺	肺	泌尿器科系
女性	乳腺	大腸	婦人科系	胃	肺

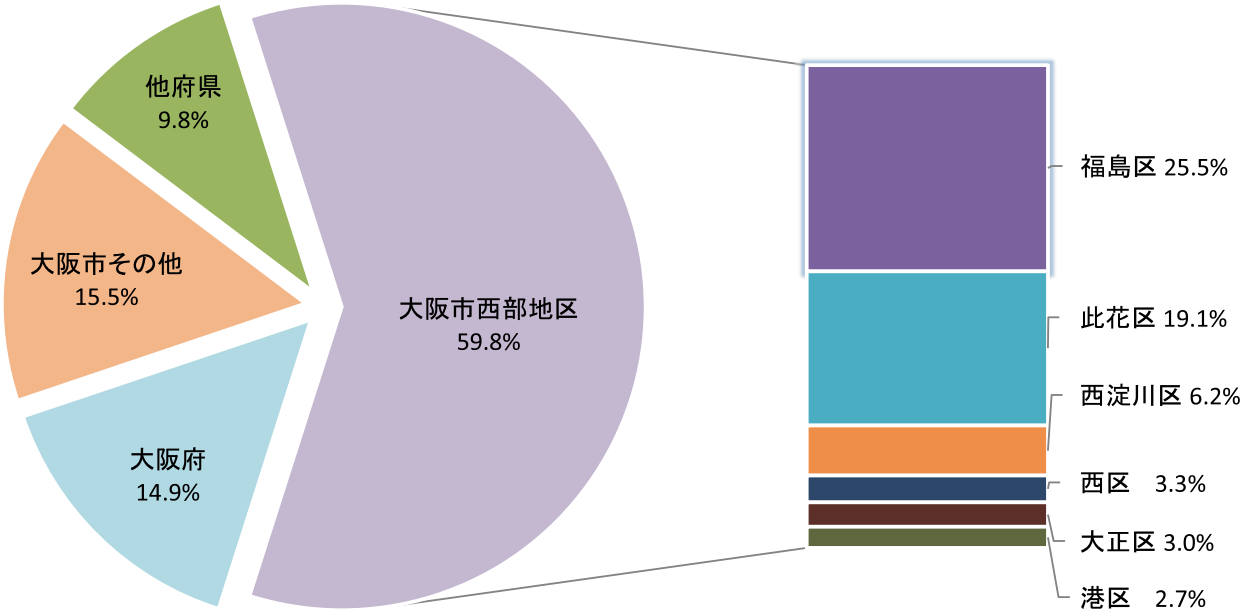
■がん登録　2022 年診断　部位別　ステージ別



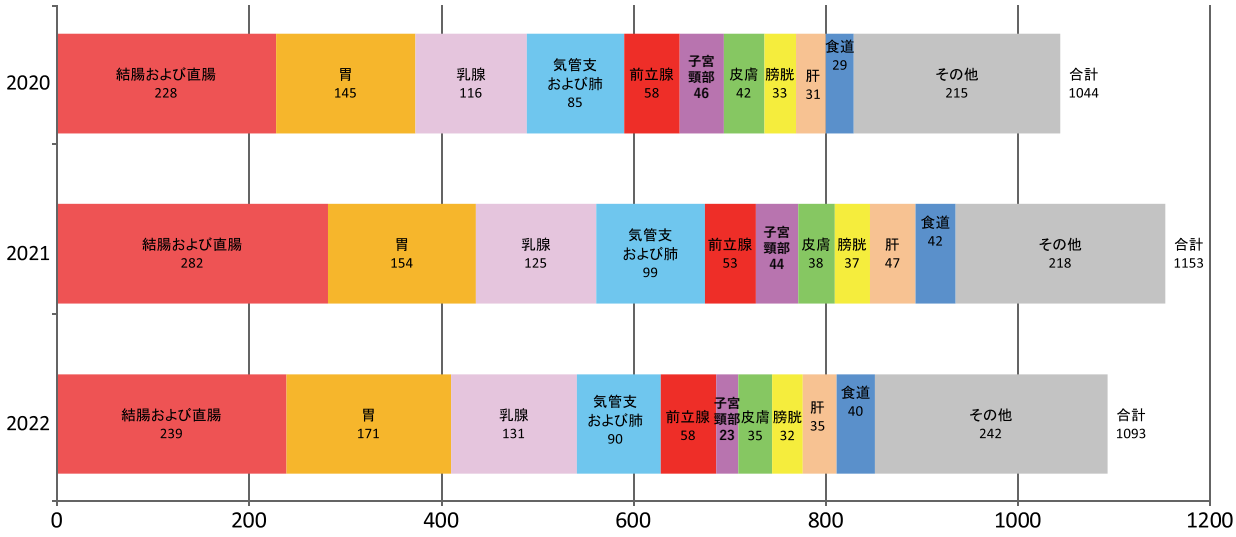
■がん登録　2022 年診断　部位別　男女別



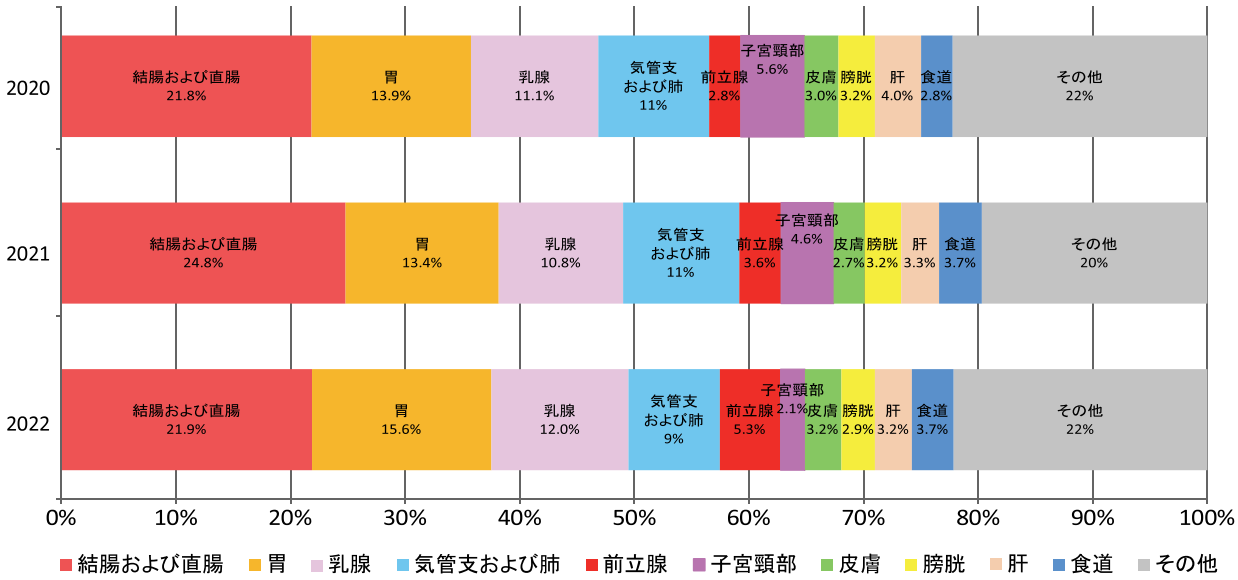
■がん登録患者　2022 年診断　地域別



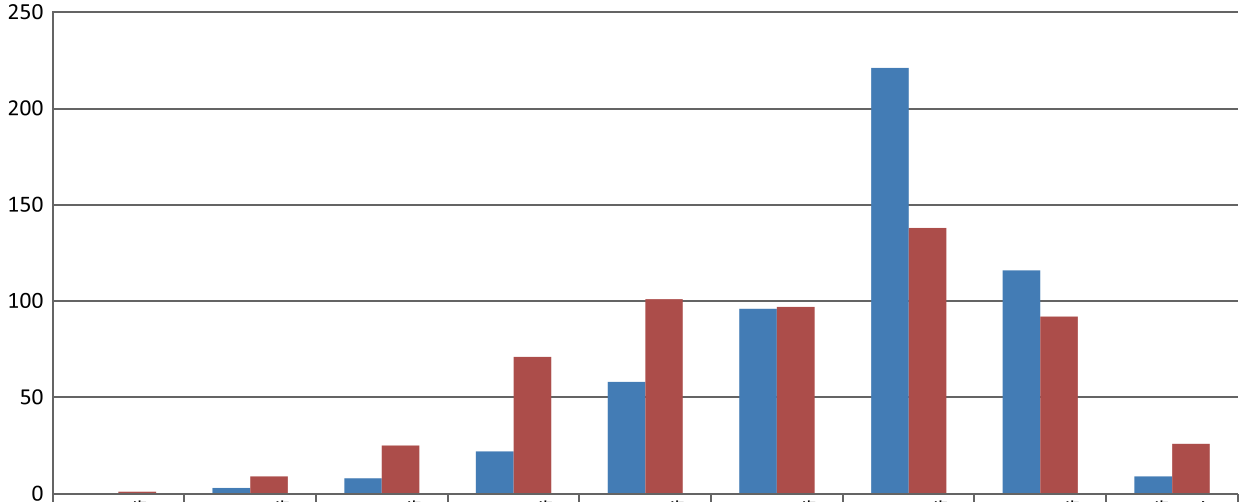
■ 2020 − 2022 年経年変化（実数）



■ 2020 − 2022 年経年変化（割合）



■ 2022 年診断　年齢別　男女別



	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上
■男		3	8	22	58	96	221	116	9
■女	1	9	25	71	101	97	138	92	26

部門概要

◆スタッフ欄は、令和６年３月１日現在の配置を記す。

整形外科

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）島田　幸造、◎（統括診療部長・主任部長）中田　活也、◎西川　昌孝、◎北　圭介、◎轉法輪　光、◎武中　章太、◎西本　竜史、岡本　恭典、金山　完哲、中矢　亮太、山田　修太郎、三好　祐史、藏谷　幸祐、河野　剛之、木ノ本　みずき、熨斗　優樹、桐村　秀哉、松本　遼季、中谷　裕貴

◆概　要

整形外科は最新かつ高度な医療を提供すべく、専門分野ごとにセンター化して診療に当たっている。具体的には、脊椎外科センター、人工関節センター、手の外科・外傷センター、スポーツ整形センター（肩・肘・膝・足）、リウマチセンターの５部門に分かれている。島田副院長の下、大阪大学整形外科の主要関連病院として19名の整形外科医を擁し、個々の専門領域に応じて各センターに所属し診療に従事している。豊富な手術症例をベースにした臨床研究も盛んで国内外の学会発表や論文発表も多く、日本整形外科学会専門医14名が５名の整形外科専攻医を指導する教育体制も完備している。特に専攻医の手術技術向上に積極的に取り組むべく教育システムを有しており、診療・教育・研究の３本柱により医療に貢献するのが当整形外科の責務と考えている。

◆実　績

2023年度の整形外科の新規来院患者数は3,153名であった。手術件数は2,313件で、2022年度よりも217件増加していた。内訳は、脊椎：502、上肢・手：443、下肢：589、外傷：352、スポーツ：373、リウマチ：29、腫瘍23、小児:2件であった。これは近隣医療機関の先生方から定期的に多数のご紹介をいただいた結果である。また救急症例（大腿骨近位部骨折、小児骨折、スポーツ外傷、脊椎圧迫骨折など）を積極的に受け入れ始めたことも影響している。さらに2022年10月からは近隣医療機関の先生方がご診療をされている平日午後８時までは当科スタッフが「居残り当番」としてお問い合わせに対応させていただき、整形外科が当日直をしていない休日は当科部長が「相談係」として待機していることも一因ではないかと思われる。

臨床研究の業績としては、4編の英語論文を含む11編の論文・著書、32回の国内講演、28回の国内発表、10回の海外発表を行った。各部門長は国内外から講演依頼を受けるその道のトップランナーであり、今後も診療だけでなく臨床研究の面からも日本をリードするような整形外科であり続けたいと考えている。

当院では初期研修医から整形外科専攻医への志望者も徐々に増えつつあり、その結果、当院で研修した若い整形外科医が大阪大学を始め多くの関連病院で修練した後、当院の中堅スタッフとして整形外科の活力を高めるという好循環が実現しつつある。若手医師の育成により整形外科の底上げに寄与できる診療科を目指してゆく。

◆今後の方向性

昭和27年の旧大阪厚生年金病院開設当初から当整形外科は存在しており70余年の歴史がある。その結果整形外科診療の「最後の砦」としてのブランドが構築されてきた事実がある。一方、そのブランド名が当整形外科への受診の敷居を高くしてきたのも事実である。当科では2021年から近隣医療機関への訪問を行っている。旧厚生年金病院時代からの固定観念を打破するためである。近隣医療機関の先生方と協力して、緊密連絡・迅速対応・相互連携をモットーとした風通しの良い地域医療機能を構築していくことが当整形外科の目指すべき新しい姿であると考えている。

今後も多くの紹介患者数を受け入れ、ますます地域に根付いた整形外科診療を実施し、更にこれまでに築き上げた診療レベルを向上しつつ、大阪市内は勿論、大阪府下から近畿一円、さらには全国的に高度な整形外科治療を求める患者のニーズに応えていきたいと考えている。

手外科・外傷センター

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）島田　幸造、◎轉法輪 光、三好　祐史

◆概　要

手外科・外傷センターは整形外科の中の一分野として、手や肘の障害や、労災事故など外傷による上肢機能の改善・再建を主なフィールドとして診療を行っている。

手は人間にとって非常に重要な道具（運動器）であると共に、物を触って判別するセンサー（知覚器）である。また舞踊の世界などでは指先の繊細な動きで美を表すように、整容面でも重要な役割を担っている。この人間にとって重要な道具を目的に応じて移動させ、標的に合わせる（ターゲッティング）ために、肩や腕、肘の機能もまた重要である。我々はそういった上肢の機能障害を最大限回復させ、人間にとっての大切な道具である手を最大限生かすことを目的に、診療に当たっている。

またそういった道具であるがゆえに、仕事中など手は怪我にあう頻度が高いことは否めない。単に怪我や骨折を治すだけではなく、それを動かす筋肉や腱、神経を、手という精巧かつ繊細な運動器治療の専門家である我々が、その知識をフルに動員し、時には手術用顕微鏡を用いたマイクロサージャリーの技術も使って治療に当たっている。その技術は時に手だけではなく全身各所の外傷治療にも応用され、また通常の怪我、救急外傷、スポーツ傷害を含め、多岐にわたる運動器の外傷・傷害治療に専門的に当たっているのが、我々手外科・外傷センター部門である。

対象疾患としては、肘・手の骨折や脱臼、腱損傷、神経損傷などの外傷や様々な変性疾患（変形性関節症、肘離断性骨軟骨炎、上腕骨内・外側上顆炎、関節リウマチなど）である。小児の肘・手の骨折は専門スタッフが治療に介入し、麻酔科協力のもとで可能な限り早期の治療対応を心がけている。また、他院では治療困難な難治例や複数回手術症例なども積極的に受け入れている。特に肘関節鏡手術に関しては、当院は日本でも有数の症例数を誇る。高いスキルと充実した設備を基に、上肢の良好な機能回復を目指し、満足度が高い医療を目標にしている。

◆実　績

2023年度手術件数

手外科・外傷センター：490件

（骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎（肋骨移植を含む）、関節鏡視下手術）

リウマチ科

◆スタッフ（◎部長）

◎西川　昌孝、吉村　長晃、本城　文哉、大脇　肇（非常勤）

◆概　要

2023年度のリウマチセンターは西川昌孝リウマチ科診療部長、大脇肇前副院長（非常勤）の体制で、整形外科の1名の常勤医師と後期研修医2名及び非常勤医師1名により構成された。後期研修医がリウマチ研修を受けるシステムは継続された。年度終わりにリウマチ研修を受けていたのは吉村長晃、本城文哉であった。

◆実　績

2023年度のカルテベースでの診療患者数は、関節リウマチ（RA）と脊椎関節炎（SpA）の合計数が320人で昨年度より10人減少した。膠原病疾患新規紹介患者は基本的には当院免疫内科が担当しているためである。

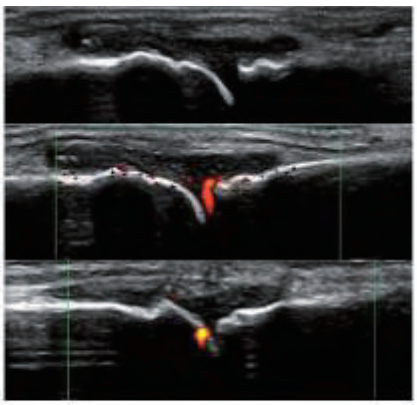
生物学的製剤は、IFX（レミケード）/ETN（エンブレル）/ADA（ヒュミラ）/GLM（シンポニー ）/CZP（ シムジア ）/OZR(ナノゾラ)/TCZ（ アクテムラ ）/ABT（ オレンシア ）/SAR（ ケブザラ ）/OZR（ナノゾラ）を使用しているが、IFX、ETN、ADAはバイオシミラーを基本的には使用している。一方、キナーゼ阻害薬はTOF（ゼルヤンツ）、BARI（オルミエント）、PEFI（スマイラフ）、UPA（リンヴォック）、ジセレカ(FIL)と5剤なり、生物製剤に比較しキナーゼ阻害薬の増加が目立った。

リウマチグループの主たる手術対象は変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術であるが、これについては人工関節センターの項を御覧いただきたい。リウマチ科スタッフの減員に伴い、現在足関節・足部疾患の手術はスポーツ整形外科、手外科グループに依頼している。

関節リウマチは合併症の多い疾患であり、また治療の主体が免疫抑制療法であるため、呼吸器をはじめ、多くの他科の先生方に迷惑をかけており、この場を借りてお礼を申し上げたい。

レントゲン検査

造影MRI検査



関節エコー検査

脊椎外科

◆スタッフ（◎部長）

◎武中　章太、金山　完哲、山田　修太郎

◆概　要

当院脊椎外科センターでは、腰椎変性疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症、腰椎分離すべり症、腰椎椎間板ヘルニアなど）、頚椎変性疾患（頚椎症性脊髄症、頚椎症性神経根症、頚椎後縦靭帯骨化症、頚椎椎間板ヘルニア、環軸椎亜脱臼など）、胸椎変性疾患（胸椎後縦靭帯骨化症、胸椎黄色靭帯骨化症、変形性胸椎症、胸椎椎間板ヘルニアなど）、脊柱変形（思春期特発性側弯症、成人脊柱変形など）、脊椎外傷（圧迫骨折後偽関節など）、脊椎腫瘍（原発性および転移性脊椎腫瘍）、脊髄腫瘍（髄内腫瘍を除く）、脊椎炎症性疾患（化膿性脊椎炎、リウマチ性脊椎疾患など）、透析性脊椎疾患など、幅広い脊椎疾患を治療対象としています。

治療には、3名の脊椎外科専門医を中心としたスタッフが対応しており、日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会の脊椎外科指導医、BKP・XLIF・OLIFの資格医、日本整形外科学会認定脊椎内視鏡下手術・技術認定医（2種および3種）など、多くの資格を持つ医師が在籍しています。手術室や病棟のスタッフも脊椎外科の専門的治療に熟練しており、内科など他科と密に連携し、心臓病や糖尿病、透析などの合併症を持つ患者も安心して治療を受けられる環境を整えています。

超高齢社会の進展や生活習慣の変化に伴い、加齢により複数の疾患を合併する脊椎脊髄疾患の患者が増加しています。これにより、脊椎外科の役割がますます重要となっています。脊椎疾患だけでなく、患者全体を総合的に診る姿勢を大切にしながら、エビデンスに基づいたテーラーメイドの全人的医療を提供しています。

◆実　績

当センターでは、主に近隣の医療機関から手術が必要と考えられる症例や診断が難しい症例の紹介を受けています。問診、診察、MRIなどの画像検査を行い、手術適応と判断された場合は脊椎外科カンファレンスで専門医の総意のもと術式を決定しています。令和5年度の手術件数は526件で、令和4年度の468件、令和3年度の368件から増加しています。

手術内容としては、腰椎除圧術（MEL、FESS、開窓術）、腰椎固定術（後方進入椎体間固定術、後方固定術、前方後方固定術）、腰椎椎間板摘出術（主にFESS）、頚椎椎弓形成術（人工骨や金属プレートを使用）、頚椎固定術（椎弓根スクリューや外側塊スクリューを使用した後方固定術、ケージや自家骨+プレートを使用した前方固定術）、成人脊柱変形矯正固定術、特発性側弯症手術などを行っています。

除圧術に関しては低侵襲手術（MELやFESS）を積極的に導入しており、患者のニーズに応えています。固定術に関しては、低侵襲手術として注目されている側方進入椎体間固定術（XLIF、OLIF）を積極的に取り入れ、前方後方固定術や側弯症矯正固定術においても使用しています。また、ハイブリッド手術室に設置されたSIEMENS社のArtis Zeegoを用いた術中CT撮影により、リアルタイムでインプラントの位置を確認でき、安全な手術を提供しています。固定術では、Medtronic社の脊椎ナビゲーションシステムとCT装置を術中に使用し、スクリューの設置精度を確保しています。

スポーツ医学科

◆スタッフ（◎部長）

◎島田　幸造、◎北　圭介、◎轉法輪　光、西本　竜史、三好　祐史，藏谷　幸祐

◆概　要

スポーツ医学科は，整形外科の中の一分野として，スポーツ傷害に苦しむアスリートやスポーツ愛好家をサポートすべく活動している．スポーツ傷害とはスポーツに特有の外傷とともに酷使される部位の慢性機能障害を含み，トッププレーヤーとして復帰させるためには高度に専門化された診療技術や設備が必要である．スポーツ復帰のためには，一般的に病気や怪我を治すだけでは十分ではなく，より高い治療目標が必要であり，そのためにリハビリテーション部門や看護部門と連携し，ハイレベルなチーム医療を行っている。これらによって培われた診療技術は，スポーツ選手の復帰へのサポートだけでなく，一般の患者さんの治療にも応用され，怪我をした方の社会復帰や，活き活きした生活を送りたいという現代人の健康寿命の維持に寄与する．

当院スポーツ医学科は身体を支える下半身、中でもスポーツ傷害の頻度の高い膝関節を中心に下肢のスポーツ傷害を担当する「膝関節グループ」、人体中最も大きな可動域を有するため傷害頻度も高い肩関節を担当する「肩関節グループ」、道具として人が最も使うことから力だけでなく繊細な動きも要求される手指や肘関節を担当する「手・肘関節グループ」の３部門でスポーツ傷害の治療に対応している。いずれの分野においても関節鏡視下手術の技術を駆使した小侵襲手術を主体に、アスリートの傷害からの復帰に、ひいては一般の方の健康増進に貢献している。

◆実　績

2023年度手術件数

膝関節グループ：510件

（鏡視下膝十字靭帯再建、その他鏡視下靭帯再建、鏡視下半月板手術、膝周囲骨切り術（高位脛骨骨切り術）、その他の関節鏡視下手術など）

肩関節グループ：178件

（鏡視下腱板修復、鏡視下バンカート修復、人工肩関節など）

手・肘関節グループ：診療部門「手の外科・外傷」参照

（骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎（肋骨移植を含む）、関節鏡視下手術など）

人工関節センター

◆スタッフ（◎部長）

◎中田　活也、◎西川　昌孝、岡本　恭典、中矢　亮太

◆概　要

2015年４月に当人工関節センターが開設されました。手術室にはクリーンルームが４室設置され、よりスムーズに患者様を受け入れられる体制を構築しています。近隣医療機関との連携にも注力しており、変性関節疾患のみならず大腿骨頸部骨折や人工関節周囲骨折などの救急患者様も積極的に受け入れております。ご紹介いただいた患者様により満足していただけるために、迅速かつ安全で精度の高い治療を施せるよう対応させていただいております。

当センターでは早期社会復帰と動作制限のない人工関節置換術を目指しており、多くの新技術（MIS、３次元手術計画、手術ナビゲーション、3Dプリンター技術、症例個別的実物大骨モデル）を取り入れています。これらの新技術を駆使し、計画・作成・手術まで当センター内で実施できる自己完結型の本格的な人工関節センターです。

◆実　績（2023年度）：計527件

人工股関節置換術： 278件（うち再置換術：17件）
人工膝関節置換術： 181件（うち単顆置換術：15件、再置換術：1件）
大腿骨頚部骨折：　40件
大腿骨転子部骨折： 28件
その他：9件

診療部門 形成外科

◆スタッフ（◎部長）

◎波多　祐紀、北原　和子、三浦　弘暉

◆概　要

形成外科領域専門医資格・皮膚腫瘍外科専門医資格・再建マイクロサージャリー分野指導医資格を含む人員で高度な医療を提供する。また、診療科としては以下の認定を得ている。

・形成外科学会認定施設

・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施認定施設

・乳房再建用エキスパンダー及びインプラント実施認定施設

下肢静脈瘤

◆実　績

2023年（令和5年）の臨床活動の概要は下表の通りである。

「年間の麻酔別及び疾患大分類別手術手技数」

集計期間　2023年1月1日～2023年12月31日

	入　院	外　来	計
全身麻酔での手技数	75		75
腰麻・伝達麻酔での手技数	11	4	15
局所麻酔・その他での手技数	81	283	364
入院または全身麻酔の手技数計：167			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：287			

疾患の内訳

疾患大分類手技数	入　院			外　来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	13		1		3	37	54
先天異常	1		3			4	8
腫瘍	40		27			229	296
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	4					5	9
難治性潰瘍	9	2	10				21
炎症・変性疾患	7	9	16		1	8	41
美容（手術）	1						1
その他			24				24

診療部門 リハビリテーション科

◆スタッフ（◎部長）

◎寺川　晴彦、前田　香　：（作業療法士長）水田　裕文、他理学療法士29名、作業療法士4名、言語聴覚士2名、義肢装具士２名、健康運動指導士１名、事務員２名

◆概　要

リハビリテーション科専任医師２名［専門医２名（内、指導医１名）］、理学療法士29名、作業療法士4名、言語聴覚士２名、義肢装具士２名、健康運動指導士１名、クラーク２名。

セラピスト：心臓リハビリテーション指導士５名、３学会合同呼吸療法認定士12名、がんのリハビリテーション研修修了32名、サルコペニア・フレイル指導士２名、日本理学療法士協会認定理学療法士15名（循環3名、運動器7名、脳卒中2名、呼吸3名）、日本作業療法士協会認定作業療法士１名。

◆実　績

■リハビリテーション科／室

①新規オーダー件数（件）　PT、OT、ST合計

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
件　数	345	358	395	388	415	385	393	400	424	462	457	436	4.858

②疾患別件数（件）　PT、OT、ST合計

疾患別	運動器リハ	脳血管リハ	がんリハ	心大血管リハ	呼吸器リハ	廃用症候群リハ	合　計
件　数	1.772	1.144	490	459	155	837	4.858

③実施単位数（単位）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
PT	8.442	9.196	10.033	9.282	9.918	9.517	9.772	9.562	9.744	9.513	9.728	9.012	113.719
OT	1.639	1.479	1.693	1.540	1.635	1.431	1.513	1.380	1,437	1,311	1,338	1.356	17.752
ST	324	206	323	483	276	370	423	376	375	410	343	365	4.274

④心リハ外来（単位）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
単　位	280	310	319	296	257	231	242	312	341	247	269	250	3.354

⑤がんリハ（単位数・対象実人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
単　位	847	706	669	687	666	608	506	585	548	503	445	405	7.175
実人数	65	58	58	56	49	47	45	46	46	43	46	39	598

⑤ リハ処方された退院時リハビリテーション指導料（件数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
件　数	338	369	358	352	391	350	386	397	426	399	407	374	4.547

■義肢装具室

院内依頼総件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
件　数	159	126	170	160	172	159	159	150	137	131	146	175	1.844

■健康運動指導士

運動指導等（延べ総件数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
件　数	48	54	77	46	84	54	47	50	72	83	83	66	764

消化器外科

◆スタッフ（◎部長）

（院長）西田　俊朗、◎森本　修邦、◎井出　義人、◎出村　公一、山中　千尋、野中　亮児、村上　剛平、岡　啓史、中本　蓮之介、山川　拓真

◆概　要

＜消化器外科全般＞

当科は上部消化管、下部消化管、肝胆膵の３グループからなり、それぞれ2名のスタッフが担当し、その他医員として4月から岡啓史（平成30年卒）、当院で初期研修を終えた専攻医1年目の山川拓真（令和3年卒）、専攻医3年目として中本蓮之介（平成31年卒）が7月まで在籍した。2023年の消化器外科の手術件数は 609件、そのうち全身麻酔症例は 560件であった。大阪府がん診療拠点病院として、手術だけでなく、化学療法、放射線治療、緩和ケアまで消化器癌のあらゆる段階での治療を行っている。また他院からの緊急手術依頼や救急外来に搬送された急性腹症も積極的に受け入れ、夜間休日はオンコール体制で対応し、消化管穿孔53例、腸閉塞4例、急性胆嚢炎 33例、急性虫垂炎53例など多くの緊急手術を施行した。当科の特徴として内視鏡手術の占める割合が多く、2023年は507件で全身麻酔手術の91%を占めた。12月にはダヴィンチXiを導入し、待望のロボット手術も開始した。

また大阪大学消化器外科の関連施設の一つとして多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。

◆実　績

＜上部消化管＞

食道癌、胃癌、胃・十二指腸粘膜下腫瘍（GIST）、胃・十二指腸潰瘍穿孔、高度肥満症が主な治療の対象となる。担当部長；出村公一、医長；村上剛平の２名が担当している。

中心となる胃癌は、HP感染症率の減少、内視鏡治療の適応拡大により、手術適応症例が全国的に減少している。2023年度は39例の胃癌切除を行った。当院の特徴は、ほぼ全例を腹腔鏡手術で行っており、早期胃癌に対しては単孔式腹腔鏡手術を行い、更なる低侵襲化を行っている。年度後半に手術支援ロボットダビンチXiが導入され、積極的にロボット支援下手術を行っている。また、新たな適応追加となった免疫チェックポイント阻害薬も含めた化学療法を組み合わせた集学的治療も行い、質の高い医療を提供している。

食道癌治療は、大阪大学消化器外科と連携しながら診療を行っている。2023年度は5例の食道切除術を行った。手術適応とならない高度進行癌も多く、免疫チェックポイント阻害剤を含めた化学療法、化学放射線療法を行っている。

GISTを含む粘膜下腫瘍は西田院長就任以降増加傾向であり、昨年度は17例の粘膜下腫瘍切除術を行った。他院からのセカンドオピニオンも多く、他院では治療困難な巨大腫瘍も経験した。消化器内科と合同して行うLECSも積極的に行っており、難易度の高い十二指腸腫瘍に対するD-LECSも施行している。

高度肥満症に対しては糖尿病内科、管理栄養士、精神科を含めた14の職種を含めた「減量・代謝改善手術チーム」にて毎月のカンファレンスを行いながら適応をきめ、2023年度度は4例にスリーブ状胃切除術を施行した。

＜下部消化管＞

下部消化管外科は2019年度より井出義人部長、2022年度より野中亮児医長の2名が担当している。大腸がん（結腸がん、直腸がん）を中心に、良性腫瘍、虫垂炎、大腸憩室症（憩室炎、憩室出血、憩室穿孔）や腸閉塞（イレウス）に対する外科的治療を行っている。特に、大腸がんに対する低侵襲手術、直腸がんに対する肛門温存手術、局所進行直腸がんに対する集学的治療を専門としている。また、痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍といった肛門疾患の手術も行っている。

2023年12月より手術支援ロボット ダビンチXiが導入され、当院でもロボット支援手術が始まっている。ロボット支援手術は、従来の腹腔鏡手術よりもさらなる低侵襲が期待される手術と考えており、できる限

り多くの患者様に適応できるよう心がけている。ダビンチ手術は十分な訓練を経て、認定を受けた医師のみが行うことができ、手術に携わるスタッフも訓練を積み、徹底した安全管理のもとに施行している。

近年、大腸がんは増加しているが、当院での手術件数も増加傾向にある。当院では患者さん一人一人の状態にあわせて治療方針を決定しているが、とくに、体にかかる負担を少なくし、質の高い手術が可能となる低侵襲手術を積極的に取り入れている。また、肛門に近い直腸がんにも出来る限り肛門を温存できるよう、「究極の肛門温存手術」と言われる括約筋間直腸切除術（ISR）も積極的に導入している。進行度に応じて術前化学（放射線）療法など集学的治療を用いて、出来る限り肛門を温存できるようにしている。

切除不能進行再発大腸癌に対しても、それぞれの患者様の病態、状況に応じた全身化学療法レジメン選択を行い、QOLを保った化学療法の実践を心掛けている。井出は日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医であるため、より先進的な化学療法の実践、周囲医療機関への化学療法の啓蒙等も行い、地域の医療レベルの向上に寄与できるよう、心がけている。

お一人おひとりの患者さんにあった、安全で質の高い医療を提供することを第一に、地域の皆様の力になれるよう、全力を尽くしていきたいと考えている。

2023年診療実績
下部消化管（小腸・大腸・肛門）手術　214例
うち結腸癌手術　67例
直腸癌手術　35例
腸閉塞手術　4例
肛門手術　　7例

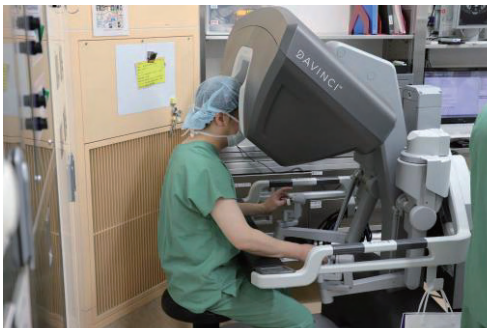
＜肝胆膵外科＞

2020年度より森本修邦部長（2023年１月より外科診療部長）、2023年度より山中千尋医長の２名が担当している。肝癌、胆道癌、膵癌、膵NET、膵嚢胞性疾患、肝嚢胞、十二指腸癌、胆石症、胆嚢炎が主たる治療の対象となる。消化器内科、放射線診断科と週１回検討会を行い、診断、治療方針の決定を行なっている。高齢者の多発肝癌の場合、肝切除と焼灼術を組み合わせた手術や、進行膵癌に対する術前化学放射線療法後の門脈合併切除再建を伴う膵頭十二指腸切除術など、癌の進行度と患者の耐術能を総合的に評価した上で、手術・化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療によって治療成績の向上に努めている。手術方法に関しては根治を目指した拡大手術から、安全性、根治性を検討しながら腹腔鏡下肝切除・膵体尾部切除などの低侵襲手術までさまざまな手術を行なった。急性胆嚢炎に対しては緊急手術を第一選択とした。2023年の手術件数は164例：胆嚢摘出術 130例（うち急性胆嚢炎33例）、肝切除18例（HCC：7例、CCC：1例、転移：10例）、術式：葉切除３例、区域切除3例、部分切除9例、焼灼術１例。膵切除11例（膵癌：９例、IPMN：１例、胆道癌：1例、十二指腸癌：1例）、術式：膵頭十二指腸切除6例（うち門脈合併切除再建3例）、膵体尾部切除5例。原発性肝癌の減少に伴い肝切除が減少しているが、肝切除の腹腔鏡率は89%と葉切除や後区域切除など高難度手術にも適応を拡大した。また膵体尾部切除においても腹腔鏡率75%と血管浸潤のない膵癌にも適応を拡大している。

来年度は肝部分切除や膵体尾部切除にロボット支援下手術を導入予定である。

＜一般外科、その他＞

ヘルニア手術を96例（うち腹腔鏡手術81例）、
婦人科を中心に他科応援手術を7件行った。



＜学術活動＞

2023年度の業績は共著も含めて論文が英文12編、和文6編、
学会発表が19件であった。

がん診療部

◆スタッフ（◎部長）

◎井出　義人（医師）、志方　優子（がん看護専門看護師）

◆概　要

がん診療部は、患者様に最適ながん診療を提供するため、当院内のがん診療を横断的に統括し、共通する課題に多職種で協力して取り組んでいます。月に一度程度、がん診療運営委員会を開催し、がん治療に関連するさまざまな問題について議論し、解決策を検討しています。

がん診療運営委員会では、がん手術療法、がん薬物療法、放射線治療、緩和ケア、がん相談支援センターなど、各分野や部門における課題を共有し、それぞれの専門家が連携して活動しています。医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士、作業療法士、事務職員など、多職種のチームが協力し、患者様一人ひとりに最適な医療を提供するための取り組みを進めています。

さらに、キャンサーボードを主催し、さまざまな職種の参加を促すことで、患者様の抱える問題を多角的に検討しています。治療方針やケアプランについてチーム全体で共有し、患者様にとって最適な医療を提供することを目指しています。また、希少がんやAYA世代（思春期・若年成人）に特有のがん、妊娠中のがん治療、がん治療と就労の両立など、複雑ながん診療の問題にも取り組み、すべての患者様に質の高い医療を提供することを目指しています。

加えて、院内や地域全体に対するがん診療の啓発活動の一環として、講演会を開催し、がんに関する正しい知識の普及に努めています。また、次世代のがん教育の重要性を踏まえ、近隣の学校で出張講義を実施し、多職種が協力してがんに関する教育活動を行っています。

◆実　績

【2023年度】

・がん手術総件数…629件

・化学療法総件数…3,869件

・放射線治療総件数…3,028件

呼吸器外科

◆スタッフ（◎部長）

◎岩﨑　輝夫、坂本　鉄基

◆概　要

呼吸器センター外科部門として、呼吸器（肺・縦隔）領域の外科疾患に対して手術治療を中心に診療を行っている。中でも肺癌の治療を専門としており、肺癌の切除成績向上を目指したEvidence Based Medicine（EBM）を実践するためのEvidenceを創り上げることが目標としている。

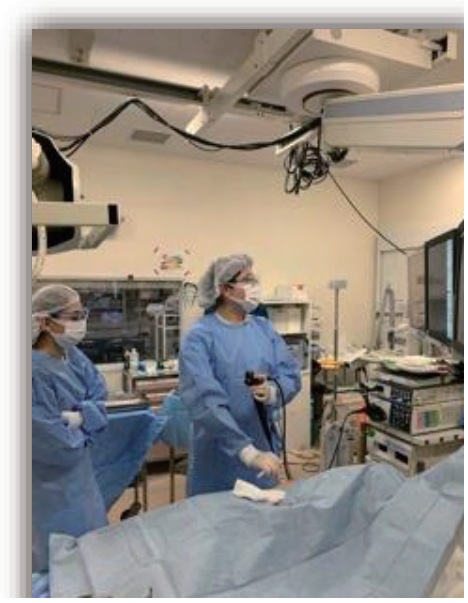
早期肺癌に対しては、原則的に完全胸腔鏡下もしくは胸腔鏡補助下により侵襲の少ない手術を行っており、術後のQOL改善や早期社会復帰に努めている。また局所進行肺癌に対しては、呼吸器内科および放射線治療科と共同で集学的治療を実践し、手術成績の向上を目指している。総合病院の特性と強みを生かして心臓血管外科、消化器外科、整形外科、耳鼻咽喉科など他科との連携下に他病院では手術困難とされる方でも積極的に各種拡大手術療法を行っている。

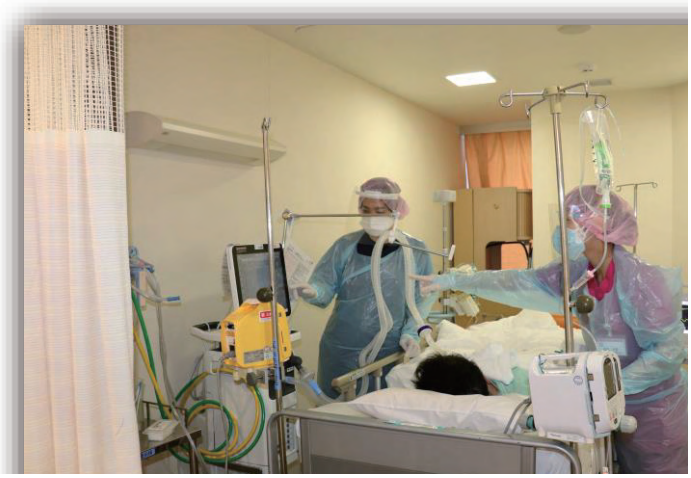
大阪大学呼吸器外科診療連携施設の一つとして多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。

◆実　績

2023年全身麻酔下手術総数は５９例で内訳は以下の通りである。

原発性悪性肺腫瘍：28例　（肺葉切除９例，区域切除８例，部分切除１１例）
気　胸：12例
転移性肺腫瘍：６例
縦隔腫瘍：２例
膿胸：３例
その他：２例





診療部門 乳腺・内分泌外科

◆スタッフ（◎部長）

◎塚本　文音、大谷　陽子、釜野　真由子

◆概　要

スタッフの体制は部長１名、医長１名、専攻医1名。診療内容は乳腺・甲状腺疾患の診断、手術、薬物療法。終末期医療にも対応。がん救急においても、内科、循環器科、整形外科、脳神経外科等との連携により迅速な対応が可能。Weekdayは、すべての曜日で当科医師による初診と再診の外来を行っています。また、初診は予約枠を設けていますが、他医療機関からの紹介がない場合も受け入れています。確定診断が難しい微小乳癌や非触知乳癌が、当科では乳房専用の吸引式組織生検システムにより診断可能。乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施施設認定であり、乳癌の手術と同時に人工物あるいは自家組織による一期的乳房再建が可能。

遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）に対する取り組み：遺伝性乳がんが疑われる方には、遺伝相談外来における遺伝カウンセリングの場を設けています。HBOCと診断され、かつ既に乳がんあるいは卵巣がんと診断された方では2020年４月より、がんがまだ発症していない部位の予防的切除が保険診療となりました（リスク低減乳房切除術、リスク低減卵管卵巣摘出術）。当科でもリスク低減乳房切除術に対応しています。

将来の出産を希望されている患者さんには、当院の産婦人科の「生殖医療の専門医」を紹介するサポート体制があります。

◆実　績

乳癌手術	１０２例
乳腺良性病変に対する手術	１１例
甲状腺癌に対する手術	１例
甲状腺良性病変に対する手術	４例
その他	２例

診療部門　心臓血管外科

◆スタッフ（◎部長）

市川　肇（院長補佐）、◎北林　克清、◎齋藤　哲也、勝谷　礼子

◆概　要

JCHO大阪病院心臓血管外科では、2015年の新病院移転時に開設されたハイブリッド手術室の機能を活かし、大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術などの低侵襲手術を積極的に行って来ました。ハートチームとして循環器内科との連携強化を継続し、大動脈弁狭窄に対する経カテーテル的大動脈弁置換術も周辺の病院に先駆けて行っております。その他、弁膜症に対する胸骨を切らない右小開胸心臓手術（ MICS ）も積極的に取り入れ、今後、患者数の増加が予想される成人先天性疾患についても外来を始めております。

周りの方々のご助力のより、開心術症例数が年々増加、2023年はついに100例を超えました。

今後も多様な循環器疾患に対応して、それぞれの患者様に最適な治療を行えるよう、また安定した手術成績を残せるよう引き続き努力を続けていきたいと考えております。

◆実　績

2023年（１月１日～12月31日）

手術総数 186例

開心術数 114例（冠動脈 23例、弁膜症 56例、胸部大動脈 33例、その他 2例、重複なし）

診療部門　脳神経外科

◆スタッフ（◎部長）

◎榊　孝之、◎山際　啓典、呉村　有紀、豊田　佐織

◆概　要

当科は昭和43年５月に開設された伝統のある診療科です。開設以来、市内はもとより、近隣市より患者さんを紹介していただき、診療に携わってきました。通常の脳神経外科診療以外に、脳疾患救急・脳卒中センター・脳ドッグを担当しています。脳卒中センターは、PSCコア（１次脳卒中センターコア）に認定され、24時間365日体制で、脳神経内科と協力して運営しています。脳卒中専任医師が、直接つながる脳卒中Hotcallを常時携帯し、要請に対応しています。

手術は、従来の開頭手術だけでなく、神経内視鏡手術、定位放射線治療、血管内治療（カテーテルによる治療）など、最新の低侵襲な治療にも積極的に取り組んでいます。血管内治療では、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻に対する塞栓術、内頚動脈狭窄に対するステント留置術など多岐にわたる疾患に対応しています。超急性期脳梗塞に対しては、迅速に診断し、適応があれば、rt-PA静注療法や、機械的血栓回収療法を施行しています。

脳腫瘍においては、良性腫瘍、悪性腫瘍に対応し、手術、化学療法、放射線治療などの集学的治療を行っています。手術は、顕微鏡下に、ナビゲーションシステムや、神経モニターを用いた精度の高い治療を心がけています。髄膜腫などの多血性脳腫瘍に対しては、ハイブリッド手術（カテーテルによる栄養血管塞栓術と開頭摘出術）を行っています。悪性神経膠腫をはじめとした悪性脳腫瘍に対しては、形態的な病理診断学に加えて、遺伝子解析、分子診断を行っています。当院では、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに加わり、「グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテーラーメード治療法の作成に関しての臨床治験」に参加しており、充実した治療体制を構築しています。さらに新しい治療として、交流電場を用いた電場療法を導入しています。

◆実　績

手術件数（2023/１/１～2023/12/31）

総　数：157件

脳腫瘍 17件、脳出血 6件、脳動脈瘤（クリッピング術）10件、水頭症 9件、慢性硬膜下血腫 27件、 その他26件

血管内治療：62件

動脈瘤（コイル塞栓術）21件、頚動脈ステント留置術 10例、機械的血栓回収療法 22例、AVM/dAVF 2件、 その他 7

診療部門 糖尿病内分泌内科

◆スタッフ（◎部長）

（統括診療部長）◎馬屋原　豊、　桂　央士、　上野　圭祐、　外川　有里（通年育休）、中嶋　玲那（通年育休）
レジデント：門澤　莉菜、森本　尚喜（7月～3月）、藤吉　仁史

◆概　要

糖尿病内分泌内科は令和3年4月に内科から独立しました。（ただし、医事統計などは内科に含まれています。）それとともに診療部長と筆頭の医長が入れ替わり、人心を一新しました。地域の先生方から信頼される糖尿病専門施設としての陣容を整えるための施策を行っています。また、内分泌疾患の検査入院なども積極的に受け入れています。2022年度より消化器外科とともに糖尿病肥満外科手術を開始し、2023年度には5例の施設要件を満たしました。より地域の皆様に当科の診療を知っていただくため、福島区健康講座を2回（10月:糖尿病、糖尿病ケアチームと共に、3月:骨粗しょう症、整形外科金山先生たちと共に）開催し、たくさんの住民の方々に参加頂きました。

ガイドラインに準拠した標準的糖尿病治療

・大きく変化する2型糖尿病治療における欧米系ガイドラインに鑑みた治療の標準化への取り組み

1型糖尿病をきちんと管理できる体制作り

・カーボカウント、CSII（インスリンポンプ療法）、SAP（リアルタイムCGMを併用したポンプ療法）など1型糖尿病先進治療への積極的な取り組み

・1型糖尿病患者さんへのリアルタイムCGM導入、インスリン治療患者さんへのisCGM（リブレプロ）の積極的な導入と看護外来での指導によるコントロールの改善

チーム医療の推進

・多職種からなる糖尿病ケアチーム活動の活性化　　・糖尿病透析予防外来の枠拡大

・外来糖尿病教室の継続、世界糖尿病デーイベント　・11階東病棟における多職種カンファレンス

糖尿病地域連携

・糖尿病連携手帳を用いた、糖尿病地域連携パスの導入　・地域の先生方などを対象とした講演活動

糖尿病肥満外科手術

・2022年度から消化器外科にて肥満外科手術開始。当科はチームの一員としてサポートしています。

糖尿病患者データベース

・簡易な糖尿病患者データベース作成による、全体的な患者さんの把握

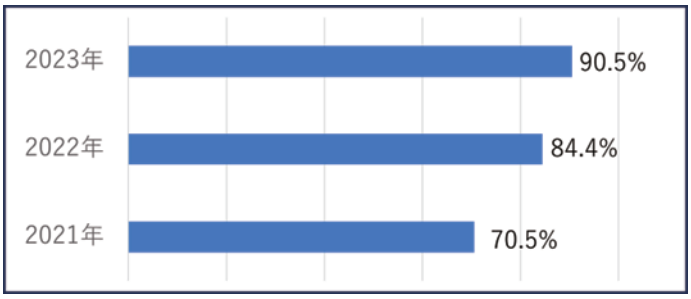
甲状腺・内分泌疾患の精査加療

◆実　績

・外来患者数　　15,356人/年　　・入院患者数　432人/年

・糖尿病内分泌内科QI（Quality Indicator）

外来糖尿病患者（透析中の患者は除く）のうち、尿中微量アルブミンを測定して腎症病期分類をおこなっている患者の割合



腎臓内科

◆スタッフ（◎部長）

◎鈴木　朗、青木　克憲、岩橋　恵理子、山口　慧、中川　和真、玉井　那実、張本　健仁、今中　友香

◆概　要

検尿異常、ネフローゼ症候群、あるいは急激な腎機能低下で発見される腎疾患について、腎生検にて診断し治療を行っております。小児期発症の微小変化型ネフローゼ症候群に対しては積極的にリツキシマブを使用し、ステロイドを減量し副作用を抑えつつ良好な治療成績をあげております。慢性腎臓病については、透析予防外来を開設し、透析導入回避を目標に、最新の知見に基づいた薬物療法、食事療法を提供しております。末期腎不全に至った症例は、療法選択外来を受けていただき各個人の生活スタイルに合わせた最適な腎代替療法を提案させていただきます。当科外来において維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。内シャント狭窄に対するPTAや、ブラッドアクセス作成困難例に対するパーマネントカテーテル留置も行っております。

◆実　績

1）外来診療

2023年に診療した外来患者数は9631例でした。

（2022年11,271例、2021年9,412例、2020年8,834例、2019年8,458例、2018年8,316例）

2）入院診療

2023年度の入院症例は435例でした。（2022年380例、2021年364例、2020年383例、2019年395例、2018年385例）腎生検数22例でした。（2022年21例、2021年33例、2020年22例、2019年32例、2018年40例）、透析導入数には51例と改善が見られました。（2021年47例、2020年37例、2019年39例、2018年39例）でした。腎生検診断の内訳は下記の通りでした。

IgA腎症	8	ANCA関連血管炎	2
糖尿病性腎症	2	微小変化型ネフローゼ症候群	2
腎硬化症	2	巣状糸球体硬化症	1
膜性腎症	2	間質性腎炎、TINU症候群	3
		計	22

3）血液浄化センター

当院は血液透析導入を主たる機能とする急性期病院ですが、維持血液透析患者17名、腹膜透析患者 11名も管理されています。また、吸着式潰瘍治療にも積極的に取り組んでいます。2023年の各療法実施件数は以下の通りです。

HD	2,419	▲658
online HDF	1,760	△198
PE（血漿交換）	15	▲6
DFPP	6	±0
吸着式潰瘍治療（レオカーナ）	4	△4
GCAP（顆粒球吸着）	15	△15
ICUにおける血液浄化	78	▲33

4）経皮的内シャント拡張術

2019年に導入され、当初は入院患者に発症した内シャント狭窄を対象に治療介入を行っておりましたが、2021年からは院外からの紹介も受ける体制を整えております。2023年度は41例実施しました。

（2022年26例、2021年29例、2020年18例、2019年2例）

呼吸器内科

◆スタッフ（◎部長）

◎鴨井　博、◎光岡　茂樹、◎田中　陽子、阪上　和樹、津田　誉至、矢野　朔太郎

◆概　要

呼吸器内科は気管支と肺にまつわる非常に多岐にわたる病気を担当させていただく診療科です。気管支喘息に代表されるアレルギー疾患、タバコが多くに関連するCOPD（慢性閉塞性肺疾患）などの気道疾患、数ある悪性腫瘍の代表である肺癌、細菌性肺炎、肺結核（外来治療のみ）、昨今ではCOVID-19に代表されるウイルス性肺炎などの感染症、リウマチ・膠原病肺に代表される免疫異常や特発性の間質性肺疾患と極めて広い領域を対象にしています。各呼吸器領域の指導医、専門医が在籍しており、かつ当院は呼吸器内科以外の診療科が非常に充実していますので、その特性を活かし、他科とも密接な連携のもとに迅速な診断と最新治療を提供するよう努めています。

対応可能疾患：

肺癌、気管支喘息、COPD、肺炎・胸膜炎、肺結核（塗抹陰性の場合）、非結核性肺抗酸菌症、自然気胸、胸水などの胸膜疾患、特発性、膠原病関連などの間質性肺疾患、在宅酸素導入など。

実施可能な検査：

気管支鏡（超音波気管支鏡EBUSを含む）、CTガイド下生検、エコーガイド下生検、局所麻酔下胸腔鏡、肺機能検査、呼気NO測定検査、PSG検査。

◆実　績

主な入院：2023年度合計：577例

肺腫瘍：211例

肺炎（呼吸器内科担当分）: 85例（膿胸：4例）

間質性肺炎：36例（薬剤性肺障害、過敏性肺炎、リウマチ肺など含む）

気　胸：15例

気管支喘息：11例

COPD：20例

重症Covid19肺炎：19例

主な検査

気管支鏡検査：152件

「局所麻酔下胸腔鏡」： 18件

「超音波内視鏡検査」： 25件

「在宅酸素療法指導管理料」： 101件

感染症内科

◆スタッフ（◎部長）

◎長田　学

◆概　要

感染症はどの臓器にも発生する疾患なので、臓器に関係なく、横断的に各診療科と連携を取りながら診療している。臨床では各診療科からコンサルテーションを受けて担当医と共に感染症患者の診療に当たっており、血液培養陽性患者のチェック、特定抗菌薬（広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬）の管理も行っている。

また院内感染予防対策委員会の委員長、医療安全管理部感染管理室長として、ICTメンバーの看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務職員と共に、院内の耐性菌の発生・伝播の抑制、医療関連感染症（院内感染）の抑制、血液曝露対策、入職者の予防接種、院内スタッフに対する感染症に関する教育講演や広報活動を引き続き精力的に行っている。

さらに、2022年度より感染対策向上加算１が設定され、これまで以上に地域の医療機関との連携による教育講演活動や感染対策の助言を求められる機会も増えて来ている。

◆実　績

2023年度は新型コロナウイルス感染症に対する様々な制限が撤廃された影響か、感染症コンサルト件数が大幅に増加傾向となり、新型コロナウイルス流行前をも上回る水準となった。また、ワクチン・渡航外来が大阪府でも数少ない厚生労働省検疫所や日本渡航医学会の認定施設となり、海外渡航の再開に伴う利用者の拡大が期待される。

１．院内コンサルテーション

各診療科の医師から感染症の診断、抗菌薬の選択、培養結果の解釈、治療期間、隔離の是非や隔離解除の判断等について相談を受け、必要に応じ直接患者を診察し、担当医のニーズに沿う形で診療の助言を行う。

2023年度は延べ692件のコンサルテーションを受けて対応した。

２．血液培養陽性例への介入

血液培養が陽性になる患者は重篤な感染症を生じているリスクが高い。血液培養が陽性になったら全例細菌検査室より連絡を受け、カルテの内容、検査、画像等から問題があると判断した場合は主治医または担当医に連絡して治療方針について協議し、必要があればその後も定期的にフォローしている。

2023年度は631件の陽性例があり、その１/３程度について介入を行った。

３．特定抗菌薬許可制

2002年（平成14年）３月より導入された制度で、広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬のような特殊な耐性菌や真菌に有効な抗菌薬を使用する時は事前に許可が必要である。担当医からの情報で適応の有無を判断し、許可する。その後の臨床経過、培養結果を参考にして、狭域抗菌薬への変更（De-escalation）が可能であれば、ASTチームを通じて担当医と協議する。

2023年度は865件の使用許可の申請があった。

診療部門 消化器内科

◆スタッフ（◎部長）

◎（副院長）金子　晃、◎巽　信之、◎山本　克己、日山　智史、石見　亜矢、氣賀澤　斉史、徳田　有記、澤村　真理子、三浦　勇人、田口　春香、永濱　彰悟、東原　久美、伊藤　悠記、浅田　聡美、中尾　憲史

◆概　要

- 消化器内科領域の指導医・専門医として診療活動と診療指導を行い、外来・病棟・内視鏡センター・超音波検査・手術・処置、周術期管理を含めた診療や医療行為の安全かつ円滑な運営を図るように努めている。
- 肝疾患領域では、ウイルス性慢性肝疾患に対する抗ウイルス治療に加えて、脂肪肝や自己免疫性肝疾患などの非ウイルス性肝疾患の診断と治療にも取り組んでいる。最近増加傾向にある脂肪肝については患者やクリニックの医師に対する啓蒙活動の取り組みも開始している。肝細胞癌に対してはラジオ波治療やマイクロウェーブ治療、肝動脈化学塞栓療法、放射線治療に加えて免疫チェックポイント阻害薬を用いた化学療法も積極的に行い、予後の改善をめざした集学的治療に取り組んでいる。
- 胆膵疾患領域においては、救急患者の受け入れ増加に伴う急性膵炎や胆管炎などの救急疾患が増加しているのに加えて、膵癌や胆道癌の患者数も増加しており、積極的に診断、治療に取り組んでいる。また、膵癌の早期発見に向けた患者やクリニックの医師に対する啓蒙活動の取り組みも開始している。
- 消化管疾患においては、食道癌、胃癌、大腸癌に対する内視鏡治療（ＥＳＤ）に積極的に取り組んでおり、紹介患者の増加に伴い症例数も増加している。また、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患も増加しており、治験も含めた新規薬剤の導入を積極的に進め病状の改善に取り組んでいる。
- 癌診療領域においても、肝胆膵と消化管の癌に対して、早期診断と治療に取り組み、積極的に内視鏡治療や超音波器機を用いた低侵襲癌治療を推進している。また、進行癌に対する抗癌剤治療にも積極的に取り組み予後の改善をめざしている。さらに、緩和医療も含めた終末期医療についても取り組んでいる。消化管・肝・胆膵のカンファレンスを定期開催し、消化器内科・外科・放射線診断科・病理科等が協力し適切な治療計画の立案と実行、加えて治療後の評価を行っている。
- 病診・病病連携を深めるため、積極的に院内外で講演活動を行い、新規患者の紹介数の増加に取り組んでいる。
- 地域連携を推進するために、本院主催での消化器疾患の研究会を行っている。加えて、地域医師会や医療機関と協力し、地域連携を目的とした研究会を開催し、当院からの情報発信に取り組んでいる。
- 患者教育・疾患啓発のために、地域医師会や医療機関と連携して市民公開講座を定期的に行っている。
- 若手の医師の教育に力を注ぎ、消化器内科医として必要な知識と技術の習得が行えるよう指導を行っている。また、看護師を含めたコメディカルと協働して円滑なチーム医療が行えるよう指導を行っている。臨床研究にも積極的に取り組んでいくよう教育を行っている。
- 消化器内科として、診療の質の向上に努め、病院運営に貢献できるように努めている。適切な教育・指導により人材の確保と養成を行う。さらに、大阪大学との協力関係を維持し、人材の育成や臨床研究の推進に努めている。

◆実　績

消化器内科領域の指導医・専門医としての診療活動と指導を行い、消化器内科医師及び各診療科スタッフの協力により、近隣から救急搬送を含む依頼を断ることなく対応し、入院患者数も増加している。
また、内視鏡センターにおいて多くの内視鏡検査と手術を行っている。

- 内科系各診療科と協力し、内科系の医療の質向上に努めている。
- 各職種と連携して円滑で安全な診療に努め、医療・看護教育活動も定期的に開催している。
- 診療実績の向上を図りつつ、働き方改革に即した勤務体制・環境の適正化に努めている。

診療部門 循環器内科

◆スタッフ（◎部長）

◎小笠原　延行◎三好　美和、佐伯　一、中川　雅美、有田　陽、倉岡　絢野、藏本　見帆、福井　智大、山本　将平、廣瀬　江祐、小畑　理沙子

◆概　要

冠動脈疾患・末梢動脈疾患・心不全・弁膜症・心筋疾患・不整脈・成人先天性心疾患・静脈血栓塞栓症・睡眠時無呼吸症候群など、各種循環器疾患の診断・治療を行っている。心臓カテーテル検査・心臓超音波検査・心臓核医学検査・冠動脈 CT・心臓 MRI など循環器系の専門検査が可能であり、幅広い領域での臨床・研究を行っている。心不全に関しての患者教育・指導に力を入れており、心不全教室による患者教育、病診連携による治療管理体制を進め、心臓リハビリテーションとして、入院から外来への患者指導、運動療法を行っている。

虚血性心疾患の治療に関しては、急性心筋梗塞（急性冠症候群）に対して、24時間体制で、冠動脈再灌流治療を行っている。慢性冠動脈疾患に関しては、運動負荷試験、心筋シンチ、FFRアンギオ などを用いて、虚血の評価を行い、症例ごとに最適な治療を行っている。ロータブレータによる石灰化病変へのインターベンションや慢性閉塞性病変への血行再建も可能である。ステント留置のみならず、薬剤溶出性バルーンを用い、ステントレスのインターベンションも試みるようにしている。不整脈に関しては心房細動を中心とした各種不整脈に対するカテーテルアブレーションを積極的に行っており、予後に対する成績評価・有効性を検討している。

徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療ではこのところリードレスペースメーカーの症例が増加しているまた致死性不整脈に対する植込み型除細動器治療や心不全に対する心臓再同期療法も適応を検討しながら行っている。

透析患者や糖尿病患者も多く、重症下肢動脈虚血の症例に対して、皮膚科・形成外科・心臓血管外科・糖尿病内科・腎臓内科で協力して、フットケアチームとして治療にあたっている。

静脈血栓塞栓症は、外科手術や悪性疾患と密接に関係しているため、迅速な診断・治療を心掛けている。抗凝固療法の困難な症例には、肺塞栓予防のため、下大静脈フィルター留置も可能である。

睡眠時無呼吸患者についてはポリソノグラフィーによる検査入院にて、治療の適応を決めている。心臓血管外科との連携も密接にとっており、冠動脈バイパスや弁膜症の手術も迅速に対応してもらっている。

急性大動脈解離に関しては循環器内科にて初期対応・診断を行い、迅速に心臓血管外科にて手術・ステント治療行っていただいている。

2019年度より経皮的カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）を開始して確実に症例数を増やしている。特に救急医療には積極的に対応しており、ホットラインも駆使し、24時間体制で、救急隊や地域医療施設からの救急患者を受け入れている。

◆実　績

年間の治療件数

冠動脈インターベンション：146件（急性心筋梗塞 36件）

末梢動脈疾患インターベンション：57件

カテーテルアブレーション：189件

新規ペースメーカー植込み：35件（そのうちICD 7件）

経胸壁心臓超音波検査：3,641件

心臓核医学検査：540件

冠動脈CT：511件

心臓MRI：28件

TAVI：23件

診療部門 皮膚科

◆スタッフ（◎部長）

◎竹原　友貴、池田　彩、春木　優介

◆概　要

地域医療支援病院として近隣医療機関からご紹介いただいた皮膚疾患全般を中心に診療しています。

乾癬診療では、全身型ナローバンドUVB機器による紫外線治療が可能であり、また、日本皮膚科学会の生物学的製剤承認施設でもあります。

難治性の慢性蕁麻疹やアトピー性皮膚炎、結節性痒疹に対する新規治療薬による治療も行っています。糖尿病性足潰瘍をはじめとする難治性皮膚潰瘍では、原因・病態に即した治療を行い、必要時にはフットケアチームとしてチーム医療を行っています。陥入爪・巻き爪では爪を極力温存する方針で治療しています(一部自費診療)。

そのほか、液体窒素凍結療法、局所免疫療法(SADBE)、パッチテスト(パッチテストパネルS、金属アレルゲン)に対応しています。

◆施設認定

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

乾癬生物学的製剤使用承認施設

静脈圧迫処置

◆実　績

(令和5年4月～令和6年3月31日)

総外来患者数…9,211

1日平均外来数…37.9

1日平均入院患者数…6.0

総新患者数…645

入院手術数…62

外来手術数…117

皮膚生検数…257

【業　績】

論文・著書 なし

学会・研究会発表:3演題

診療部門 泌尿器科

◆スタッフ（◎部長）

◎藤本　宜正、◎松岡　庸洋、伊藤　卓也

◆概　要

2023年度は常勤医３名、非常勤医（外来のみ）２名の構成で、１月～12月の診療実績は外来延患者数9,270人、新患者数（初診）254人、外来１日平均患者数38.1人、入院延患者数3,764人、新入院患者数378人でした。2024年3月で藤本が定年退職となったため、藤本体制最終年度でありました。2024年4月に新部長が着任予定です。

2024年1月に当院にロボット支援手術機器（ダヴィンチ）が導入され、当科でも2024年3月に前立腺癌に対して、ロボット支援下根治的前立腺全摘除術を開始いたしました。次年度の2024年度以降、前立腺癌だけでなく、腎癌に対するロボット支援下腎部分切除術、ロボット支援下根治的腎摘除術、腎盂尿管癌に対するロボット支援下根治的腎尿管全摘術、腎盂尿管狭窄症に対するロボット支援下腎盂形成術などを開始予定であり、ロボット支援手術全盛時代において、当院の泌尿器科においても先進的かつ標準的な手術を提供できる体制が整いました。

また、2022年4月に生殖医療の一部保険診療化が開始されましたが、当科にも生殖医療専門医（松岡）が着任し、男性不妊症に対する生殖医療手術（顕微鏡下精索静脈低位結紮術、顕微鏡下精巣内精子採取術）も開始しました。

ロボット支援手術をはじめとして泌尿器科で行える治療のすべてに対応できる体制が整いました。これまで以上に地域に貢献する泌尿器科となるべく、泌尿器科に関るどんなことでもお気軽に紹介いただければ幸いです。

◆実　績

泌尿器科年間手術件数（2023年4月１日～3月31日）

年間手術件数（ESWL 以外）　１９７件

開放手術　33件		腹腔鏡手術　20件	
副甲状腺摘除	5件	副腎摘除	5件
後腹膜腫瘍摘除	2件	腎(尿管)摘除	14件
腎摘除	5件	腎部分切除	1件
膀胱部分切除	1件	ロボット支援下手術　1件	
陰嚢内容手術	11件	ロボット支援下根治的前立腺全摘除術	1件
陰茎手術	1件	内視鏡手術　151件	
顕微鏡下精索静脈低位結紮術	1件	経尿道的尿管砕石	38件
顕微鏡下精巣内精子採取術	2件	経尿道的膀胱腫瘍切除	66件
その他	5件	経尿道的前立腺切除	6件
		経尿道的膀胱砕石	5件
		その他	36件

年間ESWL件数　30件　前立腺生検　59件

診療部門 産婦人科

◆スタッフ（◎部長）

◎筒井　建紀、◎井上　貴史、◎大八木　知史、清原　裕美子、繁田　直哉、田中　稔恵、光田　紬、花澤　綾香、一宮　汐里、久原　ゆい

◆概　要

10名のスタッフで、外来診療、病棟診療、分娩、手術を実施しています。

◆実　績

令和５年度は、分娩数 450件(うち帝王切開術 93件、吸引分娩 46件、鉗子分娩 4件、双胎分娩7件、無痛分娩54件)、婦人科手術数 291件(うち悪性腫瘍手術 28件、腹腔鏡下手術108件、子宮鏡下手術70件)を取り扱いました。

産科診療では、なるべく医療介入の少ない自然なお産を基本的な姿勢としています。医学的適応があれば、分娩誘発や吸引・鉗子分娩、帝王切開術などを適切に行っています。妊娠34週以降の分娩症例を取り扱いますので、妊娠34週未満の早産症例については、近隣の分娩施設をご紹介します。また、希望者には、無痛・和痛分娩を提供できる体制を整えています。

婦人科診療では、良性腫瘍、悪性腫瘍、骨盤性器脱、性器形態異常などに対し、開腹手術・内視鏡下手術(腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術)・腟式手術などの手術療法を行っています。また、月経異常・ 更年期障害など卵巣の機能に関わる女性特有の疾患に対して、ホルモン治療・漢方薬治療などの薬物療法など、それぞれの患者さんに適した手術療法をご提案します。また排卵誘発剤を用いた不妊治療や子宮卵管造影検査(HSG)なども実施しています。

現在、多くの医療情報はインターネットなどでも得ることができます。しかし、エビデンスに基づく医療として紹介されている情報であっても、それぞれの患者さんにとって必ずしも最適な治療とは限りません。同じ疾患でも、患者さんの年齢や医学的な見地から、最適な治療法は異なることはしばしばあります。また、専門の医師の間ですら治療方針などが異なることは、よく起こることです。これが医療の難しいところです。

私たちは患者さんと向き合い、十分にコミュニケーションをとりながら、必要な治療は何なのか、何が適切な治療なのかを常に考え、最適な治療法を提供できるよう、また新しい病態を含めたあらゆる産婦人科疾患に対応できるよう、日々努力と研鑽を惜しまず診療に取り組んでいます。是非、ご相談にお越しください。専門のスタッフがお待ちしております。

なお、当院は、

・日本産科婦人科学会　専門医制度専攻医指導施設

・日本周産期・新生児医学会　周産期専門医(母体・胎児)暫定認定施設(補完認定施設)

・日本生殖医学会　生殖医療専門医制度認定研修施設

・日本産科婦人科内視鏡学会　認定研修施設

・日本女性医学学会　専門医制度認定研修施設

など、多くの産婦人科関連学会の研修施設に認定されています。

診療部門 眼科

◆スタッフ（◎部長）

◎大黒　伸行、◎眞下　永、南　高正、春田　真実、梅村　亨平、濱野　結貴、三宅　隆裕：視能訓練士６名

◆概　要

常勤医師7名（専門医5名）、非常勤医師3名（全て専門医）で診療を行っており、眼科診療の各分野において専門とする医師を配置しております。特に、眼炎症、緑内障、網膜硝子体を得意分野としております。斜視弱視の専門外来は火曜日午後のみとなり、また手術には対応できなくなっております。白内障手術では日帰り手術・入院手術のいずれにも患者様のご要望にお応えできるようになっております。

なお、2024年4月からは網膜硝子体手術を専門とする常勤医が不在となるため、網膜剥離や眼内炎など緊急手術の必要な症例には対応できませんので、ご了承ください。

◆実　績

令和5年４月から令和6年３月において、白内障手術662件、網膜硝子体手術134件、緑内障手術121件行っております。ベーチェット病に対するレミケード治療を受けている方は39名、難治性ぶどう膜炎に対するヒュミラ治療83名、眼内悪性リンパ腫の治療・経過観察を受けている方は55名と難治性ぶどう膜炎に対する治療を積極的に行っております。

診療部門　耳鼻いんこう科

◆スタッフ（◎部長）

◎前田　陽平、芦田　直毅、永田　明弘、真栄田　圭

◆概　要

耳鼻いんこう科は耳・鼻・のど・頸部（くび）など幅広い領域をカバーしています。

２０２２年４月に前田が部長で赴任後は、前田の専門分野である鼻副鼻腔疾患、特に経鼻内視鏡手術に力を入れています。また入院期間も短縮し、短期滞在手術が可能となりました。

慢性副鼻腔炎や鼻腔腫瘍、副鼻腔腫瘍、アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症などで手術加療を考慮されている方の紹介が非常に増えています。

もちろん基幹病院の耳鼻咽喉科として耳・のど・頸部など下記のような疾患にも幅広く対応して参ります。頭頸部扁平上皮癌については癌専門施設に紹介する場合がありますが、お気軽にご相談ください。

日本耳鼻咽喉科学会認定研修施設
日本アレルギー学会認定研修施設
日本鼻科学会鼻科手術研修認定施設

◆診療内容

慢性副鼻腔炎（好酸球性副鼻腔炎を含む）、鼻副鼻腔腫瘍	内視鏡下鼻副鼻腔手術など
鼻中隔湾曲症（前方湾曲を含む）	鼻中隔矯正術など
アレルギー性鼻炎・肥厚性鼻炎	粘膜下下鼻甲介骨切除術・後鼻神経切断術など
頭蓋底腫瘍	頭蓋底手術
慢性涙嚢炎	涙嚢鼻腔吻合術
嗅覚障害	原因に応じた投薬・手術など
慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎	鼓膜形成術・鼓室形成術
甲状腺腫瘍・唾液腺腫瘍	甲状腺腫瘍摘出術・唾液腺腫瘍摘出術
声帯腫瘤	顕微鏡下喉頭微細手術など
慢性扁桃炎・アデノイド増殖症	口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術
頸部膿瘍	切開排膿術など
顔面神経麻痺・突発性難聴	ステロイドを中心とした治療

◆実　績

手術件数（2023年度）

内視鏡下鼻副鼻腔手術	324
下鼻甲介手術	456
鼻中隔矯正術	214
後鼻神経切断術	158
変形外鼻手術	16
口蓋扁桃摘出術	91

頸部良性腫瘍・腫瘤手術	10
頭頸部悪性腫瘍手術（頸部郭清術含）	5
気管切開術	6
鼓膜形成術・鼓膜チューブ留置術	6
その他	41
合　計	1,327

診療部門　小児科

◆スタッフ（◎部長）

◎柏木　博子、◎石浦　嘉人、◎松下　浩子、原田　大輔、五味　久仁子、西村　美杉、近藤　可愛（通年育休）、阪本　夏子、上山　薫（9月～育休より復帰）、井上　泰輔、野口　杏子

◆概　要

令和５年度は小児科医11名（日本小児科学会専門医・指導医５名、専門医５名）が小児科に在籍した。日本内分泌学会専門医、日本小児神経学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本小児循環器学会専門医、日本アレルギー学会専門医などが常勤医として在籍する他、外来応援医師６名の派遣を受けた。

当院小児科は新生児から成人後の移行期まで幅広く対応可能な総合小児科であり、小児一般診療、専門外来、小児救急医療、周産期医療を提供している。また、大阪市西部地域小児医療の基幹病院として、大阪府小児地域医療センターの指定を受けている。

外来は、午前中は一般外来中心、午後からは予防接種、乳児健診とともに、予約制専門外来を行っている。内分泌・骨代謝・骨系統疾患、小児神経、小児消化器、小児循環器、アレルギー、遺伝相談の専門外来を開設している。専門外来では特に、成長ホルモン補充療法、性腺抑制療法、骨系統疾患に対する酵素補充療法やビスホスホネート治療、抗体治療など、川崎病患者長期フォローアップや学校心臓検診の要精査者の精密検査などに力を入れている。地域かかりつけ医からの紹介患者受け入れの他、大阪市中央急病診療所の後送病院として、入院を要する救急患者の受け入れ・診療を担っている。

病棟は、小児病床22床、NICU6床に加えて、プレイルーム2室を備え、小児病棟には保育士が配置され、長期入院児は希望があれば支援学級への編入により授業を受けることが可能である。急性疾患・新生児疾患の他、内分泌負荷試験、鎮静下MRI、脳波、食物経口負荷試験、鎮静下小児消化器内視鏡などの検査入院や先天性疾患、慢性疾患の入院診療にも対応している。

NICU（新生児集中治療室）は24時間体制で、すべての帝王切開や異常分娩には小児科医が立ち会っている。産婦人科と連携し、合併症妊婦やハイリスク妊婦に出生前から関わり、新生児医療へスムーズに移行できるよう取り組んでいる。また近年ニーズの高まる出生前遺伝学的検査にも、臨床遺伝専門医を中心に関わり、適切な情報提供ができるよう努めている。

当院では大阪市産後ケア事業を提供しており、利用する母子に対して小児科医としてサポートし、切れ目ないトータルケアを提供している。養育支援を必要とする児や被虐待児の診断、治療を行い、地域保健センターや子ども相談センターと連携して、子どもおよびその家族の支援を行っている。

研究面では内分泌・代謝疾患や骨系統疾患を中心に、臨床研究・治験を積極的に実施している。教育面では日本小児科学会小児科専門医研修支援施設として、小児科専門医育成にも力を注いでいる。

◆実　績

論文・著書　英文4編、和文1編

学会発表・講演　10演題

（人）

新規小児入院患者数	1,063
NICU入院患者数	162
外来患者数	9,046
救急外来患者数	465

診療部門　神経精神科

◆スタッフ（◎部長）

◎山森　英長、松下　紗織、中川　雄太、精神保健福祉士１名、非常勤心理療法士５名

◆概　要

当科外来では地域の皆様に貢献できるよう、精神疾患全般の診療を行っております。

認知症の診断・治療の導入・周辺症状への対応、ストレス関連障害、不安障害、気分障害、統合失調症の治療、診断の難しい精神疾患の診断、また、思春期・青年期（高校生以上）の精神疾患の診断・治療等、多岐にわたり対応が可能です。

外来以外では「総合病院の神経精神科」として、他科との連携を重視し、身体疾患により当院他科へ入院中の患者さんに生じた、せん妄、不眠、抑うつ、不安等への診療（リエゾン精神医学）が重要な役割と考え、診療にあたっております。さらに、チーム医療にも積極的に関わっており、緩和ケアチームのメンバーとして精神科医の視点から、がん患者さんの症状緩和や精神症状への対応を行ったり、また、認知症ケアチームのメンバーとして、認知症の方が身体疾患のため入院された際の、周辺症状への対応、ADLや認知機能の低下が生じないような対応をチームメンバー、病棟看護師とともに行っております。

また教育面では、初期研修医の研修・指導を行っているとともに、日本精神神経学会、日本総合病院精神医学会の専門医研修施設の認定を受けており、精神科専門医、一般病院連携（リエゾン）精神医学専門医の育成にも力を注いでおります。

◆実　績

令和5年度診療実績（令和5年４月～令和6年３月）

		合　計	月平均
外　　来	初　診	300	25
	再　診	7,157	596
リエゾン	初　診	429	36
	再　診	1,618	135

延べ診察数：9,504

１日当たりの平均診察数：38

診療部門 脳神経内科

◆スタッフ（◎部長）

◎髙田　和城、◎村瀬　翔、山下　和哉、中嶋　拳也、◎上田　周一、◎寺川　晴彦

◆概　要

当科は平成８年の開設以来、脳卒中を中心とした神経内科疾患の診療に従事し、本年もSCU　での脳卒中を中心とした診療に加えて、てんかん・髄膜炎・ギランバレー症候群などの神経救急疾患も積極的に受け入れている。今年度より主任部長の高田、脳卒中・神経救急担当部長の村瀬が着任し、脳血管治療専門医である村瀬を中心に脳神経内科でも血管内治療を行っている。一方で、地域医療機能推進の一環として、神経難病の患者さんも増加傾向にあり、遺伝子診断・治療や免疫修飾療法・ボトックス注射などの特殊治療にも対応している。

◆実　績

脳神経外科と連携してのSCU9床の稼働率は例年通り90％以上で推移していた。

本年度は、高田、村瀬、専攻医中嶋が赴任し、SCUセンター長1名、部長3名(1名リハビリテーション科部長兼任)・医長1名、内科専攻医1名の計6名での病棟運営および脳外科との共同・院外からの当直専従医の補助によりSCU当直の運営をおこなった。SCU、一般病床を含めて、年間約380名の入院患者を受け入れた。

脳卒中については、t-PAや脳神経外科との協力による血管内治療などの超急性期治療実施件数が、年間20例を維持し、学会が求める施設目標を達成した。当科のSCU緊急入院数は199名で、脳神経外科と連携してのSCU9床の稼働率は例年通り90％以上で推移していた。脳卒中ネットワークを介しての回復期リハビリテーション病院への転院や療養支援も順調であった。

その他一般神経疾患についても、神経救急疾患に対するICU 管理のほか、免疫性神経疾患に対するステロイドパルスや血漿交換を中心とした免疫修飾療法に従事。大阪大学からの応援医師のもと、筋生検も施行。神経難病に対する特定疾患申請・在宅支援や脳卒中後遺症患者さんをも含めた身体障害認定継続の他、拘縮四肢に対するボトックス治療なども継続している。小児科柏木部長の協力での遺伝子診断の他、遺伝子治療としての脊髄性筋萎縮症に対するヌシネルセンの髄液内投与治療、多発性硬化症に対する皮下注射製剤を用いた免疫修飾療法や重症筋無力症や視神経脊髄炎に対するバイオ製剤使用も症例に応じて積極的に使用している。

脳卒中以外の主要神経筋疾患は延べ入院数で、ALS（筋萎縮性側索硬化症）：5例、脊髄性筋萎縮症（ SMA ）：2例、パーキンソン病：13例、多系統萎縮症：4例、脊髄小脳変性症：1例、多発性硬化症/視神経脊髄炎： 6例、重症筋無力症：6例、ギランバレー症候群：6例、髄膜炎を含めた神経感染症：9例、てんかん：23例などであった。日本神経学会認定教育施設として、学生実習や初期研修医の受け入れも積極的に行い、初期研修医１年目7名、２年目5名の初期研修医、および日生病院からの内科専攻医1名が当科で研修した。

診療部門 放射線診断・IVR 科

◆スタッフ（◎部長）

◎臼杵　則朗、◎北山　聡明、大倉　隆介、崔　朝理、小林　彰太郎

◆概　要

当科は現代の医療に不可欠なCT、MRI、RIの画像診断の大部分を行うとともに、画像支援の下カテーテル操作を駆使しながら治療を行う画像下治療（IVR）を行っています。5名の放射線診断専門医(内４名は指導医)が在籍し、内２名はIVR専門医を、１名は核医学専門医資格も有しています。

撮影にあたってはオーダー医の目的に適うような撮影法となるように指示を出し、最大限の画像情報が提供できるようにしています。さらに、診断レポートは迅速に作成し、オーダー医が治療方針を的確に決定できるように協力しています。また、近隣医療機関からの検査依頼も当日検査も含め積極的に受け入れるようにして病診連携にも力をいれています。

IVRは断らないことをモットーとしており、肝細胞がんの塞栓術、ポート留置術といった手技はもとより、止血術、ドレナージといった救急症例にも積極的に対応し、各科の要望に応えるようにしています。今後は、緩和医療等も適応範囲を広げていきたいと思っています。

教育面では、日本医学放射線学会より放射線専門医修練施設、日本IVR学会よりIVR専門医修練施設、日本核医学会より専門医教育機関の認定も受けています。

画像、IVRで何か疑問なことがあればお気軽にお尋ねください。

◆実　績

2023年度モダリティー別レポート件数およびIVR件数

（　）内は他施設より依頼

CT	22,729（768）
MRI	10,506（380）
RI	524（11）
IVR	147（33）
止血術	18
ドレナージ	16

診療部門　放射線治療科

◆スタッフ（◎部長）

◎西多　俊幸、前角　智子

◆概　要

放射線治療科は悪性腫瘍を対象にした放射線治療を専門に行います。放射線治療は体外照射と体内照射に大別され、当科で行うのはリニアックを用いた体外照射のみです。放射線治療は目的によって根治的にも緩和的にも適応できますので、ほとんどの癌がなんらかの放射線治療の対象となりえます。また、放射線治療は集学的治療のひとつとして化学療法や手術と併用されますので、当科では他の臨床各科との連携のもとに各種の悪性腫瘍に対する放射線治療を行っています。

体外照射に用いる治療装置として、汎用リニアックであるElekta社製Infinityが設置されており、強度変調照射や体幹部定位照射などの高精度放射線治療にも対応しています。

放射線治療を適切に行うには各分野の専門スタッフの協力が不可欠であり、放射線治療専門医をはじめとして放射線治療専門技師や医学物理士、さらに専従看護師や事務職員などが診療にあたっています。特に高精度放射線治療を安全に施行するには高度な物理学的知識が必要とされるので、医学物理の専門家による支援が不可欠です。また基本的に癌患者が対象であるため、メンタル面でのサポートも含めて看護師の役割が重要であるのも当科の特徴といえます。

放射線治療は根治目的にも緩和目的にも用いることができます。高精度照射に代表される根治照射が注目されますが、癌患者の多くは術後補助療法や緩和医療としての放射線治療を必要としています。当科ではこれら通常照射の重要性をふまえた上で、限られたスタッフで可能な限りの高精度照射も提供できるように努めています。

高精度照射としては体内の多くの部への強度変調照射を保険診療の範囲内で実施しています。体幹部定位照射は肺と肝臓を主な対象に施行しており、適応症例では脊椎転移への定位照射も行っています。

◆実　績

高精度放射線治療として強度変調放射線治療と体幹部定位照射を行っています。

2023年（１月～12月）

延べ照射件数	3,053件	
治療計画数	246件	（１門・対向２門：32、非対向・３門：54、４門以上：114、強度変調照射：21、体幹部定位照射：12）
総照射部位数	183部位	（乳房：66、骨：34、肺：27、脳：13、前立腺：3　など）
全治療患者数	174名	（原発巣別 乳腺：74、肺：49、肝胆膵：14、胃-小腸-結腸-直腸：13 など）

診療部門　麻酔科

◆スタッフ（◎部長）

◎山間　義弘、◎佐藤　善一、◎清水　雅子、佐藤　八江、西田　宙夢、中新　恭平、今村　圭佑、大熊　尚美、黒澤　すみれ

◆概　要

現在スタッフは10名（麻酔科部長1名、集中治療部部長１名、緩和ケア・ペインクリニック科部長1名、医長１名、医員５名）で、それ以外に非常勤医師に応援に来てもらっています。大阪大学歯学部と大阪歯科大学の歯科麻酔科から医科麻酔の研修として１年間の研修を受け入れています。初期臨床研修医は全員１年目に麻酔科での研修が必須とされており、2ヶ月間麻酔の基本を中心に研修をしています。

手術室は12室ありますが、麻酔科の管理枠としては最大7列としています。時には手術室以外のアンギオ室で麻酔管理を行うこともあります。

集中治療室は、日勤帯は佐藤善一部長を中心に専従医として各科医師と協力しながら患者管理を行い、当直業務は麻酔科と心臓血管外科が行っています。

2023年度より清水雅子先生が部長として緩和ケア・ペインクリニック科を開設することになり、主に外来での疼痛管理を行っています

本院の麻酔科の基礎を築かれた久保田行男先生、その教えを忠実に守られた豊田芳郎先生らの時代は何よりも患者さんの「安全」を最優先に考えておられました。麻酔科管理症例のほぼ全例に病棟での胃管挿入、経鼻挿管時の意識下挿管、小児の意識下での静脈路確保、麻酔導入前のＡライン挿入など、時として患者さんの苦痛を伴う処置であったことも否定はできませんが、安全重視という理念はこれからも受け継ぎ、手術室での医療事故がないように努めていきたいと思います。

ただ時代の流れとともに管理方法も少しずつ変遷し、気管挿管の器具においては、以前はマッキントッシュ型喉頭鏡だけでしたが、今ではマックグラスというビデオ喉頭鏡を用いることで、挿管困難症例でも容易に挿管できるようになりました。また中心静脈カテーテル挿入に関しては、エコーを用いることで安全かつ容易に手技を行うことができるようになりました。

新病院となってからは手術室部門システムを導入し、麻酔記録が電子化されてバイタルの記録が自動化されました。これにより患者さんの急変時にも正確な記録が残ると同時に、記録業務が省けることで、迅速な対応に専念できるようになりました。

今後、ますます手術件数の増加が予想されますが、どのような場合でも基本である患者さんの安全を忘れることなく、術中管理は言うに及ばず術後の回復も考慮した麻酔を心掛けていきます。

◆実　績

2023年度の手術症例数は5,497例で、そのうち麻酔科管理症例は3,820例（全身麻酔3,302例、脊髄くも膜下麻酔518例）でした。

診療部門　歯科・歯科口腔外科

◆スタッフ（◎部長）

◎藤本　佳之（～7月）、◎妹尾　日登美（8月～）、木下　久美子（‘23年6月～’24年3月まで育児休業）、光吉　希（2023年6月～2024年3月）、久保　茂正（月1回非常勤）、歯科衛生士3名

◆概　要

スタッフは2名で口腔外科疾患を主体に診療を行っています（口腔外科専門医・指導医1名在籍）。埋伏歯の抜歯や難抜歯、歯の移植、口腔粘膜疾患、顎関節症、顎骨のう胞、顎骨腫瘍、炎症性疾患、薬剤関連顎骨壊死、軟組織腫瘍、顎骨骨折、インプラント等に対する診療を行っております。

また他科手術・化学療法中の患者様の周術期口腔管理や誤嚥性肺炎等の患者様に対する口腔ケアを積極的に行っており、合併症予防に寄与しております。

◆実　績

8月からの部長交代に伴い、中央手術室での手術件数は増加傾向にあります。

また静脈内鎮静下での口腔外科手術を開始しております。

初診患者数　2,016人

手術室手術件数　54件

入院患者数　88人

外来手術件数　836件（‘23年1－12月）

周術期口腔管理件数　1,890件（‘23年1－12月）

診療部門 病理診断科

◆スタッフ（◎部長）

◎吉田　康之、 中井　千晶、 緒方　正史、 大西　由希子

◆概　要

病院における病理科、「びょうり」部門とは患者さんの病巣組織の一部を採取し顕微鏡で観察、癌かあるいは他の疾患かを診断する部門であります。

胃カメラや大腸内視鏡検査で消化管粘膜面を観察しながら異常部分の粘膜組織片を採取し（生検）、そのパラフィン切片にH－E染色を施した組織標本を作製し、これを顕微鏡下に観察して胃癌や大腸癌があるのか、又は、潰瘍や炎症やポリープだけなのか？ を判定し診断する。病理科とはこのような診断業務を司る部門であり、病院にとって重要な役割を担っております。

そして、喀痰、尿、胸腹水、子宮頸管や内膜からの擦過材料、乳腺・甲状腺・リンパ節などの穿刺材料をスライドグラスに塗布してパパニコロー染色を行い、やはり光学顕微鏡にて癌細胞の有無を見分ける細胞診も病理科の主たる業務の一つであります（細胞診）。

さらに、手術で摘出された臓器あるいはその一部を肉眼的に充分に観察してそれから病理組織標本を作製し、癌であるならば、取り残しなく完全に摘出されているかどうか、周辺リンパ節転移の有無についても詳しく検索します（手術材料検索）。

手術中でも癌が完全に切除しきれているかどうか、切除断端組織を－30℃で迅速に凍結して染色し、その凍結切片を顕微鏡下に即座に診断し、その結果を手術中の執刀医に連絡し癌がまだ取り残されているならば追加切除するように指摘します。術中迅速凍結切片診断は時にその手術の成否にかかわる決定的な鍵を握る事が多く、我国でも大手術を行う場合には病理部門の整備充実が必須の条件と言われてきています。

極めて難解な疾患で種々の治療の甲斐もなく又は予期せぬ経過で死亡した場合には、患者さん本人の遺志や遺族の了解の下で病理解剖を行い臨床病理検討会において疾患の本態の解明や診断の的確さや治療効果が討議されます。

◆実　績

令和5年度（2023.4.1～2024.3.31）

生検・手術材料：6,302件（内術中迅速診断：153件）

細胞診：6,693件

診療部門　救急・プライマリケア診療部

◆スタッフ（◎部長）

◎小笠原　延行、◎五十嵐　渉、永田　慎平

臨床研修医（２年）：浅野　良寛、足立　奏美、池尻　遼哉、岩本　義丈、恵美　陽治、金田　航季、佐藤　大竜、立山　明日香、三浦　祐市、寺島　久敦

臨床研修医（１年）：眞田　憲汰、森口　拓磨、上田　健太郎、岸本　真子、服部　寿紀、福井　翔太、稲井　賢伸、稲垣　良祐、紀田　宝那、山田　航大、今井　和輝、金井　柾也、垂水　千紘、中野　敦晴、和田　俊一、蓮池　彩乃、鈴木　裕太郎吉田　康之、中井　千晶、緒方　正史、大西　由希子

◆概　要

救急・プライマリケア診療部は、救急患者の受け入れと初期診療を行い、また救急診療を通じて初期臨床研修医の教育・研修を行うことを目的とした部署である。

当院の診療限界を超える病態の依頼を除き、できる限りの積極的な受け入れを行っている。特に近隣の開業医からの緊急紹介患者については、担当科が不明な場合には直接救急が対応することで、より円滑な受け入れが可能になった。

初期研修については、１年目研修医は、１ヶ月の救急ローテート期間を通して指導医とともに平日日勤帯の救急搬送患者の初期対応にあたる。この間に、問診や身体所見の取り方、カルテの書き方、commondisease の疾患概念、診断に至るまでの思考プロセスなどの医師として必要な知識や技術はもちろん、患者への接し方や言葉遣い、仕事への責任感、モラルなどの人間性に関わるようなことも学んでいく。６月からは２年目研修医の夜間休日の救急当直に23時まで一緒に入り、ウォークインも含めた比較的軽症の患者の対応についても経験する。

２年目研修医は、夜間休日の救急当直に入り、ある程度自分の判断で救急患者の初期対応を行っていく。当院には、研修医を直接補佐する救急 A 当直を始め、内科、循環器科、外科、脳卒中、小児科、産婦人科、ICU などの各科医師も当直に入っており、幅広いコンサルトが可能な環境が整っている。また、当直翌朝は救急で診療した症例について、救急、整形外科、循環器科、内科の部長と検討会を行うことで、経験した症例に関してフィードバックすることができる。平成31年度からは２年目研修医も１ヶ月の救急ローテートが必須となり、２年間に計２ヶ月の研修期間で十分な知識や技術の習得を目指す。

研修医向けの勉強会については採用当初に各科指導医によるクルズス、その後、院内では週１回の症例検討会を行っている

働き方改革の影響もあり慢性的なマンパワーの不足が懸念される状況ではあるが、各科の医師の協力も得てその影響を最小限に抑えるよう努力している。今後も各科の医師と連携し、救急患者の受け入れを行っていくとともに、研修医教育にも力を入れていきたいと考えている。

また地域が必要とする救急医療を行えるよう職員一丸となって前に進んでいきたい。

◆実　績

救急外来受診患者数	7,520名
救急搬送受け入れ患者数	4,446名
救急外来からの入院患者数	3,229名

診療部門　免疫内科

◆スタッフ（◎部長）

◎真鍋　侑資、島上　洋（非常勤）

◆概　要

当院における関節リウマチ患者さんの診療は、従来リウマチ科で行われていましたが、2002年以降は関節リウマチや膠原病、血管炎症候群などの自己免疫疾患も診療する様になりました。その後膠原病内科外来として独立し外来診療を継続して参りましたが、今年度より名称を免疫内科と改め新たにスタートいたしました。また、入院診療も新たに開始しており、初診から急性期、そして慢性期のフォローまでをトータルで行える体制を構築いたしました。

◆実　績

１）外来診療（カルテベース）

2023年度に診療した外来患者数は延べ1,629例でした。

（2021年度 164例、2022年度　1,368例）

２）入院診療（カルテベース）

2023年度に診療した外来患者数は延べ40名でした。関節リウマチなどの骨関節や筋関連疾患・膠原病類似疾患、血管炎症候群、IgG4関連疾患などの自己免疫疾患の他、血液疾患（特発性血小板減少症、無顆粒球症）や感染症（肺炎、化膿性脊椎炎）なども含まれていました。

３）検査

関節リウマチの早期発見や、より正確な活動性評価のため2023年度より関節超音波検査を導入しました。

2023年度の関節超音波検査数は55例でした。

緩和ケア・ペインクリニック科

◆スタッフ（◎部長）

◎清水　雅子

◆概　要

緩和ケア・ペインクリニック科は2023年4月に新設され、同2023年4月よりペインクリニック外来診療を始めました。

日本人の多くは、何らかの慢性の痛みを抱えて生活しています。慢性痛は、肩関節周囲炎、筋・筋膜性疼痛、変形性腰椎症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、帯状疱疹後神経痛、など数多くあり、その原因と病態は様々です。

ペインクリニックでは、症状や身体所見から多角的に痛みの原因を診断し、薬物療法だけでなく神経ブロックを含めた治療法を駆使して痛みを軽減・消失させQOLを向上させます。神経ブロックは、抗血栓療法の内服をされている場合、薬剤毎に一定期間の休薬をしないと施行できないものがあります。そして、神経ブロックを適切に行ったにもかかわらず、痛みの十分な軽減が得られないこともあります。ペインクリニックでは慢性化した痛みと「うまく付き合っていく」ことを患者さんと模索する診療を心掛けています。

緩和ケアにおける身体的苦痛、そのなかの痛みに対しては、慢性痛で用いられる薬に加えて医療用麻薬に分類されるオピオイドを用いて、がんの強い痛みの軽減をはかります。がんの痛みに用いられる薬はこの10年で多様になりました。しかしそれらを駆使しても痛みが減らせない時の治療法の一つが、神経ブロックになります。当院に入院されているがん患者の方々に緩和ケアチームの一員としてかかわり、神経ブロックの適応を含めて症状緩和に努めています。

また緩和ケア・ペインクリニック科は麻酔診療部の一部門であり、2023年より麻酔科医として手術室看護師や薬剤師とともに術後疼痛管理チームを立ち上げました。マンパワーの問題もあり単科からの開始になりましたが、主科や病棟にご協力いただきながら、手術後の回診を行っています。

◆実　績

2023年度ペインクリニック外来診療実績（2023年４月～2024年３月）

ペインクリニック外来初診	81
ペインクリニック外来再診	216

血液浄化センター

◆センター長

鈴木　朗

◆概　要

末期腎不全に至った症例について、血液透析、腹膜透析などの腎代替療法を導入し、また、維持血液透析患者の入院中の管理を行っています。腎代替療法導入に際しては、同センター看護師が担当する療養選択外来を受診していただき、各療法の特徴につき十分理解していただいた上で、患者さん自身に選択していただいております。自己免疫疾患や肝不全に対する血漿交換療法、炎症性腸疾患に対する白血球除去療法、家族性高コレステロール、巣状糸球体硬化症など難治性ネフローゼ症候群に対するLDL アフェレーシス療法、ASO に対する吸着型潰瘍治療（レオカーナ）、難治性腹水に対する腹水濾過濃縮療法なども積極的に行っております。ICU における血液浄化療法についても、オンコール体制を敷き24時間体制で対応しております。維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。

◆実　績

維持血液透析を28例、腹膜透析を3例導入しました。

維持血液透析患者17名、腹膜透析患者11名も管理されています。

2023年の各療法実施件数は以下の通りです。

HD	2,419	▲658
online HDF	1,760	△198
PE（血漿交換）	15	▲6
DFPP	6	±0
吸着式潰瘍治療（レオカーナ）	4	△4
GCAP（顆粒球吸着）	15	△15
ICUにおける血液浄化	78	▲33

◆ひとこと

当センターは夜間、休日も各種血液浄化療法が施行可能であり、大阪市西部地域における中心的な血液浄化センターです。患者教育も積極的に行っており保存期慢性腎臓病患者を対象に、栄養部、薬剤部、看護部にご協力いただき、毎月「腎臓病教室」を開催しております。どなたでも無料で受講できますのでご興味ある方は当院ホームページをご参照ください。

内視鏡センター

◆センター長

山本　克己

◆概　要

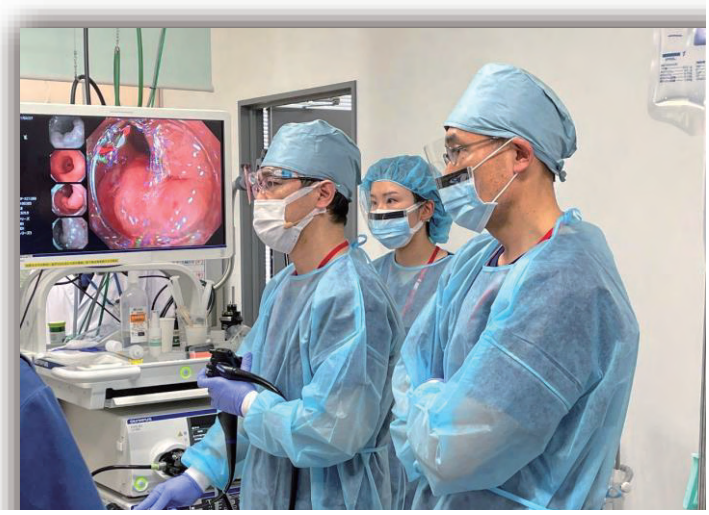
上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、胆膵内視鏡、超音波内視鏡（EUS）、カプセル内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、気管支鏡、胸腔鏡、超音波気管支鏡などの検査手技だけでなく、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、総胆管結石破砕術・乳頭切開術、消化管止血術、食道静脈瘤結紮術・硬化療法、胃瘻増設術、消化管狭窄バルーン拡張術・ステント留置術、EUS下ドレナージ術などの内視鏡治療など、内視鏡を用いた検査・治療の幅広い領域を扱っています。新病院に移った後はリカバリルームを増設しており、近年の社会的ニーズに応えるべく、安楽な内視鏡検査を行うため、消化器内視鏡検査では、鎮静剤を積極的に導入しています。呼吸器領域においては、局所麻酔下胸腔鏡、超音波気管支鏡といった最新の検査も行っています。治療については、特に、高度な技術を要する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）件数が多いのが特徴で、早期胃癌だけでなく、早期の大腸癌、食道、十二指腸、咽頭癌など幅広い領域の表在癌の治療にあたっており、困難症例を含め、大阪府下だけでなく、他府県からもご紹介いただいています。検査・治療に際しては、合同カンファレンスを定期的に開催し、消化器内科、外科、病理科が密接にコミュニケーションを取りながら診療を行っています。最近は、外科、消化器内科が協力して、腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）も施行しており、咽頭癌に対するESD は消化器内科と耳鼻科が協力して行っており、先進的な医療も積極的に施行しています。

また、吐下血などの消化管出血や胆管炎などの救急疾患にもオンコール体制を敷いて対応しており、地域医療に貢献しています。

◆実　績

2023年度は、内視鏡総件数が8,859件、上部消化管内視鏡検査が5,424件、下部消化管内視鏡検査が2,649件、ESD 件数が235件、EMR 件数が846件、ERCP 件数が231件、気管支鏡件数が149件となっています。

鎮静剤使用割合が年々増加しており、2023年度は約8割の方が鎮静剤を使用しています。



脳卒中センター

◆センター長

上田　周一（SCU 責任医師）、榊　孝之

◆概　要

【2023年度人員】

脳神経内科5名、脳神経外科4名、プライマリーケア診療部２～３名、看護師18名、専任PT1名、病棟薬剤師１名、医療福祉相談室７名脳神経内科・脳神経外科が協力し、24時間対応した脳卒中治療を行っている。

脳神経血管内治療学会専門医は従来の脳神経外科2名（山際部長、呉村医師）に加え、新たに脳神経内科1名（村瀬部長）が着任し、超急性期血栓溶解療法、超急性期血管内治療（血行再建術、コイル塞栓術）と緊急手術にも対応している。

リハビリテーション科と連携して、早期からのリハビリテーション開始・早期離床を行っている。医療福祉相談室と連携し、回復期リハビリテーション病院への転院を積極的に行い、自宅復帰・社会復帰を目指している。

大阪脳卒中医療連携ネットワーク（OSN）に計画管理病院として発足当初より参加している。前年度からの脳卒中地域連携パスVer.8.1の改定作業を当院で担当し作業終了。またOSN主催の患者さん・家族向け啓発イベントである脳卒中サロンにも長辻師長および乗本MSWが参加した。

2022年4月1日付けで、日本脳卒中学会認定一次脳卒中センターコア施設に認定された。それに伴い、2022年12月1日より、脳卒中療養相談窓口を外来患者相談窓口内に設置した。脳卒中療養相談士の資格を持つ医師3名、看護師5名(脳卒中・リハビリテーション看護認定看護師1名)、MSW1名が常駐し、対応に当たっている。

◆実　績

SCU 平均在院患者		8.3名
SCU 入室患者数		361名
内訳	脳梗塞	274名
	脳出血	54名
	くも膜下出血	14名
	一過性脳虚血発作	10名
	その他	9名
脳梗塞超急性期血栓溶解療法		12名
脳梗塞超急性期血管内治療		21名
両者併用		11名
脳出血開頭血腫除去術		5名
脳動脈瘤緊急クリッピング術		10名
脳動脈瘤緊急コイル塞栓術		21名
脳梗塞開頭減圧術		5名
脳動静脈奇形塞栓術		2名
脳室ドレナージ術		4名

外来治療センター

◆センター長

塚本　文音

◆概　要

外来治療センターでは、通院での抗悪性腫瘍剤や関節リウマチなどに対する生物学的製剤等の投与を行っている。また、曜日と時間帯を限定して自己血貯血に対応している。電動ベッド７台、リクライニングチェア13台が稼働。看護師４名以上が常駐し、薬剤投与中の観察のみならず、帰宅後の有害事象の予防、軽減のための援助を行っている。

◆実　績

令和5年度は、消化器外科、乳腺・内分泌外科、消化器内科、呼吸器内科、泌尿器科、産婦人科、脳神経外科、整形外科、眼科、脳神経内科が当センターを利用。

令和5年度の化学療法実施延べ件数は3,639件（月平均300件）、貯血実施延べ件数は60件（月平均5件）

母子医療センター

◆センター長

筒井　建紀

◆概　要

大阪市西部基本保健医療圏の周産期医療を担う拠点病院として、産科、小児科（認可新生児集中治療室：NICU）で連携して母子医療センターを設置しています。

産科は一次救急を扱っており、大阪府における産婦人科診療相互援助システム（OGCS）に加盟し、母体の様々な病態により急変した際の搬送の受け入れを実施し、地域の産科診療に貢献しています。また、妊婦さんの安全性と利便性の観点から、日頃より病診連携でお世話になっております産婦人科ご開業の先生に妊婦健診をお願いし、分娩は当院で取り扱う「産科オープンシステム」を取り入れています。産科以外に合併症をお持ちの妊婦さんに対しては、総合病院の利点を活かして内科・外科・精神科など院内の他診療科と連携して適切に対応しています。さらに、令和４年７月より妊婦さんの無痛分娩・和痛分娩のご希望に添えるように対応しております（対応できる無痛分娩・和痛分娩の数に制限を設けていますが、対応数は増加させております）。

産科外来では、医師による通常外来の他に、助産師外来も併設しており、妊娠経過が安定している妊婦さんにご利用いただいています。助産師外来は、妊娠中の様々なご相談にきめ細やかに対応し、好評を得ております。

入院中の食事メニューは、妊婦さんのご意見をフィードバックしながら、量・質ともに満足していただけるものにグレードアップしており、入院時のアメニティーもますます充実しています。また、令和４年度に一部の病室の改装を行い、さらに快適な入院生活をご提供できるようになりました。

小児科は、院内出生を中心にNICU6床を確保し、新生児診療を24時間体制で行っています。大阪府新生児診療相互援助システム（NMCS）にも参加しており、大阪の周産期地域医療システムの一翼を担っています。産科と緊密に連絡をとり、看護師・助産師のスタッフとともに、一人ひとりの赤ちゃんに対する最適の治療、退院後のフォローアップ、さらにはご家族全体のトータルな支援を心がけています

◆実　績

令和５年度は、分娩数 450件(うち帝王切開術 93件、吸引分娩 46件、鉗子分娩 4件、双胎妊娠7件、無痛分娩54件)で、このうち地域の産婦人科医院と連携したオープンシステムによる分娩数は99件でした。また、NICU の入院延患者数は733人、新入院患者数は224人でした。

集中治療部

◆部　長

佐藤　善一

◆概　要

当院のICUは平成９年に循環器科創設と同時に発足した。呼吸器外科担当部長大野喜代志先生、中村康子婦長のもとで開設されたICU は平成20年（2008年）４月からは10床に増床され、平成27年新病院開院とともに12床に増床された。2020年度より、佐藤を含む２名の集中治療専門医体制でICUの日勤を担当し、35名の ICU 看護師（うちクリティカルケア認定看護師１名）と共に治療を行っている。

毎朝、主治医、麻酔科ICU 担当医、看護師とでウォーキングカンファレンスを行い、治療方針の確認を行っている。また、リハビリテーション部、ICT（院内感染コントロールチーム）、NST（栄養サポートチーム）もカンファレンスに参加して緊密な連携を保ち、治療を行っている。高度医療機器は臨床工学技士の管理により安全に使用できている。

◆実　績（2023年度）

入室患者数	1,236例(男　688例、女 548例)
平均年齢	71歳
平均在室日数	3.2日

＜診療科内訳＞

心臓血管外科	112例
外科（胸部含む）	292例
脳神経外科	72例
整形外科	203例
泌尿器科	33例
産婦人科	22例
形成外科	1例
耳鼻科	9例
皮膚科	4例
眼科	1例

循環器内科	401例
(一般)内科	10例
消化器内科	37例
神経内科	8例
呼吸器内科	23例
糖内分泌内科	6例
小児科	3例

＜その他＞

心肺蘇生後	17例
covid19肺炎	9例
陰圧室使用	9例

手術室

◆スタッフ（◎部長）

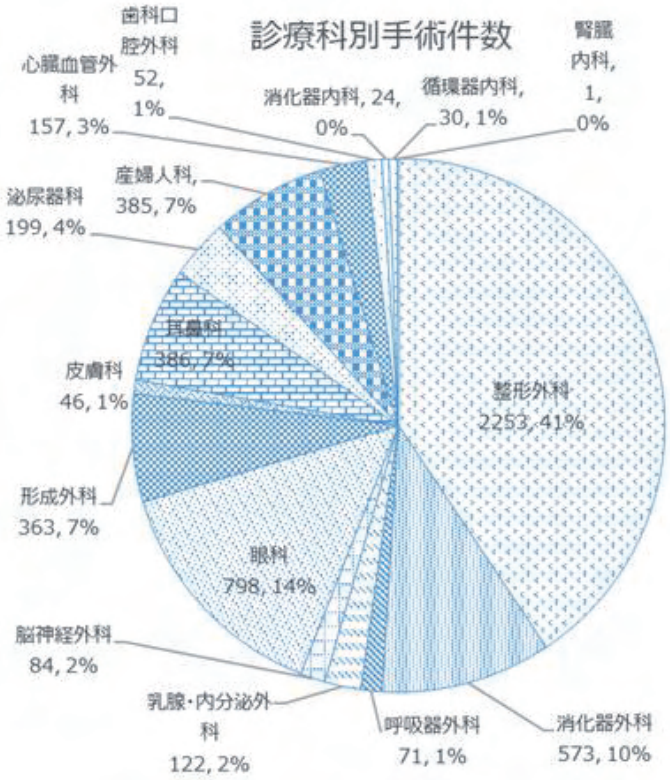
◎中谷　桂治、麻酔科医師11名、（看護師長）藤原　千佳、看護師36名

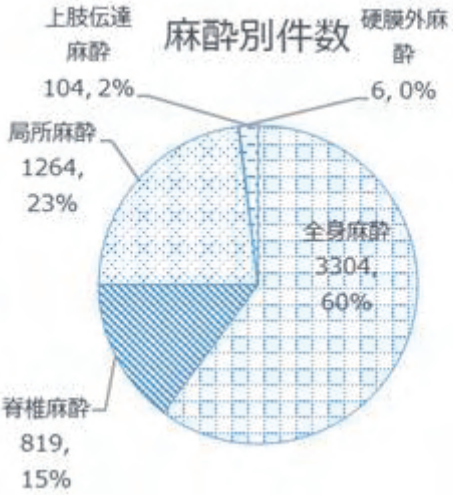
◆概　要

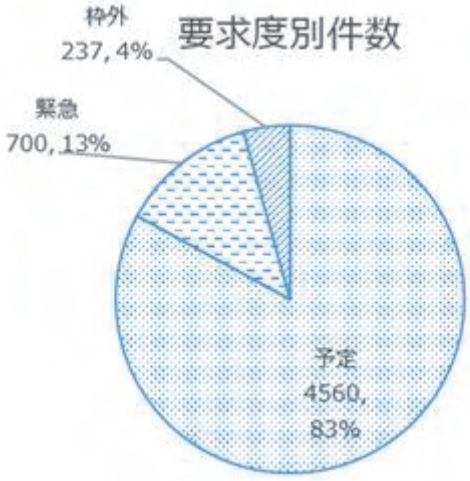
手術室は12室あり、うち４室がバイオクリーンルーム、１室はハイブリッド手術室である。入院・外来患者すべての手術を手術室で行っている。

◆実　績

2023年度総手術件数は5,497件（診療科別手術件数のグラフは共観手術を含む各診療科の実績件数）で、整形外科が全体の41％を占め、次いで眼科14％、消化器外科10％であった。麻酔は全身麻酔が年々増加し全体の60％であった。予定手術以外の枠外・緊急手術は総手術件数の17％を占め増加傾向にある。







薬剤部

◆スタッフ（◎部長）

◎辻川　正彦、他薬剤師29名、薬剤助手5名

◆概　要

2024年３月現在、薬剤師30名（定数33名） 薬剤部長：辻川　正彦

副薬剤部長：長谷川　真美、主任：田中　早紀・井上　敬之・岡渕　直子・角　陽子・冨永　真代

一般薬剤師23名（男4名・女15名、内育児休業4名） 薬剤助手５名、事務１名、SMO４名

施設基準等

病棟薬剤業務実施加算１ …… 11病棟

病棟薬剤業務実施加算２ …… SCU・ICU

薬剤管理指導料、外来化学療法加算１、無菌製剤処理料、がん患者指導管理料（ハ）

チーム医療：ICT・AST・NST・緩和ケア・褥瘡ケア・認知症ケア・せん妄ケア

学生実務実習受入施設

日本病院薬剤師会	感染制御専門薬剤師	１名
	病院薬学認定薬剤師	14名
	認定指導薬剤師	２名
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	6名
	研修認定薬剤師	１名
日本医療薬学会	がん専門薬剤師１名	１名
日本小児臨床薬理学会/ 日本薬剤師研修センター	小児薬物療法認定薬剤師	１名
日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	１名
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療認定薬剤師	１名
日本医療情報学会	医療情報技師	２名
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	１名
日本・アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト	２名
日本臨床栄養代謝学会	栄養サポートチーム専門療法士	２名
日本循環器学会	心不全療養指導士	１名
日本心臓リハビリテーション学会	心臓リハビリテーション指導士	１名

◆実　績

外来一般処方箋（枚）	3,163	薬剤管理指導　患者数（人）	13,244	TDM算定件数	1,337
外来注射処方箋（枚）	27,458	指導回数	16,293	採用薬品数	1,237
院外処方箋（枚）	98,877	算定件数	15,414	新規レジメン登録（件）	17
（発行率　%）	96.9	麻薬管理指導加算（件）	285	後発薬品置換率（%）	94.75
入院一般処方箋（枚）	133,846	退院時薬剤情報（件）	1,552	年間治験実施本数	20
入院注射処方箋（枚）	143,544	持参薬調査件数	9,804	新規治験契約件数	5
入院麻薬一般処方箋（枚）	859	持参薬調査剤数	67,248	薬剤情報提供料（件）	3,002
入院麻薬注射処方箋（枚）	7,522			疑義照会件数　（調剤室）	5,064
				（注射室）	197
院内製剤件数		無菌製剤処理算定件数	3,973	病棟薬剤業務実施加算（件）	
（一般）	59	（抗がん剤・TPN）		（一般病棟11）	25,050
（無菌製剤）	48			（SCU・ICU）	4,647
注射混合調製分取総件数	4,026	処置薬剤払出件数	7,622	医薬品安全研修（回）	10

診療協力部門　放射線室

◆スタッフ

（技師長）髙谷　道和、他放射線技師30名

◆概　要

現在、診療放射線技師31名、事務スタッフ7.5名で放射線室を運営しています。放射線室は地下１階に核医学検査と放射線治療、１階に救急専用の撮影室、２階に一般撮影、CT、MRI、MMG、X-TV、骨密度測定装置等の診断部門、５階に血管撮影室、Hibrid 手術室（近畿四国地区で唯一）を配置しています。

我々放射線室スタッフは常に放射線診断、治療の各分野で知識と技術の向上を図り専門性を高めています。また高度な放射線機器を操作し、画像や被ばく線量の管理を適切におこない、中央部門として質の高い診療機能を維持し、特に被ばくに関しては「医療被ばく低減施設認定」も取得しており、日々患者様の医療被曝を少しでも低減できるよう努めています。地域連携依頼検査においてはCT・MRI・RI検査等積極的に受け入れ要望に応じた柔軟な対応をおこなっています。またタスクシフト/シェアも業務化しMRI造影・RI検査における静脈穿刺・抜針・止血の運用も始めています。

装置一覧

装置	台数	スペック等	装置	台数	スペック等
CT	２台	64列　80列	MRI	２台	1.5T、3.0T
血管撮影装置	２台	Single、Biplane	核医学検査装置	１台	SPECT-CT
放射線治療装置	１台	定位照射、IMRT	X線TV装置	３台	FPD
Hybrid-Angio	１台	ハイブリッド手術室	一般撮影装置	５台	FPD、長尺立位撮影台
その他	乳房撮影装置、マンモトーム装置、骨密度測定装置、ポータブル装置、外科用イメージ				
情報システム	放射線部門システム、放射線画像管理システム、放射線読影レポートシステム				

2023年度に整備した放射線機器

①血管撮影装置（脳神経外科・汎用）：キャノンAlphenix INFX-8000V（2管球）

◆実　績

	2021年度	2022年度	2023年度
一般撮影	126,248	127,852	135,071
ポータブル・手術室撮影	11,550	10,743	10,274
乳房撮影	2,441	2,588	2,551
骨密度測定	1,859	1,708	1,841
X 線TV	1,685	1,533	1,688
CT	21,520	22,566	23,847
MRI	10,022	10,031	10,509
血管撮影・心カテ	1,003	1,052	1,075
RI	1,196	1,147	1,109
放射線治療	3,441	2,842	3,088
地域連携依頼 CT・MRI・DEXA	922	1093	1,189

（件数）

中央検査室

◆スタッフ（◎部長）

◎岡田　昌子：（技師長）竹村　真俊、他臨床検査技師42名、事務員２名

◆概　要

中央検査室は医師である臨床検査科部長１名、臨床検査技師43名（非常勤4名含む）、事務員２名のスタッフで外来患者採血、血液・凝固、生化学・免疫化学、尿・便、微生物、輸血管理、病理の各種検体検査および生体検査の生理機能検査を行っています。検体検査においては24時間対応の緊急検査体制、重症感染症の早期診断・医療関連感染の迅速キャッチを目的とした365日微生物検査日勤体制の確立、認定輸血検査技師を複数名配置させた輸血療法にかかわる全ての業務の一元管理等を実現しています。生理機能検査においては、消化器や循環器をはじめとする超音波検査士認定を取得している技師を中心に検査を実施するとともに、担当技師全員がさらなる認定を取得するべく研鑽を積んでいます。

また中央検査室は2023年度、国際規格であるISO 15189の認定を取得しました。品質マネジメントシステムと技術・能力が国際規格に適合したことを証明するものであり、この検査体制を維持運営するために各検査部門において検査の品質チェックを行い、正確で信頼される検査結果を迅速に報告できるよう努めています。これからも新しい知識や技能向上を常に意識し、専門分野の認定資格を積極的に取得することを目指し臨床検査の質の向上を図ってまいります。

Medical LAB
RML03070

◆主な資格と取得人数

認定輸血検査技師	３名	細胞検査士	７名
認定一般検査技師	１名	国際細胞検査士	４名
認定臨床微生物検査技師	１名	二級臨床検査士　血液学	４名
認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師	２名	〃　臨床化学	２名
感染制御認定臨床微生物検査技師・ICMT	１名	〃　微生物	３名
栄養サポートチーム専門療養士	１名	〃　病理学	２名
超音波検査士　循環器	４名	緊急臨床検査士	６名
〃　消化器	４名	有機溶剤作業主任者	７名
〃　体表臓器	１名	大阪糖尿病療養指導士	２名

◆実　績

2023年度検査実績を2022年度と比較して表記しました。新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことでPCR検査件数が大幅に減少（下記表：微生物迅速）した以外は、すべての検査項目において前年度を上回る件数となりました。

検体検査	２０２３年度	２０２２年度	生理検査	２０２３年度	２０２２年度
外来採血	72,579件	70,859件	安静心電図	22,624件	22,445件
生化学・免疫	167,850件	164,649件	負荷心電図他	1,707件	1,488件
血液・凝固	144,556件	141,898件	脳波・肺機能他	3,963件	3,332件
尿検査	87,857件	84,135件	超音波　心臓	4,005件	3,726件
微生物　培養	25,027件	22,824件	超音波　腹部	4,884件	4,871件
微生物　迅速	21,018件	31,201件	超音波　その他	3,223件	3,128件

栄養管理室

◆スタッフ

管理栄養士６名

◆概　要

患者給食部門は全面委託であり、約35名の給食会社スタッフで給食管理・食数管理を担っています。病院管理栄養士は、その管理に携わり、給食がより良いものになるように給食会社スタッフと協議しています。

患者給食は全面委託しているため、病院管理栄養士は、栄養指導と栄養管理をメインに行うことが可能になっています。栄養食事指導件数の増加に取り組んでおり、医師・看護師の協力もあり、年々、件数は増加してきています。

個人栄養食事指導の他、糖尿病教室、腎臓病教室に参加し集団指導も実施しています。早期栄養介入管理加算、周術期栄養管理加算も継続して算定しています。

チーム医療では、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、摂食嚥下チーム、褥瘡対策チームに参加し、回診に同行、患者さんに適切な栄養管理ができるよう努めています。その他、糖尿病ケアチーム、減量・代謝改善チームの一員としても活動しています。

認定資格習得

・糖尿病療養指導士：３名

・NST 専門療法士：１名

・がん病態栄養専門管理栄養士：１名

・病態栄養認定管理栄養士：２名

◆実　績

2023年４月～2024年３月までの栄養指導件数（算定件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院初回	143	156	157	134	161	147	150	153	159	162	165	59	1746
入院2回目以降	59	85	75	84	82	68	73	70	74	76	76	70	892
外来初回	36	40	31	46	37	36	56	40	31	32	44	34	463
外来2回目以降	80	72	64	82	82	86	95	82	100	84	96	83	1006
外来がん栄養初回			2	2	5	12	11	10	4	5	8	9	68
外来がん栄養2回目以降			2	6	10	10	25	27	27	32	34	19	192
合計	318	353	331	354	377	359	410	382	395	391	423	274	4367

2023年４月～2024年３月までの栄養活動実績件数（算定件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病透析予防指導管理料	10	19	11	18	13	11	9	10	10	6	11	6	134
栄養サポートチーム加算	55	46	86	70	58	55	55	48	61	46	54	14	648
栄養情報提供加算	6	18	21	16	26	20	19	18	17	16	12	1	190
早期栄養介入管理加算	183	120	193	133	146	150	171	162	165	145	137	146	1851
周術期栄養管理加算	285	293	291	282	344	284	289	292	278	277	281	246	3442
緩和ケア個別栄養食事加算	140	139	154	129	152	197	168	180	182	196	106	19	1762

臨床工学室

◆スタッフ

◎勝賀瀬　朗、他臨床工学技士12名

◆概　要

当院の臨床工学室は、13名の臨床工学技士で組織されています（2024年３月１日現在）。医療機器管理、血液浄化、心臓カテーテル検査・治療、心臓電気生理学的検査・アブレーション、人工心肺、手術室、集中治療室、呼吸療法、心臓植込み型電気的デバイス関連、睡眠時無呼吸症候群検査、24時間自由行動下血圧測定など、各部門において関連業務に携わっています。その他、各種委員会活動や、医療機器の取り扱いに関する研修を行っています。

2021年11月より、休日、夜間の当直体制を導入しました。緊急カテ、緊急手術、医療機器のトラブル等に迅速な対応ができるようになり、2022年1月からは「特定集中治療室管理料１」を算定できるようになりました。また、2023年度よりTAVIおよび心臓カテーテル検査・治療時の清潔介助業務への参画、2024年１月から手術支援ロボットの管理業務など、業務の充実と医師のタスクシフトを積極的に進めています。病院の運営に資するとともに、各診療科や看護部をはじめ各部署と協働して安心で安全な医療の提供に努めます。

◆実　績

2023年度実績

業務	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ICU　HD/HDF/ECUM	件	5	0	5	2	9	8	8	5	3	5	0	1	51
特殊血液浄化	件	0	5	7	4	2	3	5	0	9	7	5	4	51
（PE）	件	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	4	1	15
（DFPP）	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	2	6
（エンドトキシン吸着）	件	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
（LDL）	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（レオカーナ）	件	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
（DFT）	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（LCAP）	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（GCAP）	件	0	5	5	0	1	3	1	0	0	0	0	0	15
（CART）	件	0	0	0	4	1	0	0	0	0	2	1	1	9
IABP	件	3	4	1	2	1	0	3	2	2	3	2	2	25
PCPS	件	3	3	0	1	3	0	1	2	1	2	0	0	16
人工心肺	件	6	6	6	3	6	3	5	5	4	6	5	5	60
TAVI（清潔操作業務）	件	0	4	2	3	3	0	2	3	2	3	2	0	24
術中自己血回収術（整形外科）	件	36	40	46	43	44	44	44	47	47	34	42	41	508
アンギオ室業務	件	121	85	85	70	78	56	74	82	87	83	81	67	969
（CAG）	件	38	22	19	30	30	17	24	36	34	27	32	17	326
（PCI）	件	20	12	13	9	16	3	13	20	14	13	12	5	150
（AoG）	件	14	4	2	1	4	5	3	3	5	8	5	6	60
（PPI）	件	9	5	2	1	4	5	3	3	5	6	6	5	54
（EPS）	件	20	21	25	15	12	13	15	10	15	14	13	17	190
（ABL）	件	20	21	24	14	12	13	16	10	14	15	13	17	189
CIEDs 業務	件	80	79	77	67	48	79	75	61	49	52	38	60	765
植込み	件	5	10	12	5	7	7	6	6	7	5	4	4	78
（IPG/CRT-P）	件	3	10	7	5	7	5	6	5	6	2	3	2	61
（ICD/CRT-D）	件	1	0	2	0	0	2	0	1	1	3	1	2	13
（ILR）	件	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
PM 外来	件	53	47	40	43	22	47	49	40	24	23	25	35	448
日勤帯対応	件	18	15	24	14	11	22	12	10	12	16	8	17	179
当直帯対応	件	0	3	0	2	1	1	3	1	1	2	0	2	16
MRI 撮像	件	4	4	1	3	7	2	5	4	5	6	1	2	44
SAS 検査（フル PSG）	件	1	1	1	0	2	1	2	2	2	3	3	1	19
心拍出量測定（エスクロン）	件	4	2	5	5	4	2	2	3	7	3	4	9	50
ABPM	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療機器　点検総数	件	782	999	871	875	925	1136	821	940	1041	947	828	831	10996
（定期点検）	件	27	138	39	92	135	349	44	52	95	59	48	35	1113
（始業点検、回路接続確認等）	件	755	861	832	783	790	787	777	888	946	888	780	796	9883
医療機器　修理対応総数	件	37	52	33	35	59	59	44	37	36	50	60	34	536
（院内修理/対応）	件	28	39	27	28	46	28	29	29	27	33	32	26	372
（メーカー修理依頼）	件	9	13	6	7	13	31	15	8	9	17	28	8	164

中央材料室

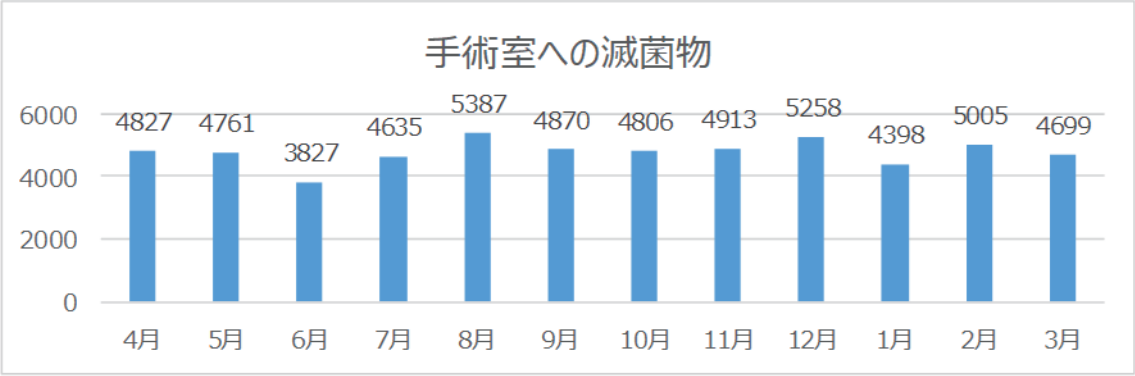
◆スタッフ

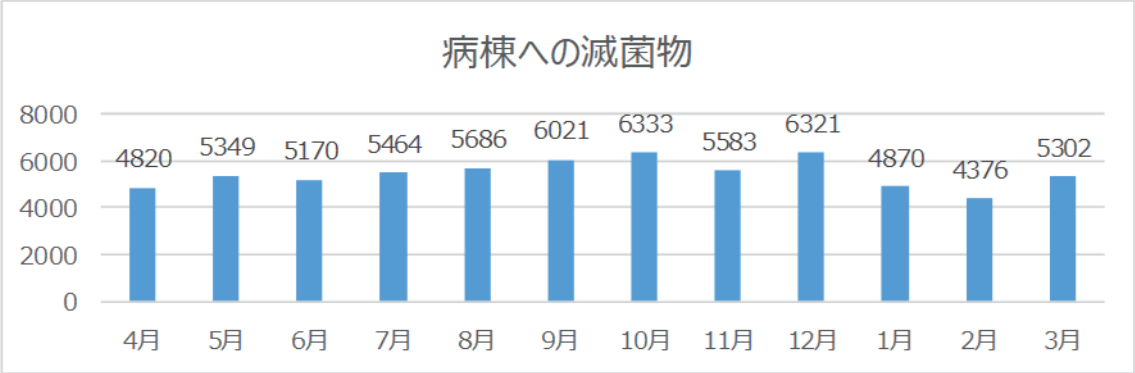
（看護師長）藤原　千佳

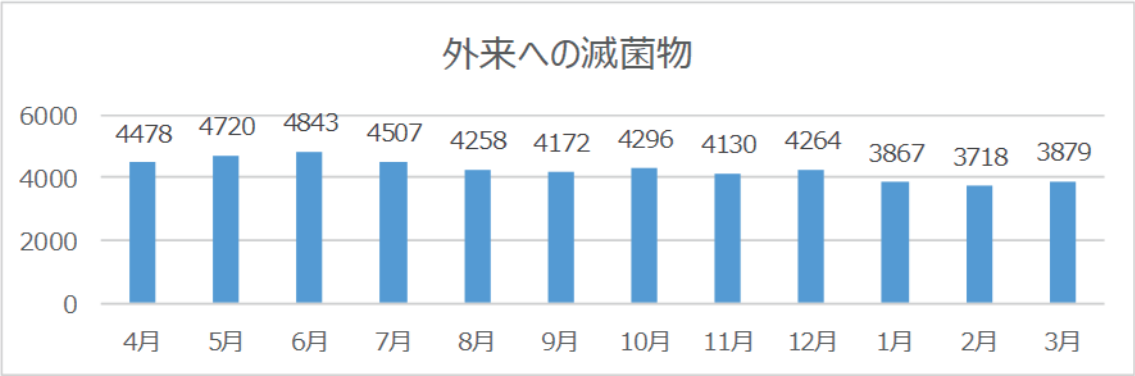
◆概　要

中央材料室は洗浄室と組立室、既滅菌室から成り立っており、医療器械の洗浄から滅菌に至る業務を一括して行っている。

◆実　績







地域医療連携室・医療福祉相談室

◆スタッフ

（部長）市川　肇、（室長）三村　麻紀子、他看護師12名、医療社会福祉士6名、事務7名

◆地域連携室

地域医療支援病院に必要な前方支援を担当する地域連携室の主な業務は、救急紹介患者の診療支援、紹介患者の予約診療支援、開放型病床・産科オープンシステムの支援、特殊検査の予約管理、地域連携パスの管理、広報活動などをおこなっている。

その他、大阪府がん診療拠点病院として、がん診療地域連携パスを採用、また脳卒中、大腿骨頚部骨折の地域連携パスも採用している。普及、利用拡大に向け努力し、地域医療機関の先生方と情報共有をおこない、協力して患者さんの治療にあたっている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2022年度
診療予約受付件数	1,329	1,352	1,402	1,268	1,223	1,203	1,309	1,186	1,156	1,152	1,140	1,441	15,012	14,565
救急/入院相談受付件数	174	169	182	178	176	165	155	120	157	158	163	142	1,939	2,197
検査申込受付件数	112	125	131	101	89	119	129	104	107	99	104	116	1,336	1,256

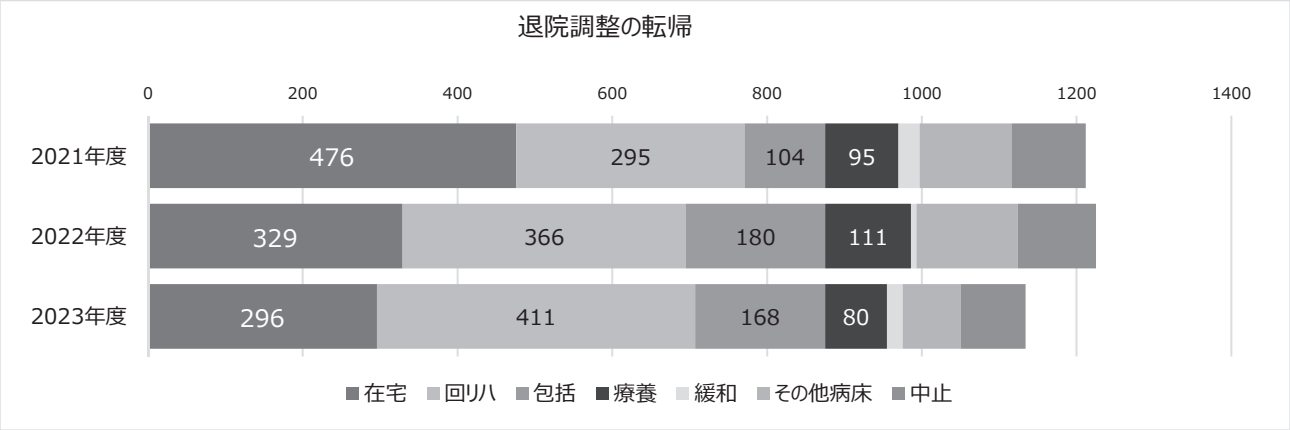
◆医療福祉相談室

医療福祉相談室は、看護師とMSWがそれぞれの専門知識を活かし、患者・ご家族が住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるよう、院内多職種や地域関係職種と協働して入退院を支援、また医療福祉相談などに対応している。

入院が予定された患者さんに対し、入院生活の説明や治療経過の説明等を行い、患者・ご家族が、安心して入院医療を受けられるように入院時支援を実施、対象者拡大に向け努めている。

退院支援では、入院後早期から病棟スタッフ等と協力しながらスムーズな退院を目指している。入退院支援加算算定件数、退院調整件数も年々増加し、回復期病院や在宅医療・介護職種との連携強化を図っている。医療福祉相談では、入院中・外来通院中の患者さんやご家族の、在宅療養に関する不安、社会福祉制度の申請やサービスに関する情報提供等を行っている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2022年度
入院時支援件数	450	419	526	464	498	453	494	490	504	507	515	418	5,738	5,139
退院調整件数	102	92	94	94	96	76	82	107	100	98	106	154	1,201	1,220
医療福祉相談件数	105	95	120	92	111	104	105	88	89	81	101	90	1,181	1485



がん相談支援センター

◆スタッフ

センター長：光岡　茂樹、看護師：土岐　昌世（がん化学療法CN）、MSW：松山　拓也

◆概　要

当院は大阪府がん診療拠点病院に指定されており、２名の認定がん専門相談員の資格を持つスタッフが配置されている。がん相談支援センターでは、がん患者、家族、地域住民に対して、がんに関する信頼性のおける情報をわかりやすく提供し、適切かつ効果的に活用できるための支援を目的とし活動している。

タイムリーかつ気軽に相談できるように予約なしでも面談や電話相談のできる体制としている。相談内容に応じて、医師、認定・専門看護師、MSW、栄養士、薬剤師など院内多職種だけでなく、院外とも連携している。また、当院の患者・家族を対象に、がんのことを気兼ねなく語り合う交流の場である「がんサロン」や外来オープンスペースを活用した情報提供の場である「オープンキャンパス」を積極的に開催している。

◆実　績

（１）がん相談（2023年４月～2023年12月）：計786件（月平均87.3件）

厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」作成の相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容を入力している。

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	計
相談件数	110	107	88	74	93	77	94	77	66	786

相談内容と対応内容の上位件数は以下の通りであった（複数回答）。

相談内容	件数	対応内容	件数
がんの治療	549	情報提供	629
生きがい・価値観	368	傾聴・語りの促進・支援的な対応	576
不安・精神的苦痛	349	助言・提案	361
医療者との関係・コミュニケーション	249	自施設・他部門への連携	258
患者－家族間の関係・コミュニケーション	174	他施設への連携	34

（２）オープンキャンパス・がんサロン

院内多職種や院外専門家と連携し、年間予定に従い開催している。

開催月	オープンキャンパス	がんサロン
4月		帽子やウィッグでイメージチェンジ
5月	がんについて知ろう！ がんの基本とがん相談支援センター	ハンドケアとタッチング
6月		いつでもどこでも使えるストレス発散法
7月	がんについて知ろう！ 女性のがんと妊娠するための力	がん患者さんのための外見ケアセミナー
9月	がんについて知ろう！ 治療と仕事の両立について	がん体験者、家族とのおしゃべり会
10月	がん検診受診率向上に向けた集中キャンペーン	リンパ浮腫予防とセルフケア
11月	がんとお金のはなしと人生会議	がんとお金のはなし
12月	大腸がんと栄養	スキンケアとパーソナルカラー診断

医療安全管理室

◆スタッフ

（部長）市川　肇（医療安全管理部長）、（室長）堀　美和子、看護部長、他看護師1名、医療放射線管理責任者1名、医薬品安全管理責任者１名、医療機器安全管理責任者１名、放射線技師　１名、臨床検査技師１名、事務員1名　　計10名

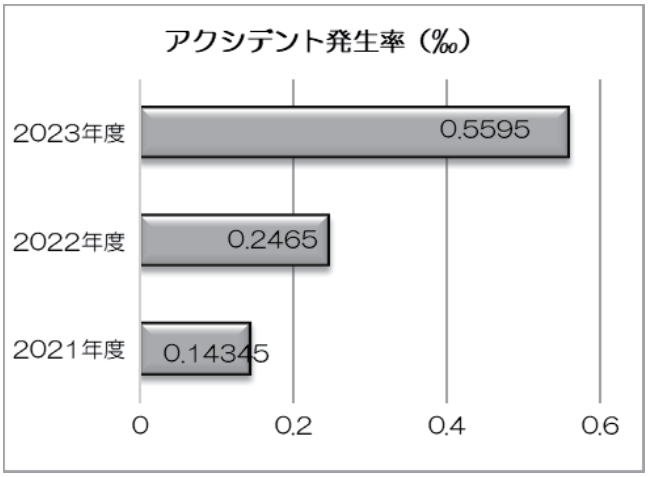
◆概　要

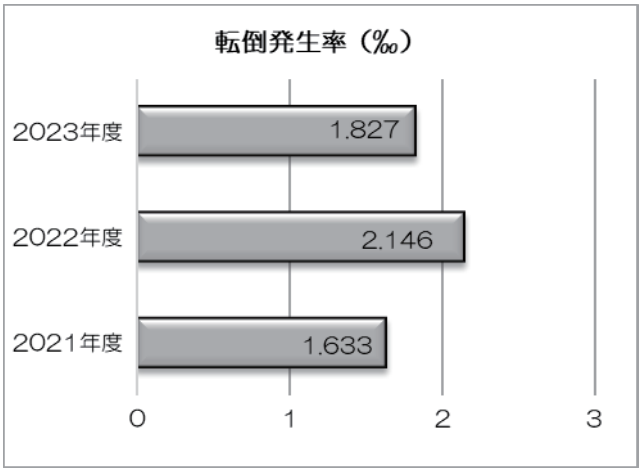
医療安全管理室は、専門的かつ高度な医療技術を提供できる体制を確保するための基盤となる安全管理を担うために設置されている部門です。

医療安全管理室では、患者さん・ご家族が安心して安全な医療を受けられる体制を構築し、かつ職員が安心して安全な医療が提供できる環境を整えることを目標として活動を行っています。医療の安全と信頼、患者への医療サービスの質の向上、医療事故を未然に防止するための組織及び体制の整備、医療安全に関わる全ての職員の意識改革及び啓発を組織横断的に活動しています。

『隠さない、逃げない、誤魔化さない』を基本方針として、いかなる場合も真実を説明し、真摯に対応していきます。

◆実　績





※　診療部へ医療安全情報として毎月、回覧板を配布

※　医療安全教育

2回/年の講演会（参加率100%）

TeamSTEPPS研修（全職種対象）

管理者研修　　など、多数開催

※　RCA分析：看護部主体ではあるが、関係した職種が参加し実施。2007年度より導入（10～15例/年）

※　院内リスクパトロール

医療安全管理対策委員会で年間計画を立て、多職種で実施

医療安全管理室内で、適宜実施（マニュアル順守状況、インシデント発生状況・対策共有など）

医療情報管理室

◆スタッフ

（部長）北山　聡明、辻川　正彦、栗本　真吾、岡田　聡史

◆概　要

医療情報管理室は1989年６月、医療情報課として病院のIT化を担うため設置されました。当初は医事会計システム中心でしたが、時代とともにオーダーリング、電子カルテシステムと拡張して参りました。現在では全ての部署に電子カルテが浸透し、また部門ごとに専用システムを導入、ITインフラ整備は一通り完了いたしました。2024年3月には3期目となる電子カルテシステムの更新を行い、長らく使用しておりましたNEC社のシステムから富士通社のシステムへとリプレイスを完了いたしました。

新病院情報システムは、パッケージ製品の電子カルテを採用するとともに、画像システムの集約化や地域連携システム稼動等、様々な試みに着手しました。また、オンライン資格確認や電子処方箋の早期導入など、わが国の進める医療DXの取り組みにも力を入れております。2024年度からはNWインフラの更新が控えており、次世代の医療を支えるべく日々の業務に従事しております。

◆実　績

1988（昭和63）/12	医事会計システム導入
1994（平成６）/３	医事会計システム更新
2004（平成16）/３	オーダーリングシステム（NEC Ordering system）導入
2008（平成20）/５	電子カルテシステム（NEC MegaOakHR2.5）導入
2015（平成27）/５	新病院への移転に合わせ、電子カルテシステム（NEC MegaOakHR R9.0.1）更新
2024（令和６）/３	電子カルテシステム（富士通 Lifemark-HX）更新

医療情報部　診療情報管理室（病歴室）

◆スタッフ

（主任診療情報管理士）西　奈美子、他診療情報管理士5名、事務員2名、非常勤職員1名、派遣職員1名

◆概　要

診療情報管理室は、診療情報部門とカルテ部門との２部門で構成されています。

【診療情報管理】

①入退院患者においての統計業務（病歴統計）

- 月次統計(退院患者統計：退院サマリ完成率・クリティカルパス使用率・死亡退院リスト・剖検率・部位別がん登録患者数・DPC使用率・分析・分娩新生児情報集計等)
- 年次統計（国際疾病分類別・手術件数・合併症件数・麻酔件数・分娩件数等診療科別集計表・診療科別転帰統計、死亡原因別死亡数、合併症件数、麻酔件数、退院患者数等）
- 患者情報抽出（手術別・病名別等）
- がん統計分析
- DPC 入院期間分析・クリティカルパス分析

②DPC 精度管理

- DPC 出来高差分チェック・副傷病名確認

③DPC 請求の病名確認

- 入院、退院患者のDPC 病名「ICD コード」の確認
- DPC 基礎調査　付加コード・OP 初再回・がん登録のチェック

④入院患者情報入力および質的点検

- 診療情報管理システム（メディバンク）への入院患者情報入力
  （電子カルテ・退院サマリの点検、病名コードICD-10・手術及び処置ICD-9-CM・患者情報等の登録）
- 院外死亡登録

⑤がん登録

院内がん登録・予後調査参加・QI 研究参加・神経内分泌腫瘍専門施設情報公開プログラム参加等

⑥退院時サマリ管理・督促

⑦診療情報開示

⑧電子カルテ質的監査・手術記録確認・量的監査

⑨入院すぐの手術・ICD・DPCの確認

⑩電子カルテへの文書・新規スキャン・Excelチャートの管理

⑪診療情報管理・略語集管理等

【カルテ管理】

①書類のスキャン取込

②カルテ庫へＩＤ別の患者ファイル書類保管

③患者ファイル管理（書類回収・ファイル新規作成・貸出・返却・未返却の督促）

④紙カルテ管理（依頼のカルテ準備・返却・整理・未返却の督促）

⑤保存期間超えの紙カルテ・患者ファイル管理（永久保存管理・廃棄）

◆実　績

・同意書統一フォーマット取りまとめ　変更登録　約1,800件　全診療科変更

・文書　新規・更新登録　251件/年（2023年度）・DPC報告・説明　各診療科カンファレンスにて実施

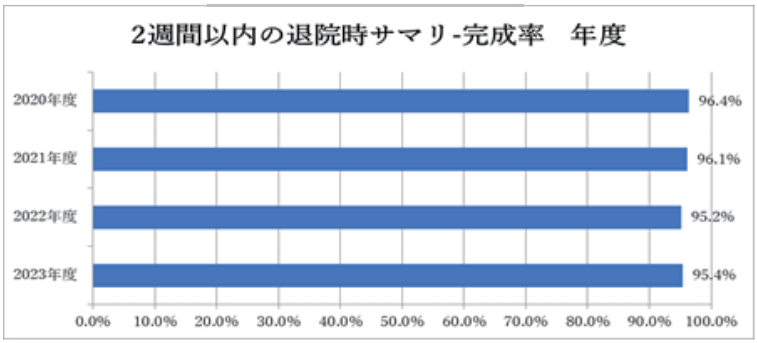
・クリティカルパス見直し（クリティカルパス委員会）
　他院とのベンチマークを行い現状課題と見直しを実施

・診療録量的監査　13,812件/年（2023年度）

・診療録監査委員実施
　　診療録質的監査　200件/年　　（2023年度）

・富士通電子カルテ
　　文書システム構築
　　手術記録、診療録システム作成
　　クリティカルパスシステム作成等

【サマリ記載率の推移】



健康管理センター

◆スタッフ

（センター長）金子　晃、看護師（保健師）１名、臨床検査技師１名、スタッフ２名

◆概　要

当健康管理センターは1959年（旧大阪厚生年金病院時代）に創設され、病院併設の人間ドックとしてこれまで多くの皆様にご利用いただいてきました。

二日ドック、一日ドックの基本コースには、人間ドック学会で推奨されている健診項目に準じた検査項目が含まれます。二日ドックには糖負荷試験に加え、甲状腺超音波検査、ロコモ度テスト（体力測定）が基本項目に含まれています。二日ドックは宿泊なしで受診することもできます。いずれの基本コースでも、経口胃カメラ・経鼻胃カメラ・胃透視は差額なしで選択可能です。

独自のコースとして、シルバードック、脳ドック（単独）、大腸CT（単独）をおこなっています。オプション項目には、脳ドック、肺がんドック、骨ドック、大腸CT、大腸カメラ、内臓脂肪CT、胃カメラ鎮静、喀痰細胞診、腫瘍マーカー（CEA・CA19-9）、ピロリ抗体、女性がん検診として婦人科検診、乳腺超音波、マンモグラフィー（２方向撮影）があり、2023年度より脳ドックのオプションとしてVSRAD、アレルギー検査（View39・花粉症セット）、HTLV－1を追加し、充実した検査内容となっています。

2020年３月に、「人間ドック健診施設機能評価」の認定を取得しました。

質の高い検査と判定を提供し、生活習慣病を含む各種疾患の早期発見・早期治療によって、地域の方々の健康維持と健康寿命の延長のお手伝いをさせていただきたいと考えています。

当センターでは白を基調とした清潔でゆったりとした休憩室や個室ロッカーを備え、受診者の快適性・利便性を高める努力をしています。

・主な検査は、各診療部門・検査室にて実施
・医師による診察・問診・結果説明、保健師による問診・保健指導、健康運動指導士による体力測定・運動指導は、センター内にて実施

～病院併設の健康管理センターならではの丁寧な対応～

１．当院各診療科の医師による判定
２．人間ドックで要精査判定があった場合は、当センターから当該科へ院内紹介
３．至急受診が必要な場合は、健診受診当日に外来へ案内

◆実　績

2023年度（2023年４月１日～2024年３月31日）利用者

【基本ドック】		【オプション項目】			
一日ドック	999名	脳ドック	157名	VSRAD	69名
二日ドック	53名	肺がんドック	188名	骨ドック	74名
シルバー半日ドック	12名	大腸CT	80名	女性検診セット	217名
脳ドック（単独）	19名	大腸カメラ	90名	婦人科健診	84名
大腸ＣＴ（単独）	6名	腫瘍マーカー	483名	乳腺超音波	68名
		ピロリ抗体検査	109名	マンモグラフィー	71名
		内臓脂肪CT	108名	喀痰細胞診	111名
		View39(アレルギー)	9名	胃カメラ鎮静	169名
		HTLV－1抗体	2名		

大阪病院附属看護専門学校

◆スタッフ

（学校長）西田　俊朗、（副学校長）谷岡　美佐枝、馬屋原　豊、（事務長）横山　富士男、
（事務係長）小西　英康、（教務主任）三浦　千里　専任教員７名、事務員２名

◆概　要

大阪病院と附属看護専門学校が共通の「Autonomy：自律」をコンセプトとし、看護師として必要な専門的知識と技術を習得し、同時に豊かな人間性を養い、社会の保健医療福祉の向上に寄与しうる自律した人物を育成することを目的としています。

令和４年度に第5次カリキュラム改正が行われ、新たな科目の「キャリアデザイン」「自己表現法」で、看護のキャリアを形成していくために、より問題意識を持ち自己を見つめ実現したい思いを行動に移し、専門職として自己研鑽ができるように働きかけをしています。また「地域で暮らす人の理解」ではフィールドワークや地域でのボランティアへの参加を活用し、健康や暮らしを支援するために、生活の基盤である地域で暮らす人を早期に理解できるようにしています。さらに、対象や療養の場の多様化にも対応できるように、コミュニケーション力、臨床判断能力等に必要な基礎的能力が習得できるように「多職種連携」等を含めたカリキュラムも構築しており、次年度に実施する予定です。

このように、基礎教育を充実させることで、質の高い看護実践者を育成し、大阪病院のみでなくJCHO組織における看護師を育成していきます。

◆実　績

１．令和５年度学生数（令和５年４月現在）

	１年	２年	３年	計
学生数	４２人	４２人	４４人	１２８人

２．令和５年度卒業者の状況（令和６年３月卒業）

卒業者数	大阪病院	JCHO関連病院	その他病院	合　計
３８人	２１人	４人	１２人	３７人

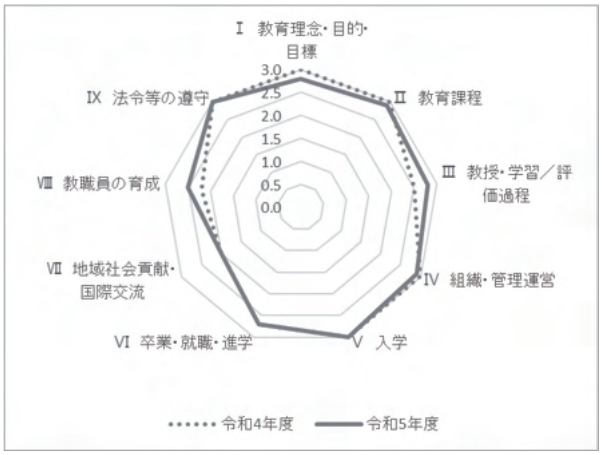
３．113回看護師国家試験の合格率：97.4％（全国合格率：87.8％）

４．令和６年度入試状況

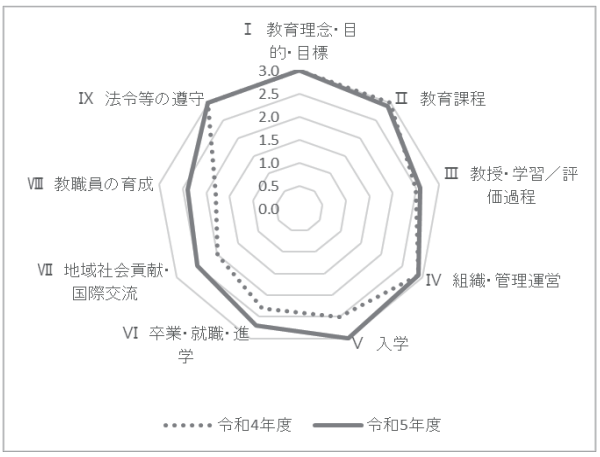
学年定員数	方　法		受験者数	実施日
40人	推薦入試	公募推薦	30人	令和５年10月２８日
		社会人特別選考	28人	令和５年10月２８日
	一般入試		39人	令和５年12月２３日
	計		97人	

５．令和５年度自己点検・自己評価および学校関係者評価（学校関係者評価　令和６年３月７日実施）

令和5年度　自己点検･自己評価結果の前年度との比較



令和5年度　学校関係者評価の前年度との比較



6. 日本看護学校協議会「私の学校自慢」で2点（ICT教育および協同学習について）応募し、共に奨励賞をいただきました。
また、大阪市福島区の「ふくしまSDGsフォトコンテスト」に学生のマイボトル使用写真を投稿し、優秀賞を授与しました。

チーム医療 感染対策チーム（ICT）

◆メンバー構成

◎長田　学、◎鴨井　博、井上　泰輔、小井　里香、福田　央子、日照　田敦子、井上　敬之、松本　真衣、丸山　華穂

◆概　要

＜重点目標＞

1．全職種に対して手指衛生向上のための多角的な取り組みの実施
2．人工膝関節置換術（TKA）SSI発生率の低減（7.6％以下）
3．拾得針本数減少（19本以下）ベイランスの実施（SSI）

◆実　績

1．WHOのフレームワークで自己評価を行い、教育、職場の安全文化、啓発活動へのポイントが低かったため、全職員のグリッターバグを使用した手洗いの実施、アンケート調査、手指消毒剤の整理、オープンキャンパス、標語を募集し啓発ポスターの掲示を行った。1患者1日当たりの手指衛生回数は2022年度 の12.4回から2023年度は 11.3回となり、結果には結びつかなかった。ラウンドでは1回量が少ない、擦り込みが不十分、適切でないタイミングが確認された。実践に繋がる取り組みが今後の課題である。
2．TKAのSSI発生率は2022年7.6％であったが、2023年は0.6％に減少した。JANISベンチマークデータと同等レベルになった。不要な対策をやめ、一次閉鎖が完了するまでの創傷管理を見直し、丁寧に対策を実施したことが結果に繋がったと考える。人工関節手術はハイリスク手術であり、MRSA保菌者の予防抗菌薬にVCMの使用についても検討して対策として取り入れていきたい。
3．看護部感染予防実行委員会で使用済み針の取り扱いについて現状調査を行い、拾得針の多かった部署では医師と共に現場での環境調整から針の取り扱いについて見直しを行い、減少することができた。病理室では標本整理時に使用する標本針の拾得が多かった。注意喚起と、マグネット工具を取り入れ、標本整理後回収することで清掃担当者が拾得することがなくなった。（2022年度19本→2023年度5本）

チーム医療 褥瘡対策チーム

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、事務員

◆概　要

【目的】褥瘡発生および重症化を予防し、褥瘡対策における医療の質向上を目指す。

【活動内容】

- 褥瘡対策委員会 開催（月１回）
- 褥瘡回診・カンファレンス（毎週）
- 褥瘡に関する診療計画書の作成・褥瘡予防治療計画書の作成、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定
- 除圧用具の適正使用、管理
- 褥瘡に関するコスト算定状況の把握
- 褥瘡対策講演会
  院内職員向けYou Tube配信 日時：2024年1月5日～2024年1月31日のべ視聴者数：244名
- 看護師対象ラダー別研修実施
- オープンキャンパス開催（患者対象）
- 褥瘡を保有した状態で退院し地域で療養を続ける方や、褥瘡発生リスクの高い方については、在宅でも褥瘡が発生しないように地域の医師や看護師、施設などと連携しています。

◆実　績

- 褥瘡発生率（褥瘡発生数/ 延べ入院患者数×1000）＝0.55
- 褥瘡推定発生率（(調査日に褥瘡を保有する患者数ー入院時すでに褥瘡保有が記録されていた患者数)/調査日の施設入院患者数×100）＝1.69
- 褥瘡対策に関する診療計画書の作成　3,570件、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数 2,186件

チーム医療 栄養サポートチーム（NST：Nutrition support team）

◆メンバー構成

医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・言語聴覚士

◆概　要

『栄養』とは、全ての治療行為の土台となる重要なものです。栄養サポートチーム（NST：Nutrition Support Team）は主治医と連携して、患者さんの治療を栄養面から支えます。あらゆる診療科の患者さんに対し、栄養状態の評価と栄養不良時の栄養管理を行い、手術・薬物療法など各専門科の治療が安全・円滑に進むように支援します。

経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養といった栄養投与経路およびデバイスの提案、病態や摂食嚥下機能に応じた食事・栄養補助食品の提案、経腸栄養・経静脈栄養メニューの提案など、入院中だけでなく退院後の生活も踏まえた適正な栄養管理について継続的に提案・支援します。経腸栄養による下痢など栄養管理におけるトラブルにも対処します。

患者さんが少しでもよくなることを願い、チーム一丸となって活動しています。

◆実　績

日本栄養治療学会　NST稼働施設認定

2023年度：栄養サポートチーム回診件数　685件

栄養サポートチーム加算算定件数　647件

チーム医療 ブレストチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士

◆概　要

乳がんの治療には、手術・放射線治療・薬物療法（化学療法薬・ホルモン療法薬・分子標的治療薬)があり、これらの治療を単独あるいは複数を組み合わせて行います。がんのサブタイプや病期・年齢・全身状態・併存疾患の有無などに加え、患者さんの希望を考慮し治療法を決定します。また、治療期間は術後の経過観察を含めますと10年以上と長期に及ぶため、この間、治療を納得して円滑に行うためには、治療に伴う副作用対策や心理・社会的な問題に対するサポート体制が重要です。患者さんがより良い環境で標準治療を安心して受けて頂けるよう、院内外の医療従事者が協力・連携したチーム医療を行っています。

乳がんは、早期発見できれば治癒が可能な疾患です。乳がん検診をはじめ、各治療期～終末期まで、多職種医療チーム・患者会のがんサバイバーの方々とも協力しながら、乳がん患者さんとご家族が、その方らしい生活ができるようサポートしています。

◆実　績

- **ピンクリボンキャンペーン in JCHO 大阪病院**（2023年10月1日～31日の1か月間）
  J.M.Sプログラムとして、10月15日(日)に乳がん検診を実施。検診者19名。
- **第33回乳がん患者会「つながり」総会の開催**
  日　程：2023年10月7日(土)
- **乳がん検診**
  毎週木曜、第4週の水曜に乳がん検診、毎週月曜の女性がん検診（乳がん検診と婦人科検診）
  2023年度検診者308名2022年度受診者284名

チーム医療 緩和ケアチーム

◆メンバー構成

医師（緩和ケア認定医など）、看護師（がん看護専門看護師）、薬剤師（緩和薬物療法認定薬剤師）、管理栄養士、理学療法士、公認心理士など

◆概　要

≪活動内容≫

●緩和ケアチームラウンド

・適宜、専任看護師を中心に緩和ケアチームメンバーがベッドサイドへ訪問し、症状評価や薬剤提案、ケアの実施・提案、依頼者とカンファレンスを行い、必要時は、他職種連携を行う。

●緩和ケアチームカンファレンス・チーム回診

・週１回緩和ケアチームメンバー全員にて症例検討、回診を実施している。

●緩和ケア研修開催（参加者24名）

◆実　績

新規依頼件数合計は192件（前年度151件）と2割増加した。消化器内科、外科、泌尿器科の順で依頼数が多かった。また、呼吸器内科からの依頼は前年度より約４倍増加した。介入時のPS が良い患者数や治療中の患者数が多いのは早期から緩和ケア介入ができていると考えられる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021年度	13	12	12	16	10	11	14	13	11	13	12	14	151
2022年度	7	14	11	18	9	13	11	12	15	12	14	15	151
2023年度	17	12	19	15	12	16	16	19	19	18	20	9	192

チーム医療 呼吸ケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士

◆概　要

呼吸ケアチームは、2010年６月より活動を開始しました。一般病棟において48時間以上継続して人工呼吸器を装着し、装着日から１カ月以内の患者さんを対象に、人工呼吸器離脱に向け適切な人工呼吸器の設定や口腔状態の管理などを総合的に行うことを目的に活動しております。

活動内容は、

①　抜管に向けた適切な鎮静や呼吸器の設定についての検討
②　人工呼吸器の安全管理
③　口腔内の衛生管理
④　廃用予防のケア
⑤　呼吸リハビリテーション
⑥　人工呼吸器関連肺炎予防のケアなどの実施や指導・相談です。

当院では、人工呼吸器離脱を目指した管理は集中治療室で行うことが多いため、呼吸ケアチームの役割は呼吸器からの離脱を目指すというより、安全・安楽な人工呼吸管理を行うことを目的とした活動が多いのが現状です。一般病棟では、経験の少ない人工呼吸器装着患者さんに対して、多方面からの介入を行うことで、安全で質の高い医療・看護の提供ができるように活動を続けていきます。

チーム医療 フットケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、義肢装具士、理学療法士

◆概　要

糖尿病足潰瘍、重症虚血肢の治療・看護の方針をチームで検討、足病変の早期発見および重症化の予防。

◆実　績

1．フットケア外来

- 糖尿病合併症管理料算定件数：429件（2023年１月～12月）

2．血液浄化センターフットケア回診

１）必要時実施

3．フットケアチームミーティング

定例会（月１回開催）

困難症例について適宜検討会を実施
地域講演会に向けての準備・調整

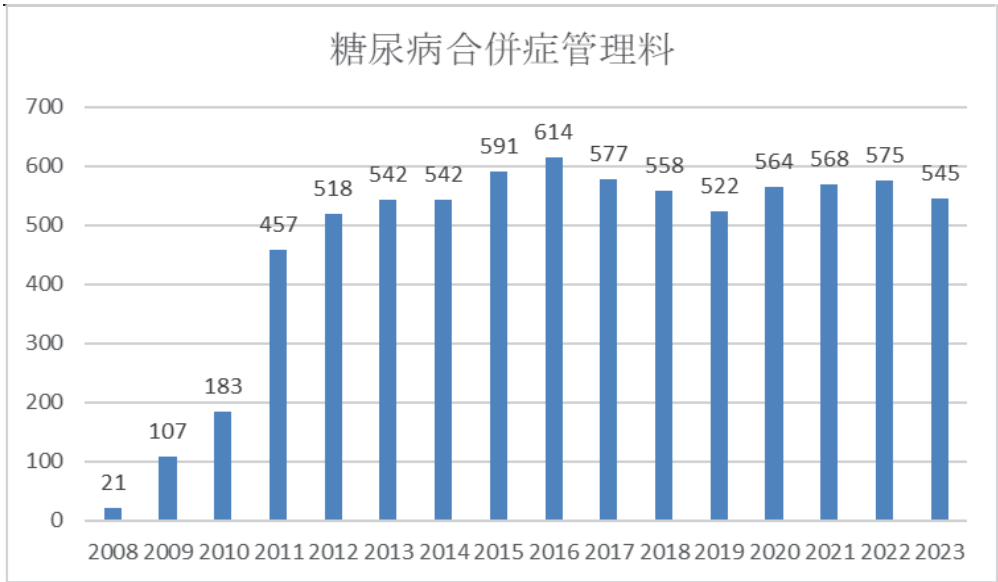
4．フットケア・スキンケア検討会開催：地域対象

- 2023年度は1月28日に第7回フットケア・スキンケア講演会実施。
  爪切り・圧迫療法などの体験コーナーを合わせて実施。

【次年度に向けて】

- 後方支援病院とのネットワークづくり、連携の強化・推進
- 院内チーム活動の連携の強化、理学療法士参画による拡充
- 地域医療のフットケアに対する、知識や情報の提供と連携
- 院内の足へのスキンケアレベルの強化

糖尿病合併症管理料



虐待対策チーム

◆メンバー構成

医師、看護師、MSW、事務員

◆概　要

児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待が急増している現状の中、当院でも虐待対応の体制を整え、行政への通報や支援の依頼を行い対応している。患者の権利を守り、患者と家族の健全な家庭関係構築を目指して、2021年に虐待対策委員会を発足、現在年3回定例会を開催している。委員会メンバーは医師、看護師、MSW、事務員と多職種にわたっている。虐待症例時の対応を明確化するために、対応マニュアルや対応フローチャートを作成し、病院職員全体で虐待対応に取り組んでいる。

迅速かつ適切な治療や支援を行うために小委員会としてCA対策チーム（児童虐待）、DV対策チーム（家庭内暴力）、EA対策チーム（高齢者虐待）を設置しており、各チームは医師、看護師、MSWで構成されている。虐待症例発生時は当該部署と各チームで情報共有を行うとともに必要時はカンファレンスを開催して対応を検討し、積極的に行政など相談窓口との連携も行っている。

◆実　績

・2023年度新規虐待対応件数

児童虐待：6件

家庭内暴力：3件

高齢者虐待：3件

・2023年度新規採用者オリエンテーション

「当院における虐待対応について」

97名（臨床研修医、新入職員など）

チーム医療 認知症ケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、PSW、作業療法士、薬剤師、事務員

◆概　要

超高齢化社会となり、高齢者、特に認知症高齢者の入院がますます多くなることが予想されます。認知症高齢者が入院するとせん妄の発症や環境の変化に適応できず行動・心理症状(BPSD)が出現し、退院の遅延・自宅での生活が困難となる、認知機能やADL がさらに低下するなどの問題が生じやすいのが現状です。そのため、認知症患者のケアの質の向上を図ることで認知症高齢者が安心して身体治療を受け、早期に住み慣れた場所に戻ることを目標に活動を行っています。かかりつけ医の先生方にも信頼してご紹介いただけるような病院となることを目指し、多職種でのチーム活動を行っています。

◆実　績

認知症ケアチーム回診新規患者数・回診件数・算定件数

	R３年度	R４年度	R５年度
新規回診患者数	471	765	634
認知症ケア加算Ⅰ算定回数	6,753	9,966	7,828

依頼内容

せん妄予防	478	ADL改善	93
せん妄やBPSDケア	264	意思決定支援	20
食事支援	54	家族支援	17
コミュニケーション支援	99	その他	10

※複数依頼含

チーム医療 腫瘍カンファレンス

◆メンバー構成

医師、看護師、リハビリテーション技師、SW、薬剤師をはじめとする多職種

◆概　要

腫瘍カンファレンスでは、当院のがん患者さんについて複数診療科の医師と看護師、薬剤部、リハビリなど各部門から多職種の参加を得て検討を行っています。検討内容としては原発・転移巣の評価、治療方針、経済面や家族関係など社会的背景、説明内容、リハビリなど支持療法の適応など多岐にわたります。当初は2015年12月に骨転移にしぼって骨転移カンファレンスとして少数のメンバーでスタートしました。2016年７月からは腫瘍カンファレンスとなり、対象を全がん患者とし、全職員に自由に参加してもらうようになりました。

現在のがん対策推進基本計画においては、がんと診断されたときからの緩和ケア、がん登録、がん患者の就労などの推進に重点が置かれています。これらの事業は院内の全職種および地域の医師、医療者との協働があってはじめて十分なものとなります。したがってこのようなカンファレンスはがんのチーム医療の推進には必須のもので、多くの医療施設で、ツモールボードなどの名称で広く行われています。当院では月１回、第３水曜日の夕方、各種委員会・カンファレンスの多く行われている時間での開催となっており、多くの方に負担をかけながらの開催ですが、今後さらに多くのスタッフの参加を得て、より活発なものとなることが望まれます。このカンファレンスは2021年からはがんを扱う診療科（外科、乳腺外科、消化器内科、泌尿器科、産婦人科、呼吸器内科）の持ち回りによって、運営されるようになりました。がんに係るすべての職員のさらに積極的な参加を期待しております。

看護部

◆スタッフ

看護部長；谷岡　美佐枝、副看護部長；岩田　富美・中野　美佳・中村　明美 他部署配置表の通り

◆看護部の理念

地域住民の健康で幸福な生活を支える看護

◆2023年度 看護部重点目標及び評価

目標１．選ばれる急性期病院になるために病院経営に参画する

経常収支は、COVID-19補助金によりわずかながら黒字計上できた（24百万円）。

新入院患者受け入れ増加に向けた取り組みを行った結果、昨年度より入院患者数、直入患者数は増加し、COVID-19感染拡大以前（2019年度）に回復したが、急性期病院として効果的なベッド運用を目指したことで平均在院日数は9.3日と減少し、稼働率は74％とKPIを達成できなかった。手術件数は、手術枠の綿密な検討により増加、KPI（5,000件）を達成し、経常収支に黒字化へ大きく貢献した。

目標２．患者サービス向上に向けた体制整備を行う

▶　電子カルテシステムの構築

副看護部長・看護師長を中心に、グループ編成を行い、構築を進めた。ベンダーを変更したため、一からの構築となり混乱することが多かったが、未来へ備える電子カルテの検討を重ね、3月更新に至った。まだ完成形ではなく、今後もＤＸ推進を目的に、継続的に構築を進めていくことが課題である。

▶　エラーを回避・調整できるSafety- II の考え方の醸成

インシデント報告総数 2023年度：4244件（病床数の8.0倍）であり、看護部は76％を占めKPIは達成。0 - 1レベルのレポート件数も増加し、良い取り組みについては、Good job賞が提供された。しかし、部署間格差があるため、全部署での安全管理対策の文化醸成を目指すことが必要。

▶　患者満足向上のための理念の接着

JCHOでの患者満足度調査では、病院全体の評価ポイントは90であり、昨年度ポイントとほぼ同様であった。フロントラインの接遇面の問題が認められたので、研修等の接遇強化を行った。また、職員間での挨拶や対話不足がＣＳに影響していることも踏まえ、医療チームで患者を支える仕組み創りの課題も明らかになった。

▶　今年度から新理念our PURPOSEの実現に向けた取り組みが始動した。接着推進に向けてまずは、各部署や各委員会で大切にしたいクレドを検討、それに基づいて取り組みを実施。期末面接でクレド☆セルフチェックを配布、1年間クレドに基づいて働くことができたか振り返る機会を設定するなど、日常の臨床の中で、CREDOに溢れた環境設定とその評価について更なる構築が必要。

▶　外国人患者の対応整備

日本国際看護師によって職員向けの外国人来院時のフローチャートを作成し、翻訳ツールを使用しながら、外国人患者来院時のデモストレーションを実施し、約50名の対応を行った。支払いのルールも設定し大きな問題なく経過。インバウンドが増える現状において、全部署での取り組みに拡充させることが課題。

目標３．急性期病院として社会のニーズと変化に対応した人材を育成する

▶　クリティカルケアの実践能力の向上に向けた取り組み

RRS（院内迅速対応システム）を立ち上げ『JCHO大阪RRS運用マニュアル』に基づき、活動を実施した。起動要素である、早期警戒スコアリングシステムに対して以下の4つの対応が行われた。RRSの対応は、全体の0.2%と少なかったので、軌道に乗せることが課題。

▶　入退院支援・在宅療養支援の質向上に向けた取り組み

今年度、入退院支援体制として３病棟で病棟専任の入退院支援職員が配置され、退院支援部門と連携し入退院

支援を進めた。情報収集や看護記録を繋げて、日々退院支援を展開することが課題。

▶　看護管理者・スペシャリスト育成

認定看護師教育課程受講；感染管理１名　皮膚排泄ケア1名

認定看護師教育課程受験；クリティカルケア1名　特定行為研修受講者５名新規受講

副看護師長登用試験合格者８名中７名合格

目標４．互いに対話し、協働できる職場づくりを行う

▶　タスクシフト・シェア、効率的な業務改善への取り組み

業務量調査結果から、各病棟で申し送り時間の変更を実施し、前残業時間減少への取り組みを実施し減少。情報収集時間の削減は、新カルテの構築で改善は見込めると考える。また、看護補助者（ナイトも含む）へのタスクシフトの効果は認められている。メディカルスタッフとのタスクシフト・シェアは、どの部門もマンパワーの問題があり、推進には至っていないが、救急救命士の配置、MAの増員による効果は得始めている。

超過勤務時間10時間/人、有給休暇取得10日/人は、昨年度同様であった。

目標５．地域住民の暮らしと健康を支えるための啓発・教育活動を継続する

▶　地域住民の健康に関する啓発・教育活動

▶　地域医療・介護従事者の質向上に向けた研修活動

- ◆　バレンタインイベント開催（一般診療外来）；参加者約35名
- ◆　マタニティクラス・無痛分娩教室開催（母子医療センター）；参加者のべ490名
- ◆　野田中学校性教育実施（母子医療センター）全3回；参加者310名
- ◆　糖尿病教室(11階東病棟・糖尿病ケアチーム)；全10回　参加者のべ91名
- ◆　がんオープンキャンパス(がん相談支援)；全9回　参加者のべ463名
- ◆　がんサロン(がん相談支援)；全10回　参加のべ47名
- ◆　中学校へのがん教育(がん診療委員会)；全2回　参加のべ115名
- ◆　オープンキャンパス；参加750名
- ◆　訪問します、健康講座；全5回

など多くの活動を行い、地域に向けた社会活動に大きく寄与し、公的病院としての役割を果たした。

◆各部署の責任者

看護部長	谷岡　美佐枝		
副看護部長	岩田　富美　　中野　美佳　　中村　明美		
所　属	看護師長	所　属	看護師長
教育担当	田中　真由美	10階東病棟	藤澤　千穂
がん疾患担当	土岐　昌世	10階西病棟	狩野　智恵
看護外来担当	清水　加世子	11階東病棟	前田　結香
がん看護担当	志方　優子	11階西病棟	谷口　智子
病床管理担当	遠藤　聖美	12階東病棟	北　由美
ICU	東城　夏恵	12階西病棟	松岡　亜紀
8階東病棟	高橋　唯	13階西病棟	玉置ひろみ
NICU	高橋　唯（兼任）	外来　（一般診療）	鈴木　志帆
8階西病棟	峯　真由美	外来　（治療検査）	福永　花子
8階南病棟	今井　康乃	手術室	藤原　千佳
9階東病棟	長辻　玲子	血液浄化センター	森田　玲子（副師長）
SCU	長辻　玲子（兼任）	医療福祉相談室	細井　きみ江
9階西病棟	森本　結美	医療安全管理室	堀　美和子
		医療福祉相談室	三村　麻紀子

◆看護部の委員会の活動状況

各種会議・委員会名	委 員 長	各種会議・委員会名	委 員 長
看護師長会	谷岡　美佐枝	記録委員会	谷口　智子
副看護師長会	谷岡　美佐枝	看護サービス委員会	狩野　智恵
教育運営会議	中村　明美	安全管理委員会	北　由美
看護ケア推進会議	中村　明美	がん看護運営委員会	志方　優子
看護の質評価委員会	中村　明美	看護部審査会（研究審査）	中野　美佳
臨床教育委員会	田中　真由美	看護部審査会 （ラダー審査）	中村　明美
学生教育委員会	田中　真由美		

1．看護師長会

看護部の最高決定機関として位置付けている。

当院が目指す方針を基に、高度急性期、急性期に対する幅広い体制整備に向けて、看護部の目標に沿って質の高い看護実践が展開できる職場・教育について検討を重ねた。特に、今年度から始動した新理念our PURPOSEの実現に向けて、看護師長会ではCREDO「対話」をテーマにした検討を行った。職員への接着推進や心理的安全性が確保された職場環境について検討した。（内容は看護部の評価を参照）。

2．副看護師長会

4グループに分かれてQC活動に取り組んだ。１Ｇ「医師との対話でteam力　ｕｐ↑↑」、２Ｇ「明日のやりがい+　～温かい♡で～」、３Ｇ「安全に内服してもらい隊♡　～薬剤部・看護部ハーモニー♫～」、４Ｇ「愛（あい）さつでつながる心の輪+」。現場の問題点を分析し、副看護師長が中心となり職員同士の対話を促進しながら多職種を巻き込んで問題解決に取り組んだ。

3．教育運営会議

教育運営会議は、『看護部の教育理念の実現を目指し、教育計画の企画と運営を通じて看護の質向上を図る』ことを目的とし、①看護部教育計画に基づいた教育計画の企画を行う、②臨床現場のニーズに対応した教育計画を立案・実施する、③看護部の教育理念の実現に向けたJCHO大阪病院クリニカルラダーの再構築を行う、の３点を目標に掲げ活動を行った。年度初めに予定された教育計画は概ね実施できた。研修は、受講者の学びと実践に繋がっており、現場のニーズにあったものだった。生涯学習ガイドラインと看護実践能力習熟段階との構成を理解し、次年度の教育計画を考えるにあたっての考えの礎ができた。

4．看護ケア推進会議

今年度は、①専門分野における課題を抽出し、院内教育活動に参画する、②地域保健福祉活動に積極的に参画する、③スペシャリスト及びJCHO大阪病院の看護師の看護ケアについて広報する、を目標とした。①では、スペワクゼミ、スペシャリスト留学の広報活動を実施し周知を図った結果、実施回数は増えた。②については、オープンキャンパスを開催し、各スペシャリストで企画を行い福祉活動に参画した。個々のスペシャリストが内容を企画し、ポスター掲示、体操、講演などの企画を開催することができた。③は、クローバー通信の発刊やCN/CNS報告会を通じて、看護職員の看護の質向上に関する活動や専門・認定看護師の活動を知ってもらうことができた。

5．看護の質評価委員会

看護の質評価委員会は、『看護の質を評価する方法について信頼性妥当性の探究を行い、更に質評価の精度管理を推進する』を目的とし、①看護の質評価方法を探求し一連の構造・過程・結果評価について構築する、②看護の質評価の公表に向けた取り組みを行う、を目標に活動した。看護の質評価として、構造評価・DiNQL・日本看護質評価機構「看護ケアの質評価・改善システム」・過程評価・「医療の質の可視化プロジェクト」に取り組んだ。特に、今年度は中断していたDiNQLを再開した。データ入力等の負担はあるが、他施設とのベンチマークのためには重要な指標であり、今後は負担なく実施できる工夫していきたい。

6．臨床教育委員会

今年度より、ジョブローテーション研修を導入した。初年度であり、受け入れ側の戸惑いも大きかった。また、各部署からは配属が遅くなることへ不安の声も多かった。しかし、研修期間中に基本的な看護援助も習得されていたことから配属後の導入はスムーズであった。新人看護師の3月の到達目標も達成された。継続教育においては、研修がOJTに効果的に連動できるよう、各委員会と協力したが、教育委員としての経験年数の浅さから円滑でないものもあった。

7．学生教育委員会

クリティカルラダーレベル0からの看護学生の育成に向け、効果的な実習指導の展開及び指導者の育成を目的に活動を行った。JCHO大阪附属看護専門学校の教員より、各実習の内容や看護学生の現状を伝えることにより、看護学生の育成に対する課題について共通認識を図った。また、実習指導者の育成を委員会の目標に上げることで、実習指導者研修受講者による伝達講習やe-ランを活用した学習会、経験型教育実習の学習会など各病棟で実習指導者育成に向けた取り組みが行われていた。

8．記録委員会

記録委員会は、３つの目標を掲げ活動した。①「改訂された評価ツールを用い看護過程監査を行い看護記録の充実を図る」では、改訂された評価ツールで２回看護過程評価を実施した。その中で院内共通の課題が明らかになり、改善策を検討した。②「看護記録・看護過程の教育活動を検討・実施・評価を

行う」では、委員が中心となり看護過程研修を実施した。事例や研修方法を検討し、実践に近い方法での研修を行うことができた。③「電子カルテ更新に向けての準備を進める」では、看護部と協力し準備に取り組むことができた。

9．看護サービス委員会

「業務改善」と「接遇改善」について取り組みを行った。業務改善では、看護師の業務量調査を実施し、「患者状態の引継ぎ」「情報収集」に時間を要していることがわかった。また、情報収集のための前残業減少の方法について検討、取り組みを実施し、少しではあるが減少することができた。接遇改善では、身だしなみと態度について自己・他者での評価を2回実施した。また、隔月ごとに標語の作成、周知を行い、継続的な啓発を実施し改善に努めた。

10. 安全管理委員会

各部署のRMがレポート提出を働きかけ、年間3214件（うち0-1レベル報告2154件）の提出があった。レポートの内容を丁寧に振り返り、部署で伝達するなどSafety- II の考え方の醸成に繋げた。病棟薬剤師との協働では、対話を進め、インシデント予防対策を共に立案した。対話することで患者のケアについても、昨年度以上に協働できている。インシデント発生後に発生要因を分析し、業務改善に繋げたことで、同様のインシデント再発予防に努めた。

11. がん看護運営委員会

がん薬物療法、放射線療法、緩和ケアに関してチームに分かれて、課題を抽出した。課題解決のために院内のがん医療・看護に関するマニュアルや手順を改訂した。また、多職種連携が困難であるという課題に対しては、リンクナースが事例紹介、看護展開について言語化する練習を行った。Bad news説明後の患者とのコミュニケーションの課題に関してはロールプレイを企画し、現場スタッフの参加を促した。

12. 看護部審査会（研究審査/ラダー審査）

研究審査は（回覧審査も含め）11回開催し、看護研究や看護実践報告について倫理的視点での審査を実施した。内部審査は13件、外部審査は70件であった。ラダー審査は3回開催し、延べ111名を審査した。

◆ワーキンググループの活動状況

各種会議・委員会名	委 員 長	各種会議・委員会名	委 員 長
感染予防実行委員会	小井　里香	認知症ケア実行委員会	冨永　純子
褥瘡対策実行委員会	清水　加世子	クリティカルケア実行委員会	景山　恵利
入退院支援実行委員会	三村　麻紀子	クリティカルパス・ 看護基準委員会	藤澤　千穂
摂食嚥下・栄養管理実行委員会	吉田　文子	看護手順委員会	峯　真由美

1．感染予防実行委員会

使用済み針のリキャップ防止、携帯用針廃棄BOXの携行に取り組んだ。ペン型インスリン針での穿刺事故が3件/年程度と報告件数は少ないものの、廃棄不備が原因であったため、安全装置付きのペン型インスリン注射針を導入した。導入後は使用状況をリンクナースと確認し、以後穿刺事故の報告はない。携帯用針廃棄BOXの携行については現状を確認し、携行しやすい場所への設置を行った。引き続き働きかけを行っていく。

2．褥瘡対策実行委員会

今年度は体圧分散寝具選択のフローチャートを定着させて、除圧用具の選択が原因の褥瘡を予防することを目標に活動したが、徐々にADLが低下する患者にタイムリーに適切なマットに選定できておらず褥瘡発生した事例は昨年同様みられた。ギャッジアップ時の除圧・ずれ対策、イス上の除圧不足などの課題があげられており、患者毎のリスク因子に着目して、褥瘡予防ができるようにカンファレンスを強化していきたい。

3．入退院支援実行委員会

部署の課題解決と、患者個々の退院目標達成に向けて委員自身がモデルとなって退院支援を進めることができるように取り組んだ。患者情報の把握や退院支援の進捗状況についての引継ぎ方法を課題とする部署が多かったが、委員自身も退院支援実践について自己評価を行い客観的に振り返りながら、部署課題解決に向けて活動できた。また、今年度は３病棟で専任の入退院支援Nsが配置されており、円滑な入退院支援の実践に向けて引き続き取り組みを継続する。

4．摂食嚥下・栄養管理実行委員会

栄養管理や摂食嚥下障害に対する介入が必要な患者抽出の継続と、栄養介入に向けた取り組みとして口腔ケアの実施状況の把握を行った。各部署の特徴から栄養介入や摂食嚥下への介入が必要な対象を捉えることはできているが介入後の評価や摂食嚥下のフローの定着には課題が残った。また口腔ケアに関しては、意識調査やレクチャーを行った。口腔ケアの実施の定着に向け、次年度も活動を継続していく必要がある。

5．認知症ケア実行委員会

認知症ケア実行委員会では、認知症や認知機能低下のある患者様が、自身の能力を最大限に発揮しながら、安全で適切な治療が受けられるよう認知症看護実践能力の向上を目指すこが目的である。

R5年度は6事例を通して認知症の看護実践を検討した。R6年は各部署でカンファレンス等を通して認知症ケアを考える機会が多くなるよう活動する予定である。

6．クリティカルケア実行委員会

2023年度よりクリティカルケア実践能力向上を目的に委員会が立ち上がった。RRS（院内迅速対応システム）の活用に向けて、まずはRRSに関する説明や意識レベルの評価について学習してもらった。RRS起動基準に該当する患者を認識できるよう、呼吸数を全患者に測定することを徹底した。呼吸数測定率は44％から78％まで上昇した。また、各部署で急変対応の勉強会が実施できるよう企画した。

7．クリティカルパス・看護基準委員会

電子カルテの移行があったため、まずは委員全体でクリティカルパスについて学習会を実施し理解を深めた。現在ある全てのクリティカルパスを把握し、不要パスの削除と内容の確認を行った。看護基準の見直しを行ったうえで、看護基準とクリティカルパスのアウトカムを照らし合わせ修正するとともに、DPCに応じた入院期間となるようクリティカルパスの改定を行った。

8．看護手順委員会

看護手順の見直しを１回/年実施しており、各部署が責任を持ち、現場にあった手順であるか、そして安全に実施できる手順であるかという視点で見直し、改定を実施している。また、新規で作成しないといけない手順については作成を行い、現場で活用できるもの目指し活動を行った。

◆大阪病院における看護評価

1．構造評価

1）評価期間　2023 年 10 月 16 日～11 月 24 日
　①　自己評価　10 月 16 日（月）～　10 月 27 日（金）
　②　看護部評価　10 月 30 日（月）～　11 月 24 日（金）

2）評価部署　「病棟」「外来（一般・治療）」「手術室」「血液浄化センター」「医療安全管理室」「医療福祉相談室」、その他

3）評価者　看護部長、副看護部長、看護の質評価委員会

4）評価方法　JCHO 本部より配信された、構造評価ツール追加修正版を使用して実施。
各部署の看護師長・副看護師長による自己評価後、評価者による現場視察と面接により評価した。症例を用いてプロセスを評価し、アウトカムは部署のアウトカムとした。

5）結果

2022年度より10%以上悪化した項目	
S-9-3	身体拘束を実施する際は必要最低限・安全に実施されている
S-15-5	バイアルやボトルの開封月日が記入されている
N-6-4	病室は清潔で整理整頓されている
N-10-5	栄養状態が低下した患者の改善計画が立てられている
E-4-1	研究のメンバーは主体的に取り組んでいる
E-4-3	研究は看護ケアに活かされている
2023年度「出来ていない」が10%以上増加した項目	
S-1-5	事故発生後の患者・家族への説明が適切に行われている
S-3-1	医療関連感染管理について感染委員又はリンクナースが中心となって、職員への情報提供，啓発活動が行われている
S-3-2	サーベイランスが実施され、要因を把握し改善策を講じている
S-4-3	血液や体液に触れる可能性のある時は適切な防護用具を使用している
S-6-2	病室入口・ベッドサイド・ナースステーション等に救護区分の標識がある
S-9-1	安全確保のための身体拘束の必要性が適切に評価されている
N-1-2	看護師長は病棟全般を把握し、スタッフに適切な指示、助言を与えている
N-5-1	ナースコールは常時押せるように、患者の手の届くところにある
N-9-1	食事の摂取状況が記録されている
N-9-2	栄養管理計画が適切に立案され、実施されている
N-10-3	患者の活動性に合わせてマットが選択されている
N-14-2	患者が、自己管理する場合の基準がある
N-17-1	入退院時、主治医・病棟・ＭＳＷ等との情報交換が行われている
N-17-2	必要な患者への生活指導が行われている
N-17-4	必要な情報が記録・共有されている

2． 過程評価

1） 評価実施期間　　2023 年 5 月 9 日～5 月 23 日

2） 評価対象期間　　2023 年 1 月 1 日～3 月 31 日

3）評価対象カルテ　　入院期間 2 週間程度の患者 2 名。死亡、クリニカルパスを対象外とし、病歴士によって抽出されたカルテ

＊一般外来は、上記期間に連携した患者

4） 評価者　　看護記録委員と看護師長もしくは副看護師長

5） 評価方法　　JCHO 本部より配信された、構造評価ツール追加修正版を使用して実施。各部署の看護師長・副看護師長による自己評価後、評価者による現場視察と面接により評価した。症例を用いてプロセスを評価し、アウトカムは部署のアウトカムとした。

6） 結果

① 看護計画

		平均点以下の項目	2019	2020	2021前	2021 後期	2023
	Ⅰ 看護計画 評価項目			11月	前期	後期	前期
データ A：基礎	A－1	医療機関を訪れた理由がとらえられている	80.7%	77.1%	77.1%	90.0%	82.1%
	A－2	患者の健康に関する情報がとらえられている	61.4%	50.7%	50.7%	56.2%	60.3%
	A－3	環境及び家庭状況がとらえられている	52.1%	59.3%	59.3%	56.2%	56.7%
		平均	62.9%	57.9%	57.9%	61.5%	66.4%
リスト B：目標	B－1	収集された情報が全人的にとらえられ、アセスメントし、目標が明確化されている	57.9%	63.6%	63.6%	62.3%	55.2%
		平均	57.9%	63.6%	63.6%	62.3%	55.2%
C：計画	C－1	到達可能な目標を設定している	評価ツール変更あり				71.4%
	C－2	解決方法が適正であり、患者のニーズを満足させる働きかけである					61.3%
	C－3	看護計画を立案、修正している					73.6%
		平均	55.0%	52.1%	52.1%	63.5%	69.2%
		看護計画平均	53.6%	55.0%	55.0%	57.7%	61.5%

② 看護経過記録

	Ⅱ 看護経過記録 評価項目		2019	2020	2021前	2021 後期	2023
的情報 S：主観	S－1	患者の訴えが十分とらえられている	55.0%	53.6%	50.8%	59.2%	58.9%
		平均	55.0%	53.6%	50.8%	59.2%	58.9%
的情報 O：客観	O－1	主観的情報に対する観察がされている	67.1%	65.7%	61.2%	63.1%	70.8%
	O－2	看護の視点からの情報を意図的にとらえている	71.4%	67.1%	62.9%	72.3%	60.7%
		平均	40.7%	65.7%	60.2%	66.9%	65.9%
察 A：評価・考	A－1	S・Oに対する判断・考察をしている	57.1%	60.7%	69.8%	69.2%	58.3%
	A－2	ケアに対する評価をしている	48.6%	55.0%	53.8%	61.5%	54.2%
	A－3	目標に対する達成度を評価している	46.4%	51.4%	44.3%	62.3%	48.2%
		平均	50.0%	54.3%	52.4%	63.1%	53.6%
画・実施 P：計	P－1	看護計画に基づいて行ったケアの内容をとらえている	65.7%	65.0%	63.6%	70.8%	61.3%
	P－2	A（考察・評価）の結果から、計画の継続、修正をしている	45.7%	54.3%	59.3%	69.2%	51.2%
		平均	55.0%	60.7%	60.4%	68.5%	56.3%
		経過記録平均	57.9%	57.1%	56.0%	63.8%	58.7%
		総平均	54.3%	55.0%	52.0%	60.0%	60.1%

③　退院時看護要約

退院時看護要約			2019	2020	2021前	2021 後期	2023
S 主観的情報	S－1	入院時の主訴が記録されている	65.0%	59.3%	40.0%	60.8%	52.4%
	S－2	問題となった訴えの変化が記録されている	43.6%	56.4%	35.0%	45.4%	41.7%
		平均	52.9%	57.9%	36.4%	52.3%	47.0%
O 客観的情報	O－1	入院中の看護の経過、及び反応が記録されている	47.1%	47.9%	57.1%	60.0%	56.0%
	O－2	最も必要なデータが記録されている	44.3%	40.7%	37.1%	53.1%	39.3%
	O－3	患者、家族の健康レベルをどう受けとめているか記録されている	21.4%	24.3%	26.0%	43.8%	34.5%
		平均	33.6%	35.0%	37.7%	50.8%	43.3%
A 看護の考察・評価	A－1	看護上の問題点となったもの、及び残された問題点が明確にされている	60.7%	67.1%	52.9%	76.2%	56.0%
	A－2	目標達成のためのケアが適切であったかどうか評価されている	18.6%	35.7%	40.7%	45.4%	36.9%
	A－3	入院中に行った指導（生活指導・保健指導）が退院時に評価されている	20.7%	32.1%	24.3%	47.7%	26.2%
		平均	32.1%	43.6%	37.6%	54.6%	39.7%
P 退院時計画	P－1	継続看護の方針が明確にされている	52.1%	65.0%	60.0%	88.5%	61.9%
	P－2	退院後のフォローアップ、家族・キーパーソンの支援体制、ソーシャルサポートについて記録されている	25.7%	47.9%	56.4%	63.8%	46.4%
		平均	37.9%	56.4%	57.9%	75.4%	54.2%
		退院時看護要約	38.6%	45.7%	41.7%	56.9%	45.1%
		総平均	47.1%	50.7%	49.0%	57.7%	52.6%

◆教育全般

1．クリニカルラダー別割合（看護師長除く）

ラダー	2022年度	2023年度
0（承認未）	4.5%	4.7%
I	8.7%	10.9%
II	36.7%	36.4%
III	34.1%	32.8%
IV	15.8%	14.8%
V	0.2%	0.4%

2．資格取得者・長期研修修了者数

2024年度３月末現在

専門看護師	1	認定看護管理者	2
認定看護師	15	サードレベル修了者	2
診療看護師	1	セカンドレベル修了者	21
特定行為研修修了者	13	ファーストレベル修了者	42

3．院内研修

1）　新人看護職員研修プログラム

今年度、４月の新人看護師は50名であった。新人看護職員研修として28項の研修を計画実施した。医療の高度化や在院日数の短縮化、COVID-19 等の社会背景より看護基礎教育から組織社会化への移行をスムーズにするために集合研修とジョブローテーション研修を取り入れた。看護技術の習得のみではなく看護の意味づけや看護の素晴らしさを実感できるようなプログラムとした。そして、3部署をローテーションでまわることで自分に合った部署の選択を行った。新人看護師にとっては、エンゲージメントを高めることができ、今年度の離職率は8.1%から4%へ減少した。しかし、途中休職する新人看護師もおり、職場適応やメンタルサポートへの継続的な関りが必要である。

研　修　名	研　修　名
新採用時研修	看護倫理Ⅰ
３ヶ月研修	看護過程Ⅰ
６ヶ月研修	看護記録
９か月研修	救急看護Ⅰ
１年目研修	重症度、医療・看護必要度研修
ジョブローテーション研修	周手術期Ⅰ
ローテーション研修	入退院支援Ⅰ
フィジカルアセスメント（呼吸・循環・脳）	災害看護Ⅰ
TeamSTEPPSⅠ	高齢者・認知症看護Ⅰ
メンタルヘルスⅠ	感染Ⅰ
コミュニケーションⅠ	がん看護Ⅰ
スキンケアⅠ	摂食嚥下障害看護Ⅰ
新人看護師一人あたりの研修合計時間　242.5時間　34名が受講を修了した	

2)　新クリニカルラダー別教育計画

研　修　名	受講者数	研　修　名	受講者数
看護倫理Step1	27	新人看護職員実地指導者研修Part1	19
看護倫理Step2	18	新人看護職員実地指導者研修Part2	16
看護倫理Step3	11	教育担当者研修Part1	7
看護過程Ⅱ	32	教育担当者研修Part2	6
リーダーシップⅡ－1	39	実習指導者研修Part1	18
リーダーシップⅡ－2	26	実習指導者研修Part2	18
リーダーシップⅢ	20	プリセプターシップ研修	32
フィジカルアセスメントⅡ	26	プリセプターフォローアップ研修	38
臨床推論	9	感染管理Ⅱ	29
救急看護Ⅱ	23	感染管理Ⅲ	7
入退院支援Ⅱ	29	スキンケアⅡ	23
入退院支援Ⅲ	13	スキンケアⅢ	9
看護研究Ⅰ（2年目）	32	高齢者・認知症看護Ⅱ Step1	26
看護研究Ⅱ	32	高齢者・認知症看護Ⅱ Step 2	19
院内留学	21	高齢者・認知症看護Ⅲ	4
スペシャリスト留学（がん・WOC・糖尿病）	6	摂食嚥下障害看護Ⅱ Step1	27
がん看護Ⅱ	10	摂食嚥下障害看護Ⅱ Step 2	19
がん看護Ⅲ	5	摂食嚥下障害看護Ⅲ	3

今年度、ラダー別研修は36講座、延べ699名が参加した。年度初めに予定された教育計画は概ね実施できた。研修は、臨床実践につながりやすいような研修内容になるように工夫した。受講者の学びと実践につながり、現場のニーズにあったものであったと評価する。2022年度の評価としても上がっていたOJTの部分では、委員会内でもOJTの検討を行ったため、部署内で効果的に実施できたと評価する。
今年度、日本看護協会より「生涯学習ガイドライン」が発表された。生涯学習という概念を踏まえて、当院の人材育成の方向性を検討し、ラダー別教育計画についても考えていく必要がある。

看護部門 ICU（集中治療室）

（看護師長）東城　夏恵、看護師30名　12床

◆重点目標と実績

ICU は全室個室12床を有しており、循環器疾患や心臓血管外科・外科・脳神経外科などの大手術後、合併症を有する患者の術後、病棟での急変などの患者に対して高度で安全な医療・看護の提供を行っている。

重点目標：急性期病院、地域医療支援病院としての効果的な病床運営を行う、
迅速な入院を可能とする病床管理体制の強化

実　績：病床利用率62％(2022年度58％)。今年度は曜日別の利用率が高い月曜日水曜日木曜日金曜日を12床稼働できるように勤務体制を整備し、業務整理を行った。また昨年度に続き、OP室・治療外来部門との協働により、予定入室の大幅な増加を図ることができ、昨年度より利用率を上昇させることができた。

看護部門 母子医療センター（８階東病棟・NICU）

（看護師長）高橋唯、助産師33名、看護師4名　産婦人科：18床　小児科：６床

◆重点目標と実績

８階東病棟とNICU は“母子医療センター”として産科医、小児科医、助産師、看護師が常に連携・協働し、安全な周産期管理を目標に、正常分娩だけでなくハイリスク分娩や新生児管理を行っている。

2023年度は、無痛分娩の枠を拡大することで分娩数の増加を目指すと共に、地域支援病院として、子育て世代包括支援を目的とした産後ケア・助産師外来・新生児訪問などの充実に取り組んだ。分娩件数は平均37.5件/ 月、450件/ 年、無痛分娩件数は平均4.3件/月、51件/年、産後ケア利用者数のべ94名、助産師外来利用者数のべ276名、新生児訪問利用者数18名であり、いずれも2022年度を上回った。また、産科病棟・NICUでフレキシブルな人材配置を行い、継続的な看護ケア・助産ケアを提供できるように努めた。

看護部門 ８階西病棟

（看護師長）峯　真由美、助産師１名、看護師13名、保育士１名　小児科：22床

◆重点目標と実績

８階西病棟は小児病棟であり、小児管理料２を取得し、15歳未満の小児患者を24時間受け入れている。小児科特有の呼吸器感染症などの急性感染症の患者が半数以上占めており、内分泌・骨代謝疾患の他、整形外科疾患、耳鼻科疾患など、様々な疾患の患者が入院される。2022年度より大阪市と、2023年度より豊中市と提携し１ヶ月以上１歳未満までの産後ケアの受け入れを開始している。

2023年度もRSV感染症やインフルエンザ感染症などの呼吸器感染症の流行に伴い、緊急入院の患者は増加し、また検査や手術目的の患者の予定入院患者も増加した。結果的に入院患者数は昨年度と比較し283名/年増加し、病床稼働率は59.6％/年に上昇した。

また2023年より豊中市と提携し、産後ケアの受け入れを開始した。大阪市や豊中市では1歳未満の産後ケアの受け入れを行っている施設が少なく、病院近隣の利用者のみではなく、様々な地域からの利用者を受け入れた。2023年度は入院患者の増加に伴い産後ケア利用希望者全員を受け入れることはできなかったが、大阪市は48組、豊中市は２組の産後ケア利用者を受け入れた。

看護部門 ８階南病棟

（看護師長）今井康乃、看護師19名、看護補助者5名

産婦人科・乳腺内分泌外科・消化器内科・整形外科・眼科：42床

◆重点目標と実績

８階南病棟は、産婦人科・乳腺内分泌外科を中心とした女性病棟である。治療と看護においては、手術や内視鏡、がん化学療法や放射線、高齢者の感染症、緩和ケアと多岐に渡る。

2023年度1日平均患者数は27.4人、稼働率は65.2％、緊急入院が多く新入院の23％を占めていた。診療科別入院患者割合は、産婦人科41％、乳腺内分泌外科22％、消化器内科11％、整形外科11％、その他15％であった。年代別では15歳以上～98歳までと幅広く、発達段階の割合は、青年期・成人期23％、壮年期53％、老年期24％であった。近年は遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)に対する治療も増えており、患者ひとり一人の治療選択のためにチームで連携して取り組んでいる。

看護部門　9階東病棟

（看護師長）長辻　玲子、看護師22名　脳神経外科・脳神経内科・消化器内科：39床

◆重点目標と実績

9階東病棟は、脳神経外科、脳神経内科の混合病棟である。入院患者の半数以上は脳卒中の患者でSCUでの急性期治療を受けた後の転入となっている。

今年度の重点目標の1つ目は、予定入院患者、救急患者、転入患者をスムーズに受け入れ、効果的な病床運営を行うこととし、病床稼働率84％の維持を目標値とした。入院患者は、昨年度より増加、緊急入院も増加したが、平均在院日数の減少に伴い、病床稼働率は昨年より低下し、73.2％であった。2つ目の目標は、SCUと連携し在宅療養支援をすすめ、DPCⅡ期末までの退院、転院を目指すこととした。Ⅱ期越えの退院・転院は、前年度40％から、32％にまで低下することができた

看護部門　SCU（脳卒中ケアユニット）

（看護師長）長辻　玲子、看護師17名

◆重点目標と実績

脳神経外科・脳神経内科：9病床

脳卒中ケアユニットは全室個室9床を有し、急性期の脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）患者を対象としている。脳卒中発症早期から医師、看護師、多職種と協働し、脳卒中急性期患者の回復促進を図っている。

今年度は、緊急入院患者400名、病床稼働率95％を達成できるよう目標を設定したが、緊急入院患者は、332名、稼働率は91.8％にとどまった。医師と連携し病院訪問を実施したが、引き続き広報活動に取り組んでいきたい。患者サービス向上に向けた取り組みとして、新電子カルテシステムがスムーズに導入できるよう準備をすすめるとともに、セーフティーⅡの考えを醸成できるようインシデントレポートの提出から分析ができるよう取り組みを行った。

看護部門　9階西病棟

（看護師長）森本結美、看護師26名　循環器内科・心臓血管外科：45床

◆重点目標と実績

9階西病棟は、慢性疾患を抱える高齢者の入院が多い病棟である。そのため、住み慣れた地域へ早期退院することができるように、入院早期より患者様・家族様の退院目標を確認し、多職種、医療・介護従事者と情報共有や合同カンファレンスの開催など連携強化を行い早期に退院することができるように支援を実施している。そのため、昨年度の平均在院日数は9.9日と年々短縮することができている。在院日数の短縮に伴い病床稼働率が80％となっているため、今後は心不全の内服調整などの軽症患者入院にも取り組んでいくことが課題である。

慢性疾患患者様をサポートするためハートチームをつくり、医師・看護師・理学療法士・栄養士・薬剤師とともに患者様、家族様をサポートしている。心不全に関する知識向上に向けて、心不全教室をDVDで視聴できるようにし家族様も気軽に知識を得られるようにした。今後は入院早期からACPの聞き取りもおこない、一人一人の患者様が今後どのように生活したいと思われているのかを把握したうえで生活上の目標を共に検討していくことを目指す。

看護部門　10階東病棟

（看護師長）藤澤　千穂、看護師26名　消化器内科：45病床

◆重点目標と実績

選ばれる急性期病院になるため病院経営に参画するため、消化器内科増床に伴い、3部署と連携した病床管理を行い、病床稼働率85％以上を達成することを目標とした。

結果：病床稼働率は83％と目標値には至らなかった

EMR＋ESD　1074件/年（目標1200件）　消化管内視鏡手術577件/年（目標600件）

目標件数は達成できなかったが、10階東病棟のクレドとして「困難なときでも、働く仲間と支え合い互いを高めあうこと」を大切に、部署間で協力しながら、円滑な入院受け入れに努めた。また、内視鏡検査や治療を受ける患者に安全な医療を提供できるよう内視鏡室と連携した。今後も消化器疾患の診断期から終末期と幅広い病期に関わる患者さんへ質の高い医療を提供し、選ばれる急性期病院となることを目指していく。

看護部門 10階西病棟

（看護師長）狩野　智恵、看護師23名　消化器外科・消化器内科・歯科：45床

◆重点目標と実績

1．急性期病院としての健全な病床運用

退院支援はスタッフと退院支援担当が連携し、入院早期から行うことが定着した。外科の手術件数の減少から平均在院日数が短縮、他科も積極的に受け入れたが病床稼働率は77.4％と目標達成には至らなかった。

2．急性期で求められる看護師の育成

病棟勉強会では、医師から病棟事例を用いた講義を実施、また術後偶発症の発症の際はその都度説明を受ける機会を持ち、より実践につながる学習機会とした。また院外研修への積極的な参加を行うことで外科看護・がん看護の実践力向上に取り組んだ。

看護部門 11階東病棟

（看護師長）前田　結香、看護師23名 糖尿病内分泌内科・呼吸器センター：45床

◆重点目標と実績

1．予定入院患者、救急患者をスムーズに受け入れ効果的病床運営を行う

1）入院患者1日平均38名以上、病床稼働率85％以上を達成する。

2）DPC Ⅱ期以内での入退院支援の強化を行う。

・2期以内での退院割合が65％　・標準化されたクリティカルパスの作成

病床稼働率83.8％、平均在院日数14.4日、病床回転率2.3／月、DPC Ⅱ期以内の退院56.８％であった退院支援が必要な患者が多いため、病棟に退院支援役割を担う看護師を１名配置し退院支援強化に努めた。今後はDPC Ⅱ期内で退院できるよう医師と治療の情報を共有しながら効率的な病床運営を実施していく。

2．11階東病棟に入院する患者に必要な呼吸器疾患・がん看護、糖尿病看護の専門性を高め、看護実践力を発揮できる人材を育成する。

特定行為受講者２名、ICLS受講２名、大阪糖尿病教育者研修参加２名　ELNEC受講１名

病棟学習会はE-ラーニングを使用するなど効率的な学習方法を計画したが超過勤務が多く計画通りに実行困難だった。来年度は集合研修以外の方法で専門性を高めるような方法へ変更する。

3．協働できる職場環境づくりを行う

業務の繁忙さにより超過勤務時間は一人当たり平均20時間／月を超え、離職が相次いだ。

看護補助者への業務以上は行ったが看護師の超過勤務の減少には至らなかった。

来年度は業務自体の整理を行い改善につなげる。また、離職予防にむけ風通しのよい職場づくりを目指し医師や他職種との会話の場を設ける。

看護部門 11階西病棟

（看護師長）谷口　智子、看護師24名 泌尿器科・腎臓内科・整形外科:45病床

◆重点目標と実績

1．予定および緊急入院をスムーズに受け入れるための効率的なベッド運用

（目標：病床稼働率85％以上、平均在院日数9日、1日平均入院患者数　38名）

・予定入院および緊急入院をスムーズに受け入れるため、直入対応役割を決定し受け入れるための業務体制を整備しながら空床の有効活用を行った。結果、病床稼働率85.9％、1日平均患者数38.5名と目標達成できた。しかし、平均在院日数は12.0日と昨年より約2.0日延長した。

2．他職種との連携による入退院支援、在宅療養支援の強化をはかる

（目標：内科DPC Ⅱ期以内退院割合60％以上）

・退院調整においては他職種と連携しながらDPCを意識した退院目標の共有を行い、Ⅱ期以内に退院できるよう退院後の生活を意識し、必要な準備が整えられるようカンファレンスを行うとともに各診療科医師とは病床の稼働状況の共有を行いながら、できるだけDPC Ⅱ期最終日近くでの退院調整を実施した。しかし内科DPC Ⅱ期以内の退院は51.6％と割合は低下した。

看護部門 12階東病棟

（看護師長）北　由美、看護師23名、整形外科：45病床

◆重点目標と実績

選ばれる急性期病院になるために病院経営に参画する

DPC Ⅱ期での退院割合と病床稼働率の維持を意識するとともに、患者の退院目標達成に対する満足度、退院後の生活に対する安心が得られているかを確認しながら看護を実践した。1日平均入院患者数38.1名、病床稼働率84.4%、DPC Ⅱ期内退院67.1%であった。病床稼働率は目標達成できなかったが、整形外科の周術期や緊急入院に対応できるよう効果的な病床運営に努めた。重症度、医療・看護必要度の平均は、48.2%であった。

次年度は、個々の患者が目指す退院目標達成に向けた看護を提供すること、急性期の整形外科病棟としての役割発揮ができるよう、人材育成を強化していく。

看護部門 12階西病棟

（看護師長）松岡　亜紀、看護師24名、整形外科：45病床

◆重点目標と実績

選ばれる急性期病院になるために病院経営に参画する

1日平均入院患者数38.1名、病床稼働率84.7%、直入院患者割合14.4%であった。DPC Ⅱ期以内での退院と合わせて、病床稼働率の状況を確認しながら効果的な病床運営となるよう調整を行った。病床稼働率は目標値であった85%には届かなかったが、患者の思いや治療を含めた今後の方向性の共有を行いながら、円滑な退院支援に向けた関わりを行い、平均在院日数は14.9日であった。重症度、医療・看護必要度の平均は50.7%であった。

看護部門 13階病棟

（看護師長）玉置　ひろみ、看護師２１名　眼科・耳鼻いんこう科・皮膚科・形成外科：45床

◆重点目標と実績

１．選ばれる急性期病院になるために病院経営に参画する

病床稼働率新規紹介患者と新入院の確保と効率的ベッド運用

病床稼働率、入院患者数の増加に向けて病床運営を行った。一日平均患者数24.9名、病床稼働率83%であった。またCOVID－19罹患患者の感染状況に応じて受け入れ病床を確保し、柔軟に対応した。

２．患者サービス向上に向けた体制整備を行う。

クレドにある「温かさ」の実現に向けた取り組みとして、患者の意思や尊厳に関する内容での多職種カンファレンスを19件/年実施できた。今後もこの取り組みは継続し患者の意思決定を支援していきたい。

看護部門 一般診療外来

（看護師長）鈴木　志帆、看護師30.7名

◆重点目標と実績

選ばれる急性期病院になるために、患者サービスの向上に向けた体制整備を行い、外来看護師に必要な看護実践能力を発揮できる人材を育成することを目標としている。

一般診療外来は、18診療科で運営しており、2023年度外来患者総数は252,378名１日平均外来患者数は1,039名、地域からの紹介率は76.1%であった。早期から退院後に向けた支援を行うために、入院支援室や他職種と連携している。また、外来看護師に必要な地域包括ケア促進に向けた外来教育計画と各チーム会の活動計画の立案・実施・評価を行った。外来での意思決定場面も増え、外来看護師の診察同席件数は大きく増加しており、ケアカンファレンスや看護の振り返りを行い、倫理的視点を養い意思決定支援に活かしている。外来機能の拡充にも取り組み、外来での日帰りOPの件数も増加している。

看護部門 外来（治療検査）

（看護師長）福永　花子、看護師21名

◆重点目標と実績

外来（治療検査部門）は、内視鏡センター、放射線科、外来治療センターの３つのユニットを一つの部署としている。今年度は治療検査室を効率的に運用し、治療・検査数の増加に対応することを目標とした。

内視鏡技師、がん薬物療法看護認定看護師、Intervention Nursing Expertの資格を持つ看護師を中心に質の高いケアを提供するとともに、各ユニット間で協力しながら緊急検査・治療に迅速に対応できた。年間総数としては、内視鏡検査8,859件、ESDやERCPなどの消化器内視鏡手術は577件（目標600件）であった。アンギオ件数は1,074件うちアブレーション189件（目標180件）であった。外来化学療法実施件数は年々増加傾向にあり3,639件であった。

看護部門 救急室

（看護師長）松山　佳子、看護師13名

◆重点目標と実績

1. 救急患者の受け入れ体制を整備し、救急搬送台数5000件（1日14台）を目指す

地域の救急患者を早急に受け入れるため、救急体制の整備と強化を行った。特に近隣の救急隊との情報交換を密に実施するとともの、病院として検討すべき内容は早急な改善に努めた。また、救急室での滞在時間が減少できるよう救急診療の協力体制の強化や入院病棟の早期確保などの検討を行ったことで、多くの救急患者の受け入れに繋げることができた。

2. 医師・看護師・救急救命士を含めた多職種との連携を強化し、断らない救急を目指す

救急救命士の業務規程・業務内容を医師・看護師を含めて検討を行った。救急診療の業務において救急救命士へタスクシフト/シェアすることで、救急搬送受け入れの増加が得られた。また、救急診療・看護・院内トリアージ技術を含めた知識・技術や倫理的配慮・家族へのケアなどを、医師・看護師・救急救命士などの多職種で一緒に行うことでお互いに学ぶことができ、知識・技術の向上や協働の強化に繋げることができた。

救急患者総数	7,520人
救急搬送台数	4,446台
緊急入院数	3,229人
救急搬送応需率	68.6％

事務部門 総務企画課

◆スタッフ

（課長）小西　英康、他事務職員11名、非常勤職員7.8名、派遣職員１名

◆概　要

総務企画課は、総務係・給与係・職員係・厚生係・経営企画係・業績評価係の６つの係の他、安全管理対策担当・図書室・医局秘書・秘書室で構成されています。総務係は関係官公庁への許認可申請・届出、連絡調整、会議、諸行事に係る事務、行政対応、情報開示、施設管理、患者搬送、自動車運転、投書及びクレーム対応、電話交換、図書及び医局の管理など各部署の業務が円滑に遂行できるよう広範囲の業務、給与係は人事・給与関係と賞罰、職員係は労務管理、職員の倫理、臨床研修医関係事務及び職員の研修、厚生係は職員の健康管理及び福利厚生、経営企画係の所掌は令和４年度に新設された将来構想戦略室が担当し、業績評価係は病院や職員の業績評価に関する業務をそれぞれ所掌しているほか、幹部職員のスケジュール等を管理する秘書室、医局を管理する医局秘書、図書室の管理、そして職員の安全管理対策担当を所掌する警察官ＯＢ２名を配置しています。これらの業務の遂行にあたり、スタッフは正規職員１１名、非常勤職員７．８名及び派遣職員１名の計１９．８名で構成されています。

◆実　績（主な課目標）

●増収及び費用節減対策

・　ＣＯＶＩＤ－１９（厚生労働省・大阪府・大阪市）にかかる病床確保料等の補助金申請、コロナ病床の運用及びコロナ外来等について行政庁との調整・交渉等。

・　地域医療構想等を踏まえた病床のダウンサイジングの意思決定（565→505床）、感染症法に基づく医療措置協定の締結及び紹介受診重点医療機関の指定

●人員管理

・　病院運営に必要な人員確保、適正配置。

・　法令等諸規程に基づく業務委託及び人材派遣関係の調整等。

・　出退勤管理業務の実施、時間外勤務の適正管理、年次休暇の取得促進。

・　医師の働き方改革への対応に向けて、勤務時間の適正管理と次の取組を実施。

(1)　職員定数増員協議

職員定数について、タスクシフトを視野に薬剤師、診療放射線技師及び医師事務作業補助員の増員。

その他、看護学生教育の更なる充実を図るため、教員の増員申請を行った。

(2)　宿日直許可申請

医師の時間外労働の上限規制（以下「医師の働き方改革」という）に対応できる体制を構築するため、令和４年度に引続き、外科系及び循環器内科（全時間帯について再申請）・産婦人科・小児科・ＳＣＵ・ＩＣＵ・循環器内科・ＮＩＣＵについて、所轄の西野田労働基準監督署長より断続的な宿直及び日直勤務許可を得たことにより、内科の一部時間帯及び救急を除いては、宿日直体制を確保した。

(3)　医師の働き方改革における特例水準

年間時間外労働時間が９６０時間を超えている整形外科医師については、更に入院及び救急患者の増加が見込まれたため、医療機関勤務環境評価センターの第三者評価を受審したうえで、大阪府の指定を受けてＢ水準を適用することとした。

また、産婦人科学会からの要請等も踏まえ、一部の産婦人科医師についてはC－２水準を適用した。C－２水準は、医療機関勤務環境評価センターの評価を受ける前に、さらに厚生労働省の委託を受けた審査組織による高度な技能の教育研修環境の審査を受ける必要があった。

●課内業務管理

・課内業務の効率化、省力化の推進による負担軽減。

・将来を見据えた人材育成。業績評価制度の適正な運用。

◆その他

・職員健診（過重労働の軽減、健康診断受診率の向上及びJCHO神戸中央病院への健診委託）。

・篤志解剖体慰霊祭の開催（コロナ禍により令和２年度及び３年度は自粛、令和４年度より再開）。

・個人情報及びコンプライアンスの意識啓蒙。

・大阪市保健所及びＪＣＨＯ本部内部監査への適切な対応。その他病院機能評価受審準備。

・ＪＭＥＣＣ（内科専門プログラムに附帯する必修講習）及びＩＣＬＳ（初期臨床研修プログラムに附帯する必修講習）について、自院定期開催。

将来構想戦略室

◆スタッフ

（室長）院長（室次長）事務部長（室次長代理）総務企画課長（室長補佐）栗本　真吾

◆概　要

将来構想戦略室は、病院のビジョン・コンセプトや、地域医療構想を踏まえた自院の機能・他院との連携のあり方など中長期の自院の将来構想を策定、それらの構成要素となる、新型コロナウイルスの影響や疾病構造の変化を踏まえた診療体制、行政機関や地域内の医療・介護事業者から今後求められる役割、地域の医療従事者の需給見込みも踏まえた自院の人員配置や今後の人材確保策などの検討・分析を行うこと等を所掌した。

◆実　績（主な室目標）

● 定性評価

・近隣医療機関への訪問活動を強化（医療機関別、住所別等データ、実績等を作成し、地域医療連携室は当該データを基準に訪問活動）。
・新理念新ビジョン共創プロジェクトサポートメンバーとして、新理念の接着及びVision for 2030の実現に向けた各種取組み（プロジェクトシーズン２の支援、戦略委員会の立上げ）。
・診療科別入院患者数を毎日更新するシステムを構築し、緊急入院受入れの参考資料等に活用。
・各診療科担当医へＤＰＣデータを元にヒアリングを定期的に開催。診療科毎の問題点等を提起し、ＤＰＣ制度等に関する基本知識を担当医に周知。
（必要に応じてベンチマークシステム（ＬＩＢＲＡ、ヒラソル）を活用）
・診療科毎に設定した重要評価指標（ＫＰＩ）について、所属長会議で報告。
・大阪医事研究会へ積極的に参加し、参画病院と情報交換を密に行う（診療科別入院患者数等）。

● 定量評価

・職員業績評価に連動する診療科目標（重要評価指標（ＫＰＩ））のフォーマット及び項目を設定、各診療部長はフォーマットに沿って数値目標と部門目標を設定し、院長ヒアリングを実施した。
・リアルタイムで全入院患者のＤＰＣ期間（現在どの入院期間に該当しているか）を目視できるようなシステムを構築。ＤＰＣⅡ期以内退院調整に活用。
・診療報酬改定に伴う当院の変更点（急性期充実体制加算等）について、病床管理運営委員会等で報告（ＤＰＣⅡ期以内での退院を目指す理由等について説明。）。
※ＤＰＣ入院期間Ⅱ期以内退院率　71.5％（対前年度+2.8％）
・急性期充実体制加算の算定と算定維持に向けた取組み（特に消化管内視鏡手術及び心臓胸部大血管手術の増加に向けて、所属長会議等で意識啓蒙を図る）。

◆今後の取組み

・2024年度各診療科の病床数及び重要評価指標（ＫＰＩ）を策定。
・新理念・新ビジョンの構築に関連して、新理念と職員の接着に向けての取組み及び当院の将来像（ビジョン）を目指すための中長期的な戦略を元にした目標数値（重要評価指標：ＫＰＩ）の達成度評価。
・診療報酬において、上位基準の取得・維持のために必要な施策を検討、新たな算定可能項目等を常に模索すること（厚生労働省ＨＰ等に掲載されている議事録等を注視）。
・収益だけでなく費用の点からも改善可能な項目等について検討する。
・ＤＰＣ分析ソフトを用いた他院とのベンチマークを行い、当院の現状（パス内容、入院期間等）について検討し、課題解決を行う（クリティカルパス委員会）。

事務部門 経理課

◆スタッフ

（課長）森山　伸一、他事務員6名、非常勤事務員2.4名

◆概　要

経理課は、経理係と契約係の２つの係で構成されている。

経理係は日々の売上金収納、資金管理、決算業務、経営分析、医事課との連携による医業未収金残高管理、予算策定、寄附に関することなど院内のお金に纏わる様々な事務処理を担当している。

契約係は病院運営に必要不可欠な医療機器・医薬品・診療材料の調達、資産管理、修理対応などのほか、契約業者を選定するための入札事務を担当している。当院は独立行政法人に属する病院で契約業者の選定方法において透明性や公平性を求められることから、原則、一般競争入札を実施している。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが２類から５類に移行して医療提供体制も平時体制への移行が進んでおり、各種コロナ補助金の交付も今年度末で終了となる。

我々は経理課員として、コロナ補助金に依存しない中長期的な経営基盤の再構築と当院が本来持っているポテンシャルを引き出すことに貢献できるよう努めてまいります。

◆実　績（主な課目標）

●債権管理事務の適切かつ効率的な実施

●黒字経営の実現に向けた費用減対策への積極的な取り組み

●医療機器等の計画的な整備を推進

①主な高額機器整備実績

・令和５年　９月　バイプレーン血管撮影装置

・令和５年１２月　手術支援ロボットシステム（ダヴィンチ）

・令和６年　３月　電子カルテシステム更新

③　寄附実績

・ご寄附をいただいた方 ２１名　合計金額 ２９，５６９千円

・寄附金を財源に整備した機器　超音波診断装置、移動型Ｘ線透視診断装置、空気圧式マッサージ機他

【決算概要】　（単位：千円）

科 目	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
診療業務収益	16,503,901	17,279,342	18,302,877	19,365,387	18,631,332
入院診療収益	10,849,261	10,730,911	10,875,417	11,960,805	12,430,729
（平均点数）	(6,732.2)	(7,192.3)	(7,431.0)	(8,672.1)	(8,857.1)
（平均患者数）	(440.3)	(408.8)	(401.0)	(377.9)	(385.8)
外来診療収益	4,879,299	4,635,389	4,866,717	4,958,272	5,120,017
（平均点数）	(1,784.0)	(1,845.2)	(1,869.7)	(1,921.7)	(2,025.0)
（平均患者数）	(1,130.2)	(1,033.8)	(1,075.3)	(1,061.8)	(1,038.6)
【経 常 収 益】	16,654,714	17,441,448	18,440,981	19,537,368	18,804,971
診療業務費	16,583,814	16,743,526	17,159,105	18,294,697	18,853,043
給与費	7,682,935	8,010,719	8,276,795	8,615,136	8,634,254
材料費	5,336,427	5,136,734	5,426,748	5,769,556	6,324,898
設備関係費	1,676,217	1,581,821	1,464,614	1,680,892	1,534,735
（減価償却費）	1,201,146	1,009,349	883,089	978,453	893,800
経 費	743,260	722,771	733,006	818,797	848,065
【経 常 費 用】	16,735,485	16,910,590	17,326,369	18,508,885	18,780,964
【経 常 利 益】	△80,771	530,858	1,114,611	1,028,483	24,007

医事課

◆スタッフ

（課長）橘　弘城、他事務員15名（医師事務含む）、非常勤事務員10名（医師事務含む） 派遣職員24名（医師事務）

◆概　要

医事課は、病院の窓口として医療事務全般に関わる業務を担当しています。

【外来部門】（委託）

- 初診受付
- 再診受付（自動再診受付機）
- 保険確認
- 外来計算
- 支払窓口（自動精算機）
- 救急受付
- 外来レセプト（外来レセプトの作成・点検、査定対応）

【入院部門】（委託）

- 入院計算（入院診療費の計算、請求書の発行、入院レセプトの作成・点検、査定対応）DPC 制度に基づき入院患者の医療事務全般を担っています。（DPC 請求・平成18年４月～）
- 入院センター（入院申込手続き、入院当日受付）
- 公費医療（労災・生保等のレセプト請求、諸法手続き、自賠責）

【その他】

- 未収金処理（未収金の督促・管理）（未収金回収プロジェクト委員会の開催・平成17年９月～）
- 統計、システム対応（レセプト電算処理、諸統計作成、システムメンテナンス）
- 検診（人間ドック、乳がん・女性がん検診の受付・請求）
- 文書（介護保険主治医意見書・生命保険診断書等作成の医師依頼及び調整）
- 各診療科外来にて医師の事務作業補助業務を行う医師事務作業補助者（ＭＡ）

◆実　績

医事課では、安心安全な医療提供の一翼を担うため、待ち時間の短縮や患者サービスの向上などを目的として、毎月１回勉強会を開催しています。その中で、保険請求や接遇について、さらなるレベルアップを目指して努力しています。

診療報酬算定漏れの減少や算定アップに向けた取り組みを行っています。経営マネジメントの役割を担い、さらにチーム医療の一員として、事務的業務において医療サービスを側面的にサポートしていきたいと思います。また、医師の働き方改革に伴い、医師事務作業補助体制加算（15対１）を取得し、タスクシフト推進及び体制強化を図ります。

【2023 年度（令和５年度）委員会一覧】

	委　員　会　名	委　員　長	主　幹　課
1	広報・図書委員会	北　山　聡　明	総　務　企　画　課
2	臨床研修管理委員会	島　田　幸　造	総　務　企　画　課
3	医学倫理委員会	金　子　　晃	総　務　企　画　課
4	院内感染予防対策委員会	長　田　　学	総　務　企　画　課
5	医療安全管理 (兼事故調査) 委員会	市　川　　肇	医事課 / 総務企画課
6	医療安全管理対策委員会	市　川　　肇	総　務　企　画　課
7	労働安全衛生委員会	院　　長	総　務　企　画　課
8	ワークライフバランス委員会	院　　長	総　務　企　画　課
9	防災対策委員会	谷岡美佐枝（代）	総　務　企　画　課
10	医療ガス安全管理委員会	山　間　義　弘	総　務　企　画　課
11	放射線障害予防委員会	西　多　俊　幸	総　務　企　画　課
12	診療情報管理委員会	金　子　　晃	診療情報管理室
13	医療情報運営管理委員会　兼）情報セキュリティ委員会	島　田　幸　造	医　療　情　報　室
14	診療情報提供委員会	中　田　活　也	総務企画課→医事課
15	①保険等調整検討委員会　兼）②ＤＰＣコーディング委員会	筒　井　建　紀	医　　事　　課
16	クリティカルパス推進委員会	島　田　幸　造	看　　護　　部
17	医療の質の評価委員会	馬屋原　　豊	医　　事　　課
18	脳死判定委員会	榊　　孝　之	総　務　企　画　課
19	施設整備委員会	中　田　活　也	経　　理　　課
20	診療材料委員会	小笠原　延　行	経　　理　　課
21	薬事委員会	鴨　井　　博	薬　　剤　　部
22	治験審査委員会	金　子　　晃	薬　　剤　　部
23	委託研究審査委員会	塚　本　文　音	総　務　企　画　課
24	輸血療法委員会	中　田　活　也	中　央　検　査　室
25	栄養管理委員会	馬屋原　　豊	栄　養　管　理　室
26	プライマリケア・救急医療運営委員会	小笠原　延　行	総　務　企　画　課
27	中央検査室運営委員会	岡　田　昌　子	中　央　検　査　室
28	病理科運営委員会	吉　田　康　之	病　　理　　科
29	放射線室運営委員会	西　多　俊　幸	放　射　線　室
30	手術室運営委員会	山　間　義　弘	麻　　酔　　科
31	集中治療部運営委員会	佐　藤　善　一	集　中　治　療　室
32	リハビリテーション運営委員会	寺　川　晴　彦	総　務　企　画　課
33	人間ドック運営管理委員会	金　子　　晃	医　　事　　課
34	内視鏡センター運営委員会	山　本　克　己	経　　理　　課
35	母子医療センター運営委員会	筒　井　建　紀	総　務　企　画　課
36	病床管理運営委員会	谷　岡　美佐枝	医　　事　　課
37	褥瘡対策委員会	竹　原　友　貴	看　　護　　部
38	ボランティア活動運営委員会	谷　岡　美佐枝	総　務　企　画　課
39	働き方改革・業務改善委員会	馬屋原　　豊	看　　護　　部
40	虐待対策委員会	島　田　幸　造	医療福祉相談室
41	診療環境健全化推進委員会	市　川　　肇	総　務　企　画　課
42	契約審査委員会	中　田　活　也	経　　理　　課
43	がん診療運営委員会	塚　本　文　音	医　　事　　課
44	認知症ケアチーム運営委員会	山　森　英　長	医　　事　　課
45	特定行為研修委員会	馬屋原　　豊	看　　護　　部
46	棚卸実施委員会	横　山　富士男	経　　理　　課
47	外来運営委員会	北　　圭　介	医　　事　　課
48	利益相反（COI）委員会	金　子　　晃	総　務　企　画　課
49	透析機器安全管理委員会	鈴　木　　朗	総　務　企　画　課
50	臨床倫理委員会	金　子　　晃	総　務　企　画　課
51	ＲＲＳ運営委員会	佐　藤　善　一	
52	高難度医療技術・未承認高度管理医療機器・未承認医薬品等　審査委員会	武　中　章　太	薬　　剤　　部
53	戦略委員会		将来構想戦略室

業　績

整形外科

【原著・総説・著書】

1. 草野　雅司
   末期膝蓋大腿関節症に対する脛骨粗面前内方移行術の小経験 - 膝蓋骨外側関節面軟骨下骨の骨密度変化に着目して
   JOSKAS誌．2023；48(2)：266-7
2. 武中　章太
   【Nomade】脊椎外科医の統計うんちく
   脊椎脊髄ジャーナル．　2023；36(5)：291-2
3. 武中　章太
   頚髄症の脳イメージング研究による予後予測バイオマーカー
   整形外科．　2023；74(13)：1374
4. 岡本　恭典
   カーブドショートステムの最適な固定様式
   Hip Joint.　2023；49(1)：316-20
5. 中矢　亮太
   THAにおける大腿骨の後方移動はROMにどのように影響するか
   Hip Joint.　2023；49(2)：638-41
6. 武中　章太
   頚椎症性脊髄症の患者立脚型身体機能評価による前方手術と後方手術の比較　ーランダム化比較試験ー
   医学論文から学ぶ 臨床医のための疫学・統計（朝倉書店）．　180－3
7. 武中　章太
   人工股関節全置換術における手術アプローチと重大な手術合併症の関連
   医学論文から学ぶ 臨床医のための疫学・統計（朝倉書店）．　184－5
8. Temporin K
   Risk of nerve injury during elbow arthroscopy: ultrasonographic evaluation of preoperative patients
   Journal of Shouldrer and Elbow Surgery.　2023；32(3)：486-91
9. Kita K
   Meniscal Circumferential Fiber Augmentation: A Biomechanical Arthroscopic Meniscal Repair Technique.
   Arhtroscopy techniques.　2023；12(10)：1673-8
10. Takenaka S
    Risk Factor Analysis of Surgery-related Complications in Primary Thoracic Spine Surgery for Degenerative Diseases and Characteristics of the Patients Also Undergoing Surgery on the Cervical and/or Lumbar Spine
    Clin Spine Surg.　Online ahead of print
11. Maeda T
    Relationship between Stress Shielding and Optimal FemoralCanal Contact Regions for Short, Tapered-Wedge StemAnalyzed by 2D and 3D Systems in Total Hip Arthroplasty
    J Clinical Medicine　2023；12(9)：3138-46

【学会発表】

12. 轉法輪　光
    離断性骨軟骨炎に対する肋骨肋軟骨移植術後の橈骨頭肥大の検討
    第35回日本肘関節学会　2023.2　山形
13. 三好　祐史
    尺骨鉤状突起骨折に対する関節鏡補助下手術
    第35回日本肘関節学会　2023.2　山形

14. 三好　祐史
開心術後に発症した腕神経叢障害の6例
第66回日本手の外科学会学術集会　2023.4　東京
15. 轉法輪　光
橈骨頭偽関節の1例
第22回肩と肘を語る会　2023.7　大阪
16. 轉法輪　光
離断性骨軟骨炎に対する肋骨肋軟骨移植術後の橈骨頭肥大と機能障害の関係
日本スポーツ整形外科学会2023　2023.6　広島
17. 清本　誠貴
人工膝関節置換術後早期に大腿四頭筋腱断裂を生じた一例
第53回日本人工関節学会　2023.2　横浜
18. 西本　竜史
小さな骨性Bankart病変でも大きく剥がすと骨癒合がはかどる
第50回日本肩関節学会　2023.9　東京
19. 藏谷　幸祐
術中大結節骨折を生じたRSA3例の検討
第50回日本肩関節学会　2023.9　東京
20. 北　圭介
フープ機能補強術を併用した半月板修復術の試み
第35回関西関節鏡・膝関節研究会　2023.3　京都
21. 田中　雄大
陳旧性前十字靭帯不全膝に対し拡大顆間形成術を併用した靭帯再建術を施行した症例の検討
第35回関西関節鏡・膝関節研究会　2023.3　京都
22. 秋森　太朗
反復性膝蓋骨脱臼に対して内側膝蓋大腿靭帯再建を施行した後に不安定性が残った１症例
第35回関西関節鏡・膝関節研究会　2023.3　京都
23. 北　圭介
フープ機能補強術を併用した新しい半月板修復術の試み -安全性と超短期成績-
第1回日本スポーツ整形外科学会　2023.6　広島
24. 吉村　長晃
当院におけるSchatzker分類Ⅱ＆Ⅲ型脛骨プラトー骨折に対する関節鏡視下整復固定術の治療成績と手術時の工夫
第61回大阪骨折研究会　2023.11　大阪
25. 北　圭介
内側半月板後根断裂に対し半月板円周線維補強術を用いて修復術を施行した１例
第1回日本膝関節学会　2023.12　大阪
26. 藤原　秀彰
内側側副靭帯単独損傷に合併した内側半月板後根断裂に対して修復術を施行した一例
第23回大阪スポーツ障害・外傷を語る会　2023.12　大阪
27. 草野　雅司
斜矢状断像CTを用いた陳旧性ACL不全膝症例における移植腱インピンジメントの術前評価
第1回日本スポーツ整形外科学会　2023.6　広島
28. 草野　雅司
移植腱インピンジメントのリスクが高いと予想された陳旧性ACL不全膝に対する拡大顆間形成術併用ACL再建術の治療成績
第1回日本膝関節学会　2023.12　横浜

29. 金山　完哲
腰椎固定術後の椎間孔狭窄を伴う隣接椎間障害に対してFESSは固定術に勝るか
第13回最小侵襲脊椎治療学会　2023.6　仙台
30. 金山　完哲
腰椎固定術後の隣接椎間障害に対してFESSは固定術に取って代われるか
第26回日本低侵襲脊椎外科学会　2023.11　福岡
31. 山田　修太郎
チューリッヒ跛行質問票を用いた開窓術後の治療成績・予後不良因子に関する検討
第52回日本脊椎脊髄病学会　2023.4　札幌
32. 河野　剛之
第5腰椎椎弓動脈瘤様骨嚢腫の脊柱管内進展により硬膜穿破を来した1例
第141回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会　2023.1　兵庫
33. 武中　章太
合併症に対する脊椎再手術の病態別詳細分類と施行時期大阪脊椎脊髄グループデータベース2023
第52回日本脊椎脊髄病学会　2023.4　札幌
34. 寺山　弘志
CLSステムを用いたALSA-THAの長期成績―関節包靱帯温存手技以前のALSAの実際―
第53回日本人工関節学会　2023.2　横浜
35. 岡本　恭典
狭小髄腔例の大腿骨近位髄腔形状―2機種の最小ステム使用例での比較検討―
第53回日本人工関節学会　2023.2　横浜
36. 岡本　恭典
カーブドショートステムの固定様式とstress shielding進行の関連
第50回日本股関節学会　2023.1　福岡
37. 中矢　亮太
フルHAステムにおけるPatient Specific Templateの有用性
第50回日本股関節学会　2023.1　福岡
38. 寺山　弘志
痛みのある初期・進行期前期股関節症における骨頭の実際―臨床症状とレントゲンによる病期分類の乖離を考える―
第50回日本股関節学会　2023.1　福岡
39. 縄田　昌司
カーブドショートステムの適合率
第50回日本股関節学会　2023.1　福岡
40. Shimada K
Articular reconstruction with use of rib osteochondral autograft for sports-related injury of the elbow (including OCD)
APOA HULS 2023 Annual meeting　2023.6　Seoul
41. Miyoshi Y
Arthroscopy assisted surgery for coronoid fracture
15th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (ICSES)　2023.9　Roma
42. Temporin K
Evaluation of the risk of nerve injury before elbow arthroscopic surgery
15th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (ICSES)　2023.9　Roma
43. Shimada K
Lateral Epicondylitis -Current Concepts-
15th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (ICSES)　2023.9　Roma
44. Shimada K
Reconstruction of articular injury of the elbow by the periosteum-covered pedicle bone graft
15th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (ICSES)　2023.9　Roma

45. Nishikawa M
Calcium pyrophosphate dihydrate crystal in operated rheumatoid arthritis of the knee
Rheumatology 2023　2023.4　Manchester

46. Kusano M
Adhesion between the graft and the transverse ligament after anatomical ACL reconstruction:〜An effect of arthroscopic release of adhesions~
International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine　2023.6　Boston

47. Takenaka S
Primary thoracic spine surgery for degenerative diseases: exploring risk factors for surgery-related complications and patient characteristics in those also undergoing cervical and/or lumbar spine surgery
Eurospine　2023.1　Frankfurt

48. Takenaka S
Risk factors for poor prognosis in patients with dural tear in surgical treatment of lumbardegenerative diseases: A multicenter database study
International Society for the Study of the Lumbar Spine　2023.5　Melbourne

49.K. Nakata
ALSA T-I Introduction
ALSA Advanced Bioskills Training　2023.9　Bangkok

【学会講演】

50. 轉法輪　光
手・肘領域のスポーツ障害
大阪臨床整形外科医会　2023.1　大阪

51. 島田　幸造
Arthroscopic surgery with use of PC assistance for osteoarthritis of the elbow
日本肘関節学会　2023.2　山形

52. 島田　幸造
小児期に起こる整形外科的問題　-成長期スポーツ外傷・障害について-
大阪臨床整形外科医会　2023.3　大阪

53. 島田　幸造
肘関節外科の怖さと面白さ〜肘関節鏡視下手術を実践して〜
秋田県手外科研究会　2023.6　秋田

54. 島田　幸造
怖いけど面白い、肘関節鏡の世界〜スポーツ肘障害/OA肘/RA肘から骨折治療まで〜
DMKN整形外科集談会　2023.7　日光

55. 島田　幸造
血友病患者における関節診療の重要性
Haemophilia Joint Seminar2023.6　大阪

56. 島田　幸造
手・肘のスポーツ外傷に対する機能再建と関節鏡の応用
東海ショルダー＆エルボーミーティング　2023.11　名古屋

57. 西本　竜史
肩関節のスポーツ障害・外傷
大阪臨床整形外科医会スポーツ研修会　2023.1　大阪

58. 西本　竜史
薄骨片付きABR は骨吸収を防ぐ
肩関節手術研究会　2023.8　東京

59. 北　圭介
膝スポーツ傷害 臨床の最前線 基本から最新の知見まで
大阪臨床整形外科医会　スポーツ研修会　2023.1　大阪
60. 北　圭介
MPFL再建術の適応と限界（術後成績に関与する解剖学的因子や脱臼素因と術後成績の関連を含めて）
中部日本整形外科災害外科学会・学術集会　2023.4　奈良
61. 北　圭介
ハムストリング腱を用いた解剖学的２重束内側膝蓋大腿靭帯再建術とその適応
日本スポーツ整形外科学会 2023.6　広島
62. 北　圭介
半月板の生体力学特性に基づいた新しい修復術（半月板円周線維補強術）の実際
日本臨床バイオメカニクス学会　2023.11　姫路
63. 北　圭介
AKO手術成績向上のために必要なこと、不要なこと
関西Knee Osteoromy研究会　2023.11　大阪
64. 北　圭介
単独MPFL 再建術の限界と追加手術の適応
日本膝関節学会　2023.12 横浜
65. 金山　完哲
骨粗鬆症患者における脊椎疾患治療～最新手術から投薬加療、病診連携まで～
阪大整形外科開業医会講演会　2023.7　大阪
66. 金山　完哲
FESS導入方法、IL/TFベーシックな手技について　さぁ始めよう、FED！
～自身のラーニングカーブを基に、より良いスタートを切っていただくために～
日本低侵襲脊椎外科学会　2023.1　福岡
67. 武中　章太
腰曲がりの保存治療の限界と手術治療の功罪
旭化成ファーマ株式会社　社内研修会　2023.3　大阪
68. 武中　章太　腰曲がり（成人脊柱変形）の保存治療の限界と手術治療の必要性
地域で支える骨と痛みセミナー　2023.8　大阪
69. 中矢　亮太
長期経過中における骨盤側カップ周囲骨折の病態と予防
日本人工関節学会　2023.2　横浜
70. 中田　活也
Bikini-ALSA PATH ®～審美性と操作性の両立～
MicroPort HIP Web セミナー　2023.2　大阪
71. 中田　活也
セメントレスステムのタイプ分類と理論的長所・課題
日本人工関節学会　2023.2　横浜
72. 中田　活也
触れてみよう!Curved Short Stem(optimys)を明日からの選択肢の一つに
日本人工関節学会　2023.2　横浜
73. 中田　活也
フルHAステム概論
HIT研究会　2023.2　横浜

74. 中田　活也
仰臥位前方進入法
OEC HIPスタンダードコース　2023.3　大阪
75. 中田　活也
フルＨＳステム
OEC HIPスタンダードコース　2023.3　大阪
76. 中田　活也
ALSA T-I発展への経緯～ 審美性・操作性の両立～
ALSA T-I Webinar　2023.6　東京
77. 中田　活也
ALSAの有効性向上のために～ 審美性・操作性・CSS～
HIP AL-Supine Path Seminar　2023.5　名古屋
78. 中田　活也
前外側進入法
OEC HIPスタンダードコース　2023.7　東京
79. 中田　活也
股関節疾患と人工股関節の選び方
青森関節外科フォーラム　2023.7　青森
80. 中田　活也
Well-Fixed Cup抜去
OEC HIPアドバンスコース 2023.1　東京
81.中田　活也
Fit & Fill ステム：スタンダードからショートへ
日本股関節学会　2023.1　福岡

手外科・外傷センター

【原著・総説・著書】

1. Temporin K, Miyoshi Y, Miyamura S, Oura K, Shimada K
Risk of nerve injury during elbow arthroscopy: ultrasonographic evaluation of preoperative patients
Journal of Shouldrer and Elbow Surgery　2023; 32; 486-491

【学会発表】

2. Shimada K
Reconstruction of articular injury of the elbow by the periosteum-covered pedicle bone graft
15th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (ICSES)　2023年9月5日　Roma
3. Temporin K
Evaluation of the risk of nerve injury before elbow arthroscopic surgery
15th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (ICSES)　2023年9月5日　Roma
4. 轉法輪　光
離断性骨軟骨炎に対する肋骨肋軟骨移植術後の橈骨頭肥大と機能障害の関係
日本スポーツ整形外科学会2023　2023年6月29日　広島
5. 轉法輪　光
橈骨頭偽関節の1例　第22回肩と肘を語る会　2003年7月29日　大阪
6. Miyoshi Y
Arthroscopy assisted surgery for coronoid fracture
15th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (ICSES)　2023年9月5日　Roma

7. 三好　祐史
開心術後に発症した腕神経叢障害の6例
第66回日本手の外科学会学術集会　2023年4月20日　東京

【学会講演】

8. Shimada K
Articular reconstruction with use of rib osteochondral autograft for sports-related injury of the elbow (including OCD)
APOA HULS 2023 Annual meeting　2023年6月29日　Seoul
9. Shimada K
Lateral Epicondylitis -Current Concepts-
15th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (ICSES)　2023年9月7日　Roma
10. 島田　幸造
肘関節外科の怖さと面白さ～肘関節鏡視下手術を実践して～
第16回秋田県手外科研究会　2023年6月3日　web
11. 島田　幸造
怖いけど面白い、肘関節鏡の世界～スポーツ肘障害/OA肘/RA肘から骨折治療まで～
第20回DMKN整形外科集談会　2023年7月23日　日光
12. 島田　幸造
血友病患者における関節診療の重要性
Haemophilia Joint Seminar　2023年8月3日　web
13. 島田　幸造
手・肘のスポーツ外傷に対する機能再建と関節鏡の応用
第47回東海ショルダー＆エルボーミーティング　2023年11月16日

リウマチ科

【原著・総説・著書】

1. Takami K, Tsuji S, Nishikawa M, Owaki H
Association of the clinical and radiographic findings at onset with future joint destruction in patient with rheumatoid arthritis
Cureus．2023; 15(5): e39428

【学会発表】

2. Nishikawa M, Owaki H
Calcium pyrophosphate dihydrate crystal in operated rheumatoid arthritis of the knee
Rheumatology 2023．2023/4/24～2023/4/26　Manchester, UK
3. 吉村長晃、西川昌孝、中矢亮太、岡本恭典、中田活也
TKA後感染に対して間欠的膝関節内高濃度抗菌薬投与を施行した一例
第54回日本人工関節学会．2024/2/24　京都

脊椎外科

【原著・総説・著書】

1. Takenaka S, Kaito T, Fujimori T, Kanie Y, Okada S.
Risk Factor Analysis of Surgery-related Complications in Primary Thoracic Spine Surgery for Degenerative Diseases and Characteristics of the Patients Also Undergoing Surgery on the Cervical and/or Lumbar Spine.
Clin Spine Surg．Epub 2023 Dec 28.

2. Sakaura H, Ikegami D, Fujimori T, Sugiura T, Yamada S, Kanayama S.
Postoperative Changes of Spinopelvic Sagittal Parameters After Cervical Laminoplasty for Cervical Spondylotic Myelopathy.
Clin Spine Surg. Epub 2023 Oct 30.
3. Ukon Y, Takenaka S, Makino T, Kashii M, Iwasaki M, Sakai Y, Inoue T, Ishiguro H, Kaito T.
Preoperative Risk Factors Affecting Outcome in Surgically Treated Pyogenic Spondylodiscitis.
Global Spine J. 2023 Oct;13(8):2201-2209.
4. Furuya M, Nagamoto Y, Okuda S, Matsumoto T, Takahashi Y, Takenaka S, Iwasaki M.
Long-term outcomes of spine surgery in dialysis patients, focusing on activities of daily living, life expectancy, and the risk factors for postoperative mortality.
J Orthop Sci. 2024 Mar;29(2):508-513.
5. 武中 章太
脊椎外科医の統計うんちく
脊椎脊髄ジャーナル 2023年 36巻5号 291-292
6. 武中 章太
整形外科1, 整形外科2
医学論文から学ぶ 臨床医のための疫学・統計 2023年 朝倉書店
7. 武中 章太
整形トピックス 頸髄症の脳イメージング研究による予後予測バイオマーカー
整形外科74巻13号 Page1374(2023.12)
8. 河野 剛之, 山田 修太郎, 武中 章太, 蟹江 祐哉, 藤森 孝人
腰椎椎弓に発生し,硬膜を穿破した動脈瘤様骨嚢腫の1例
中部日本整形外科災害外科学会雑誌67巻2号 Page191-192(2024.03)

【学会発表】

9. Shota Takenaka, Takahito Fujimori, Yuya Kanie, Takashi Kaito
Primary thoracic spine surgery for degenerative diseases: exploring risk factors for surgery-related complications and patient characteristics in those also undergoing cervical and/or lumbar spine surgery
Eurospine 2023年10月4日 独, ドルトムント
10. Shota Takenaka, Takashi Kaito, Takahito Fujimori, Yuya Kanie, Seiji Okada
Risk factors for poor prognosis in patients with dural tear in surgical treatment of lumbar degenerative diseases: A multicenter database study
The International Society for the Study of the Lumbar Spine 2023年4月30日 豪, メルボルン
11. 武中 章太, 藤森 孝人, 蟹江 祐哉, 海渡 貴司, 岡田 誠司
合併症に対する脊椎再手術の病態別詳細分類と施行時期 大阪脊椎脊髄グループデータベース2023
第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023年4月18日 横浜
12. 金山 完哲, 山田 修太郎, 武中 章太
腰椎固定術後の椎間孔狭窄を伴う隣接椎間障害に対してFESSは固定術に勝るか
第13回最小侵襲脊椎治療学会（MIST学会） 2023年6月23日 仙台
13. 金山 完哲, 山田 修太郎, 武中 章太
腰椎固定術後の隣接椎間障害に対してFESSは固定術に取って代われるか
第26回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 2023年11月16日 福岡
14. 山田 修太郎, 金山 完哲, 杉浦 剛, 藤森 孝人, 池上 大督, 坂浦 博伸
チューリッヒ跛行質問票を用いた開窓術後の治療成績・予後不良因子に関する検討
第96回日本整形外科学会学術総会 2023年5月11日 横浜

15. 河野 剛之, 武中 章太, 蟹江 祐哉, 山田 修太郎
第5腰椎椎弓動脈瘤様骨嚢腫の脊柱管内進展により硬膜穿破を来した1例
第141回中部日本整形外科災害外科学会　2023年10月6日　神戸
16. 坂浦 博伸, 池上 大督, 藤森 孝人, 杉浦 剛, 山田 修太郎, 金山 完哲, 向井 克容
CBT法と従来法PLIFの手術成績　同一形状のPEEK cageとtitanium-coated PEEK cageの比較
第96回日本整形外科学会学術総会　2023年5月11日　横浜
17. 生田 雅人, 北原 貴之, 古市 拓也, 文 勝徹, 高橋 惇司, 平井 宏昌, 蟹江 祐哉, 藤森 孝人, 武中 章太, 岡田 誠司, 海渡 貴司
マグネトロンスパッタリングを用いたPEEK表面ストロンチウム修飾の骨形成効果
第38回日本整形外科学会基礎学術集会　2023年10月19日　つくば
18. 右近 裕一朗, 海渡 貴司, 武中 章太, 蟹江 佑哉, 藤森 孝人, 平井 宏昌, 柏井 将文, 岩崎 幹季, 岡田 誠司
化膿性脊椎炎術後合併症の予測スコアリング式の確立　多施設データベース研究
第46回日本骨・関節感染症学会　2023年6月23日　津
19. 喜多 洸介, 藤森 孝人, 蟹江 祐哉, 武中 章太, 右近 裕一朗, 海渡 貴司, 古家 雅之, 幸 博和, 中嶋 望, 杉浦 剛, 岡田 誠司
脊髄腫瘍を鑑別するmulti-modal AIの構築　MRI画像と臨床情報を統合して解析するAI
第96回日本整形外科学会学術総会　2023年5月11日　横浜
20. 上村 圭亮, 藤森 孝人, 大竹 義人, 下元 悠我, 高嶋 和磨, 濱田 英敏, 武中 章太, 海渡 貴司, 佐藤 嘉伸, 菅野 伸彦, 岡田 誠司
CT画像からの腰椎骨密度計測システムの開発
第96回日本整形外科学会学術総会　2023年5月11日　横浜
21. 藤森 孝人, 鈴木 裕紀, 武中 章太, 喜多 洸介, 蟹江 祐哉, 海渡 貴司, 右近 裕一朗, 木戸 尚治, 岡田 誠司
頸椎前彎角を自動計測する人工知能の開発
第96回日本整形外科学会学術総会　2023年5月11日　横浜
22. 生田 雅人, 北原 貴之, 文 勝徹, 古市 拓也, 高橋 惇司, 平井 宏昌, 右近 裕一朗, 蟹江 祐哉, 藤森 孝人, 武中 章太, 岡田 誠司, 海渡 貴司
マグネトロンスパッタリングを用いたストロンチウム蒸着PEEKの骨形成効果
第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2023年4月18日　札幌
23. 文 勝徹, 生田 雅人, 北原 貴之, 古市 拓也, 右近 裕一郎, 高橋 惇司, 平井 宏昌, 蟹江 祐哉, 藤森 孝人, 武中 章太, 岡田 誠司, 海渡 貴司
テリパラチドによる細胞老化と骨形成能の変化
第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2023年4月18日　札幌
24. 北原 貴之, 立岩 大輔, 生田 雅人, 平井 宏昌, 古市 拓也, 文 勝徹, 高橋 惇司, 右近 裕一朗, 蟹江 祐哉, 藤森 孝人, 武中 章太, 岡田 誠司, 海渡 貴司
骨老化をターゲットとした新規偽関節治療
第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2023年4月18日　札幌
25. 中嶋 望, 鈴木 裕紀, 藤森 孝人, 喜多 洸介, 右近 裕一朗, 蟹江 裕哉, 武中 章太, 海渡 貴司, 木戸 尚治, 岡田 誠司
Deep Learningを用いた側彎症患者の脊椎自動パラメータ計測(英語)
第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2023年4月18日　札幌
26. 浦川 ひかり, 武中 章太, 長本 行隆, 石黒 博之, 坂井 勇介, 星山 政輝, 蟹江 祐哉, 藤森 孝人, 岡田 誠司, 海渡 貴司
脊椎術後創部感染(SSI)に対する再手術後の感染制御に影響するSSI発生時の臨床的因子の検討
第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2023年4月18日　札幌
27. 青野 博之, 奥田 哲教, 菊地 剛, 竹下 博志, 長田 圭司, 武中 章太, 伊藤 康夫
胸腰椎破裂骨折に対するShort-segment Fixationにおける骨折脊柱管占拠率改善因子の検討　近畿5府県での多施設研究
第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2023年4月18日　札幌
28. 右近 裕一朗, 武中 章太, 蟹江 祐哉, 藤森 孝人, 柏井 将文, 岩崎 幹季, 海渡 貴司, 岡田 誠司
化膿性脊椎炎術後合併症の予測スコアリング式の確立　多施設データベース研究
第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2023年4月18日　札幌

29. 藤森 孝人, 鈴木 裕紀, 武中 章太, 蟹江 祐哉, 喜多 洸介, 海渡 貴司, 右近 裕一朗, 中嶋 望, 木戸 尚治, 岡田 誠司
頸椎前彎角を自動計測する人工知能の開発
第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2023年4月18日　札幌
30. 石黒 博之, 武中 章太, 釜谷 崇志, 星山 政輝, 坂井 勇介, 藤森 孝人, 蟹江 祐哉, 海渡 貴司
頸椎症性神経根症による上肢麻痺に対する前方固定術と椎間孔拡大術の術後成績の比較
第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2023年4月18日　札幌

【学会講演】

31. 武中 章太
思春期側弯症の診断と治療
地域で取り組む疼痛治療セミナー　2024年2月28日　大阪
32. 武中 章太
腰曲がり（成人脊柱変形）の保存治療の限界と手術治療の必要性
地域で支える骨と痛みセミナー　2023年8月2日　大阪
33. 武中 章太
思春期側わん症の保存治療と外科的治療
JCHO大阪病院　公開医学講座　2024年2月22日　大阪
34. 金山 完哲
FESS導入方法、IL/TFベーシックな手技について
第26回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会　2023年11月16日　福岡
35. 金山 完哲
骨粗鬆症患者における脊椎疾患治療～最新手術から投薬加療、病診連携まで～
阪大整形外科開業医会講演会　2023年7月22日　大阪
36. 金山 完哲
先天性側弯症に対する多数回術後の 141度局所後弯部偽関節による胸髄症の1例－術中・術後合併症を減らす工夫－
脊椎外科を学ぶ会　2024年3月2日　大阪
37. 金山 完哲
いつのまにか背骨が折れている！そうならないために今からできること
福島区民健康講座　2024年3月23日 大阪
38. 金山 完哲
骨粗鬆症の基本～貴方や貴方の家族のために即できることを教えます～
JCHO大阪病院院内職員教育研修講演　2024年3月27日　大阪
39. 山田 修太郎
椎弓形成術中の頚髄損傷
M&Mカンファレンス　2024年3月9日　大阪
40. 河野 剛之
椎間板穿刺により生じた 後腹膜出血に対して TAE施行し止血を得た症例
M&Mカンファレンス　2024年3月9日　大阪

スポーツ医学科

【原著・総説・著書】

1. 西本 竜史
【ナースのギモン大解決!ケアの根拠がまるわかりin整形外科病棟】肩関節のケアの根拠
整形外科看護　29巻2号 Page142-149(2024.02)
2. Keisuke Kita
Meniscal Circumferential Fiber Augmentation: A Biomechanical Arthroscopic Meniscal Repair Technique
Arthrosc Tech　2023 Sep 4;12(10):e1673-e1678.

3. 北　圭介
【膝蓋大腿関節障害の治療】自家腱を用いた内側膝蓋大腿靱帯再建術の限界と追加手術の適応
整形・災害外科　67巻1号 Page25-31(2024.01)
4. 北　圭介
【ナースのギモン大解決!ケアの根拠がまるわかりin整形外科病棟】膝関節のケアの根拠
整形外科看護　29巻2号 Page142-149(2024.02)

【学会発表】

5. 西本 竜史
小さな骨性Bankart病変でも大きく剥がすと骨癒合がはかどる
第50回日本肩関節学会学術集会　　2023年10月14日 東京
6. 藏谷 幸祐
術中大結節骨折を生じたRSA3例の検討
第50回日本肩関節学会学術集会　　2023年10月14日 東京
7. 北　圭介
フープ機能補強術を併用した新しい半月板修復術の試み -安全性と超短期成績-
第1回日本スポーツ整形外科学会　2023年6月29日　広島
8. Kusano Masashi
Adhesion between the graft and the transverse ligament after anatomical ACL reconstruction:〜An effect of arthroscopic release of adhesions~
第14回ISAKOS　2023年6月18日　Boston
9. 北　圭介
内側半月板後根断裂に対し半月板円周線維補強術を用いて修復術を施行した１例
第1回日本膝関節学会　2023年12月8日　横浜
10. 草野　雅司
斜矢状断像CTを用いた陳旧性ACL不全膝症例における移植腱インピンジメントの術前評価
第1回日本スポーツ整形外科学会　2023年6月29日　広島
11. 吉村長晃
当院におけるSchatzker分類Ⅱ＆Ⅲ型脛骨プラトー骨折に対する関節鏡視下整復固定術の治療成績と手術時の工夫
第60回大阪骨折研究会　2023年11月4日　大阪
12. 吉村長晃
局所的な関節軟骨の翻転により著明な関節内水腫をきたした一例
第36回関西関節鏡膝研究会　2023年3月16日　京都
13. 草野　雅司
移植腱インピンジメントのリスクが高いと予想された陳旧性ACL不全膝に対する拡大顆間形成術併用ACL再建術の治療成績
第1回日本膝関節学会　2023年12月8日　横浜

【学会講演】

14. 西本 竜史
薄骨片付きABRは関節窩骨吸収を防ぐ
第28回肩関節手術研究会　2023年8月19日　東京
15. 北　圭介
MPFL再建術の適応と限界
第140回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会　2023年4月7日　　奈良
16. 北　圭介
ハムストリング腱を用いた解剖学的２重束内側膝蓋大腿靭帯再建術とその適応
第1回日本スポーツ整形外科学会　2023年6月29日　広島

17. 北　圭介
半月板の生体力学特性に基づいた新しい修復術（半月板円周線維補強術）の実際
第50回日本臨床バイオメカニクス学会　　2023年11月10日 姫路
18. 北　圭介
AKO手術成績向上のために必要なこと、不要なこと
第11回関西Knee Osteoromy研究会 2023年11月24日 大阪
19. 北　圭介
単独MPFL 再建術の限界と追加手術の適応
第1回日本膝関節学会　　2023年12月8日　横浜

形成外科

【学会発表】

1. 波多　祐紀
埋没縫合を用いた巨大静脈奇形の圧縮瘢痕化と、併発する凝固異常について
第43回日本静脈学会総会　2023年7月6日　　愛媛県

リハビリテーション科

【学会発表】

1. 大濱　安輝、水田　裕文、永渕　輝佳、由良　優実夫、寺川　晴彦
身体図式の修正が異常姿勢・動作の改善および誤学習予防に有用であった一例
第60回日本リハビリテーション医学会学術集会　2023/6/29-7/2
2. 荒木　直哉、永渕　輝佳、水田　裕文、寺川　晴彦
急性期脳梗塞に神経筋電気刺激が大腿四頭筋筋委縮に与える影響
第60回日本リハビリテーション医学会学術集会　2023/6/29-7/2
3. 田中　健毅、北山　幸子、興田　夏美、寺川　晴彦
当院2日ドック受験者におけるロコモ25評価結果と転倒発生との関連性の検討：前向き研究調査
第64回日本人間ドック学会学術大会　2023/9/1-2
4. 清水　凱斗
アスペルガー症候群により理学療法を進める上で工夫が必要であった頚髄不全損傷患者の一症例
第21回日本神経理学療法学会学術大会　2023/9/9
5. 赤井　滉基
地域在住高齢者における身体活動量と骨質の関係
第10回日本予防理学療法学会学術大会　2023/10/28-29
6. 坂上　譲、前田　香、寺川　晴彦
術前フレイルが腹部外科患者の術後合併症に与える影響
第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術大会　　2023/11/3-5
7. 大塚　秀人、由良　優実夫、水田　裕文、前田　香、寺川　晴彦
疼痛恐怖から側臥位姿勢を敬遠した褥瘡保有患者に対してシェイビングを用いた介入
第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術大会　　2023/11/3-5
8. 永渕　輝佳、権藤　要、水田　裕文、寺川　晴彦
リハビリテーション部門での取り組み～生産性向上について～
第8回地域医療総合医学会 2023/12/8-9
9. 由良　優実夫、戸村　薫、冨永　純子、森本　結美、水田　裕文、前田　香、寺川　晴彦
看護師との協同による易怒性著明な認知症患者に対するリハビリテーション
第8回地域医療総合医学会 2023/12/8-9

10. 南　頼康

胸部ステントグラフト内挿術後の不全対麻痺に対してベルト電極式骨格筋電気刺激を行った症例の理学療法経験

第63回近畿理学療法学術大会　2024/2/4

11. 赤﨑　千春、松本　恵理子、清水　加世子、西川　紀子、水田　裕文、前田　香、寺川　晴彦

当院におけるリンパ浮腫外来システム構築の取り組み

第7回日本リンパ浮腫学会 2024/3/16-17

消化器外科

【論文発表】(英文)

1. Teranishi R ,Takahashi T, Obata Y, Nishida T, Ohkubo S, Kazuno H, Saito Y,Serada S, Fujimoto M, Kurokawa Y, Saito T, Yamamoto K, Yamashita K, Tanaka K,Makino T, Nakajima K, Hirota S, Naka T, Eguchi H, Doki Y.

   Combination of pimitespib (TAS-116) with sunitinib is an effective therapy for imatinib-resistant astrointestinal stromal tumors.

   Int J Cancer　2023　Jun　152　12　2580-2593.

2. Teranishi R , Takahashi T, Nishida T, Kurokawa Y, Nakajima K, Koh M, Nishigaki T, Saito T, Yamamoto K, Yamashita K, Tanaka K, Makino T, Motoori M, Omori T, Hirota S, Hayashi Y, Takehara T, Eguchi H, Doki Y.

   Plasma trough concentration of imatinib and its effect on therapeutic efficacy and adverse events in Japanese patients with GIST

   Jap J Clin Oncol　2023May 28　5　680-687

3. Naito Y,Nishida T, Doi T.

   Current status of and future prospects for the　treatment of unresectable or metastatic gastrointestinal stromal tumours.

   Gastric Cancer　2023May 26　3　339-351.

4. Nishida T,Gotouda N, Takahashi T, Cao H.

   Clinical importance of tumor rupture in gastrointestinal stromal tumor.

   J Dig Dis.　2023May

5. Gotohda N,Nishida T, Sato S, Ozaka M, Nakahara Y, Komatsu Y, Kondo M, Cho H, Kurokawa Y, Kitagawa Y.

   Re-appraisal of the universal definition of tumor rupture among patients with high-risk gastrointestinal stromal tumors.

   Ann Gastroenterol Surg　2023　Apr 7　6　1021-1031

6. Obata Y,Kurokawa K, Tojima T, Natsume M, Shiina I, Takahashi T, Abe R, Nakano A, Nishida T.

   Golgi retention and oncogenic KIT signaling via PLCγ2-PKD2-PI4KIIIβ activation in gastrointestinal stromal tumor cells　CELL-REPORTS-D-23-00671R1

   Cell Reports　2023Sep42　9　113035

7. Kong SH,Kurokawa Y, Yook JH, Cho H, Kwon OK, Masuzawa T, Lee KH, Matsumoto S, Park YS, Honda H, Ryu SW, Ishikawa T, Kang HJ, Nabeshima K, Im SA, Shimokawa T, Kang YK, Hirota S, Yang HK, Nishida T.

   Long-term outcomes of a phase II study of neoadjuvant imatinib in large gastrointestinal stromal tumors of the stomach.

   Gastric Cancer　2023Sep26　5　775-787

8. Teranishi R,Takahashi T, Nishida T, Kurokawa Y, Nakajima K, Koh M, Nishigaki T, Saito T, Yamamoto K, Yamashita K, Tanaka K, Makino T, Motoori M, Omori T, Hirota S, Hayashi Y, Takehara T, Eguchi H, Doki Y.

   Plasma trough concentration of imatinib and its effect on therapeutic efficacy and adverse events in Japanese patients with GIST.

   Int J Clin Oncol.　2023May28　5　680-687

9. Saito Y,Takahashi T, Nishida T, Murakami K, Endo S, Nishikawa K, Kimura Y, Motoori M, Tanaka K, Miyazaki Y, Makino T, Kurokawa Y, Yamasaki M, Nakajima K, Eguchi H, Doki Y.

   Long-term outcomes of pylorus-preserving gastrectomy for early gastric cancer

   Am Surg.2023Sep 9　31348231200671

10. Arita A,Takahashi T, Nakajima K, Kurokawa Y, Hirota S, Nishida T, Yamashita K, Saito T, Tanaka K, Makino T, Yamasaki M, Kawai K, Motoyama Y, Morii E, Eguchi H, Doki Y.

    Surgery for multiple gastric gastrointestinal stromal tumors and large esophageal diverticulum related to germline mutation of the KIT gene: a case report.

    Surgical Case Reports　　2023Oct 9　1　183

11. Sato Y,Morita S, Yoshida A, Yoshinaga S, Nishida T.
Small gastric synovial sarcoma diagnosed and treatment by laparoscopic-endoscopic cooperative surgery: a case report.
Clin J Gastroenterol. 2023Feb17 1 18-22
12. Ide Y,Osawa H, Nonaka R, Hatanaka N, Nishida T
Laparoscopic total mesorectal excision for a rectal neuroendocrine tumour with the multiarticular electric scalpel ArtiSential®-a video vignette.
Colorectal Disesase 2023 Apr25 4 809-810

【論文発表】(和文)

13. 西田 俊朗
KIT遺伝子異常の発見はGIST診療を変えた
生体の科学 74(4) 336-339
14. 島田 幸造,西田 俊朗
JCHO大阪病院
医学教育54（4） 425
15. 西田 俊朗
保健医療 ソーシャルワークの知識と技術 がん治療とソーシャルワーク
保健医療ソーシャルワークの知識と技術 公益財団法人日本医療ソーシャルワーカー協会編集 中央法規出版株式会社 PP117-125
16. 井出 義人,野中 亮児, 村上 剛平, 出村 公一, 森本 修邦, 西田 俊朗
手術手技 腹腔鏡下直腸低位前方切除術における多関節電気メスの有用性.
手術 77 7 1075-1080 2023 6
17. 出村 公一,村上 剛平,中本 蓮之助,畑中 信良,西田 俊朗
特集 最新医療機器・材料を使いこなす 上部消化管 腹腔鏡下胃切除術における多自由度鉗子”アーティセンシャル”の有用性
臨床外科78 2 152-159 2023 2
18. 出村 公一,山﨑 誠,村上 剛,中本 蓮之介,畑中 信良,西田 俊朗
食道胃接合部癌に対する胸腔鏡下観音開き法（TEDDY法）
手術 77 2 249-258 2023 2

【学会発表】(英文)

19. Koichi Demura,Kohei Murakami, Takuma Yamakawa, Rennosuke Nakamoto, Keishi Oka,
Single-incision laparoscopic gastrectomy using multi-degree of freedom instrument “ArtiSential”
10th Reduced Port Surgery Forum in Kitakyushu kokura 2023 8/18-19

【学会発表】(日本語)

20. 森本 修邦,景山 千幸,中本 蓮之介,乾 元晴,村上 剛平,野中 亮児,出村 公一,井出 義人,畑中 信良,
西田 俊朗
当院における急性胆嚢炎の治療戦略
第78回日本消化器外科学会総会 函館 2023 7/12-7/14
21. 井出 義人,松田 宙 ,畑 泰司 ,賀川 義規 ,鄭 充善 ,末田 聖倫 ,工藤 敏啓,長谷川 順一,内藤 敦,能浦 真吾 ,加藤 健志 ,竹政 伊知朗,佐藤 太郎 ,三吉 範克 ,高橋 秀和 ,植村 守 ,山本 浩文 ,村田 幸平 ,土岐 祐一郎 ,江口 英利
局所進行直腸癌患者に対する術前化学療法としてのXELOXIRI療法の有効性・安全性の検討 Phase II試験
第20回日本臨床腫瘍学会学術集会 福岡 2023 3/16-18
22. 井出 義人,村上 剛平,山川 拓真,中本 蓮之助,岡 啓史,野中 亮児,山中 千尋,出村 公一,森本 修邦,
西田 俊朗
80歳以上の高齢者に対するTAPPの現状と問題点
第21回日本ヘルニア学会 大阪 2023 5/26-27

23. 井出　義人,野中　亮児,中本　蓮之助,景山　千幸,乾　元晴,村上　剛平,出村　公一,森本　修邦,畑中　信良,
西田　俊朗
進行直腸癌に対する術前治療(TNTまたはNAC)後腹腔鏡下手術の工夫
第78回日本消化器外科学会総会　函館　2023　7/12ー14
24. 井出　義人,野中　亮児,山川　拓真,中本　蓮之助,岡　啓史,村上　剛平,山中　千尋,出村　公一,森本　修邦,
西田　俊朗
進行直腸癌に対する術前治療(TNTまたはNAC)の実際と問題点
第99回大腸癌研究会　尼崎 2023　7/6ー7
25. 井出　義人,野中　亮児,山川　拓真,中本　蓮之助,岡　啓史,村上　剛平,山中　千尋,出村　公一,森本　修邦,
西田　俊朗
当院における下部消化管NET治療の実際と問題点
第78回日本大腸肛門病学会学術集会　熊本　2023　11/10ー11
26. 井出　義人,野中　亮児,山川　拓真,中本　蓮之助,岡　啓史,村上　剛平,山中　千尋,出村　公一,森本　修邦,
西田　俊朗
直腸GISTに対する治療戦略
第85回日本臨床外科学会総会　岡山　2023　11/16ー18
27. 井出　義,野中　亮児,山川　拓真,中本　蓮之助,岡　啓史,村上　剛平,山中　千尋,出村　公一,森本　修邦,西田　俊朗
良性腫瘍に対する会陰的鏡視下アプローチの有用性
第36回日本内視鏡外科学会総会　横浜　2023　12/7ー9
28. 出村　公一,村上　剛平,吉本　紗季子,中本　蓮之助,乾　元晴,光藤　傑,野中　亮児,井出　義人,森本　脩邦,
畑中　信良,西田　俊朗
多自由度鉗子「Artisential」を用いた単孔式腹腔鏡下胃切除術
第95回日本胃癌学会総会　札幌　2023　2/23-25
29. 出村　公一,村上　剛平,中本　蓮之助,野中　亮児,山中　千尋,井出　義人,森本　脩邦,西田　俊朗
多自由度鉗子「Artisential」を用いた腹腔鏡下胃切除術
第36回日本内視鏡外科学会総会　横浜　2023　12/7-9
30. 出村　公一,馬屋原　豊,村上　剛平,桂　央士,山森　英長,塩田　恵理都,片桐　直子,田中　健毅,宮崎　安弘
当院における減量・代謝改善手術の導入
第41回　日本肥満症治療学会学術集会　仙台　2023　11/25-26
31. 村上　剛平,出村　公一,吉本　紗季子,中本　蓮之助,乾　元晴,光藤　傑,野中　亮児,井出　義人,森本　修邦,
畑中　信良,西田　俊朗
胃癌患者に対するアナモレリン投与の有効性と安全性の検討
第95回日本胃癌学会総会　札幌　2023　2/23-2/25
32. 村上　剛平,出村　公一
当院における進行再発胃癌に対するニボルマブ療法と栄養指標の検討
第38回日本臨床栄養代謝学会　神戸　2023　5/9-5/10
33. 村上　剛平,出村　公一,中本　蓮之助,野中　亮児,井出　義人,森本　修邦,畑中　信良,西田　俊朗
腹壁瘢痕ヘルニアに対するEMILOS法の経験
第21回 日本ヘルニア学会学術集会　大阪　2023　5/26-5/27
34. 村上　剛平,出村　公一,景山　千幸,中本　蓮之助,乾　元晴,野中　亮児,井出　義人,森本　修邦,畑中　信良,
西田　俊朗
胃粘膜下腫瘍に対する手術術式の検討
第78回日本消化器外科学会総会　函館　2023　7/12-7/14
35. 岡　啓史,井出　義人,野中　亮児,山川　拓真,中本　蓮之介,村上　剛平,山中　千尋,出村　公一,森本　修邦"
回転異常症を伴う多発大腸癌に対して腹腔鏡下手術を施行した１例
第36回近畿内視鏡外科研究会　大阪　2023
36. 山川　拓真,村上　剛平,中本　蓮之助,　岡　啓史,山中　千尋,　野中　亮児,　出村　公一,　井出　義人,　森本　修邦,
畑中　信良,　西田　俊朗
PHS・UHS修復後の再発大腿ヘルニアに対し診断的腹腔鏡による術式選択が有用であった1例
第21回日本ヘルニア学会学術集会　大阪　2023

37. 山川　拓真,村上　剛平,岡　啓史,野中　亮児,山中　千尋,出村　公一,井出　義人,森本　修邦,西田　俊朗
Bilayer修復後再発ヘルニアに対し診断的腹腔鏡による術式選択を行った1例
第17回関西ヘルニア研究会 大阪　　2023

【学会司会・座長】

38. 井出　義人
術後早期合併症の経験と対策
第21回日本ヘルニア学会　大阪　2023　5/25-26

39. 井出　義人
虫垂腫瘍のすべて
第99回大腸癌研究会　尼崎　2023　7/6ー7

40. 井出　義人
一般演題３
第17回関西ヘルニア研究会　大阪　2023　12/16

41. 出村　公一
進行胃癌１
第95回日本胃癌学会総会　札幌　2023　2/23-25

42. 出村　公一
テーマ講演　胃がん化学療法　治療継続のための取り組み
Area Gastric Cancer Web Meeting~胃がん化学療法の継続を考える～　大阪　　2023　　45324

43. 村上　剛平
胃・十二指腸
第85回日本臨床外科学会　岡山　2023　11/16-11/18

【原著・総説・著書】

44. Yoshihito Ide
Laparoscopic total mesorectal excision for a rectal neuroendocrine tumour with the multiarticular electric scalpel ArtiSential®-a video vignette.
Colorectal Disesase　2023; 25: 809-810

45. 井出　義人
手術手技　腹腔鏡下直腸低位前方切除術における多関節電気メスの有用性.
手術　2023; 77: 1075-1080

【学会発表】

46. 井出　義人
80歳以上の高齢者に対するTAPPの現状と問題点
第21回日本ヘルニア学会　2023年5月26日　大阪

47. 井出　義人
進行直腸癌に対する術前治療(TNTまたはNAC)後腹腔鏡下手術の工夫
第78回日本消化器外科学会総会　2023年7月12日　函館

48. 井出　義人
進行直腸癌に対する術前治療(TNTまたはNAC)の実際と問題点
第99回大腸癌研究会　2023年7月7日　尼崎

49. 井出　義人
当院における下部消化管NET治療の実際と問題点
第78回日本大腸肛門病学会学術集会　2023年11月10日　熊本

50. 井出　義人
直腸GISTに対する治療戦略
第85回日本臨床外科学会総会　2023年11月16日　岡山

51. 井出　義人
良性腫瘍に対する会陰的鏡視下アプローチの有用性
第36回日本内視鏡外科学会総会　2023年12月7日　横浜

乳腺・内分泌外科

【学会発表】

1. 大谷 陽子
心毒性薬剤使用中の乳癌患者におけるGLS(スペックルトラッキング法)による収縮能低下の早期発見の試み
第31回日本乳癌学会学術総会　2023年6月29日　パシフィコ横浜ノース

2. 笠原 千聖
再生不良性貧血を併存する乳癌に化学療法を安全に施行した一例
第31回日本乳癌学会学術総会　2023年6月29日　パシフィコ横浜ノース

3. 釜野 真由子
乳癌多発肝転移に対する化学療法中に偽性肝硬変をきたし、食道静脈瘤を認めた2例
第31回日本乳癌学会学術総会　2023年6月29日　パシフィコ横浜ノース

心臓血管外科

【学会発表】

1. 斎藤　哲也
Balloon-expandable transcatheter aortic valve replacement後の人工弁機能不全に対するsurgical aoritic valve replacementの工夫
第76回日本胸部外科学会　2023 Oct 19－21th　仙台

2. 深井　照美
胸骨正中切開による開心術後の疼痛軽減に経皮吸収型持続性疼痛治療剤を使用した試み
第53回日本心臓血管外科学会　2023 Mar 23－25th　旭川

脳神経外科

【学会発表】

1. 豊田　佐織, 山際　啓典, 呉村　有紀, 榊　孝之
未治療の Basedow病を併存し脳梗塞、頸部、頭蓋内に多発動脈狭窄を認めた１例
第49回日本脳卒中学会学術集会　2024年3月7日　パシフィコ横浜

糖尿病内分泌内科

【原著・総説・著書】

1. Mita T, Katakami N, Yoshii H, Onuma T, Kaneto H, Osonoi T, Shiraiwa T, Yasuda T, Umayahara Y, Yamamoto T, Yokoyama H, Kuribayashi N, Jinnouchi H, Gosho M, Shimomura I, Watada H.
Long-term efficacy and safety of early alogliptin initiation in subjects with type 2 diabetes: an extension of the SPEAD-A study.
Scientific Reports　2023 Sep 5;13(1):14649. doi: 10.1038/s41598-023-41036-

【学会発表】

2. 上田 彩加, 桂 央士, 森田 香菜子, 落合 進, 梶本 侑希, 外川 有里, 馬屋原 豊, 高原 充佳
SGLT2阻害薬導入初期のeGFR低下とメトホルミンの影響についての検討
第66回日本糖尿病学会年次学術総会 2023/5/11～13　鹿児島市
3. 梶本 侑希, 森田 香菜子, 落合 進, 上田 彩加, 外川 有里, 中嶋 玲奈, 桂 央士, 馬屋原 豊
ハイブリッドクローズドループ(HCL)導入下の1型糖尿病患者に周術期の変則的な食生活でくりかえし生じた重症低血糖の一例
第66回日本糖尿病学会年次学術総会　2023/5/11～13　鹿児島市
4. 最上 伸一, 馬屋原 豊, 武呂 誠司, 安田 哲行, 小杉 圭右, 橋本 久仁彦, 北川 良裕, 徳田 好勇, 谷本 吉造, 川岸 隆彦, 谷口 敏雄, 庄司 繁市, 久米田 靖郎, 吉内 和富, 岡野 理江子, 村田 佳織, 姜 信牛
大阪市南部地区における病診連携の試み(第23報)　GLP-1受容体作動薬の使用状況に関するアンケート調査報告
第66回日本糖尿病学会年次学術総会　2023/5/11～13　鹿児島市
5. 森田 香菜子, 桂 央士, 落合 進, 上田 彩加, 梶本 侑希, 外川 有里, 馬屋原 豊
オゼンピックからトルリシティへの治療変更による血糖コントロールへの影響についての検討
第66回日本糖尿病学会年次学術総会2023/5/11～13　鹿児島市
6. 久保 典代, 海陸 雄一, 辻村 真子, 畑 雅久, 藤田 洋平, 畑崎 聖弘, 馬屋原 豊
SGLT2阻害薬投与後のエリスロポエチンと腎機能についての検討
第66回日本糖尿病学会年次学術総会2023/5/11～13　鹿児島市
7. 門澤 莉菜, 桂 央士, 藤吉 仁史, 森本 尚喜, 上野 圭祐, 馬屋原 豊
1型糖尿病と甲状腺機能亢進症を同時に発症した多腺性内分泌症候群3型の1例
第60回日本糖尿病学会近畿地方会　2023/10/16　神戸市

【学会講演】

8. 馬屋原 豊
2型糖尿病の治療戦略～SGLT2阻害薬を中心に～
福島糖尿病トータルケアを考える　2023/6/7
9. 馬屋原 豊
糖尿病データベースから見た糖尿病腎症の実状
糖尿病治療臨床検討会　2023/6/30
10. 馬屋原 豊
CGMの新たなトレンド　Time in Rangeでより良い血糖コントロールを目指す
ODES教育講演　2023/7/2
11. 上野　圭祐
糖尿病薬の使い分け～東京から大阪に異動して～
糖尿病と地域医療を考える会　2023/7/5
12. 馬屋原 豊
糖尿病地域連携と最近のトピックス
糖尿病と地域医療を考える会　2023/7/5
13. 馬屋原 豊
糖尿病について　インスリン発見から話題の新薬まで
福島区健康講座　2023/10/16
14. 馬屋原 豊
CGMの新たなトレンド　Time in Rangeでより良い血糖コントロールを目指す
第4回関西糖尿病看護ケアセミナー　2023/11/25
15. 馬屋原 豊
糖尿病治療の現在地　～インスリン発見からGLP-1受容体作動薬・SGLT2阻害薬まで～
顧問栄養士会設立50周年記念講演会　2024/2/17

16. 馬屋原 豊
ほっておくと怖い骨粗しょう症　内科医の立場から
福島区健康講座　2024/3/15
17. 馬屋原 豊
JCHO大阪病院における働き方改革の現状
厚労省事業　トップマネジメント研修　2024/3/22

腎臓内科

【原著・総説・著書】

1. Doi Y, Hamano T, Yamaguchi S, Sakaguchi Y, Kaimori JY, Isaka Y.
Mediators between canagliflozin and renoprotection vary depending on patient characteristics: Insights from the CREDENCE trial
Diabetes Obes Metab. 2023 Oct;25(10):2944-2953

【学会発表】

2. 玉井　那実、今中　友香、張本　健仁、中川　和真、山口　慧、岩橋　恵理子、青木　克憲、鈴木　朗
左鎖骨下静脈から長期留置カテーテルを挿入した際に先端が奇静脈に迷入した１例
大阪透析研究会　2024年3月3日　大阪
3. 中川　和真、今中　友香、張本　健仁、中川　和真、山口　慧、岩橋　恵理子、青木　克憲、鈴木　朗
著明な低Na血症の補正目的にCHDFを要した維持血液透析患者の1例
大阪透析研究会　2024年3月3日　大阪

感染症内科

【原著・総説・著書】

1. 長田　学
   感染症史：日本・世界
   シン・感染症999の謎．652-679

【学会講演】

2. 長田　学
   梅毒診療のUp to dateとクリニックにおける診療のポイント
   福島区・此花区医師会員　2024年2月21日(水)　福島区民センター
3. 長田　学
   「外来での抗菌薬適正使用について」
   大阪市西ブロックICT　2024年2月9日(金)　大阪市

消化器内科

【原著・総説・著書】

1. 金子　晃
   Effect of sofosbuvir and velpatasvir therapy on clinical outcome in hepatitis C virus patients with decompensated cirrhosis.
   Hep Research　2023; 53: 301-311
2. 金子　晃
   自己免疫性肝疾患～病因、診断、治療～　治療・その１　免疫抑制薬（プレドニゾロン，アザチオプリン，ミコフェノール酸モフェチル）
   Precision Medicine　2023；Vol6 No14:1152-1155

【学会発表】

3. 巽　信之
   当院における第二世代マイクロ波焼灼術　(Emprint Ablation System) の使用経験の検討
   第108回日本消化器病学会総会　2023.4.21
4. 武田　梨里
   本院での COVID-19 パンデミックにおける入院加療した急性膵炎の臨床的特徴の解析
   第108回日本消化器病学会総会　2023.4.21
5. 中尾　憲史
   再発性肝細胞癌に対するトレメリムマブ、デュルバルマブ併用療法にて無菌性髄膜炎発症した一例
   第45回日本肝臓学会西部会　2023.12.7
6. 中尾　憲史
   肝原発神経内分泌癌と肺腺癌の重複癌の１例
   第243回日本内科学会近畿地方会 2024.3.16

【英論文】

7. Papaefthymiou A, Kahaleh M, Lemmers A, Sferrazza S, Barret M, Yamamoto K, Deprez P, Marín-Gabriel JC, Tribonias G, Ouyang H, Barbaro F, Kiosov O, Seewald S, Patil G, Elkholy S, Coumaros D, Vuckovic C, Banks M, Haidry R, Mavrogenis G.
   Performance of endoscopic submucosal dissection for undifferentiated early gastric cancer: a multicenter retrospective cohort. Endosc Int Open. 2023; 11: E673-E678.
8. Suzuki H, Ono H, Hirasawa T, Takeuchi Y, Ishido K, Hoteya S, Yano T, Tanaka S, Toya Y, Nakagawa M, Toyonaga T, Takemura K, Hirasawa K, Matsuda M, Yamamoto H, Tsuji Y, Hashimoto S, Yuki M, Oyama T, Takenaka R, Yamamoto Y, Naito Y, Yamamoto K, Kobayashi N, Kawahara Y, Hirano M, Koizumi S, Hori S, Tajika M, Hikichi T, Yao K, Yokoi C, Ohnita K, Hisanaga Y, Sumiyoshi T, Kitamura S, Tanaka H, Shimoda R, Shimazu T, Takizawa K, Tanabe S, Kondo H, Iishi H, Ninomiya M, Oda I.
   Long-term Survival After Endoscopic Resection For Gastric Cancer: Real-world Evidence From a Multicenter Prospective Cohort. Clin Gastroenterol Hepatol. 2023; 21: 307-318

循環器内科

【原著・総説・著書】

1. Kosuke Hirose, Yoh Arita, Nobuyuki Ogasawara
   Pilsicainide Toxicity-Induced Brugada-Like ST Segment Elevation and Increased Pacing Voltage Threshold.
   Cureus. 2024 Jan 3;16(1):e51576.
2. 中川　雅美
   後側壁心筋梗塞に合併した前乳頭筋断裂の一例
   心臓　第56巻第1号（2024年1月15日発行）
3. Arita Y*, Hirose K, Suetani Y, Shichijo K, Yamamoto S, Fukui T, Ogasawara N
   Clinical Characteristics of the Patient With Unmeasurable Ankle-Brachial Index in Endovascular Treatment.
   Cureus. 2023 May 30;15(5):e39705. doi: 10.7759/cureus.39705. eCollection 2023 May.
4. Arita Y, Ishibashi T, Nakaoka Y
   Current Immunosuppressive Treatment for Takayasu Arteritis.
   Circ J.　2023 Dec 19. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0780. Online ahead of print.
5. Hirose K, Arita Y*, Ogasawara N
   Pilsicainide Toxicity-Induced Brugada-Like ST Segment Elevation and Increased Pacing Voltage Threshold.
   Cureus. 2024 Jan 3;16(1): e51576. DOI 10.7759/cureus.51576
6. Saeki, Hajime
   Effect of Constant vs. Variable Moderate-Intensity Load on Peak Oxygen Uptake in Outpatient Cardiac Rehabilitation.
   Circ Rep.　2023 Mar 31;5(5):167-176

【学会発表】

7. 廣瀬　江祐
   クライオと高周波のAVNRTアブレーション部位のHis束距離についての検討～単施設　4年間での研究
   カテーテルアブレーション関連秋季大会2023　2023年11月18日　福岡国際会議場
8. 廣瀬　江祐
   Snare Technique is Useful for Leadless Pacemaker Implantation in a Patient with Severe Right Atrial Dilatation
   第88回日本循環器学会学術集会　　2024年3月10日　神戸国際会議場
9. 中川　雅美
   ATTR心アミロイドーシスを疑った99m Tcピロリン酸シンチグラフィ陽性症例の臨床的特徴について
   日本心エコー図学会第35回学術集会　2024年4月21日　姫路市
10. 高木宏太・有田陽・小笠原延行
    COVID-19感染後に意識消失発作を繰り返した一例
    第136回日本循環器学会近畿地方会 2023年12月16日 大阪国際会議場
11. 有田　陽
    Characteristics and Prognosis of Patients by Body Mass Index Undergoing Endovascular Treatment for Lower Extremity Arterial Disease
    第88回日本循環器学会学術集会　　2024年3月8日　　神戸国際展示場
12. 佐藤大竜，末谷悠人，小笠原延行
    亜急性心筋梗塞に合併したVT/VF stormに対し抗頻拍ペーシング、ICD植込みが有効であった
    第240回内科学会近畿地方会　2023年6月24日　神戸国際会議場
13. 藏本　見帆
    左房ストレインおよび容積測定でみた心房機能・形態の評価と虚血性脳梗塞サブタイプならびに心房リズムとの関係
    第34回日本心エコー図学会学術集会　2023年4月22日　長良川国際会議場
14. 小畑理沙子
    HFpEFの早期診断とSGLT2阻害薬導入に運動負荷心エコー検査が有用であった一例
    第71回日本心臓病学会学術集会　　2023年9月8日　　東京　京王プラザホテル

15. 小畑理沙子
心筋生検から診断に至りステロイド治療が著効した薬剤性慢性リンパ球性心筋症の一例
第27回日本心不全学会学術集会　2023年10月6日　横浜　パシフィコ横浜
16. 山本　将平
Relationship between the use of sodium glucose cotransporter 2 inhibitors　in patients with heart failure and Clinical Frailty Scale
第88回日本循環器学会学術集会　2024年3月8日　神戸国際展示場
17. 山本　将平
Bentall術後に発症したACSの一例
Integrated Imaging Center Live 2024　2024年3月16日　テルモ大阪支店
18. 山本　将平
Bentall術後の人工血管と冠動脈吻合部狭窄に対してPCIを施行した一例
BFUカンファレンス　2024年1月30日　Web（Zoom）
19. 山本　将平
川崎病心臓血管後遺症によるACSの一例
福島循環器診療を考える会　2023年11月2日TKPガーデンシティ大阪梅田
20. 山本　将平
超高齢社会に潜む大動脈弁狭窄症とTAVI
あわざ循環器Webセミナー　2023年6月28日第一三共株式会社大阪オフィス
21. 佐伯　一
大阪市内に位置する当院での通院心臓リハビリ参加患者の居住地域とリハビリプログラムの中止について
第9回心臓リハビリテーション学会近畿地方会　2024年2月11日　ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター
22. 佐伯　一
Prognosis and characteristics of the remote phase after outpatient cardiacrehabilitation for cardiac disease.
第88回日本循環器学会学術集会　2024年3月11日　神戸コンベンションセンター
23. 三好　美和
STUDY OFf PREDICTION OF ATORIGIN BY CORONARY SINUS ELECTRODE ATRIAL POTENTIALS
第69回　日本不整脈学会　2023年7月7日　札幌コンベンションセンター
24. 三好　美和
Micra留置時の解剖学的位置と安全性についての検討
第15回植え込みデバイス関連冬季大会　2023年2月26日

【学会講演】

25. 有田　陽
Perioperative Management of Takayasu Arteritis for Cardiac Surgery
日本循環器学会　プレナリーセッション11　2024年3月9日　神戸コンベンションセンター（神戸市）
26. 小笠原延行
健康寿命を延ばす弁膜症治療 当院でのTAVIについて
医師　2023年7月18日　福島区医師会館
27. 小笠原延行
コレステロールと動脈硬化のお話
福島区民　2024年1月30日福島区役所
28. 三好　美和
心房細動治療～時代はリズムコントロールへ
AF Web セミナー　ZOOM Webiner　2023年7月29日大阪市

皮膚科

【原著・総説・著書】

1. 竹原　友貴
   アトピー性皮膚炎の歴史
   まるごとアトピー2022.1

【学会発表】

2. 春木　優介
   舌腫脹を伴うWells症候群の1例
   116回近畿皮膚科集談会　2023.7.30
3. 春木　優介
   当科で経験したWells症候群の3例
   第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会　2023.12.10
4. 桑田　由璃子
   肥厚性皮膚骨膜症と鑑別した原発性脳回転状皮膚の1例
   116回近畿皮膚科集談会　2023.7.30

泌尿器科

【原著・総説・著書】

1. 伊藤 拓也、青木 克憲、山口唯一郎、志方 優子、吉田 康之、竹原 友貴、藤本 宜正
   血液透析患者に発生した陰茎カルシフィラキシスの 1 例
   泌尿器科紀要　2023年69巻163-167頁

【学会発表】

2. 山口　唯一郎
   尿管アクセスシースの選択はfTUL術後の発熱性尿路感染症を減少させるか
   第110回日本泌尿器科学会総会　2023年4月21日　大阪
3. 伊藤　拓也
   透析患者に発生した褐色細胞腫の1例
   第110回日本泌尿器科学会総会　2023年4月22日　大阪

産婦人科

【講　演】

1. 須賀　清夏
   当院で子宮動脈塞栓術を実施した11症例の月経再開についての検討
   第148回近畿産科婦人科学会学術集会学術奨励賞受賞講演 2023/6/18 和歌山
2. 大八木　知史、森重　健一郎、有馬　久未
   OO-net 活動報告
   第７回　大阪がん・生殖医療ネットワーク講演会　2023/11/26

【学会発表】

3. 田中　稔恵、花澤　綾香、光田　紬、赤田　将、森　禎人、谷口　茉利子、中尾　恵津子、繁田　直哉、清原　裕美子、大八木　知史、筒井建紀
   中隔子宮の中隔直上に胎盤を認めた1例
   第75回日本産科婦人科学会学術講演会　2023/5/12-14　東京
4. 光田　紬、花澤　綾香、赤田　将、森　禎人、田中　稔恵、谷口　茉利、中尾　恵津子、繁田　直哉、清原　裕美子、大八木　知史、筒井　建紀
   当院での切迫早産の管理について
   第75回日本産科婦人科学会学術講演会　2023/5/12-14　東京

5. 森　禎人、繁田　直哉、花澤　綾香、光田　紬、赤田　将、谷口　茉利子、田中　稔恵、中尾　恵津子、清原　裕美子、大八木　知史、筒井　建紀
当院での新型コロナウイルス感染症かかりつけ妊婦への電話診療について
第75回日本産科婦人科学会学術講演会　2023/5/12-14　東京
6. 花澤　綾香、大八木　知史、光田　紬、森　禎人、赤田　将、谷口　茉利子、田中　稔恵、中尾　恵津子、繁田　直哉、清原　裕美子、筒井　建紀
後期梅毒・神経梅毒と診断・加療し、生児を得た一例
第75回日本産科婦人科学会学術講演会　2023/5/12-14　東京
7. 森　禎人、花澤　綾香、光田　紬、赤田　将、谷口　茉利子、田中　稔恵、中尾　恵津子、繁田　直哉、清原　裕美子、大八木　知史、筒井　建紀
嚢胞性子宮腺筋症に対し、腹腔鏡補助下摘出術を実施した１症例
第148回近畿産科婦人科学会学術集　2023/6/18 和歌山
8. 花澤　綾香、光田　紬、一宮　汐里、久原　ゆい、田中　稔恵、繁田　直哉、清原　裕美子、大八木　知史、井上　貴史、筒井　建紀
妊娠22週の子宮内胎児死亡に対する分娩誘発に、ミソプロストール製剤を使用した一例
第52回大阪大学産婦人科オープンクリニカルカンファレンス　2023/7/1 大阪
9. 田中　稔恵、　花澤　綾香、　谷口　茉利子、　中尾　恵津子、　繁田　直哉、大八木　知史、筒井建紀
中隔子宮の中隔直上に胎盤を認めた1例
第59回日本周産期・新生児医学会学術集会　2023/7/9-11　名古屋
10. 花澤　綾香、繁田　直哉、田中　稔恵、谷口　茉利子、中尾　恵津子、大八木　知史、筒井　建紀
50g glucose challenge test 高値症例における妊娠糖尿病診断についての検討
第59回日本周産期・新生児医学会学術集会　2023/7/9-11　名古屋
11. 赤田　将、花澤　綾香、光田　紬、森　禎人、谷口　茉利子、田中　稔恵、中尾　恵津子、繁田　直哉、清原　裕美子、大八木　知史、筒井　建紀
卵巣成熟奇形腫悪性転化(SCC)のプラチナ抵抗性再発にリポソーム化ドキソルビシンが部分奏功した１例
第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　2023/7/14-16 松江
12. 田中　稔恵、清原　裕美子、繁田　直哉、光田　紬、花澤　綾香、一宮　汐里、久原　ゆい、大八木　知史、井上　貴史、筒井　建紀
子宮中隔・腟縦中隔を有する双頸子宮に対し子宮鏡下中隔切除術を行った３症例
第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会　2023/9/14-16　大津
13. 清原　裕美子、一宮　汐里、久原　ゆい、花澤　綾香、光田　紬、田中　稔恵、繁田　直哉、大八木　知史、井上　貴史、筒井　建紀
子宮内に迷入したラミナリア桿を子宮鏡下に摘出しえた１例
第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会　2023/9/14-16　大津
14. 筒井　建紀、繁田　直哉、谷口　茉利子、原　知史
子宮中隔・腟縦中隔を有する双頸子宮に対し子宮鏡下中隔切除術を行った３症例
第68回日本生殖医学会学術講演会　2023/11/9-10 金沢
15. 原　知史
Oncofertility Consortium Japan Meeting 2024
PART1：地域ネットワークの事例紹介　大阪府
PART2：総合討論（地域ネットワーク構築の課題とその対策について）
第14回日本がん・生殖医療学会学術集会　2024/2/11 水戸

【邦論文】

16. 田中　陽子、津田　誉至、阪上　和樹、緒方　正史、吉田　康之、田中　稔恵、筒井　建紀、鴨井　博
腹膜癌と鑑別が困難であった結核性腹膜炎・胸膜炎の１例
診断と治療　111(6):837-841,2023.
17. 繁田　直哉、松村有起、田中　稔恵、谷口茉利子、中尾　恵津子、清原　裕美子、大八木　知史、筒井　建紀
当院における子宮頸管熟化不全に対するジノプロストン腟用剤の使用経験
産婦の進歩　75(3):203-211,2023.

18. 松村　有起、田中　稔恵、繁田　直哉、清原　裕美子、大八木　知史、筒井　建紀
再発子宮体癌に対するAP療法中にSIADHが原因の低Na血症をきたした２例
産婦の進歩　75(3):308-314,2023.

19. 赤田　将、谷口　茉利子、田中　稔恵、繁田　直哉、清原　裕美子、大八木　知史、筒井　建紀
臍帯動脈瘤を認めた子宮内胎児死亡の１例
産婦の進歩　76(1):54-59,2024.

【英論文】

20. Masamune Masuda, Keita Iida, Sadahiro Iwabuchi, Mie Tanaka, Satoshi Kubota, Hiroyuki Uematsu, Kunishige Onuma, Yoji Kukita, Kikuya Kato, Shoji Kamiura, Aya Nakajima, Roberto Coppo, Mizuki Kanda, Kiyoshi Yoshino, Yutaka Ueda, Eiichi Morii, Tadashi Kimura, Jumpei Kondo, Mariko Okada-Hatakeyama, Shinichi Hashimoto, Masahiro Inoue
Clonal Origin and Lineage Ambiguity in Mixed Neuroendocrine Carcinoma of the Uterine Cervix
Am J Pathol. 194(3):415-429,2024

【書籍】

21. 井上　貴史
エリスロポエチン産生腫瘍
別冊日本臨牀　血液症候群（第3版）Ⅰ, 538-541, 日本臨牀社, 2023

眼科

【学会発表】

1. 眞下　永
コインリージョンを伴ったHSV1前部ぶどう膜炎
フォーサム2023 2023年7月7日　大阪国際会議場

2. 梅村　享平
新型コロナウイルス感染（COVID-19）後にAPMPPEを発症した2例
第56回日本眼炎症学会　2023年7月7日　大阪国際会議場

【学会講演】

3. 眞下　永
ぶどう膜炎性緑内障の診断と治療戦略
豊中市眼科医会　学術研究会　2023年9月30日　豊中市

4. 大黒　伸行
バイオの時代のぶどう膜炎診療
九州眼科学会　2023年5月27日　博多市

耳鼻いんこう科

【原著・総説・著書】

1. 前田　陽平
   救急で出会ったこんな症例　マイナーエマージェンシー対応のススメ(Vol.8)　耳に虫,鼻にビー玉　取り出し方のいろいろ
   医学のあゆみ　2023；285：8：765-770

【学会発表】

2. 前田　陽平
   耳鼻咽喉科頭頸部外科学会公式Twitterアカウントの運用およびTwitterを用いたアンケート調査
   第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会　2023年5月20日　福岡
3. 前田　陽平
   血流豊富な鼻副鼻腔境界悪性腫瘍に対して経涙丘アプローチで篩骨動脈を処理した一例
   第61回日本鼻科学会　2023年9月28日　津
4. 前田　陽平
   手術歴を有する副鼻腔炎内視鏡手術症例に関する検討(特に好酸球性副鼻腔炎について)
   第61回日本鼻科学会　2023/9/30　津

小児科

【原著・総説・著書】

1. Daisuke Harada
   Achondroplasia in Japanese children: A retrospective medical record review of clinical data
   Am J Med Genet A.　2024 Mar 30:e63612
2. Daisuke Harada
   Novel and recurrent COMP gene variants in five Japanese patients with pseudoachondroplasia: skeletal changes from the neonatal to infantile periods
   Clin Pediatr Endocrinol　2023 32:221-227
3. Daisuke Harada
   「親子の絆づくりプログラム」の効果の科学的検証　その２
   NPO法人こころの子育てインターねっと関西（KKI）会報　2023 :2-3
4. Misugi Emi
   Reliability of transient elastography as a noninvasive method for estimating central venous pressure in adult patients after a Fontan procedure.
   International Journal of Cardiology Congenital Heart Disease, Volume 13,　Volume 13, September 2023, 100469
5. Mari Matsushiro
   Intracranial aneurysm as a possible complication of osteogenesis imperfecta: a case series and literature review.
   Endocr J. 2023 Jul 28;70(7):697-702. doi: 10.1507/endocrj.　EJ22-0620. Epub 2023 May 9

【学会発表】

6. 柏木　博子
   X連鎖性低リン血症性くる病に対する抗FGF23抗体（ブロスマブ）の成人と小児に対する治療効果の検討
   第96回日本内分泌学会学術総会　2023/6/1-3名古屋
7. 柏木　博子
   A novel nonsense mutation of the BCL11A gene in a girl with high fetal hemoglobin
   日本人類遺伝学会第68回大会　2023/10/13　東京

8. 松下　浩子

小児期の頭痛と随伴症状

第21回日本小児心身医学会関西地方会　2024/1/21　大阪

9. 原田　大輔

脳動脈瘤は骨形成不全症の合併症か？：症例シリーズと文献的考察

第126回日本小児科学会学術集会　2024/4/14-16　東京

10. 原田　大輔

軟骨無形成症/低形成症に対する成長ホルモン治療効果に影響を与える臨床因子の探索

第56回日本小児内分泌学会学術集会　2023/10/19　大宮

11. 原田　大輔

知的障害を伴う自閉スペクトラム症のある児童における「器械運動」の楽しさから表出する身体表現と自由度に関する研究

北海道児童青年精神保健学会第48回例会　2024/2/18　札幌

12. 井上　泰輔

腹痛を主訴に受診した胆道拡張症の一例

第36回大阪小児科医会救急・新生児研修会　2024/2/10　大阪

13. 岸本　加奈子（非常勤）

A case of SLC25A46 mutation causing peripheral neuropathy, cerebellar atrophy and optic atrophy

第64回日本先天代謝異常学会学術集会　2023/10/5-7　大阪

14. 寺嶋　久敦（初期研修医）

低身長と尿崩症で発症し、診断に難渋した鞍上部胚細胞腫瘍の1例

第1回近畿小児内分泌症例検討会　2024/2/17　大阪

【学会講演】

15. 柏木　博子

小児XLHの管理―多彩な症状に応じた個別管理の重要性―

第56回日本小児内分泌学会学術集会ランチョンセミナー　2023/10/19　大宮

神経精神科

【原著・総説・著書】

1. Yamazaki R, Matsumoto J, Ito S, Nemoto K, Fukunaga M, Hashimoto N, Kodaka F, Takano H, Hasegawa N, Yasuda Y, Fujimoto M, Yamamori H, Watanabe Y, Miura K, Hashimoto R

Longitudinal reduction in brain volume in patients with schizophrenia and its association with cognitive function.

Neuropsychopharmacol Rep.　2024 Mar;44(1):206-215.

2. Yoshida M, Miura K, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Iwase M, Hashimoto R.

Visual salience is affected in participants with schizophrenia during free-viewing.

Sci Rep. 2024 Feb 26;14(1):4606.

3. Okada N, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Matsumoto J, Hashimoto N, Kiyota M, Morita K, Koshiyama D, Ohi K, Takahashi T, Koeda M, Yamamori H, Fujimoto M, Yasuda Y, Hasegawa N, Narita H, Yokoyama S, Mishima R, Kawashima T, Kobayashi Y, Sasabayashi D, Harada K, Yamamoto M, Hirano Y, Itahashi T, Nakataki M, Hashimoto RI, Tha KK, Koike S, Matsubara T, Okada G, van Erp TGM, Jahanshad N, Yoshimura R, Abe O, Onitsuka T, Watanabe Y, Matsuo K, Yamasue H, Okamoto Y, Suzuki M, Turner JA, Thompson PM, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R.

Subcortical volumetric alterations in four major psychiatric disorders: a mega-analysis study of 5604 subjects and a volumetric data-driven approach for classification.

Mol Psychiatry.　2023 Dec;28(12):5206-5216.

4. Ito S, Ohi K, Yasuda Y, Fujimoto M, Yamamori H, Matsumoto J, Fukumoto K, Kodaka F, Hasegawa N, Ishimaru K, Miura K, Yasui-Furukori N, Hashimoto R.

   Better adherence to guidelines among psychiatrists providing pharmacological therapy is associated with longer work hours in patients with schizophrenia.

   Schizophrenia (Heidelb). 2023 Nov 7;9(1):78.

5. Matsumoto J, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Okada N, Hashimoto N, Morita K, Koshiyama D, Ohi K, Takahashi T, Koeda M, Yamamori H, Fujimoto M, Yasuda Y, Ito S, Yamazaki R, Hasegawa N, Narita H, Yokoyama S, Mishima R, Miyata J, Kobayashi Y, Sasabayashi D, Harada K, Yamamoto M, Hirano Y, Itahashi T, Nakataki M, Hashimoto RI, Tha KK, Koike S, Matsubara T, Okada G, Yoshimura R, Abe O, van Erp TGM, Turner JA, Jahanshad N, Thompson PM, Onitsuka T, Watanabe Y, Matsuo K, Yamasue H, Okamoto Y, Suzuki M, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R.

   Cerebral cortical structural alteration patterns across four major psychiatric disorders in 5549 individuals.

   Mol Psychiatry. 2023 Nov;28(11):4915-4923.

6. Matsumoto J, Miura K, Fukunaga M, Nemoto K, Koshiyama D, Okada N, Morita K, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Ito S, Hasegawa N, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R.

   Association Study Between White Matter Microstructure and Intelligence Decline in Schizophrenia.

   Clin EEG Neurosci. 2023 Nov;54(6):567-573.

7. Sakai Y, Ito S, Matsumoto J, Yasuda Y, Yamamori H, Fujimoto M, Hasegawa N, Ishimaru K, Miura K, Hashimoto R.

   Longitudinal characteristics of insight and clinical factors in patients with schizophrenia.

   Neuropsychopharmacol Rep. 2023 Sep;43(3):373-381.

8. Kodaka F, Ohi K, Yasuda Y, Fujimoto M, Yamamori H, Hasegawa N, Ito S, Fukumoto K, Matsumoto J, Miura K, Yasui-Furukori N, Hashimoto R.

   Relationships Between Adherence to Guideline Recommendations for Pharmacological Therapy Among Clinicians and Psychotic Symptoms in Patients With Schizophrenia.

   Int J Neuropsychopharmacol. 2023 Aug 29;26(8):557-565.

9. Okazaki K, Miura K, Matsumoto J, Hasegawa N, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Makinodan M, Hashimoto R.

   Discrimination in the clinical diagnosis between patients with schizophrenia and healthy controls using eye movement and cognitive functions.

   Psychiatry Clin Neurosci. 2023 Jul;77(7):393-400

【学会発表】

10. 山森　英長

    JCHO大阪病院　認知症ケアチーム活動の紹介

    大阪総合病院精神医学研究会　第8回学術集会　2024年2月10日 エーザイ 大阪オフィス　梅田スカイビルタワーイースト33階

脳神経内科

【学会発表】

1. 上田　周一、明浦　公彦、松本　涼聖、山下　和哉、寺川　晴彦、中嶋　拳也、村瀬　翔、髙田　和城

   Arterial Spin-Labeling MR画像法での血栓性M1閉塞に伴う分水嶺領域脳梗塞の病態解析

   第64回日本神経学会学術大会　2023.5.31　幕張メッセ

麻酔科

【学会発表】

1. 今村　圭佑

   敗血症性肺塞栓症により呼吸管理に難渋した感染性心内膜炎の1例

   第51回日本集中治療医学会学術集会　2023年3月14日　札幌市

歯科・口腔外科

【学会発表】

1. 松賀　ひとみ、妹尾　日登美、徳宮　元富、石本　俊介
   下顎骨薬剤関連顎骨壊死（MRONJ ）、骨髄炎から急性化膿性顎関節炎に至ったと考えられた1例
   第36回日本顎関節学会学術集会　　2023年7月8日　　東京

【学会講演】

2. 妹尾　日登美
   薬剤関連顎骨壊死（MRONJ)予防に対する医歯薬連携の重要性
   北区医師会　2023年7月1日　大阪市北区
3. 妹尾　日登美
   薬剤関連顎骨壊死（MRONJ)予防に対する医歯薬連携の重要性とその現状
   福島区歯科医師会　2024年3月8日　大阪市福島区

薬剤部

【学会発表】

1. 井上　敬之
   経口第3世代セファロスポリン系抗菌薬の院内使用量の削減に向けた取り組みと外来抗菌薬処方件数に及ぼす影響
   第33回日本医療薬学会年会　令和5年11月3日　仙台
2. 藤原　麻衣
   連携充実加算の現状と今後の課題
   JCHO学会　2023年12月8日　三重県
3. 藤原　聖美
   当院の入院支援業務における薬剤師の関わり
   JCHO学会　2023年12月9日　三重県

放射線室

【学会発表】

1. 戸田　光映
   deep learning reconstructionを用いたときの再構成法の違いによる冠動脈ステントの描出能の比較
   第31回日本心血管インターベーション治療学会学術集会　2023/8/4～8/6　福岡PayPayドームヒルトン福岡シーホーク"
2. 髙田　梨佳那
   カテーテル手技補助プレートを利用した自作防護具の効果検証
   第31回日本心血管インターベーション治療学会学術集会　2023/8//4～8/6　福岡PayPayドームヒルトン福岡シーホーク"

3. 戸田　光映
   deep learning reconstructionを用いたときの再構成法の違いによる冠動脈ステントの描出能の比較
   第41回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会　2023年10月7日　ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター

中央検査室

【学会発表】

1. 日照田　敦子
   ISO 15189臨床検査室認定取得に向けての取り組み
   JCHO学会　2023.12.9　三重県津市
2. 植松　広治
   ISO 15189取得に向けた微生物検査室の取り組み
   JCHO学会　2023.12.9　三重県津市

栄養管理室

【学会発表】

1. 塩田　恵理都
   栄養指導料、周術期栄養管理実施加算、早期栄養介入管理加算　大阪病院での取り組み
   第８回JCHO地域総合医学会　2023年12月8日　三重県総合文化センター

臨床工学室

【学会発表】

1. 吉屋　雅弘
   OCT UltreonシステムにおけるPCIの手技改善に関する検討
   第33回日本臨床工学会　2023/07/21-23　広島国際会議場、JMSアステールプラザ（広島）
2. 天野　義久
   AEDテント作成の試み（Web発表）
   第33回日本臨床工学会　2023/07/21-23　広島国際会議場、JMSアステールプラザ（広島）
3. 内田　義也
   TAVI後同日に左前下行枝PCIを施行し IVUS撮像にて塞栓子を確認し得た1例
   第41回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会　2023/10/07　ナレッジキャピタル
   コングレコンベンションセンター（大阪）

看護部

【原著・総説・著書】

1. 清水　加世子
   １.ストーマ装具交換・手技の極意　2.ストーマ装具に関する基礎知識
   消化器ナーシング　2023年vol28No11,p14-27
2. 岩田　富美
   対話と承認を活性化する看護補助者の分業システム
   ナースマネージャー　2024；25；31-36

【学会発表】

3. 岩田　富美
   看護補助者の役割発揮につながる対話の試み ～業務区別化システムの導入～
   第25回　日本医療マネジメント学会学術総会 2023.6.23　パシフィコ横浜
4. 岩田　富美
   マトリックス組織を活用した看護補助者業務の分業化システム導入の成果
   第27回　日本看護管理学会学術集会　2023.8.26　東京国際フォーラム

5. 中村　明美

看護師長が認識する看護師の多様性と多様性のマネジメント

第27回　日本看護管理学会学術集会 2023.8.26　東京国際フォーラム

6. 豊田　紗規

ICUにおける早期離床リハビリテーション導入に向けて

第8回JCHO地域医療総合医学会　2023年12月8日9日　三重県総合文化センター（三重県津市）

7. 峯　真由美

小児病棟における宿泊型産後ケアの実態

第15回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会　2023年5月13日　大阪国際交流センター

8. 竹中　光

新生児の沐浴・保湿方法の変更による皮膚トラブルの発生割合の比較

第64会　日本母性衛生学会　2023年10月13日　大阪国際会議場

【学会講演】

9. 冨永　純子

第7回　認知症ケア向上研究会　地域医療スタッフ　2023.10.27　箕面市

病 院 年 報　第８巻

2024年10月発行

■発行■

独立行政法人

地域医療機能推進機構　大阪病院

〒553-0003 大阪市福島区福島４丁目２-78
TEL：06-6441-5451（代表）

http://osaka.jcho.go.jp